

基本計画書

基本計画書								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部設置							
フリガナ設置者	ガッコウホクジツ シラユリガクエン 学校法人 白百合学園							
フリガナ大学の名称	シラユリジョウガク 白百合女子大学（Shirayuri University）							
大学本部の位置	東京都調布市緑ヶ丘1丁目25番地							
大学の目的	<p>本学は、キリスト教、特にカトリシズムの世界観による人格形成を基本理念とし、本学の母体であるシャルトル聖パウロ修道女会の設立の精神に則り、知性と感性との調和のとれた女性の育成を目的とする。</p>							
新設学部等の目的	<p>【人間総合学部】 本学の建学の精神と教育目標に基づき、人間総合学部においては、文学部児童文化学科の実績を継承し、子ども自身が享受し参加する文化に対する深い理解を基礎に、その心身の発達を生涯にわたって支える視野と各領域の専門性をもって、広く社会に貢献できる人材を養成する。</p> <p>【児童文化学科】 児童の環境を形成する児童文学及び児童文化の研究を行うとともに、絵本や童話、アニメーション等の創作を通して想像力と創造力を育て、広く社会に貢献できる人材を養成する。児童文化学は、子どもに親しい文化を通して子どもの世界を知ると同時に子どもを取り巻く社会状況を把握する理論的な側面と、子ども特有の想像し創造する力を認め、自らも創造に関与することで子どもの心を開き育てるという実践的な側面を持つ。この両輪を活かすことによって、文化の継承や新しい文化の創造に積極的に関与できる感受性と専門知識を持つ人を育て、子どもを教え導く立場の者に児童文学および児童文化に関するアドバイスができる人材を養成する。</p> <p>【発達心理学科】 胎児期から老年期に至る生涯発達の標準型と多様性を、生物学的、社会文化的な背景とともに理解することのできる人材を養成する。すなわち人間は遺伝学的に生得的に規定されると同時に、どのような環境で育ち大人になっていくかという社会文化的文脈によっても大きく左右されるという生涯発達心理学の考え方を理解し、人間を発達の視点から包括的に理解する人を育てる。また、人生のさまざまな時期に遭遇する発達の課題や危機を理解し、発達障害や精神疾患等の臨床的問題とそれらへの対応に関する専門知識を、人々の心の健康の増進を図るための支援スキルとして活かせる人材を養成する。</p> <p>【初等教育学科】 専門的職業人としての小学校教諭・幼稚園教諭・保育士の養成を主たる目的とする。まず、子ども一人一人をかけがえのない存在としてとらえ、その個性を尊重しながら知性と感性をともに育てていくことのできる教員・保育士を育成する。そして、子どもをめぐる社会や文化の状況を理解し、乳幼児期・児童期の子どもの心身の発達を十全に保証する場と機会を創り出そうと努力すること、人間の生涯発達を見通し、乳幼児期・児童期にある子どもたちに必要な支援を与えることができ、その保護者にも適切な情報や助言を提供することができる力量を身につけた人材を養成する。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	人間総合学部 [Faculty of Human Studies]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	東京都調布市緑ヶ丘 1丁目25番地
	児童文化学科 [Department of Children's Culture]	4	50	—	200	学士 (児童文化学)	平成28年4月 第1年次	
	発達心理学科 [Department of Developmental Psychology]	4	50	—	200	学士 (心理学)	平成28年4月 第1年次	
	初等教育学科 [Department of Child Care and Primary Education]	4	75	—	300	学士 (教育学)	平成28年4月 第1年次	
計			175		700			
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	文学部 児童文化学科（廃止）（△100） ※平成28年4月学生募集停止							

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
教育課程	人間総合学部								
	児童文化学科	177 科目	52 科目	4 科目	233 科目	124 単位			
	発達心理学科	151 科目	57 科目	4 科目	212 科目	124 単位			
	初等教育学科	168 科目	82 科目	17 科目	267 科目	124 単位			
教員 組 分 の 概 要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設	人間総合学部	6 人 (6)	0 人 (0)	1 人 (1)	1 人 (1)	8 人 (8)	0 人 (0)	118 人 (118)
		児童文化学科	6 (6)	2 (2)	0 (0)	3 (3)	11 (11)	0 (0)	111 (111)
		発達心理学科	8 (8)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	122 (122)
		初等教育学科	20 (20)	6 (6)	3 (3)	4 (4)	33 (33)	0 (0)	- (-)
	既設	文学部 国語国文学科	10 (10)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	124 (124)
		フランス語フランス文学科	8 (8)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	122 (122)
		英語英文学科	10 (10)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	144 (144)
		宗教科	3 (3)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	8 (8)
		共通科目	3 (3)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	52 (52)
		計	34 (34)	14 (14)	4 (4)	3 (3)	55 (55)	0 (0)	- (-)
	合計		54 (54)	20 (20)	7 (7)	7 (7)	88 (88)	0 (0)	- (-)
	教員以外の 職員の 概要	職種		専任		兼任		計	
		事務職員		72 人 (72)		65 人 (65)		137 人 (137)	
技術職員		2 (2)		0 (0)		2 (2)			
図書館専門職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
その他の職員		0 (0)		2 (2)		2 (2)			
計		74 (74)		67 (67)		141 (141)			
校 地 等	区分		専用	共用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校舎敷地		43,077㎡	0㎡	0㎡	43,077㎡			
	運動場用地		10,943㎡	0㎡	0㎡	10,943㎡			
	小計		54,020㎡	0㎡	0㎡	54,020㎡			
	その他		1,270㎡	0㎡	0㎡	1,270㎡			
合計		55,290㎡	0㎡	0㎡	55,290㎡				
校 舎	専用		共用	共用する他の 学校等の専用	計				
	27,683㎡ (27,683㎡)		0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	27,683㎡ (27,683㎡)				
教室等	講義室		演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	39室		15室	10室	4室 (補助職員 2人)	3室 (補助職員 0人)			
専任教員研究室		新設学部等の名称			室数				
人間総合学部					29 室				
図書・ 設備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	人間総合学部		34,704 [7,914] (23,644 [6,666])	171 [63] (123 [39])	46 [36] (30 [20])	780 (156)	91 (76)	0 (0)	
	計		34,704 [7,914] (23,644 [6,666])	171 [63] (123 [39])	46 [36] (30 [20])	780 (156)	91 (76)	0 (0)	
								大学全体での共用分 図書 322,151 [109,025] (296,036 [105,301]) 学術雑誌 5,756 [918] (4,278 [894])	

図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体
		3,769㎡		217		320,556		
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体
		1,547㎡		テニスコート3面				
経費の見積り 及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
	教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	－千円	－千円
	共同研究費等		4,000千円	4,000千円	4,000千円	4,000千円	－千円	－千円
	図書購入費	21,000千円	28,000千円	28,000千円	28,000千円	28,000千円	－千円	－千円
	設備購入費	37,000千円	24,000千円	24,000千円	24,000千円	24,000千円	－千円	－千円
学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コストを含む)を含む
		1,450千円	1,100千円	1,100千円	1,100千円	－千円	－千円	
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学経常費補助金、資金運用収入、寄付金、雑収入等					
大学の名称 白百合女子大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
文学部	年	人	年次人	人		倍		
国語国文学科	4	100	－	400	学士(文学)	1.19 1.16	昭和40年度	東京都調布市緑ヶ丘1丁目25番地
フランス語フランス文学科	4	100	－	400	学士(文学)	1.15	昭和40年度	
英語英文学科	4	100	－	400	学士(文学)	1.17	昭和40年度	
児童文化学科	4	100	－	400	学士(文学)	1.29	昭和60年度	
文学研究科								
修士課程						0.82		
発達心理学専攻	2	10	－	20	修士(心理学)	0.95	平成2年度	
児童文学専攻	2	6	－	12	修士(文学)	0.83	平成2年度	
国語国文学専攻	2	6	－	12	修士(文学)	1.24	平成6年度	
フランス語フランス文学専攻	2	6	－	12	修士(文学)	0.83	平成6年度	
英語英文学専攻	2	6	－	12	修士(文学)	0.16	平成7年度	
博士後期課程						0.69		
発達心理学専攻	3	4	－	12	博士(心理学)	0.58	平成4年度	
児童文学専攻	3	3	－	9	博士(文学)	0.77	平成7年度	
言語・文学専攻	3	5	－	15	博士(文学)	0.73	平成9年度	
大学の名称 仙台北百合女子大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
人間学部	年	人	年次人	人		倍		
人間発達学科						0.92		宮城県仙台市泉区本田町6番1号
心理発達専攻	4	－	－	－	学士(人間科学)	－	平成24年度	
子ども発達専攻	4	90	0	315	学士(人間科学)	1.04	平成20年度	
心理福祉学科	4	70	0	210	学士(人間科学)	0.79	平成25年度	
総合福祉学科	4	－	－	－	学士(人間科学)	－	平成22年度	
健康栄養学科								
管理栄養専攻	4	80	0	320	学士(人間科学)	1.06	平成14年度	
グローバル・スタディーズ学科	4	60	0	180	学士(人間科学)	0.83	平成25年度	
国際教養学科	4	－	－	－	学士(人間科学)	－	平成14年度	

附属施設の概要	該当なし	
---------	------	--

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(人間総合学部 児童文化学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
宗 教 学 科 目	キリスト教学Ⅰ	1通	2			○								兼4
	キリスト教学Ⅱ	2通	2			○								兼4
	宗教学ⅠB	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠC	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠD	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠE	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠF	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠG	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠH	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠI	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠJ	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠK	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠL	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠN	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠP	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠQ	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠR	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠS	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠT(キリスト教的教育実践法)	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠX	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠY	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠZ	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅡB	4通		2		○								兼1
	宗教学ⅡC	4通		2		○								兼1
	宗教学ⅡD	4通		2		○								兼1
	宗教学ⅡE	4通		2		○								兼1
	宗教学ⅡF	4通		2		○								兼1
	宗教学ⅡG	4通		2		○								兼1
	宗教学ⅡH	4通		2		○								兼1
	宗教学ⅡI	4通		2		○								兼1
	宗教学ⅡJ	4通		2		○								兼1
	宗教学ⅡK	4通		2		○								兼1
	宗教学ⅡL	4通		2		○								兼1
	宗教学ⅡN	4通		2		○								兼1
宗教学ⅡP	4通		2		○								兼1	
宗教学ⅡQ	4通		2		○								兼1	
宗教学ⅡR	4通		2		○								兼1	
宗教学ⅡS	4通		2		○								兼1	
宗教学ⅡT(キリスト教的教育実践法)	4通		2		○								兼1	
宗教学ⅡX	4通		2		○								兼1	
宗教学ⅡY	4通		2		○								兼1	
宗教学ⅡZ	4通		2		○								兼1	
人間交流力構築演習A	2・3・4前		2			○							兼1	
人間交流力構築演習B	2・3・4後		2			○							兼1	
ルカ福音書講読演習A	2・3・4前		2			○							兼1	
ルカ福音書講読演習B	2・3・4後		2			○							兼1	
宗教と文学・思想演習A	2・3・4前		2			○							兼1	
宗教と文学・思想演習B	2・3・4後		2			○							兼1	
いのちと家族演習A	2・3・4前		2			○							兼1	
いのちと家族演習B	2・3・4後		2			○							兼1	
小計(50科目)	—		4	96	0		—			0	0	0	0	兼15
共 通 科 目	文化と人間	1・2・3・4通		4		○								兼1
	哲学	1・2・3・4通		4		○								兼1
	現代思想Ⅰ	1・2・3・4後		2		○								兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	現代思想Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼2	オムニバス
	世界の中の日本思想	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	美学	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	美術史	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	神話の世界A	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	神話の世界B	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	神話学入門Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	神話学入門Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	コンピュータ文学研究A	1・2・3・4通		4				○						兼1	
	コンピュータ文学研究B	1・2・3・4通		4				○						兼1	
	教養としての日本語	2・3・4後		2				○						兼1	
	日本語を磨く（読解力を養う）	1・2・3・4前後		2				○						兼2	共同
	日本語を磨く（文章力を養う）	1・2・3・4前後		2				○						兼2	共同
	美しい日本語を話す（基礎）	1・2・3前後		2				○						兼1	
	美しい日本語を話す（実践）	2・3・4前後		2				○						兼1	
	コミュニケーションのための日本語	1・2・3・4後		2				○						兼2	共同
	日本中世文化史	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	日本近代文化史	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	日本の外交と社会史	1・2・3・4前後		2		○								兼1	
	西洋史Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	西洋史Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	歴史からみた現代	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	豊かさの中の経済	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	暮らしと現代経済	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	政治学A	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	政治学B	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	憲法	1・2・3・4前後		2		○								兼1	
	法とは何か	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	女性と社会A	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	男女共同参画と政策	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	犯罪学概論	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	女性と法	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	子どもの権利と国際社会	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	ボランティア・キャリア体験Ⅰ	1・2・3・4前		4				○						兼1	
	ボランティア・キャリア体験Ⅱ	1・2・3・4後		4				○						兼1	
	ボランティア・キャリア体験Ⅲ	1・2・3・4前		4				○						兼1	
	ボランティア・キャリア体験Ⅳ	1・2・3・4後		4				○						兼1	
	海外ボランティア実践演習A	1・2・3・4前		2				○						兼1	
	海外ボランティア実践演習B	1・2・3・4後		2				○						兼1	
	社会福祉と私たち	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	児童と家庭の福祉	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	国際協力論A	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	国際協力論B	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	社会活動におけるマネジメントA	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	社会活動におけるマネジメントB	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	食農フィールド演習	2・3・4通		4				○						兼2	共同
	食と環境	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	環境学のフロンティア	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	観光文化論	1・2・3・4後		2		○								兼1	集中
	現代心理学概論	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	パブリックリテラシー	1前	2					○						兼7	共同(一部)
	情報リテラシー	1後	2					○						兼7	
	ビジネス・コンピュータスキル	2・3・4通		4				○						兼1	
	メディア・デザインスキルA	2・3・4前後		2				○						兼1	
	メディア・デザインスキルB	2・3・4前		2				○						兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	アトリエ・リス・プラン・ワークショップ	2・3・4前		4				○								兼3 共同集中
	スポーツ・健康科学A	1・2・3・4前後		2				○								兼1
	スポーツ・健康科学B	1・2・3・4前後		2				○								兼4 集中(一部)
	スポーツ・健康科学C	1・2・3・4前後		2				○								兼2
	身体運動科学	1・2・3・4通		4				○								兼1
	教養総合セミナーA	1・2・3・4後		2			○									兼1
	教養総合セミナーB	1・2・3・4前後		2			○									兼1
	教養総合セミナーC	1・2・3・4前		2			○									兼2 共同
	教養総合セミナーD	1・2・3・4後		2			○									兼1 集中
	教養総合セミナーE	1・2・3・4後		2			○									兼1
	教養総合セミナーF	1・2・3・4後		2			○									兼1 集中
	数と形の世界A	1・2・3・4後		2			○									兼1 隔年
	数と形の世界B	1・2・3・4前		2			○									兼1 隔年
	自然科学の世界A	1・2・3・4前		2			○									兼1 隔年
	自然科学の世界B	1・2・3・4後		2			○									兼1 隔年
	社会と倫理	1・2・3・4前後		2					○							兼1
小計(74科目)	—		4	186	0			—		0	0	0	0	0	兼46	—
外国語科目	必修	総合英語Ⅰ	1前	1			○									兼2
		総合英語Ⅱ	1後	1			○									兼2
		総合英語Ⅲ	2前	1			○									兼2
		総合英語Ⅳ	2後	1			○									兼2
		英語コミュニケーションⅠ	1前	1			○									兼1
		英語コミュニケーションⅡ	1後	1			○									兼1
		英語コミュニケーションⅢ	2前	1			○									兼1
		英語コミュニケーションⅣ	2後	1			○									兼1
		英講読文法A	1通	2			○									兼1
		選択	上級総合英語Ⅰ	3・4前		1			○							
	上級総合英語Ⅱ		3・4後		1			○								兼1
	上級英語コミュニケーションⅠ		3・4前		1			○								兼4
	上級英語コミュニケーションⅡ		3・4後		1			○								兼4
	English for JFL TeachersⅠ		3通		2			○								兼1
	English for JFL TeachersⅡ		4通		2			○								兼1
	初級フランス語		2・3・4通		2			○								兼1
	フランス語入門		1・2・3・4通		2			○								兼1
	フランス語Ⅰ(文法・講読)		1通		2			○								兼4
	フランス語Ⅱ(文法・講読)		2通		2			○								兼4
	フランス語Ⅰ(会話)		1通		2			○								兼4
	フランス語Ⅱ(会話)		2通		2			○								兼4
	ドイツ語ⅠA		1通		2			○								兼2
	ドイツ語ⅡA		2通		2			○								兼2
	ドイツ語ⅠB		1通		2			○								兼2
	ドイツ語ⅡB		2通		2			○								兼2
	中国語(初級)		1・2・3・4通		4			○								兼1
	中国語(中級)		2・3・4通		4			○								兼1
	韓国語(初級)		1・2・3・4通		4			○								兼1
	韓国語(中級)	2・3・4通		4			○								兼1	
小計(29科目)	—		8	44	0			—		0	0	0	0	0	兼28	—
学部共通科目	子どものイメージ	1・2前		2			○									
	子どもとファンタジー	1・2後		2			○									
	子育て支援論	1・2前		2			○									兼1
	発達と文化	1・2後		2			○									兼1
	学校と発達	1・2前		2			○									兼1
	家庭の教育・地域の教育	1・2後		2			○									兼1
	(小計6科目)	—		0	12	0			—		2	0	0	0	0	兼3

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	必修	児童文学入門A	1前後	2			○			1							
		児童文学入門B	1前後	2			○			1							
		児童文学史・日本I	1前	2			○			1							
		児童文学史・日本II	1後	2			○			1							
		児童文化入門A	1前後	2			○			1							
		児童文化入門B	1前後	2			○			1							
		児童文学史・英語圏I	2前	2			○			1							
		児童文学史・英語圏II	2後	2			○			1							
		卒業論文	4通	8					○	6		1					
		キャリア研究	2前	2			○			1							
	(小計10科目)	—	26	0	0			—	6	0	1	0	0	0	0	—	
選択必修I	基礎演習A	2前		2				○	2		1	1			兼2		
	基礎演習B	2後		2				○	2		1	1			兼2		
	(小計2科目)	—	0	4	0			—	2	0	1	1	0	0	兼2	—	
選択必修II	演習	3通		4				○	6		1						
	(小計1科目)	—	0	4	0			—	6	0	1	0	0	0	0	—	
選択A	日本児童文学研究A	1・2・3前		2			○								兼1		
	日本児童文学研究B	1・2・3後		2			○								兼1		
	英米児童文学研究A	1・2・3前		2			○								兼1		
	英米児童文学研究B	1・2・3後		2			○								兼1		
	伝承文学研究	1・2・3後		2			○		1								
	創作文化研究I	1・2・3前		2				○			1						
	創作文化研究II	1・2・3後		2				○			1						
	キャラクター文化研究	1・2・3後		2			○								兼1		
	ストーリーテリング研究I	1・2・3前		2			○								兼1		
	ストーリーテリング研究II	1・2・3後		2			○								兼1		
	ストーリーテリング研究III	1・2・3前		2			○								兼1		
	わらべうた研究	1・2・3前		2			○								兼1		
	マザーグース研究	1・2・3後		2			○								兼1		
	絵本制作研究I	1・2・3前		2					○						兼1		
	絵本制作研究II	1・2・3後		2					○						兼1		
	編集研究	1・2・3前		2				○							兼1		
	出版演習I	1・2・3前		2					○						兼1		
	出版演習II	1・2・3後		2					○						兼1		
	アニメーション制作I	1・2・3前		2					○			1					
	アニメーション制作II	1・2・3後		2					○			1					
(小計20科目)	—	0	40	0			—		1	0	1	0	0	兼9	—		
選択B	児童文学・日本A	1・2・3・4前		2			○								兼1		
	児童文学・日本B	1・2・3・4後		2			○								兼1		
	児童文学・日本C	1・2・3・4前		2			○								兼1		
	児童文学・日本D	1・2・3・4後		2			○								兼1		
	児童文学・ドイツA	1・2・3・4後		2			○		1								
	児童文学・ドイツB	1・2・3・4前		2			○								兼1		
	児童文学・イギリスA	1・2・3・4前		2			○					1					
	児童文学・イギリスB	1・2・3・4後		2			○								兼1		
	児童文学・フランスA	1・2・3・4前		2			○								兼1		
	児童文学・フランスB	1・2・3・4後		2			○								兼1		
	児童文学・アメリカA	1・2・3・4前		2			○								兼1		
	児童文学・アメリカB	1・2・3・4後		2			○								兼1		
	児童文学・カナダ	1・2・3・4前		2			○			1							
	児童文学・北欧	1・2・3・4前		2			○								兼1		
	児童文学・韓国	1・2・3・4後		2			○								兼1		
	児童文学・YA文学	1・2・3・4後		2			○			1							
	おもちゃ論A	1・2・3・4前		2			○			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	おもちゃ論B	1・2・3・4後		2		○			1						
	キャラクター論	1・2・3・4前		2		○									兼1
	マンガ論	1・2・3・4後		2		○									兼1
	アニメ論	1・2・3・4前		2		○									兼1
	絵本論	1・2・3・4後		2		○									兼1
	創作演習A I	1・2・3・4前		2			○								兼1
	創作演習A II	1・2・3・4後		2			○								兼1
	創作演習B I	1・2・3・4前		2			○								兼1
	創作演習B II	1・2・3・4後		2			○								兼1
	翻訳演習 I	1・2・3・4前		2			○								兼1
	翻訳演習 II	1・2・3・4後		2			○								兼1
	伝承文学	2・3・4前		2		○			1						
	S Fファンタジー I	2・3・4前		2		○									兼1
	S Fファンタジー II	2・3・4後		2		○									兼1
	ネオ・ファンタジー I	2・3・4前		2		○			1						
	ネオ・ファンタジー II	2・3・4後		2		○			1						
	児童文化・紙芝居	2・3・4前		2		○			1						
	児童文化・民俗と子ども	2・3・4後		2		○									兼1
	児童文化・子ども社会学	2・3・4前		2		○									兼1
	児童文化・子ども論	2・3・4後		2		○									兼1
	絵本演習 I	2・3・4前		2			○				1				
	絵本演習 II	2・3・4後		2			○				1				
	絵本制作 I	2・3・4前		2			○								兼1
	絵本制作 II	2・3・4後		2			○								兼1
	小計 (41科目)	—	0	82	0	—	—	—	5	0	1	1	0	兼20	—
合計 (233科目)		—	16	420	0	—	—	—	6	0	1	1	0	兼30	—
学位又は称号		学士 (児童文化学)			学位又は学科の分野			文学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
宗教学科目8単位、共通科目12単位、外国語科目8単位、学部共通科目8単位、専門科目80単位および全ての科目の中から履修可能な8単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 専門科目の履修方法 必修 26単位 選択必修Ⅰ 4単位 選択必修Ⅱ 4単位 選択 外国語科目 「英講読文法A」は英語未習者用科目 (履修科目の登録の上限 1～3年次 48単位 (年間) (資格課程等の履修が許可された者は、卒業要件外の履修の特例として、これを超えて履修することができる))								1学年の学期区分				2学期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(人間総合学部 発達心理学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
宗教学科目	キリスト教学Ⅰ	1通	2			○								兼4
	キリスト教学Ⅱ	2通	2			○								兼4
	宗教学ⅠB	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠC	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠD	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠE	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠF	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠG	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠH	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠI	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠJ	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠK	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠL	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠN	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠP	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠQ	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠR	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠS	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠT(キリスト教的教育実践法)	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠX	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠY	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅠZ	3通		2		○								兼1
	宗教学ⅡB	4通		2		○								兼1
	宗教学ⅡC	4通		2		○								兼1
	宗教学ⅡD	4通		2		○								兼1
	宗教学ⅡE	4通		2		○								兼1
	宗教学ⅡF	4通		2		○								兼1
	宗教学ⅡG	4通		2		○								兼1
	宗教学ⅡH	4通		2		○								兼1
	宗教学ⅡI	4通		2		○								兼1
	宗教学ⅡJ	4通		2		○								兼1
	宗教学ⅡK	4通		2		○								兼1
	宗教学ⅡL	4通		2		○								兼1
	宗教学ⅡN	4通		2		○								兼1
	宗教学ⅡP	4通		2		○								兼1
宗教学ⅡQ	4通		2		○								兼1	
宗教学ⅡR	4通		2		○								兼1	
宗教学ⅡS	4通		2		○								兼1	
宗教学ⅡT(キリスト教的教育実践法)	4通		2		○								兼1	
宗教学ⅡX	4通		2		○								兼1	
宗教学ⅡY	4通		2		○								兼1	
宗教学ⅡZ	4通		2		○								兼1	
人間交流力構築演習A	2・3・4前		2			○							兼1	
人間交流力構築演習B	2・3・4後		2			○							兼1	
ルカ福音書講読演習A	2・3・4前		2			○							兼1	
ルカ福音書講読演習B	2・3・4後		2			○							兼1	
宗教と文学・思想演習A	2・3・4前		2			○							兼1	
宗教と文学・思想演習B	2・3・4後		2			○							兼1	
いのちと家族演習A	2・3・4前		2			○							兼1	
いのちと家族演習B	2・3・4後		2			○							兼1	
小計(50科目)	—		4	96	0		—			0	0	0	0	兼15
共通科目	文化と人間	1・2・3・4通		4		○								兼1
	哲学	1・2・3・4通		4		○								兼1
	現代思想Ⅰ	1・2・3・4後		2		○								兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	現代思想Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼2	オムニバス
	世界の中の日本思想	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	美学	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	美術史	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	神話の世界A	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	神話の世界B	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	神話学入門Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	神話学入門Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	コンピュータ文学研究A	1・2・3・4通		4				○						兼1	
	コンピュータ文学研究B	1・2・3・4通		4				○						兼1	
	教養としての日本語	2・3・4後		2				○						兼1	
	日本語を磨く（読解力を養う）	1・2・3・4前後		2				○						兼2	共同
	日本語を磨く（文章力を養う）	1・2・3・4前後		2				○						兼2	共同
	美しい日本語を話す（基礎）	1・2・3前後		2				○						兼1	
	美しい日本語を話す（実践）	2・3・4前後		2				○						兼1	
	コミュニケーションのための日本語	1・2・3・4後		2				○						兼2	共同
	日本中世文化史	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	日本近代文化史	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	日本の外交と社会史	1・2・3・4前後		2		○								兼1	
	西洋史Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	西洋史Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	歴史からみた現代	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	豊かさの中の経済	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	暮らしと現代経済	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	政治学A	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	政治学B	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	憲法	1・2・3・4前後		2		○								兼1	
	法とは何か	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	女性と社会A	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	男女共同参画と政策	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	犯罪学概論	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	女性と法	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	子どもの権利と国際社会	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	ボランティア・キャリア体験Ⅰ	1・2・3・4前		4				○						兼1	
	ボランティア・キャリア体験Ⅱ	1・2・3・4後		4				○						兼1	
	ボランティア・キャリア体験Ⅲ	1・2・3・4前		4				○						兼1	
	ボランティア・キャリア体験Ⅳ	1・2・3・4後		4				○						兼1	
	海外ボランティア実践演習A	1・2・3・4前		2				○						兼1	
	海外ボランティア実践演習B	1・2・3・4後		2				○						兼1	
	社会福祉と私たち	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	児童と家庭の福祉	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	国際協力論A	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	国際協力論B	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	社会活動におけるマネジメントA	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	社会活動におけるマネジメントB	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	食農フィールド演習	2・3・4通		4				○						兼2	共同
	食と環境	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	環境学のボランティア	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	観光文化論	1・2・3・4後		2		○								兼1	集中
	現代心理学概論	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	パブリックリテラシー	1前	2					○						兼7	共同(一部)
	情報リテラシー	1後	2					○						兼7	
	ビジネス・コンピュータスキル	2・3・4通		4				○						兼1	
	メディア・デザインスキルA	2・3・4前後		2				○						兼1	
	メディア・デザインスキルB	2・3・4前		2				○						兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
	アトリエ・リス・プラン・ワークショップ	2・3・4前		4				○							兼3	共同集中	
	スポーツ・健康科学A	1・2・3・4前後		2				○							兼1		
	スポーツ・健康科学B	1・2・3・4前後		2				○							兼4	集中(一部)	
	スポーツ・健康科学C	1・2・3・4前後		2				○							兼2		
	身体運動科学	1・2・3・4通		4				○							兼1		
	教養総合セミナーA	1・2・3・4後		2			○								兼1		
	教養総合セミナーB	1・2・3・4前後		2			○								兼1		
	教養総合セミナーC	1・2・3・4前		2			○								兼2	共同	
	教養総合セミナーD	1・2・3・4後		2			○								兼1	集中	
	教養総合セミナーE	1・2・3・4後		2			○								兼1		
	教養総合セミナーF	1・2・3・4後		2			○								兼1	集中	
	数と形の世界A	1・2・3・4後		2			○								兼1	隔年	
	数と形の世界B	1・2・3・4前		2			○								兼1	隔年	
	自然科学の世界A	1・2・3・4前		2			○								兼1	隔年	
	自然科学の世界B	1・2・3・4後		2			○								兼1	隔年	
	社会と倫理	1・2・3・4前後		2					○						兼1		
	小計(74科目)	—		4	186	0			—		0	0	0	0	0	兼46	—
外国語科目	必修	総合英語Ⅰ	1前	1				○							兼2		
		総合英語Ⅱ	1後	1				○							兼2		
		総合英語Ⅲ	2前	1					○						兼2		
		総合英語Ⅳ	2後	1					○						兼2		
		英語コミュニケーションⅠ	1前	1					○						兼1		
		英語コミュニケーションⅡ	1後	1					○						兼1		
		英語コミュニケーションⅢ	2前	1					○						兼1		
		英語コミュニケーションⅣ	2後	1					○						兼1		
		英講読文法A	1通	2					○							兼1	
		選択	上級総合英語Ⅰ	3・4前		1				○							兼1
	上級総合英語Ⅱ		3・4後		1				○							兼1	
	上級英語コミュニケーションⅠ		3・4前		1				○							兼4	
	上級英語コミュニケーションⅡ		3・4後		1				○							兼4	
	English for JFL TeachersⅠ		3通		2				○							兼1	
	English for JFL TeachersⅡ		4通		2				○							兼1	
	初級フランス語		2・3・4通		2				○							兼1	
	フランス語入門		1・2・3・4通		2				○							兼1	
	フランス語Ⅰ(文法・講読)		1通		2				○							兼4	
	フランス語Ⅱ(文法・講読)		2通		2				○							兼4	
	フランス語Ⅰ(会話)		1通		2				○							兼4	
	フランス語Ⅱ(会話)		2通		2				○							兼4	
	ドイツ語ⅠA		1通		2				○							兼2	
	ドイツ語ⅡA		2通		2				○							兼2	
	ドイツ語ⅠB		1通		2				○							兼2	
	ドイツ語ⅡB		2通		2				○							兼2	
	中国語(初級)		1・2・3・4通		4				○							兼1	
	中国語(中級)		2・3・4通		4				○							兼1	
	韓国語(初級)		1・2・3・4通		4				○							兼1	
	韓国語(中級)	2・3・4通		4				○							兼1		
小計(29科目)	—		8	44	0			—		0	0	0	0	0	兼28	—	
学部共通科目	子どものイメージ	1前		2				○							兼1		
	子どもとファンタジー	1後		2				○							兼1		
	子育て支援論	1前		2				○			1						
	発達と文化	1後		2				○			1						
	学校と発達	1前		2				○							兼1		
	家庭の教育・地域の教育	1後		2				○							兼1		
	小計(6科目)	—		0	12	0			—		2	0	0	0	0	兼3	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
専門科目	必修科目	心理学概論A	1前	2			○			1									
		心理学概論B	1後	2			○			1									
		発達心理学基礎演習A	1前	2					○	2	1							共同	
		発達心理学基礎演習B	1後	2					○	2	1							共同	
		心理統計学ⅠA	1後	2				○								兼1			
		臨床心理学概論	1後	2				○			1								
		発達心理学概論A	2前	2				○			1								
		発達心理学概論B	2後	2				○											
		発達臨床心理学概論	2前	2				○			1								
		心理学実験観察演習Ⅰ	2前	4					○	2	1		1					オムニバス 共同	
		心理学実験観察演習Ⅱ	2後	4					○	1	1		2					オムニバス 共同	
		心理統計学ⅠB	2前	2				○								兼1			
		心理統計学Ⅱ	2後	2				○								兼1			
		論文講読基礎演習	2前	2					○					3				共同	
		英語論文講読演習	2後	2					○								兼3	共同	
		キャリア研究	2後	2				○			2						兼1	共同	
		心理学研究法演習Ⅰ	3前	2					○		2	1						共同	
		心理学研究法演習Ⅱ	3後	2					○		2	1						共同	
小計(18科目)	—	—	40	0	0			—	4	2	0	3	0	兼5		—			
選択必修科目	特講科目	認知心理学	3・4前		2			○								兼1	隔年		
		パーソナリティ心理学	3・4後		2			○								兼1	隔年		
		社会心理学	3・4前		2			○								兼1	隔年		
		臨床心理学	3・4後		2			○								兼1	隔年		
		教育心理学	3・4後		2			○								兼1			
		発達心理学特講A	3・4前		2			○								兼1	隔年		
		発達心理学特講B	3・4後		2			○								兼1	隔年		
		発達心理学特講C	3・4前		2			○								兼1	隔年		
		発達心理学特講D	3・4後		2			○								兼1	隔年		
		精神医学特講	3・4前		2			○			1							隔年	
		発達障害特講	3・4後		2			○			1							隔年	
		発達臨床心理学特講A	3・4前		2			○								兼1	隔年		
		発達臨床心理学特講B	3・4後		2			○								兼1	隔年		
		小計(13科目)	—	—	0	26	0			—	2	0	0	0	0	兼11		—	
		選択必修科目	演習科目	発達心理学演習A	3・4後		2			○		1							
				発達心理学演習B	3・4後		2			○		1							
				発達心理学演習C	3・4前		2			○			1						
発達心理学演習D	3・4前				2			○				1							
発達心理学演習E	3・4前				2			○								兼1			
発達心理学演習F	3・4後				2			○								兼1			
発達心理学演習G	3・4前				2			○								兼1			
発達心理学演習H	3・4後				2			○								兼2			
発達心理学演習I	3・4前				2			○								兼1			
発達心理学演習J	3・4後				2			○								兼1			
発達心理学演習K	3・4前				2			○								兼1			
発達心理学演習L	3・4後				2			○								兼1			
心理検査法A	3・4前				2			○			1								
心理検査法B	3・4後				2			○								兼1			
臨床心理学演習A	3・4前				2			○				1							
臨床心理学演習B	3・4後				2			○			1							隔年	
臨床心理学演習C	3・4後				2			○			1								
小計(17科目)	—	—	0	34	0			—	6	2	0	0	0	兼10		—			
選択必修科目		子ども観察	3・4前		2			○		1									
		児童文化・民俗と子ども	3・4後		2			○								兼1			
		児童文化・子ども社会学	3・4前		2			○								兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	児童文化・子ども論	3・4後		2		○									兼1
	小計(4科目)	—	0	8	0	—			1	0	0	0	0		兼3
	卒業論文	4通	8				○		6	2					
	小計(1科目)		8	0	0	—			6	2	0	0	0	0	—
合計(212科目)		—	64	406	0	—			6	2	0	3	0		兼23
学位又は称号		学士(心理学)		学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
宗教学科目8単位、共通科目12単位、外国語科目8単位、学部共通科目8単位、自己の学科の専門科目78単位および全ての科目の中から履修可能な10単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 専門科目の履修方法 必修科目 48単位 選択必修科目 18単位以上 特講科目 10単位以上 演習科目 8単位以上 選択科目 外国語科目 「英講読文法A」は英語未習者用科目 (履修科目の登録の上限 1～3年次 48単位(年間)(資格課程等の履修が許可された者は、卒業要件外の履修の特例として、これを超えて履修することができる))						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要

（人間総合学部 初等教育学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
宗教学科目	キリスト教学Ⅰ	1通	2			○									兼4	
	キリスト教学Ⅱ	2通	2			○									兼4	
	宗教学ⅠB	3通		2		○									兼1	
	宗教学ⅠC	3通		2		○									兼1	
	宗教学ⅠD	3通		2		○									兼1	
	宗教学ⅠE	3通		2		○									兼1	
	宗教学ⅠF	3通		2		○									兼1	
	宗教学ⅠG	3通		2		○									兼1	
	宗教学ⅠH	3通		2		○									兼1	
	宗教学ⅠI	3通		2		○									兼1	
	宗教学ⅠJ	3通		2		○									兼1	
	宗教学ⅠK	3通		2		○									兼1	
	宗教学ⅠL	3通		2		○									兼1	
	宗教学ⅠN	3通		2		○									兼1	
	宗教学ⅠP	3通		2		○									兼1	
	宗教学ⅠQ	3通		2		○									兼1	
	宗教学ⅠR	3通		2		○									兼1	
	宗教学ⅠS	3通		2		○									兼1	
	宗教学ⅠT（キリスト教的教育実践法）	3通		2		○									兼1	
	宗教学ⅠX	3通		2		○									兼1	
	宗教学ⅠY	3通		2		○									兼1	
	宗教学ⅠZ	3通		2		○									兼1	
	宗教学ⅡB	4通		2		○									兼1	
	宗教学ⅡC	4通		2		○									兼1	
	宗教学ⅡD	4通		2		○									兼1	
	宗教学ⅡE	4通		2		○									兼1	
	宗教学ⅡF	4通		2		○									兼1	
	宗教学ⅡG	4通		2		○									兼1	
	宗教学ⅡH	4通		2		○									兼1	
	宗教学ⅡI	4通		2		○									兼1	
	宗教学ⅡJ	4通		2		○									兼1	
	宗教学ⅡK	4通		2		○									兼1	
	宗教学ⅡL	4通		2		○									兼1	
	宗教学ⅡN	4通		2		○									兼1	
宗教学ⅡP	4通		2		○									兼1		
宗教学ⅡQ	4通		2		○									兼1		
宗教学ⅡR	4通		2		○									兼1		
宗教学ⅡS	4通		2		○									兼1		
宗教学ⅡT（キリスト教的教育実践法）	4通		2		○									兼1		
宗教学ⅡX	4通		2		○									兼1		
宗教学ⅡY	4通		2		○									兼1		
宗教学ⅡZ	4通		2		○									兼1		
人間交流力構築演習A	2・3・4前		2				○							兼1		
人間交流力構築演習B	2・3・4後		2				○							兼1		
ルカ福音書講読演習A	2・3・4前		2				○							兼1		
ルカ福音書講読演習B	2・3・4後		2				○							兼1		
宗教と文学・思想演習A	2・3・4前		2				○							兼1		
宗教と文学・思想演習B	2・3・4後		2				○							兼1		
いのちと家族演習A	2・3・4前		2				○							兼1		
いのちと家族演習B	2・3・4後		2				○							兼1		
小計（50科目）	—		4	96	0		—			0	0	0	0	0	兼15	—
共通科目	文化と人間	1・2・3・4通		4			○								兼1	
	哲学	1・2・3・4通		4			○								兼1	
	現代思想Ⅰ	1・2・3・4後		2			○								兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	現代思想Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼2	オムニバス
	世界の中の日本思想	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	美学	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	美術史	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	神話の世界A	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	神話の世界B	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	神話学入門Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	神話学入門Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	コンピュータ文学研究A	1・2・3・4通		4				○						兼1	
	コンピュータ文学研究B	1・2・3・4通		4				○						兼1	
	教養としての日本語	2・3・4後		2				○						兼1	
	日本語を磨く（読解力を養う）	1・2・3・4前後		2				○						兼2	共同
	日本語を磨く（文章力を養う）	1・2・3・4前後		2				○						兼2	共同
	美しい日本語を話す（基礎）	1・2・3前後		2				○						兼1	
	美しい日本語を話す（実践）	2・3・4前後		2				○						兼1	
	コミュニケーションのための日本語	1・2・3・4後		2				○						兼2	共同
	日本中世文化史	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	日本近代文化史	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	日本の外交と社会史	1・2・3・4前後		2		○								兼1	
	西洋史Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	西洋史Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	歴史からみた現代	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	豊かさの中の経済	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	暮らしと現代経済	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	政治学A	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	政治学B	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	憲法	1・2・3・4前後		2		○								兼1	
	法とは何か	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	女性と社会A	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	男女共同参画と政策	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	犯罪学概論	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	女性と法	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	子どもの権利と国際社会	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	ボランティア・キャリア体験Ⅰ	1・2・3・4前		4				○						兼1	
	ボランティア・キャリア体験Ⅱ	1・2・3・4後		4				○						兼1	
	ボランティア・キャリア体験Ⅲ	1・2・3・4前		4				○						兼1	
	ボランティア・キャリア体験Ⅳ	1・2・3・4後		4				○						兼1	
	海外ボランティア実践演習A	1・2・3・4前		2				○						兼1	
	海外ボランティア実践演習B	1・2・3・4後		2				○						兼1	
	社会福祉と私たち	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	児童と家庭の福祉	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	国際協力論A	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	国際協力論B	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	社会活動におけるマネジメントA	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	社会活動におけるマネジメントB	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	食農フィールド演習	2・3・4通		4				○						兼2	共同
	食と環境	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	環境学のボランティア	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	観光文化論	1・2・3・4後		2		○								兼1	集中
	現代心理学概論	1・2・3・4通		4		○								兼1	
	パブリックリテラシー	1前	2					○						兼7	共同(一部)
	情報リテラシー	1後	2					○						兼7	
	ビジネス・コンピュータスキル	2・3・4通		4				○						兼1	
	メディア・デザインスキルA	2・3・4前後		2				○						兼1	
	メディア・デザインスキルB	2・3・4前		2				○						兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
	アトリエ・リス・プラン・ワークショップ	2・3・4前		4				○								兼3 共同集中	
	スポーツ・健康科学A	1・2・3・4前後		2				○								兼1	
	スポーツ・健康科学B	1・2・3・4前後		2				○								兼4 集中(一部)	
	スポーツ・健康科学C	1・2・3・4前後		2				○								兼2	
	身体運動科学	1・2・3・4通		4				○								兼1	
	教養総合セミナーA	1・2・3・4後		2			○									兼1	
	教養総合セミナーB	1・2・3・4前後		2			○									兼1	
	教養総合セミナーC	1・2・3・4前		2			○									兼2 共同	
	教養総合セミナーD	1・2・3・4後		2			○									兼1 集中	
	教養総合セミナーE	1・2・3・4後		2			○									兼1	
	教養総合セミナーF	1・2・3・4後		2			○									兼1 集中	
	数と形の世界A	1・2・3・4後		2			○									兼1 隔年	
	数と形の世界B	1・2・3・4前		2			○									兼1 隔年	
	自然科学の世界A	1・2・3・4前		2			○									兼1 隔年	
	自然科学の世界B	1・2・3・4後		2			○									兼1 隔年	
	社会と倫理	1・2・3・4前後		2					○							兼1	
	小計(74科目)	—		4	186	0			—		0	0	0	0	0	0	兼46 —
外国語科目	必修	総合英語Ⅰ	1前	1				○								兼2	
		総合英語Ⅱ	1後	1				○								兼2	
		総合英語Ⅲ	2前	1					○							兼2	
		総合英語Ⅳ	2後	1					○							兼2	
		英語コミュニケーションⅠ	1前	1					○							兼3	
		英語コミュニケーションⅡ	1後	1					○							兼3	
		英語コミュニケーションⅢ	2前	1					○							兼3	
		英語コミュニケーションⅣ	2後	1					○							兼3	
		英講読文法A	1通	2					○								兼1
		選択	上級総合英語Ⅰ	3・4前		1				○							
	上級総合英語Ⅱ		3・4後		1				○								兼1
	上級英語コミュニケーションⅠ		3・4前		1				○								兼4
	上級英語コミュニケーションⅡ		3・4後		1				○								兼4
	English for JFL TeachersⅠ		3通		2				○								兼1
	English for JFL TeachersⅡ		4通		2				○								兼1
	初級フランス語		2・3・4通		2				○								兼1
	フランス語入門		1・2・3・4通		2				○								兼1
	フランス語Ⅰ(文法・講読)		1通		2				○								兼4
	フランス語Ⅱ(文法・講読)		2通		2				○								兼4
	フランス語Ⅰ(会話)		1通		2				○								兼4
	フランス語Ⅱ(会話)		2通		2				○								兼4
	ドイツ語ⅠA		1通		2				○								兼2
	ドイツ語ⅡA		2通		2				○								兼2
	ドイツ語ⅠB		1通		2				○								兼2
	ドイツ語ⅡB		2通		2				○								兼2
	中国語(初級)		1・2・3・4通		4				○								兼1
	中国語(中級)		2・3・4通		4				○								兼1
	韓国語(初級)		1・2・3・4通		4				○								兼1
	韓国語(中級)	2・3・4通		4				○								兼1	
小計(29科目)	—		8	44	0			—		0	0	0	0	0	0	兼28 —	
学部共通科目	子どものイメージ	1・2前		2				○								兼1	
	子どもとファンタジー	1・2後		2				○								兼1	
	子育て支援論	1・2前		2				○								兼1	
	発達と文化	1・2後		2				○								兼1	
	学校と発達	1・2前		2				○								兼1	
	家庭の教育・地域の教育	1・2後		2				○								兼1	
	小計(6科目)	—		0	12	0			—		1	0	0	0	0	0	兼4 —

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	コース共通専門科目	初等教育基礎演習A	2前	2				○		3	2	1			共同	
		初等教育基礎演習B	2後	2				○		2	3	1			共同	
		初等教育演習A	3前	2					○	1	3	1				
		初等教育演習B	3後	2					○	3	2	1				
		キャリア研究	2後	2				○							兼1	
		統計データの理解と活用	1前		2			○								兼1
		小計(6科目)	—	10	2	0			—	5	4	2			兼1	—
教科に関する科目	国語	1前		2				○	1							
	社会	1後		2				○	1							
	算数	1前		2				○		1						
	理科	1後		2				○		1						
	生活	1前		2				○	1							
	音楽	1前後		2				○		1						
	図画工作	1前後		2				○			1					
	家庭	1後		2				○							兼1	
	体育	1前後		2				○		1						
	音楽演習(器楽)	1・2・3・4前後		2				○							兼1	
	音楽演習(合唱)	2・3後		2				○							兼1	
	図画工作演習(造形・描画)	2・3後		2				○			1					
	体育演習(水泳)	2・3前		2				○							兼3 共同	
	体育演習(体づくり・器械運動)	2・3後		2				○							兼1	
	言語表現	1後		2				○			1					
小計(15科目)	—	0	30	0			—	3	3	2	0	0	兼6	—		
コース共通科目	教職に関する科目	教育原理	1前	2				○							兼1	
		教育心理学	1後	2				○		1						
		教育の制度と経営(幼・小)	1後	2					○						兼1	
		教育方法	2後	2					○	1						
		教育実習(幼・小)	3通 3後~4前		4				○	4	1	1				共同
		教育実習(幼・小) 事前事後指導	3通		1				○	3		1				共同
小計(6科目)	—	8	5	0			—	5	1	1	0	0	兼2	—		
児童教育コース科目	教職に関する科目	教職論	1前	2				○		1						
		教育課程論	2前	2				○		1						
		初等国語科指導法	1後	2					○	1						
		初等社会科指導法	2前	2					○	2						
		初等算数科指導法	1後	2					○		1					
		初等理科指導法	2前	2					○		1					
		初等生活科指導法	1後	2					○	2						
		初等音楽科指導法	2前後	2					○							兼1
		初等図画工作科指導法	2前後	2					○							兼1
		初等家庭科指導法	2前後	2					○							兼1
		初等体育科指導法	2前後	2					○							兼1
		道德教育	1後	2					○							兼1
		特別活動	2後	2					○	1						
		生徒指導・進路指導	3前	2					○	1						
		教育相談(小)	2後	2					○	1						
		教職実践演習(小)	4後		2				○	3						共同
小計(16科目)	—	30	2	0			—	6	1	0	0	0	兼5	—		
教科又は教職に関する	教育体験Ⅰ	1後		1				○	1							
	教育体験ⅡA	2前	1					○	2						共同(一部)	
	教育体験ⅡB	2後	1					○	2						共同(一部)	
	教育体験ⅢA	3前		1				○	1							
	教育体験ⅢB	3後		1				○	1							
	総合的な学習の時間	3・4後		2				○	1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
小学校外国語活動	小学校外国語活動Ⅰ	3・4前		2			○								兼1		
	小学校外国語活動Ⅱ	3・4後		2			○								兼1		
	学級経営論	3・4前		2			○		1								
	学校経営と学校図書館	3・4前		2			○								兼1		
	学校図書館メディアの構成	3・4前		2			○								兼1		
	学習指導と学校図書館	3・4前		2			○								兼1		
	読書と豊かな人間性	3・4後		2			○								兼1		
	情報メディアの活用	3・4前		2			○								兼1		
	小計 (14科目)	—	2	21	0		—		4	0	0	0	0	0	兼3	—	
	幼児教育コース科目	保育者論	1後	2				○		1							
		保育課程論	2前	2				○								兼1	
		保育内容総論	2通	4					○			1				兼1	
		保育内容演習 (健康)	3前	2					○		1						
		保育内容演習 (人間関係)	3後	2					○							兼1	
保育内容演習 (環境)		3後	2					○							兼1		
保育内容演習 (言葉)		3後	2					○							兼1		
保育内容演習 (表現)		3前	2					○		1							
幼児理解		3前	2					○		1							
教育相談 (幼)		2後	2					○		1							
保育・教職実践演習		4後		2				○	1	1	1					共同	
小計 (11科目)	—	22	2	0		—		1	3	1	0	0	0	兼4	—		
保育に関する科目	保育原理	1前	2				○		1								
	児童家庭福祉	1前	2				○		1								
	社会福祉	2後	2				○								兼1		
	相談援助	3前	2				○		1								
	社会的養護Ⅰ	1後	2				○		1								
	社会的養護Ⅱ	3前		2			○								兼1		
	保育の心理学Ⅰ	1後	2				○			1							
	保育の心理学Ⅱ	3前	2					○	1	1							
	子どもの保健Ⅰ	1通	4				○								兼1		
	子どもの保健Ⅱ	3後	1												兼1		
	子どもの食と栄養	2前	2					○							兼1		
	家庭支援論	2後	2					○							兼1		
	乳児保育	2前	2					○							兼1		
	障害児保育	3前	2					○							兼1		
	社会的養護内容	4前	2					○							兼1		
	保育相談支援	4前	2					○	1								
	保育体験Ⅰ	1後		1				○	1	1	1					共同	
	保育体験ⅡA	2前		1				○	1		2					共同	
	保育体験ⅡB	2後		1				○		1	2					共同	
	保育実習Ⅰ	3通		4				○	2							共同	
	保育実習指導ⅠA	2後		1				○	2							共同	
	保育実習指導ⅠB	3前		1				○	2							共同	
	保育実習Ⅱ	3前		2				○		1							
	保育実習指導Ⅱ	3前		1				○		1							
	保育実習Ⅲ	4前		2				○	1								
	保育実習指導Ⅲ	4前		1				○	1								
小計 (26科目)	—	31	17	0		—		3	1	2	0	0	0	兼7	—		
隣接領域科目	介護等体験の事前事後指導	2前		2				○							兼1		
	児童文化・子ども論	2・3・4後		2			○								兼1		
	児童文学・日本C	1・2・3・4前		2			○								兼1		
	児童文学・日本D	1・2・3・4後		2			○								兼1		
	おもちゃ論A	1・2・3・4前		2			○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	絵本論	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	心理学概論A	1前		2		○									兼1	
	心理学概論B	1後		2		○									兼1	
	臨床心理学	3・4後		2		○									兼1	隔年
	発達心理学概論A	2前		2		○									兼1	
	発達心理学概論B	2後		2		○									兼1	
	発達臨床心理学概論	2前		2		○									兼1	
	発達障害特講	3・4後		2		○									兼1	隔年
	小計 (13科目)	—	0	26	0	—			0	0	0	0	0	0	兼12	—
	卒業研究	4通	4				○		5	4	2	0	0	0	0	
	小計 (1科目)	—	4	0	0	—			5	4	2	0	0	0	0	—
合計 (267科目)		—	99	420	0	—			7	5	2	0	0	0	兼36	—
学位又は称号		学士 (教育学)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
<p>宗教学科目8単位、共通科目12単位、外国語科目8単位、学部共通科目8単位、自己の学科の専門科目88単位以上を修得し、124単位以上修得すること</p> <p>専門科目の履修方法</p> <p>【児童教育コース】</p> <p>コース共通専門科目 10単位以上 教科に関する科目 18単位以上 (国語・社会・算数・理科・生活・音楽・図画工作・家庭・体育を含む)</p> <p>コース共通科目 (教職に関する科目) 8単位以上 教職に関する科目 30単位以上 教科又は教職に関する科目 2単位以上 卒業研究 4単位</p> <p>【幼児教育コース】</p> <p>コース共通専門科目 10単位以上 教科に関する科目 6単位以上 (国語・社会・算数・理科・生活・音楽・図画工作・家庭・体育・言語表現のうち3科目以上を含む)</p> <p>コース共通科目 (教職に関する科目) 8単位以上 教職に関する科目 22単位以上 保育に関する科目 31単位以上 卒業研究 4単位</p> <p>各コースの学生は他のコースの科目を選択科目として履修することができる。その場合、修得した単位は「自己の学科の専門科目」の単位数に算入する。</p> <p>外国語科目 「英講読文法A」は英語未習者用科目</p> <p>(履修科目の登録の上限 1～3年次 48単位 (年間) (資格課程等の履修が許可された者は、卒業要件外の履修の特例として、これを超えて履修することができる))</p>						1学年の学期区分						2学期				
						1学期の授業期間						15週				
						1時限の授業時間						90分				

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(人間総合学部 児童文化学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
宗 教 学 科 目	キリスト教学Ⅰ	本学に入学した皆さんが、大学生活を意義あるものにし人生を深めていくために、私たちの生きる基盤がどこにあるのかをキリスト教を通じて学びます。旧約・新約聖書の主要な箇所を中心に関連するさまざまな媒体（映画・文学・音楽・絵画）を用いながら、知性と感性の両面から私たちが本当の意味で生かし自由にする真理とは何かを考え、いのちの源となる存在を知ることが目的です。また、新しい生活にスムーズに溶け込めるよう、授業の初めに毎回コミュニオン時間を設けて、開かれた自己理解と他者理解を目指します。	
	キリスト教学Ⅱ	新約聖書のマルコ福音書を読みながら、イエスが当時の人々に語られたこと、行われたことを通して、イエスがどんな人に心を向け、何を大切にされたのかを学んでいきたい。そして、それが私にどのような意味があるのかを考えていきたい。イエスとそのメッセージが学生のこれからの生き方に力を与え、支えとなるように、単に知的レベルにとどまらず、心で味わっていけるように工夫していきたい。イエスが私たち人間に無関心な方ではなく、それどころか、イエスが私に、私の人生にあきらめない方、私の生命を支えている方、私の心に響き合える方であることを味わうことができたなら、前に進む力が生まれるのではないだろうか。また、イエスが十字架を引き受けていかれる姿の中に、私たちの罪や悪を受けていかれるイエスの受け身の生き方に、むしろ強く積極的な愛の姿があることに気づくのではないだろうか。イエスとそのメッセージが希望をもたらすものとなるように配慮していきたい。	
	宗教学ⅠB	家庭は人類社会の基盤であり人間の基本的ニーズに最も深い関わりを持っています。「人類の将来は家庭を通して過ぎこしていく」（ヨハネ・パウロ二世）。その家庭が多様化と相対化の流れの中で方向を見失い弱体化し、あなたも波間に漂う小さな船のように、今日危機に曝されています。結婚、家族、そこで育まれるいのち、子育て、仕事、高齢化社会…、それら一つ一つが「課題」と化しました。家族という小さな共同体において、親子、夫婦、高齢者がどのように相互に親密で自由な関わりを育てることが可能なのでしょうか。その基盤である自己をどう受容することから始まるのでしょうか。この一年間、これから社会に巣立とうとしている皆さんの近い将来の問題として人生の様々な局面に現れる家族の課題を正面から取り上げながら、愛といのちの絆である家庭、その光と影を一緒に考察する機会としていただきたいと思います。	
	宗教学ⅠC	キリスト教とユダヤ教の聖典であり、また、世界の古典文学としても名高い旧約聖書の歴史物語を読み、そこに登場する男と女の人物像の読み取りを行います。その作業を通して、自分自身の人間理解を深めることが授業の目標です。旧約聖書は2000年以上も前にまとめられた書物ですが、そこに描かれる家族、国家、社会の問題は、その後の世界の歴史に繰り返し現れ、また現在私たちが直面することもあるものです。物語の考察を通して、その克服の道を探ります。	
	宗教学ⅠD	キリスト教は2000年を超える歴史の中で、哲学や思想、文学、心理学や精神医学など多様な分野に大きな影響を及ぼしてきました。その影響関係は、時に緊張を孕んだものでありましたが、いずれの分野においても相互に人間理解・存在理解を深めてきたと言えます。この授業では、キリスト教ないし宗教との対話を重ねた近世から現代にいたる哲学者・思想家について、信仰と理性の関係、神と人間との関係性を主題にして、時に時代を遡るかたちで宗教哲学の観点から学びます。合わせて背景となる時代状況ならびに同時代に与えた文化的影響にも目を配り、近現代の基本的な思想史・精神史の理解を深めることを目指します。	
	宗教学ⅠE	現代社会に生きる私たちにとって、世界の様々な問題を理解することはとても重要なこととなっています。近年の世界情勢や社会問題を考えてみても、実は宗教的背景を理解しないと出来事の意味がわからない場合がたくさんあり、基礎的な諸宗教や宗教文化に関する基礎教養や理解を持つことが必要となってきています。この授業ではそのような問題意識に立ち、具体的な映像や資料を用いながら学んでいく、「現代社会を生きるための宗教学」、「新聞やテレビのニュースの理解を助けるための宗教学」を目指します。また、世界宗教としてのキリスト教が歴史の中で果たしてきた役割やその現代的意味などについて宗教学の立場から考えていきますので、「キリスト教はちょっと苦手」、「少し離れた立場からキリスト教を見てみたい」という学生にとっても助けになるように進めていきたいと思えます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	宗教学 I F	「キリスト教は苦手だけれど、イエスという人には何となく惹かれる」という言葉をしばしば耳にします。キリスト教や聖書に関して、もう一度、全体としてその知識を整理し直してみたい、他の宗教のことも知った上でキリスト教を見つめ直してみたいなど、「社会に出る前に大学生としてこれだけは知っておきたい教養としてのキリスト教」が、この授業の一つのコンセプトです。同時に「宗教文化」に関する教養として、巡礼や文化遺産等を題材にキリスト教以外の諸宗教についても扱います。海外の美術館や教会・モスクなどの宗教施設を訪ねた際に、その中に隠されている意味を理解する為の基礎知識や、その背景にある人間の宗教性に気づく為の教養を、具体的な映像や画像を用いながら身につけていきます。	
	宗教学 I G	この講義では、近代日本の精神史におけるキリスト教の諸相を多角的に検討していきます。明治期に再宣教されたキリスト教が近代日本の形成期にどのように受容され、その後、日本の社会・思想・文化にいかなる影響をもたらしたかを主要なキリスト者、哲学者を軸として学びます。明治から昭和にかけての日本のキリスト教史を知るとともに、キリスト教を通して近代日本の精神史を理解することを目指します。授業内容に関連して、トピックとなるテーマを選んで任意で発表してもらうことがあります。	
	宗教学 I H	すべての人は幸福を求めています。あらゆる行為の目的をさかのぼっていくと、そこには「幸福」があるにちがいません。しかし、ほんとうの幸福はどこにあるのでしょうか。イエス・キリストの生涯と教えが記されている新約聖書の「福音書」は、まさに人間の「福」（さいわい）への「告知」（音）です。果たして、その福音は、どのような「幸せ」を語っているのでしょうか。本講義では、そのイエスの福音の核心にあるものをじっくり味わいながら、幸せな人となり、また他の人を幸せにできる道筋を考えてみます。	
	宗教学 I I	『源氏物語』は世界に類を見ないような、女流作家による大恋愛小説です。そこには人間の愛の歓びと悲しみ、愛執と罪、病と死が、物語の時間の中に細やかに描かれています。この講義では、登場人物、とりわけ女性たちの生き死にのありようと魂の救いの問題に注目します。これによって学生諸君は日本における「宗教と芸術・文化」の理解に進むことが期待できます。なお、全体は膨大なため、本講では、本編終わりの「幻」までを扱います。なお、本講義では、必要に応じて、源氏物語とキリスト教・西洋文化との対比をも扱います。	
	宗教学 I J	キリスト教美術の誕生から盛期中世に至るまでの歴史を学びます。この時代は、キリスト教を中心としたヨーロッパ文化が形成されていく時代で、ヨーロッパ文化の原点といえます。講義では、神の家である教会の建築と装飾、そして福音を記した書物として豪華な装飾が施された聖書写本の挿絵と装飾を中心に取り上げます。作品のもつ宗教性を味わい、芸術作品にこめられたキリスト教のメッセージについて考えます。	
	宗教学 I K	副題：歴史・思想・文化・社会活動からみたキリスト教 約2000年の歴史を持つキリスト教は、欧米の文化や思想などに大きな影響を与えてきました。現代社会においても、平和問題や国際協力、教育、福祉などの各分野の働きを通じてキリストの教えと精神を実践する動きも多く見ることができます。この講座では、キリスト教の誕生以前の歴史から始まり、現代のキリスト教までを見ながら、キリスト教の宗教性や霊性、キリスト教が歴史の中で文化や芸術、思想などに与えた影響やキリスト教の諸活動や現代社会とのかかわりなどについて検証してゆきます。	
	宗教学 I L	キリスト教の中でもカトリック教会は、約2000年の歴史を持ち、教派の中でも最大の教会です。カトリック教会が、歴史の中で欧米の文化や思想に与えた影響は大きく、現代社会においても、平和問題や国際協力、教育、福祉などの分野などの働きを通じてキリスト教精神を実践する動きも見ることができます。この講座では、カトリック教会の誕生以前のイエス・キリストの宣教から、現代の教会までを見ながら、カトリック教会の教えや霊性、宗教活動、文化や芸術、思想などに与えた影響やカトリック教会の社会的な活動や現代社会における働きについて検証してゆきます。	
	宗教学 I N	「心のケア」や「スピリチュアルケア」は現代の人にとって特に必要なものだ、と言われていた。この用語は精神的に痛む人に関して使われている。しかし、V・E・フラクルがかつて指摘したように、私たちはみなある意味で「Homo Patiens」（痛んでいる人間）である。したがって、このテーマをもっと広い意味(一般の私たちを含めて)で考えてみたい。そのために講義ばかりではなく、クレヨンや紙粘土を使用して、自分の心(自分の内面)の声に耳を傾けるためのエクササイズを行ってみたい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	宗教学 I P	この授業は、日本の文化の中で読み継がれてきた古代から江戸時代までの文学・詩歌・宗教思想などを読み直すことを通して、現在に生きる私たちの生と死をより深く理解しようとするものです。国際化と言われる時代だからこそ、私たちに自分たちの文化を養ってきた古人の言葉や思想に耳を傾け、そこに秘められた意味と可能性を学習することが不可欠です。この授業では膨大な日本人の文学・哲学・思想の中から、特に、悲しみの思想、死生観と宗教性という観点から下記の作品・思想の中心的な内容を学びます。これによって学生は「日本人の宗教と芸術・文化」のかかわりについて理解を深めることになるでしょう。	
	宗教学 I Q	キリスト教は「神の言葉に聴く」宗教であり、「聴く」芸術である音楽がとりわけ重視されてきました。心をもって聴くことで神と人間とが出会い、神への祈りや賛美の言葉が「歌う」という形で表現されました。西洋音楽はキリスト教の典礼と結びついて発展し、聖書にインスピレーションを汲みながら沢山の宗教音楽が生まれました。この授業では、J.S.バッハまでのさまざまなキリスト教音楽を歴史的な並びに主題的に学びます。同時に、曲だけでなく歌詞にも注意を払いながら、聖書の知識を深めていきます。音楽の背後にある神学的背景を知ることで、キリスト教理解を深めることを目的とします。また後半部では、キリスト教、特にカトリシズムの霊性についても概観する予定です。	
	宗教学 I R	『源氏物語』は世界に類を見ないような、女流作家による大恋愛小説です。そこには人間の愛の歓びと悲しみ、愛執と罪、病と死が、物語の時間の中に細やかに描かれています。この講義では、登場人物、とりわけ女性たちの生き死にのありようと魂の救いの問題に注目します。これによって学生諸君は日本における「宗教と芸術・文化」の理解に進むことが期待できます。なお、全体は膨大なため、本講では、本編終わりの「幻」までを扱います。なお、本講義では、必要に応じて、源氏物語とキリスト教・西洋文化との対比をも扱います。講義であつかわれる物語のテキストは原文と現代語訳を用いるので古語文法の理解は前提にしません。	
	宗教学 I S	この授業では前半は多様な音楽家たちの魂とおもに感性を通しての出会いを経験し、後半ではおもに知性を通してあなたにとって異性である男性と、セクシャルマイノリティーについて学びます。こうした多くの他者との交わりのプロセスを通して神が一人一人をユニークなものとして創造していることをあなたの感性と知性で確かめ、違った他者との共生時代を生きるセンスを養うことを目指します。	
	宗教学 I T (キリスト教的教育実践法)	この授業は教育という切り口からキリスト教を理解し、将来大人として教師としてまた母親として子どもに接する時の実践力、識別力を養成することを目指すものである。前期には人間の成長を段階的に考察しそこに込められたキリスト教的意味を問う。後期には日本の学校教育の歴史と現状を見わたし、みなさんが受けた教育を意識化する作業を行う。今までの人生の多くの時間を費やした教育というものを見直すことによって自分の中に蓄えられている力を再確認し、神の似姿として創造された人生を大切に生きていく準備をしようと思う。	
	宗教学 I X	宗教改革という言葉は、高校で世界史や倫理の授業を受けた方はどこかで聞いたことがあるでしょう。ルターやカルヴァンといった名前をご存じの方もいるかもしれませんが。西洋のキリスト教は宗教改革をきっかけにカトリックとプロテスタントに分かれました。この出来事は一見私たちと関係ないように思えますが、実は、キリスト教と直接関係ない人にも関係があるのです。それは、現代日本社会全体が西洋から大きな影響を受けており、その西洋のものの考え方が宗教改革と深いつながりを持っているからです。この授業では、宗教改革にかかわるものの考え方を、中立な立場からできるだけ分かりやすく解説します。	
	宗教学 I Y	私たち白百合女子大学はカトリック系大学ですが、西洋のキリスト教は大きく分けてカトリックとプロテスタントの二つに分かれています。どちらもキリスト教として主な考え方にそれほど違いがあるわけではありません。しかし細かいところ、しかも重要なところでいくつか異なる考え方を持っています。そこに注目して見てみると、西洋キリスト教の特徴がよく見えてきます。この授業では、カトリックとプロテスタントで考え方が異なるいくつかのテーマを取り上げ、それを中立な立場からできるだけ分かりやすく解説して、西洋キリスト教の特徴を明らかにしたいと思います。	
	宗教学 I Z	現代社会において生命科学の進歩とともに、人間の生存にかかわるたくさんの課題が生じています。みなさんも普段の生活のなかで、テレビのニュースや新聞を注意して見てみると、いのちにかかわる問題に出会わない日はないと思います。この授業はカトリックの立場から人間のいのちの問題をみなさんと一緒に考えていきたいと思っています。今年の本講義では、特に人間のいのちのはじまる場面(生)と終える場面(死)におけるさまざまな問題について、具体的な事例をもとに考えます。この授業をとおして、最終的にレポートをまとめるときまでには、人間のいのちの意味を一人ひとりが自分の問題として深く考えられるようになることを目指しています。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	宗教学ⅡB	<p>家庭は人類社会の基盤であり人間の基本的ニーズに最も深い関わりを持っています。「人類の将来は家庭を通して過ぎこしていく」(ヨハネ・パウロ二世)。その家庭が多様化と相対化の流れの中で方向を見失い弱体化し、あたかも波間に漂う小さな船のように、今日危機に曝されています。結婚、家族、そこで育まれるいのち、子育て、仕事、高齢化社会…、それら一つ一つが「課題」と化しました。家族という小さな共同体において、親子、夫婦、高齢者がどのように相互に親密で自由な関わりを育てることが可能なのでしょうか。その基盤である自己をどう受容することから始まるのでしょうか。この一年間、これから社会に巣立とうとしている皆さんの近い将来の問題として人生の様々な局面に現れる家族の課題を正面から取り上げながら、愛といのちの絆である家庭、その光と影をご一緒に考察する機会としていただきたいと思います。「宗教学ⅠB」と合同授業。「宗教学ⅠB」を既に履修した者は履修することができない。</p>	
	宗教学ⅡC	<p>キリスト教とユダヤ教の聖典であり、また、世界の古典文学としても名高い旧約聖書の歴史物語を読み、そこに登場する男と女の人物像の読み取りを行います。その作業を通して、自分自身の人間理解を深めることが授業の目標です。旧約聖書は2000年以上も前にまとめられた書物ですが、そこに描かれる家族、国家、社会の問題は、その後の世界の歴史に繰り返し現れ、また現在私たちが直面することもあるものです。物語の考察を通して、その克服の道を探ります。「宗教学ⅠC」と合同授業。「宗教学ⅠC」を既に履修した者は履修することができない。</p>	
	宗教学ⅡD	<p>キリスト教は2000年を超える歴史の中で、哲学や思想、文学、心理学や精神医学など多様な分野に大きな影響を及ぼしてきました。その影響関係は、時に緊張を孕んだものでありましたが、いずれの分野においても相互に人間理解・存在理解を深めてきたと言えます。この授業では、キリスト教ないし宗教との対話を重ねた近世から現代にいたる哲学者・思想家について、信仰と理性の関係、神と人間との関係性を主題にして、時に時代を遡るかたちで宗教哲学の観点から学びます。合わせて背景となる時代状況ならびに同時代に与えた文化的影響にも目を配り、近現代の基本的な思想史・精神史の理解を深めることを目指します。「宗教学ⅠD」と合同授業。「宗教学ⅠD」を既に履修した者は履修することができない。</p>	
	宗教学ⅡE	<p>現代社会に生きる私たちにとって、世界の様々な問題を理解することはとても重要なこととなっています。近年の世界情勢や社会問題を考えてみても、実は宗教的背景を理解していないと出来事の意味がわからない場合がたくさんあり、基礎的な諸宗教や宗教文化に関する基礎教養や理解を持つことが必要となってきています。この授業ではそのような問題意識に立ち、具体的な映像や資料を用いながら学んでいく、「現代社会を生きるための宗教学」、「新聞やテレビのニュースの理解を助けるための宗教学」を目指します。また、世界宗教としてのキリスト教が歴史の中で果たしてきた役割やその現代的意味などについて宗教学の立場から考えていきますので、「キリスト教はちょっと苦手」、「少し離れた立場からキリスト教を見てみたい」という学生にとっても助けになるように進めていきたいと思います。「宗教学ⅠE」と合同授業。「宗教学ⅠE」を既に履修した者は履修することができない。</p>	
	宗教学ⅡF	<p>「キリスト教は苦手だけれど、イエスという人には何となく惹かれる」という言葉をしばしば耳にします。キリスト教や聖書に関して、もう一度、全体としてその知識を整理し直してみたい、他の宗教のことも知った上でキリスト教を見つめ直してみたいなど、「社会に出る前に大学生としてこれだけは知っておきたい教養としてのキリスト教」が、この授業の一つのコンセプトです。同時に「宗教文化」に関する教養として、巡礼や文化遺産等を題材にキリスト教以外の諸宗教についても扱います。海外の美術館や教会・モスクなどの宗教施設を訪ねた際に、その中に隠されている意味を理解する為の基礎知識や、その背景にある人間の宗教性に気づく為の教養を、具体的な映像や画像を用いながら身につけていきます。「宗教学ⅠF」と合同授業。「宗教学ⅠF」を既に履修した者は履修することができない。</p>	
	宗教学ⅡG	<p>この講義では、近代日本の精神史におけるキリスト教の諸相を多角的に検討していきます。明治期に再宣教されたキリスト教が近代日本の形成期にどのように受容され、その後、日本の社会・思想・文化にいかなる影響をもたらしたかを主要なキリスト者、哲学者を軸として学びます。明治から昭和にかけての日本のキリスト教史を知るとともに、キリスト教を通して近代日本の精神史を理解することを目指します。授業内容に関連して、トピックとなるテーマを選んで任意で発表してもらうことがあります。「宗教学ⅠG」と合同授業。「宗教学ⅠG」を既に履修した者は履修することができない。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	宗教学ⅡH	すべての人は幸福を求めています。あらゆる行為の目的をさかのぼっていくと、そこには「幸福」があるにちがありません。しかし、ほんとうの幸福はどこにあるのでしょうか。イエス・キリストの生涯と教えが記されている新約聖書の「福音書」は、まさに人間の「福」（さいわい）への「告知」（音）です。果たして、その福音は、どのような「幸せ」を語っているのでしょうか。本講義では、そのイエスの福音の核心にあるものをじっくり味わいながら、幸せな人となり、また他の人を幸せにできる道筋を考えてみます。「宗教学ⅠH」と合同授業。「宗教学ⅠH」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡI	『源氏物語』は世界に類を見ないような、女流作家による大恋愛小説です。そこには人間の愛の喜びと悲しみ、愛執と罪、病と死が、物語の時間の中に細やかに描かれています。この講義では、登場人物、とりわけ女性たちの生き死にのありようと魂の救いの問題に注目します。これによって学生諸君は日本における「宗教と芸術・文化」の理解に進むことが期待できます。なお、全体は膨大なため、本講では、本編終わりの「幻」までを扱います。なお、本講義では、必要に応じて、源氏物語とキリスト教・西洋文化との対比をも扱います。「宗教学ⅠI」と合同授業。「宗教学ⅠI」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡJ	キリスト教美術の誕生から盛期中世に至るまでの歴史を学びます。この時代は、キリスト教を中心としたヨーロッパ文化が形成されていく時代で、ヨーロッパ文化の原点といえます。講義では、神の家である教会の建築と装飾、そして福音を記した書物として豪華な装飾が施された聖書写本の挿絵と装飾を中心に取り上げます。作品のもつ宗教性を味わい、芸術作品にこめられたキリスト教のメッセージについて考えます。「宗教学ⅠJ」と合同授業。「宗教学ⅠJ」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡK	副題：歴史・思想・文化・社会活動からみたキリスト教 約2000年の歴史を持つキリスト教は、欧米の文化や思想などに大きな影響を与えてきました。現代社会においても、平和問題や国際協力、教育、福祉などの各分野の働きを通じてキリストの教えと精神を实践する動きも多く見ることができます。この講座では、キリスト教の誕生以前の歴史から始まり、現代のキリスト教までを見ながら、キリスト教の宗教性や霊性、キリスト教が歴史の中で文化や芸術、思想などに与えた影響やキリスト教の諸活動や現代社会とのかかわりなどについて検証してゆきます。「宗教学ⅠK」と合同授業。「宗教学ⅠK」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡL	キリスト教の中でもカトリック教会は、約2000年の歴史を持ち、教派の中でも最大の教会です。カトリック教会が、歴史の中で欧米の文化や思想に与えた影響は大きく、現代社会においても、平和問題や国際協力、教育、福祉などの分野などの働きを通じてキリスト教精神を实践する動きも見ることができます。この講座では、カトリック教会の誕生以前のイエス・キリストの宣教から、現代の教会までを見ながら、カトリック教会の教えや霊性、宗教活動、文化や芸術、思想などに与えた影響やカトリック教会の社会的な活動や現代社会における働きについて検証してゆきます。「宗教学ⅠL」と合同授業。「宗教学ⅠL」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡN	「心のケア」や「スピリチュアルケア」は現代の人にとって特に必要なものだ、と言われている。この用語は精神的に痛む人に関して使われている。しかし、V・E・フラクルがかつて指摘したように、私たちはみなある意味で「Homo Patiens」（痛んでいる人間）である。したがって、このテーマをもっと広い意味（一般の私たちを含めて）で考えてみたい。そのために講義ばかりではなく、クレヨンや紙粘土を使用して、自分の心（自分の内面）の声に耳を傾けるためのエクササイズを行ってみたい。「宗教学ⅠN」と合同授業。「宗教学ⅠN」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡP	この授業は、日本の文化の中で読み継がれてきた古代から江戸時代までの文学・詩歌・宗教思想などを読み直すことを通して、現在に生きる私たちの生と死をより深く理解しようとするものです。国際化と言われる時代だからこそ、私たちには自分たちの文化を養ってきた古人の言葉や思想に耳を傾け、そこに秘められた意味と可能性を学習することが不可欠です。この授業では膨大な日本人の文学・哲学・思想の中から、特に、悲しみの思想、死生観と宗教性という観点から下記の作品・思想の中心的な内容を学びます。これによって学生は「日本人の宗教と芸術・文化」のかかわりについて理解を深めることになるでしょう。「宗教学ⅠP」と合同授業。「宗教学ⅠP」を既に履修した者は履修することができない。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	宗教学ⅡQ	キリスト教は「神の言葉に聴く」宗教であり、「聴く」芸術である音楽がとりわけ重視されてきました。心をもって聴くことで神と人間が出会い、神への祈りや賛美の言葉が「歌う」という形で表現されました。西洋音楽はキリスト教の典礼と結びついて発展し、聖書にインスピレーションを汲みながら沢山の宗教音楽が生まれました。この授業では、J.S.バッハまでのさまざまなキリスト教音楽を歴史的ならびに主題的に学びます。同時に、曲だけでなく歌詞にも注意を払いながら、聖書の知識を深めていきます。音楽の背後にある神学的背景を知ること、キリスト教理解を深めることを目的とします。また後半部では、キリスト教、特にカトリシズムの霊性についても概観する予定です。「宗教学ⅠQ」と合同授業。「宗教学ⅠQ」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡR	『源氏物語』は世界に類を見ないような、女流作家による大恋愛小説です。そこには人間の愛の喜びと悲しみ、愛執と罪、病と死が、物語の時間の中に細やかに描かれています。この講義では、登場人物、とりわけ女性たちの生き死にのありようと魂の救いの問題に注目します。これによって学生諸君は日本における「宗教と芸術・文化」の理解に進むことが期待できます。なお、全体は膨大なため、本講では、本編終わりの「幻」までを扱います。「宗教学R」は「宗教学Ⅰ」と同内容であるが、原文を多く使うので、前年「Ⅰ」を履修した人でも履修ができません。なお、本講義では、必要に応じて、源氏物語とキリスト教・西洋文化との対比をも扱います。講義であつかわれる物語のテキストは原文と現代語訳を用いるので古語文法の理解は前提にしません。「宗教学ⅠR」と合同授業。「宗教学ⅠR」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡS	この授業では前半は多様な音楽家たちの魂とおもに感性を通しての出会いを経験し、後半ではおもに知性を通してあなたにとって異性である男性と、セクシャルマイノリティについて学びます。こうした多くの他者との交わりのプロセスを通して神が一人一人をユニークなものとして創造していることをあなたの感性と知性で確かめ、違った他者との共生時代を生きるセンスを養うことを目指します。「宗教学ⅠS」と合同授業。「宗教学ⅠS」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡT(キリスト教的教育実践法)	この授業は教育という切り口からキリスト教を理解し、将来大人として教師としてまた母親として子どもに接する時の実践力、識別力を養成することを目指すものである。前期には人間の成長を段階的に考察しそこに込められたキリスト教的意味を問う。後期には日本の学校教育の歴史と現状を見わたし、みなさんが受けた教育を意識化する作業を行う。今までの人生の多くの時間を費やした教育というものを見直すことによって自分の中に蓄えられている力を再確認し、神の似姿として創造された人生を大切に生きていく準備をしようと思う。「宗教学ⅠT」と合同授業。「宗教学ⅠT」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡX	宗教改革という言葉は、高校で世界史や倫理の授業を受けた方はどこかで聞いたことがあるでしょう。ルターやカルヴァンといった名前をご存じの方もいるかもしれませんが。西洋のキリスト教は宗教改革をきっかけにカトリックとプロテスタントに分かれました。この出来事は一見私たちと関係ないように思えますが、実は、キリスト教と直接関係ない人にも関係があるのです。それは、現代日本社会全体が西洋から大きな影響を受けており、その西洋のものの考え方が宗教改革と深いつながりを持っているからです。この授業では、宗教改革にかかわるものの考え方を、中立な立場からできるだけ分かりやすく解説します。「宗教学ⅠX」と合同授業。「宗教学ⅠX」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡY	私たち白百合女子大学はカトリック系大学ですが、西洋のキリスト教は大きく分けてカトリックとプロテスタントの二つに分かれています。どちらもキリスト教として主な考え方にそれほど違いがあるわけではありません。しかし細かいところ、しかも重要なところでいくつか異なる考え方を持っています。そこに注目して見てみると、西洋キリスト教の特徴がよく見えてきます。この授業では、カトリックとプロテスタントで考え方が異なるいくつかのテーマを取り上げ、それを中立な立場からできるだけ分かりやすく解説して、西洋キリスト教の特徴を明らかにしたいと思います。「宗教学ⅠY」と合同授業。「宗教学ⅠY」を既に履修した者は履修することができない。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	宗教学ⅡZ	現代社会において生命科学の進歩とともに、人間の生存にかかわるたくさんの方が生じています。みなさんも普通の生活のなかで、テレビのニュースや新聞を注意して見てみると、いのちにかかわる問題に出会わない日はないと思います。この授業はカトリックの立場から人間のいのちの問題をみなさんと一緒に考えていきたいと思っています。今年の本講義では、特に人間のいのちのはじまる場面（生）と終える場面（死）におけるさまざまな問題について、具体的な事例をもとに考えます。この授業をとおして、最終的にレポートをまとめるときまでには、人間のいのちの意味を一人ひとりが自分の問題として深く考えられるようになることを目指しています。「宗教学ⅠZ」と合同授業。「宗教学ⅠZ」を既に履修した者は履修することができない。	
	人間交流力構築演習A	パチカンとはたびたび他の宗教との対話を行っている。ローマ教皇ベネディクト16世はイスラム教との会合で「我々はともにわれわれの宗教が調和と相互理解のメッセージをもたらすことを言葉と行いで示す必要がある」と述べている。カトリック教会は今までも他の宗教の中にすべての人類にとってよき知恵があることを認めている。このゼミではイスラムの文化の中で発展し、ロシアのコーカサス地方出身のグルジェフ（1877～1949）によって西欧社会にもたらされたエニアグラムの人間学を使って自分を知り、他者との交流力を構築するにはどうしたらよいかを互いに学び合うために開講される。現在エニアグラムはカリフォルニアのスタンフォード大学を中心に研究され、非宗教化された人間学として一般社会で受け入れられ、USAや日本のビジネス現場でのリーダー養成の指針としても活用され高い評価を得ている。またカトリックの修道会・イエズス会士たちにより霊操指導に活用され、まじめにキリスト教的な生き方をしようとする人々により影響を及ぼしている。このゼミは、この方法によって学生たち自身が神の恵みとしていただいている自分のほんとうの姿を知り、他者と関わる力を引き出し、自分を社会的存在として意識し、さらには良き社会人として持てる力を活用し社会貢献を重ね、実り多き人生をおくる力を自己養成することを目的としている。宗教的世界観を通じての人間理解・世界理解をめざす。	
	人間交流力構築演習B	本学の建学の精神であるキリスト教は神との親しい交わりと全人類一致を最終的目標としている。それはまずイエスが言うように自分の隣人を愛するところから始まる。隣人とよき関係を築くことは人間の根本的な召命である。すなわち社会的存在としての人間の出発点である。コアクティブ・コーチングはU.S.Aで開発組織化されて2000年より日本でも一般化され、さまざまな分野で応用されている。組織内のリーダー、教師、カウンセラー、親を「コーチ」、その配慮のもとにある人を「クライアント」と名付け、いかにしてこの両者の関係を協力的、積極的、協働的で柔軟かつ力強いものにして独特な関係を築き上げ、高い成果を上げるかをテーマとする。人はみなもともと力と才能にあふれている。また全力を尽くして持てる可能性を余すことなく発揮したいという深い願いを持っている。そして自分が他者の役に立ち、他者から承認されたいという強い願望を持って生まれてくる。決して自分だけがよい思いができればそれでよいとは思っていない。それなのにふと気付くと自分のことだけで頭がいっぱいになっている。そしてそれを本音だと信じて他者との関係に入って行き職業的にも社会的にもプライベートな関係においても失敗をくりかえしてしまう。これをキリスト教的には罪という。こうした罪の連鎖である悪循環から抜け出し他者と協力し、他者と自分を最大限に生かしてよりよき社会貢献ができるためのスキルを身に付ける機会を提供しつつ人間の宗教性と霊性理解、宗教的世界観を通じての人間理解・世界理解をめざす。	
	ルカ福音書講読演習A	本学では、キリスト教学や必修の宗教学において、聖書に触れることがしばしばあります。しかし、時間的制約から、聖書を集中的に読むということは難しいものです。この演習では、新約聖書の中から、一つの福音書をじっくりと読むことにより、聖書の味わいと福音書の精神に近づくことを目的とします。福音書の中でも特に、読みやすく、また芸術的にも美しいルカ福音書を読みます。この福音書は、神殿の場面から始まって、神殿の場面で終わることにも示されているように、全体が「祈り」の基調によって描かれ、私たちに深い精神性へと招いています。この「演習A」では、ルカ福音書の前半を扱います。	
	ルカ福音書講読演習B	本学では、キリスト教学や必修宗教学において、聖書に触れることがしばしばあります。しかし、時間的制約から、聖書を集中的に読むということは難しいものです。この演習では、新約聖書の中から、一つの福音書をじっくりと読むことにより、聖書の味わいと福音書の精神に近づくことを目的とします。福音書の中でも特に、読みやすく、また芸術的にも美しいルカ福音書を読みます。この福音書は、神殿の場面から始まって、神殿の場面で終わることにも示されているように、全体が「祈り」の基調によって描かれ、私たちに深い精神性へと招いています。この「演習B」では、ルカ福音書の後半を扱います。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	宗教と文学・思想演習 A	この授業では、20世紀を代表するユダヤ人女性哲学者でありカルメル会修道女でもあったエディット・シュタインの最晩年の著作『十字架の学問』を英語で精読します。シュタインは哲学（現象学）を学んだ後にカトリックに改宗し、アウシュビッツで亡くなりました。本書は、ナチズムの席捲する時代の暗夜と対峙しながら、16世紀スペインの神秘思想家である十字架のヨハネをとおして十字架の意味を考察・黙想したものです。原文はドイツ語ですが英訳を使用します。授業の中で分担して訳してもらい、訳文を作成していきます。同時に、関係するキリスト教思想への理解を深めていきましょう。特に、旧約聖書の預言書と福音書の受難物語に関わる箇所を集中的に学ぶ予定です。	
	宗教と文学・思想演習 B	この授業では、20世紀を代表するユダヤ人女性哲学者でありカルメル会修道女でもあったエディット・シュタインの最晩年の著作『十字架の学問』を英語で精読します。シュタインは哲学（現象学）を学んだ後にカトリックに改宗し、アウシュビッツで亡くなりました。本書は、ナチズムの席捲する時代の暗夜と対峙しながら、16世紀スペインの神秘思想家である十字架のヨハネをとおして十字架の意味を考察・黙想したものです。前期からの継続となりますが、後期からの参加も歓迎します。原文はドイツ語ですが英訳を使用します。授業の中で分担して訳してもらい、訳文を作成していきます。同時に、関係するキリスト教思想への理解を深めていきましょう。特に、旧約聖書の預言書と福音書の受難物語に関わる箇所を集中的に学ぶ予定です。	
	いのちと家族演習 A	現代社会において、生命科学の進歩とともに、今まではなかった人間の生存にかかわる多くの問題が生じています。カトリックにおける生命哲学について、テキストを読みながら考えていくことで、最終的には人間のいのちの意味について参加している学生一人ひとりが自分の問題として深く考えることを目指しています。	
	いのちと家族演習 B	現代社会において家庭の危機が叫ばれています。カトリックは最も小さな共同体である家庭こそ最も重要な教育の場だと考えています。この授業では教皇ヨハネ・パウロ二世の『家庭』を読みながら、家庭とはなにかを考えていくことで、最終的には家族の意味について参加している学生一人ひとりが自分の問題として深く考えることを目指しています。	
共通科目	文化と人間	私たちは自分たちが慣れ親しんだものと異なるものと出会う時に初めて、今まで自分の中で当たり前と思っていたことが当たり前とは限らないという事実と直面します。この授業では「当たり前」と思っていることに対して、「それは本当に当たり前なのか」という問いを持ち、自らの「常識」を問い直し、視野を広げ、大学生としてふさわしい考える力を養うことを目的としています。いのちをめぐる現実の社会問題を取り上げることで、大学生としての基礎的な教養を身につけ、物ごとを考える際の自分の弱点についても気づくヒントを提供できればと願っています。	
	哲学	人間の生き方の指針が見えにくい現代社会において、これまで世界に大きな影響を与えてきた哲学・思想の源流であるギリシア文明とキリスト教哲学、そしてそこから発展した現代哲学にまで及ぶ西洋思想から、人間とそのいのちについての主な思想をたどりながら、同時に、他者に関わり、他者を助けるための実践的なケアの思想を学びます。ケアの思想は今や医療・看護・介護・福祉の領域にとどまらず、私たち一人一人の身近な課題となっており、それは、生命倫理からターミナルケア（終末期医療）まで、広範囲に及びます。したがってこの哲学の時間は、受講者それぞれが自らの誕生から死までを視野に入れた、いのちの人間学となるでしょう。	
	現代思想 I	西洋思想を見習ってきた日本の近代化がもたらした様々な問題を克服する道は東洋思想の中にあるのだろうか。宗教と倫理との連関という観点から、東洋思想の諸相について学んでいきたい。	
	現代思想 II	（概要）指定テキストにはぼ沿うかたちで、《共生》（convivialityもしくはsymbiosis）をめざす現代思想の問題群を《ケア》と《正義》を軸に概観する。“Homo sum. Humani nil a me alienum puto.”（「私は人間である。人間に関わることで自分に無縁なものはないと思う」というテレンティウスの箴言を實踐し、専門分野以外にも貪欲な知的好奇心を燃やしている「学生」（学びを生き、生きることを学ぼうとする者）の受講と積極的参加を強く望む。 （オムニバス方式／全15回） （39 川本隆史／6回） 導入部分を担当 （40 佐藤静／9回） 本論部分を担当	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	世界の中の日本思想	日本では、東アジアや欧米さらに地球上と関わる内外の流通の中で、文化の基礎となる思想・宗教などを種々に形づくって来ました。では、その思想・宗教と称されるものはどんな事物であり、どのような歴史を持って現在に至っているのでしょうか。それは、日本ではどのような形態がありまた更に変化があるのでしょうか。ここでは、そのあり方を、研究をも踏まえて大掴みにまた出来るだけ理性的に知る作業を行います。とくに近世（戦国の後、ある根・型をつくった江戸期）また近代（維新後、欧米との交流での形態をつくった明治大正昭和期）さらに現代（グローバル化する20世紀末以後）をとらえる作業を行います。これは、結局は、思想家といわれる人々の仕事の〈基礎〉を知る作業です。それは特に判りにくい難しいものではなく、日本文化を成り立たせる生活形態のいくつかの根本的な「型」（様式）やその変化を知ることです。前期では、その基礎が作られる構造と世界史的な位置をおさえ、近世のいくつかの基本的な姿をとらえます。後期では、近代（維新後から昭和前期）を中心にし、さらに現代にも入り、内容の変化とその意味を考えます。個々の史料に入るだけではなく、表現する重要な文化人・思想家・哲学者の仕事をとらえます。	
	美学	理屈を超えた事柄のように思える美的体験やその対象である美について、論理的に思考し、言葉によって説明することの「難しさ」と「楽しさ」を徹底的に味わおうとする授業です。自然でも芸術でも人間でも、何かしら美しいものに関心があり、その正体に一步近づいてみたいと思う方にお薦めです。本講では、美学の分野で問われ続けてきた数々の根本問題（十五の主題）を扱います。まず、それらをめぐる歴史上の美学者たちの格闘を跡付けたのち、いくつかのものについては具体例に即して、同じ問題に取り組みます。実際の芸術（あるいは非芸術）作品に触れながら美なるものについての思索を深め、それを言葉にする訓練を積むことで、最終的には、各自の美的体験の幅が広がること、またその質も高まることを狙いとしています。	
	美術史	初めて美術史を学ぶ学生を対象として、作品のスタイルの変遷を主テーマに古代から現代までの西洋美術の主要な作品をスライドやビデオによって概観します。また、作品の主題、構図や構成、あるいは色彩や描写方法の特徴を理解することによって、西洋美術の特質と画家や彫刻家たちの個性を理解してもらうものです。さらに、同時代の鑑賞者や依頼者との関係を取り上げ、一点の作品に仮託した彼らの精神と作品の背後に隠された様々な様相を詳細に検討する予定です。	
	神話の世界A	ヨーロッパの神話のなかから、ゲルマン、ケルトの神話について学ぶ。ほかの地域の神話との比較や、ファンタジー、アニメ、ゲームなど現代との関わりも考えつつ学んでいく。	
	神話の世界B	「本説を取る」ということばを御存知でしょうか。ある和歌の語句やイメージを取り入れ、新たな句を作る「本歌取り」。それに対して「本説取り」は、物語や小説の筋や場面をもとにして歌を詠むものです。芸術のあらゆるジャンルにおいて、洋の東西を問わず、本説取りは連綿と行われてきました。その際「聖なるもの」、あるいは「神的なもの」と人との結びつきを語る「神話」は、創作の源泉だったのです。詩人の奥深くにひそむ、ことばでは言い表し得ぬもの。あるときそれが神話に出会い、時を経て形を得て作品に変容する。ヨーロッパを舞台としたものに限られますが、この過程を本説である神話、本説取りした芸術作品、神話に対峙した思想家のことばを通してつぶさに見て行きたいと思えます。	
	神話学入門Ⅰ	「神話」はかつては、あり得ない、ばかばかしい、非合理で幼稚な物語だと思われていました。しかし19世紀以降、主にヨーロッパの学者たちが研究を重ねるなかで、神話には神話独自の理屈があり、神話は「人間」の一面を明らかにする重要な物語だと考えられるようになりました。また神話は単なる物語ではなく、年中行事で大きな役割を果たすなど、社会の中で固有の働きをしてきました。授業では、そのような「神話独自」の世界を知り、理解を深めるために、世界の神話を紹介しながら、神話をモチーフごとに分析する「神話理論」を学習していきます。	
	神話学入門Ⅱ	「神話」はかつては、あり得ない、ばかばかしい、非合理で幼稚な物語だと思われていました。しかし19世紀以降、主にヨーロッパの学者たちが研究を重ねるなかで、神話には神話独自の理屈があり、神話は「人間」の一面を明らかにする重要な物語だと考えられるようになりました。また神話は単なる物語ではなく、年中行事で大きな役割を果たすなど、社会の中で固有の働きをしてきました。授業では、そのような「神話独自」の世界を知り、理解を深めるために、世界の神話を紹介しながら、神話をモチーフごとに分析する「神話理論」を学習していきます。なおこの授業は、「神話学入門Ⅰ」の講義内容を踏まえて進めます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	コンピュータ文学研究 A	本講は、コンピュータを用いる新しい文学研究手法を含めた学問の作法を学び、童話、絵本やマンガ作品に隠れている“かたち”を明らかにすることを目的としています。皆さんの好きな作家をより深く、より多面的に理解するための科学的方法を学び、基礎素養を習得する科目です。学生の皆さんにはコンピュータを利用して、いくつかの文学作品の文体構造の解析実習をしてもらいます。	
	コンピュータ文学研究 B	本講は、コンピュータを用いる新しい文学研究手法を含めた学問の作法を学び、小説やエッセー等の文学作品に隠れている“かたち”を明らかにし、皆さんの好きな作家をより深く、より多面的に理解するための方法を学び、基礎素養を習得する科目です。学生の皆さんにはコンピュータを利用して、いくつかの文学作品の文体構造の解析実習をしてもらいます。小説やエッセイなど文学作品の文体構造・論理的文体構造と感性的文体構造・文体構造の可視化方法や、源氏物語、夏目漱石作品や宮澤賢治作品などの解析事例についての説明を暫時演習の合間に行います。	
	教養としての日本語	この授業では、言葉の基礎力を身につけて、周りの人たちと気持ちよくコミュニケーションが取れることを目指します。まず、相手にわかりやすく聞きとりやすい話し方について演習形式で学び、次に、どのような言葉を選択したらよいかという視点から、類義語の意味の違いと印象の違いについてグループ討議をしながら考えます。また、話し言葉を磨くために、書き言葉との違いや性別による言葉の違いについて考え、さらに、話し言葉に多く見られるオノマトペ（擬音語・擬態語）の特徴を考えます。書き言葉については、文字表記の面から特徴と留意点を考えます。最後に、敬語を中心に、コミュニケーションを円滑にするための言葉遣いについて、グループ演習を交えて学習します。	
	日本語を磨く（読解力を養う）	日本語運用能力を高めるために実用的文章及び文芸的文章の読解力を養うことを目的とする。2クラスを2人の教員が交代で担当し、1人が新聞記事や評論など実用的文章の読解を、もう1人が小説など文芸的文章の読解を担当する。読解に必要な語彙力の養成も行いながら、文章理解のしくみ、文章構成のとなえ方、書き手の視点、レトリック、人物の心情理解、文章による文体の違いなどを観点として総合的に読解力を高めることを目指す。 (12 中里理子) 実用的文章担当 説明文や評論を対象に、難解な語句や文章構成などを解説し、正確に読み取ることを目指す。 (48 柳井まどか) 文芸的文章担当 小説作品を対象に、文体や修辞技法も交えて小説の読み方を解説し、文章を味わうことを目指す。	共同
	日本語を磨く（文章力を養う）	日本語運用能力を高めるために文章表現力を養うことを目的とする。2クラスを2人の教員が交代で担当し、1人が説明文や実用的文書などの書き方を、もう一人がレポートや意見文の書き方を担当する。文章表現に必要な語彙力の拡充も図りながら、説明文のポイント、手紙やメール、ビジネス文書の書き方、要約のしかた、伝える情報の取捨選択、文章の組み立て方、引用のしかた、推敲の方法などを観点として、総合的に文章力を高めることを目指す。 (12 中里理子) 説明文・実用的文章担当 わかりやすく説明することを目指し、説明文を書く実践練習を積む。 (49 山梨有希子) 意見文・レポート担当 意見文・レポートの書き方を、段階を追って解説し実践練習を行う。	共同
	美しい日本語を話す（基礎）	周囲の人と気持ちよくコミュニケーションを取る上で身につけたい言葉遣いと態度について学ぶことを目的とする。言葉遣いの基礎となる敬語を基本から学習し、尊敬語・謙譲語・丁寧語を正しく身につけることを目指す。さらに、日本の社会で必要なマナーや振る舞い、手紙やはがきの書き方、電話のかけ方・受け方など、社会生活を送る上で基礎となる事項を取り上げ、知識と実践の両面から学んでいく。	
	美しい日本語を話す（実践）	対人コミュニケーションの心構えを学び、言葉遣いの基礎となる敬語を、場面や状況に応じて使えるようになることを目的とする。敬語を中心に心地よい言葉遣いについて演習方式で学んだ後、依頼や断りなどの場面ごとにロールプレイング等を通して望ましい対応の仕方について学ぶ。また、文書の書き方や効果的なメールの書き方、会社とのやりとりを想定した電話の応答など、実社会で使えるコミュニケーションの方法を学ぶ。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	コミュニケーションのための日本語	<p>日本語運用能力を高め、円滑なコミュニケーションを行う上で必要な「話す・聞く」の技術を磨くことを目的とする。2クラスを2人の教員が交代で担当し、それぞれが複数の話題を提供し、ディベートとディスカッションを複数回行う。話し合いを通してテーマに関する知識を深め、意見形成する思考力を養い、説得力を持って語る表現力を養う。話し合いの回数を多く経験することで、積極的に意見を述べ合うことの必要性を実感し、その技術を高めることをねらう。</p> <p>(12 中里理子) ディベート担当 ディベート形式で話し合うために、意見のまとめ方、反論の述べ方などを練習し、最後に実践練習を行う。</p> <p>(48 柳井まどか) ディスカッション担当 テーマについて話し合うことを目指し、自分の意見形成から始めて他人の意見の聴き方、話し合いのこつなどを実践的に学ぶ。</p>	共同
	日本中世文化史	この授業では、現代の日本の文化に通じる点の多い、中世の文化やその根底となる思想に関する事項についてとりあげ、中世の人々の認識や考え方、文化のあり方などを学び、現代との類似点や継続性、差異などを考えていくことを目的とする。前期では衣食住といった日常的なものや、天皇家とそれに関わる文化を中心に、後期では様々な認識にかかわる問題、災害や信仰に関するものを中心に取り上げる。	
	日本近代文化史	本講義では「文化」というものを文学や芸術に限定せず、生活様式、風俗、慣習、宗教、教育、社会通念などを含むものとして捉える。この広義の文化は複雑に関与しあって、我々の活動を規定する心理的・社会的規範や価値基準あるいは世界観を形作っており、人間の行動に隠微ではあるが一定の影響を与えている。したがって近代「文化」史の検討は、近代史を様々な視角から再解釈することであり、それによって全体的な歴史把握が可能となる。本講義では社会学、宗教学、民俗学などの他の学問領域の研究成果も参照しながら「目に見えない何か」「神と仏」「生と死」「鎮魂と慰霊」という非日常的・宗教的な問題から日本近代史を論じていくつもりである。またビデオなどの教材も使って分かりやすく説明を加えていく予定である。	
	日本の外交と社会史	近代の国際社会と日本社会の連繋性を理解することを目的とします。特に1920年代の日本社会を重視する。そのために、1900年から1945年までの外交史・軍事史・経済史などの時期区分に、1920年代の日本の社会を対比させる内容の講義です。ワシントン体制の国際秩序、満州事変と国際的孤立、国際体制の現状打破（東亜新秩序建設）、太平洋戦争の破局を通して、日本の社会がどのように変化し、どのような問題をかかえ、それを解決する努力の実態について、史料を通して検証します。また、日本の近代社会を実証的に理解することも目標とします。そのため関連史料としては、当時の新聞・雑誌とともに、外務省外交史料館・国立公文書館・防衛省防衛研究所図書館・国会図書館憲政資料室などに所蔵されている、公文書・個人文書なども紹介します。	
	西洋史 I	現代の西洋世界を理解するために不可欠な古代ギリシャ・ローマ世界から15世紀ごろまでを扱います。豊かな文化、文明を現代に伝え、民主政、共和政、帝政などの政治形態を生みだした古代世界から、キリスト教ヨーロッパの基礎を築いた中世初期、現代の国際関係のもととなる国民意識を生みだした中世後期の世界までを概観します。現代世界に通じる部分と異質な部分を合わせ持つ前近代の西洋世界の歴史を学ぶことを通じて、今の自分自身が置かれた位置を広い視野で考えてほしいと思います。授業には二つの目的を設定します。一つ目は、異文化や異世界に対する理解と、自らの文化や世界に対する相対的な見方、そして歴史的なものの考え方を身につけることです。二つ目は、文献を収集し、比較・分析し、そこから自分の見解を導きだし、表現できるようになることです。前者については授業内容で、後者についてはレポートの作成を通じて学んでいきます。	
	西洋史 II	前期の西洋史 I の続きとして、西洋の中世末期から近世、近代までの世界を扱います。ルネサンスや宗教改革、大航海時代で始まり、西洋近代世界の基礎を作った近世という時代、そして産業革命や市民革命を通じて西洋世界のみならず現代の世界全体の出発点となった近代という時代を、今の世界を生きる人間として、自分自身との関わりを意識しながら学んでほしいと思います。授業には二つの目的を設定します。一つ目は、異文化や異世界に対する理解と、自らの文化や世界に対する相対的な見方、そして歴史的なものの考え方を身につけることです。二つ目は、文献を収集し、比較・分析し、そこから自分の見解を導きだし、表現できるようになることです。前者については授業内容で、後者についてはレポートの作成を通じて学んでいきます。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	歴史からみた現代	授業では西洋史の歴史家たちを題材に、これまでどのような人々がどのような方法で「歴史」を解釈してきたのかを紹介します。授業からは第一に現代を生きる自分自身と歴史との関わりを深く考える視点を得てほしいと考えます。さらに、実際に一人の歴史家の作品を読むことで、歴史を書くという行為がどのようなものであるのかを体験してほしいと思います。毎回一人の歴史家を取り上げ、その人物の生い立ちや経歴、時代背景などを解説し、その歴史家が時代の要請する歴史像にどう答えていったのか、という視点から歴史の書かれたプロセスを紹介していきます。	
	豊かさの中の経済	経済社会の発展と繁栄を促す原動力としての「成長」は、どんな背景のもとで生まれるのか。世界のさまざまな地域が抱える歴史や宗教、科学技術の力や社会の仕組みの違いを比較検討するなかで、優位な立場が形成される条件を探ります。近代社会は企業制度、貿易や金融のシステムなどで西欧が市場経済の仕組みを主導し、日本など後発資本主義国はそれをモデルに追いつきました。グローバル化で中国などの新興国家が急激な成長を遂げた21世紀は、資源とエネルギーや地球環境の制約で「成長」そのものが問われています。大きな文明の流れから経済社会の成長と発展の条件を探ります。	
	暮らしと現代経済	グローバル化という大きな波のなかで、われわれの暮らしを支える経済社会の姿はどう変化しつつあるのか。世界の中の「日本」というモデルを通して、市場経済と社会の仕組みの現状と課題を探ります。日本は明治以降の近代化と敗戦の挫折、戦後の復興と高度成長からバブル崩壊以降現在にいたるまで、その社会の強さとひ弱さを浮き彫りにしてきました。著しい高齢化と脱成長時代へ向かう中で、税、雇用、規制、福祉など社会システムの信頼の揺らぎを通して、人々の満足感と幸福感というゴールへの道筋を考えてゆきます。	
	政治学 A	日本の政治について、直近のニュースの解説をまじえながら、取材記者の視点で、内政、外交、安全保障、選挙を中心に考えます。政治ジャーナリズムの実態を日米比較などもまじえてとりあげるほか、政治報道の意義と目的、政治報道の課題などにも焦点をあてます。新聞報道がどのように形成されているかという理解を通じ、メディア・リテラシーを高めることの重要性を学んでもらうことも、講義の大きな目的です。	
	政治学 B	今、世界は激動しています。グローバル化する社会において、それは他人事ではなく、自らの生活に影響します。社会人の教養としても国際情勢の理解は欠かせません。読売新聞の特派員として、国際報道の現場で取材を重ねてきた講師が、ニュースを題材に世界の最新の動きとその背景、歴史を解説します。国際情勢を理解、分析する力を養うと同時に、報道に対するリテラシーを高めます。	
	憲法	憲法に関連する具体的な問題を題材に1回につき1テーマを講義する。特にわれわれの身の回りで発生している様々な事件を通じて、条文および判例・学説に沿って解釈し、妥当な解決を目指す。したがって、授業では身近な事件や事例を取り上げ、抽象的な議論よりも個別具体的な議論を展開し、必要があれば、ビデオなどの映像によって理解しやすい手法で受講者の学習を支援するつもりである。基本的に授業はパソコン画面を使用し、場合によってはそれを補うために資料を配付する。	
	法とは何か	人が二人集まれば、トラブルは発生しやすくなるものである。そこで、法がそのトラブルを解決しようとする。つまり、法とは、広くわれわれが社会生活を営むうえで他人とのトラブルを避けるためのルール一般を意味する。普段、われわれは法を意識することはほとんどなく、平和な生活をしていれば不要である。しかし、現実には種々のトラブルが発生し、また被害を受けることも少なくない。そこで、生活のあらゆる事柄が詳細に法律や慣習などによって規制されており、いざというときの解決手段として法は存在するのである。その際、法に関する知識を持ち合わせていなければ、自らに不利な結果に終わるかもしれない。この講義では、このような法に関する基本的知識を学生諸君が身につけることを目的とする。法に関しては抽象的概念が多いが、可能な限り具体的事例を挙げて説明し、またパソコン画面、プリント、ビデオ等を活用し受講者の学習支援を図る予定である。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	女性と社会 A	<p>私たち女性の弱さと限界を知ると同時に、その強さと豊かさの理解を深め可能性の実現を模索する、最も基本的な、女子大ならではの授業です。まず日々の生活を通して見、聞き、感じている共通の体験を掘り下げることから始めます。そのプロセスにおいて私たちは様々な生活場面の中の女性特有の課題に直面しますが、特にその背景となっている伝統的に培われてきた女性観が、ポジティブな意味でもネガティブな意味でも浮き彫りになります。また女性の視点で社会の諸問題を捉えなおそうと試みることによって、同じような経験を共有する世界の女性たちの関心とその動きに敏感になっていきます。この一年間を通してグローバルな共感と連帯の輪を広げ、私たち女性の意識の地平を大きく広げていきます。その広がりの中で、もう一方の性である男性と、様々な生活場面でどのようにお互いを一個の人格として尊重しあい生かしあえる豊かなかかわりが築けるのか、今日の社会にとともに対等なパートナーとしてどのような貢献をなすことが可能なのか、新しい視点で共に模索していきます。</p>	
	男女共同参画と政策	<p>本科目は、働くことと幸せな生活の調和（ワークライフバランス）の実現に向けて、企業との連携や「仕事と生活の調和推進のための行動指針」を理解させる。企業の力の源泉である有能な人材である女性の定着を高めるため、中小企業においてもその取組の利点は大きく、意識や働き方の改革に取り組む取組を先進的に行っている企業を紹介する。女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約（CEDAW）以後の国際的な動向も触れ、男女共同参画の考え方や政策の国際的動向を踏まえた働き方に対する学生の意識改革を図る。</p>	
	犯罪学概論	<p>犯罪はどの社会、どの時代にもみられる普遍的な社会現象であり、人類の歴史を通じて犯罪に対する関心が続けられてきた。19世紀に誕生した犯罪学は、犯人を逮捕して犯罪原因を探り、刑務所などの施設で矯正して社会復帰させる手法を考案し、実施してきた。しかし、実際に犯罪がなくなることはなく、次第に人々は犯罪から身を守る意識を発展させてきたのである。そこで、近年、犯罪予防が強調されるようになり、犯罪を未然に防ぐ安全・安心まちづくりが盛んに唱えられている。女性は、犯罪の加害者になる場合よりもむしろ被害者になる可能性のほうが高い。とくに日常生活において日々の注意が必要である。授業では、犯罪学の一般的な事項を学習したあと、個別の犯罪問題（たとえば、特に女性に関係する性犯罪、ストーカー、DV、ひったくりなど）を調査データを元に取り扱い、それらに対応した予防策・防御策を検討する。そして、最終的には、どのようにすれば犯罪を防ぐことができるか、犯罪をしにくい環境をどのように構築すべきかを考える。</p>	
	女性と法	<p>大正時代の著名な法学者である徳積重遠は、約90年前の大正14（1925）年に、「我国の人民殊に婦人に法律上の知識が足りない」として、国民とりわけ女性の法知識の不十分さを指摘しています。この指摘は、2014年の現在においても、依然として可能ではないでしょうか。そもそも「社会あるところに法あり」という言葉があるように、私達は様々な社会に属し、生活のあらゆる場面で法と関わっています。数年後には大学を卒業し、社会へと独り立ちしていく女学生の皆さんもまた、今後、法律問題に遭遇する機会が多くなっていくことでしょう。より良い社会生活を営むためにも、早い段階から法知識を身につけることが必要不可欠となってきます。そこで本講義では、女性と法とのかかわりを考え、私達の身近にある具体的事例を想定しながら、社会に関連する法的問題の理解を深めていきたいと思ひます。その際には、「家庭生活」そして「社会生活」という2つの場面において、私達が必要とする法の基礎知識の習得を目指していきたいと思ひます。</p>	
	子どもの権利と国際社会	<p>本科目は、子どもの権利条約が採択されてから四半世紀が過ぎ、子どもの権利が思いやりではなく、法的に義務づけられた規範となったグローバルな進展について概観する。次に「貧困」「紛争」「HIV/エイズ」が世界の子ども22億人中10億人以上から「子どもの生存、成長・発達する権利」を奪い、さらに性的な暴力、殺人、いじめ、暴力的なしつけ、暴力に関する考え方など子どもに対する暴力の現状を明らかにする。成功した取り組みに焦点をあてて暴力は防止できるという考え方を身につけさせ、国際社会における市民的責任感を涵養する。</p>	
	ボランティア・キャリア体験 I	<p>体験を通じて対人関係や他者への理解を深めることを目的として、近隣小学校や福祉施設においてボランティア・キャリア体験を行う。また、社会人としての基礎力、接遇者としての基礎力を身につけるとともに、就活サポートを目的として、ANAエアラインスクールの体験を行う。そのBasicコースでは3回程度にわたって繰り返し自己分析を支援し、学生の適性や強み弱み分析を行うことで、将来めざしたい業界や職種を考える契機とする。1・2限は調布市立小学校での学校ボランティアやフランス留学応援パティシエ修行等の企業体験、5・6限は調布市、世田谷区、三鷹市等の福祉施設と、ANAエアラインスクールBasic等において体験を行う。後期科目「ボランティア・キャリア体験 II」と通年で履修する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ボランティア・キャリア体験Ⅱ	前期科目「ボランティア・キャリア体験Ⅰ」と通年で履修する。体験を通じて単なる関わりレベルから、子ども理解や利用者理解を洞察するレベルのエピソード記述を繰り返し演習しつつ、近隣小学校や福祉施設では、学生が子どもや障がいのある人に寄り添う人的サービスを行うことで、地域に役に立つことを目的とする。学生には就職活動の自己アピール、対人援助、教職・保育実習に向けた現場体験の経験となる。1・2限は調布市立小学校や都立特別支援学校等、5・6限は調布市、世田谷区、三鷹市等の福祉施設において体験を行う。また企業体験としては、「ボランティア・キャリア体験Ⅰ」で学んだホスピタリティの精神を活かし、体験を通して社会的基礎力、接遇者としての力を培うことを目的として、ANA羽田空港実務体験を行う。	
	ボランティア・キャリア体験Ⅲ	2年目の学習では、より地域の役立つ人材として地域貢献できるような学生自ら問い直しつつ、学校理解や福祉理解を深める。「ボランティア・キャリアⅠ・Ⅱ」に引き続き、または異なる業界や受入先を選択することが可能で、近隣小学校や福祉施設、または企業において体験を行う。体験先については担当教員と相談により決定する。企業体験としてANAエアラインスクールBasic、ANA羽田空港実務体験を行うが、「ボランティア・キャリア体験Ⅰ・Ⅱ」において既にこれらを体験した学生には、ANAエアラインスクールAdvance、およびTOEIC対策講座を組み合わせ、社会人基礎力と接遇力アップを目指す自主的な取り組みのPDCAを支援する。	
	ボランティア・キャリア体験Ⅳ	1年目に履修したANAエアラインスクールBasicの応用としてよりキャビンアテンダントをめざす学生に特化したANAエアラインスクールAdvance、およびTOEIC対策講座を行い、より明確にキャビンアテンダントを目指す学生の就職活動支援の面が強い科目である。社会人としての基礎力づくりとして、チームビルディングや言葉遣い、日本語検定対策を行い、接遇者としての基礎力づくりとして、より具体的に機内サービス等を想定し、学んだことを全て統合した実習を行う。担当教員との相談により、教職をめざす学生は小学校や児童福祉施設での体験を行う。	
	海外ボランティア実践演習A	フィリピンと山形の農村という異文化の旅先で、先進的な活動と使命を体験する計画づくり。比べずにつながりを、想いを洞察する。 (山形) 山形高島町の有機農業運動との交流、農ある生活の体験、農作業支援などを企画し、「まほろばの里農学校」に参加する。 (フィリピン) フィリピンのダバオ訪問。ダバオ医科大学DMSFプライマリヘルスケア研究所IPHCの活動説明(参加型生活調査COPAR、住民参画制度支援SIAD) タライゴッド村訪問では、族長、小中学生平和運動家の声、伝統舞踊。南西フィリピン大学の先住民科学生との交流およびパムラアン生活遺産センター。地域滞在は各村でのホームステイとともに、村落保健員の自立活動、村の集会があるニューコレア村および、幼稚園支援、先住民女性によるヒーリング活動、先住民低学年児のための小学校給食、山間部農業があるマリログ村。	
	海外ボランティア実践演習B	ネパールと山形に旅する計画づくり支援 (山形) 山形高島町の有機農業運動との交流、農ある生活の体験、農作業支援などを企画し、「まほろばの里農学校」に参加する。 (ネパール) ネパール中西部費ならや観光の拠点ポカラ周辺のパルバット郡とシャンジャ郡の村訪問。村では村落保健員の活動、母親栄養研修および乳幼児栄養支援。アメリカ政府の国際協力、統括NGOであるセイブザチルドレンSCF、村で活動するローカルNGOの活動、ネパール政府厚生省の取り組み、これら全体の支援の仕組みについても学ぶ。カトマンズではスラムの栄養活動も可能。	
	社会福祉と私たち	本科目では、まず慈善活動や戦傷者への給付から始まった福祉の歴史から、権利基盤型の広義の福祉への変遷を概観する。そのうえで制度利用する当事者の知識理解として、社会保険(医療保険、年金保険、労災保険、雇用保険、介護保険)、公的扶助(生活保護)、狭義の社会福祉(高齢者福祉、障害者、児童・母子福祉)について理解させる。またアマルティア・セン等の哲学的な理解と現代の貧困、国際福祉における権利基盤型アプローチの実際、国連統計の理解と事例演習によって、市民としての社会的責任を涵養する。	
	児童と家庭の福祉	本科目ではまず、以下の施策とその対象を概観する。(ア)家庭環境や対人関係等によって問題を抱える児童の社会的養護と児童自立支援施策(イ)障害児施策(ウ)母子家庭の母親と児童の支援策(エ)母子保健施策(オ)一般の子どもたちや、保護者が昼間家庭にいない小学校低学年児が対象である児童健全育成施策(カ)保育施策。次に身近なサービスを利用する視点から、子育て支援や、母子健康手帳、予防接種、乳幼児健診などの母子保健をとりあげ、幅広く児童家庭福祉を理解させ、当事者意識を涵養する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際協力論A	ジェンダー（男女共同参画）に配慮した国際協力を学ぶ。女性にかかわる教育、貧困を改善する女性向け融資などの協力手法などについて短い視聴覚資料をいくつか使う。教科書のPart Iと、Part IIIの第7章と第8章前半を使用。話し合い活動を多くとり入れた体験型のワークショップ手法により授業が行われる。就職に役立つフレームワーク思考法、ランキング手法、分析ツールを身につけることができる。	
	国際協力論B	地球規模の課題に関するジェンダー（男女共同参画）の課題を学ぶ。理論の講義や視聴覚を使った知識伝達というより、ジェンダー分析フレームワーク（分析表やチェックリスト）を使って国際協力および「地球規模の課題」の要点をつかむ、話し合い活動を中心とした体験型の学び（事例の分析作業をおこなうワークショップ）である。たとえばできごとを知る（伝える）ために便利な質問セットである5WIHのように、開発途上国の女性の苦境について詳しい知識がなくても、要点をつかむための質問セットが、ジェンダー分析フレームワークである。現場で国際協力の調査や計画づくりのために使われてきた技術だが、授業では思考法訓練のひとつとして就職に役立つ、フレームワーク思考や事例研究を身につけることができる。	
	社会活動におけるマネジメントA	マネジメントに欠かせない「評価」と「交渉」を英語表現で理解する。評価に関しては、公共機関、外資系団体、非営利組織における、成果と顧客を重視した「自己評価」や、そのワークシートを使ったミーティング運営を学び、組織の意思決定プロセスや組織上層部にくい込むことを目指す。さらにお互いの「評価」に基づいた意思疎通のマネジメントとして、異なる価値観をもつ人々とのWin-Win型「交渉」を学び、お互いがYESと合意できるコミュニケーションを学ぶ。	
	社会活動におけるマネジメントB	男女共同参画推進にかかせない、社会の変動によって「ジェンダー」が変化する概念、「男と女それぞれ自分への気づき」を体験的に学ぶ。そのために講義ではなくワークショップ手法を全面的に導入して、「学びの逆転」を図る。受講人数によっては学生がファシリテーター役を体験し繰り返しワークショップの経験を積み重ねることで、社会活動のマネジメントを理解する。教科書のPart IIファシリテーター用指針および、Part III（第6章）気づきの研修コースを使用する。就活や社会で役立つグループ討論や、話し合いの方法であるファシリテーション技術を学ぶことができる。	
	食農フィールド演習	美しい自然の中、自分たちの手で大地を耕し、種を播き、食物を育てる。そして収穫し、調理するという食のプロセスを実践する。化学肥料や農薬を用いない健全な食生活と健康を実現する方法を自らの身体を通じて学び、生きるための基本的な知識を得ることを目的とする（2005年成立「食育基本法」の理念に基づく）。同時に、新たなライフスタイルの設計や精神史としての農についても学ぶ。	共同
	食と環境	本講では、食を取り巻く環境、例えば食品添加物・農薬・遺伝子組み換え・放射能を概観し、人間と食の関係視座から「人間にとっての最善の食環境」を考え、相対的学説提示による「憶える力から問う力」の学問作法習得にチャレンジします。食べ物には、多くの不思議と興味深い現象があります。今年度は、科学的視点からの食欲のメカニズムや脳内ホルモンの働きを修得することを主眼とします。特に、食欲、脳内ホルモン、人間の知性や感情はどのような関連があるのだろうか、そのメカニズムを明らかにするとともに、身近な化学現象についても併せて触れ、科学的基礎素養の涵養をはかる予定です。また、社会的関心の高い、TPP問題に関わる食糧自由化、日本の農業問題についても理解を深めるために、受講生による調査、演習、プレゼンを行います。さらには、文学作品に現れる食についても、言及する予定です。作品の食には、作品の本質に迫る一つの糸口になる可能性があり、時代背景が浮かび、文学作品のより深い理解に繋がるものと思います。	
	環境学のフロンティア	本講では、地球や社会で起こっている環境問題、例えば、地球温暖化・食糧危機・水不足・エネルギー問題などを取り上げ、厳しい現状を創り出した人間の営みを概観し、環境問題への理解を深めるとともに、文学研究との関係性を明らかにすることを目的にします。持続可能な社会の維持が困難である現状、すなわち、人の営みの結果を、人の生き方の軌跡でもある文学作品、人間とはどのような存在であるかを命題とする文学研究を通して、明らかにすることを指向します。文学を学ぶ意味を、環境と文学作品との学際的・総合的視座からも考えます。具体的には、Mappingにより環境問題と文学作品に内在する、人間とは如何なる存在かを模索し、人文科学と自然科学の学際的かつ融合的視野涵養をはかります。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	観光文化論	21世紀最大の産業といわれる「観光」を、情報・環境・教育・福祉、とりわけ異文化コミュニケーションの側面から新しい視点で概観します。観光の意味やシステムを学ぶとともに、各国の観光政策を理解し、今後の私たちにとっての「より良い観光の在り方」を考えます。授業は初歩的な概論から始まり、特別な予備知識や語学力は必要としません。海外の文化やボランティア・ホスピタリティに関心を持つ学生には、観光を通じて教養の新しい窓が開かれる契機になることと思います。	集中
	現代心理学概論	心理学を初めて学ぶ学生のために、教科書に沿って基礎から学んで頂く講義である。現代心理学の3つの潮流を概説し、環境の知覚と行動、記憶、発達、パーソナリティー、心の健康、心理検査、社会と環境などの基礎的な分野を紹介していく。オーム真理教など悲惨な事件を経験した日本のはずだが、現在の若者にとっては遠い過去のことになってしまい、今また多くの若者がカルト信仰や占いの類に巻き込まれ、振り回されている。また、東日本大震災の経験も我々がトラウマというもの了他人事としてでなく、今、真摯に捉え直して行くときであることを自覚せねばならないだろう。また、「他人の痛みへの共感が欠如した人間（様々な犯罪、いじめ等）」、「引きこもりの増加」、「児童虐待」、「自殺や自傷行為」など最近の社会現象についても触れていきたい。適宜、ビデオや資料を使用したり、簡単な実験なども取り入れていく予定である。講師の臨床現場での経験を生かして、理論だけの講義にはしないつもりである。	
	パブリックリテラシー	本授業は、百百合での大学生生活をより豊かに、そしてより有意義に過ごすための初年次教育プログラムです。高校までの「勉強」から、大学での主体的な「学び」への移行に必要とされるスタディ・スキルズや学びの基礎作法を身につけながら、公共性という観点からみたブレ社会人としての大学生の社会的役割についても深めていきます。また、この授業では本学の建学の精神及び教育目標に基づいた大学生としてのベーシックな教養を身につけ、他者との関わりを慮った発言や行動をしつつ、内面的な豊かさを磨いていくための基礎を養うことも目指しています。	共同(一部)
	情報リテラシー	本授業は、情報化社会を生きる学生たちにとって必要とされている情報リテラシーや様々な情報機器を用いた学びのためのスキルを確実に身につけ、自らそのスキルを向上させることを目的としています。情報化社会においては、自らの力で問題を発見し、必要な情報の収集・分析・判断を行い、また、それらを表現し、発信する力が求められています。情報倫理を前提とし、情報を受け取る対象に応じた表現方法を習得するための様々な情報コミュニケーション演習が少人数クラスで行われます。	
	ビジネス・コンピュータスキル	コンピュータの実践的演習が中心となる授業である。例えば、「大量のデータを表計算ソフトの様々な関数を用いて、効率的に処理をする」や「データベース管理ソフトの多様な機能を用いてデータベースを構築する」、「聴衆にとって『わかりやすい』資料を提示してプレゼンテーションする」ことやなどの実現に必要なコンピュータスキルの習得を目標としている。さまざまな事例に基づいたアプリケーション（主に、Excel、Access、PowerPointを使用する）の演習を通して、今後の自分のキャリアデザインを考える上での一助としていただきたい。	
	メディア・デザインスキルA	この演習ではMacの操作、Mac環境におけるPhotoshop、Illustratorの基本操作技術の習得を主眼としています。演習は以下の3つの要素に分けられます。第1の要素はMac初心者のための基本操作演習です。Macの特色でもある直感的なファイル操作を覚えてください。第2の要素は画像処理ソフトであるPhotoshopの基本操作演習です。マウス/ペンタブレットによる描画操作、画像加工、レイヤー操作、課題作製を簡便にするためのショートカットを習得してください。また、デジタルカメラ（もしくは手持ちの携帯かスマートフォン）から素材をとりこむことも基礎演習内容として加えています。第3の要素としてIllustratorによる図形作成、レイヤー操作、レイアウト作成、Photoshopとの連携方法の習得を演習します。上記の3つの要素をふまえて、各自雑誌形式の課題を2つ（課題Aと課題B）制作します。	
	メディア・デザインスキルB	米アップル社のコンピュータMacは、映像編集・音楽・出版・デザイン等の分野で広く使われています。本講義ではこのMacを使い、コンピュータを「自己表現」のツールとして使いこなしていくことを目的とします。中でもこの講義では映像制作の技法を中心に学びます。映像（映画）は、静止画、音声（音楽）、シナリオ・構成などが組み合わせられて成立する総合芸術であり、その制作には多方面にわたる能力とセンスが求められます。同時に、その華やかな印象とは異なり、撮影・編集自体は地道な作業の連続でもあります。デジタルビデオの普及や動画編集ソフトの普及は、より多くの人に映像への門戸を開きました。しかし映像には特有の文法があり、映像の編集にはこの文法の理解と実践が不可欠であることはあまり理解されておられません。この講義では映像の文法の理解を目指しつつ、自己表現としての映像とは何か、ということを追求していきます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	アトリエ・リス・プラク・ワーク ショップ	本演習では、他の人に喜びを感じてもらうことを最終目標とした「ものづくり」のプロセスにおいて、ものをつくる側とそれを使う側の間に生じる様々なギャップを少しでも小さくするためには、どのようなことを考えながら「ものづくり」すべきなのかを演習を通じて学んでもらうことを目的とする。本演習は、前期の通常授業、および、夏期集中演習から構成される。夏期集中演習で得られた成果は、公開プレゼンテーションにて発表してもらおう。	共同 集中
	スポーツ・健康科学A	競い合うことを目的とする競技スポーツ、楽しむことを目的とするレクリエーション・スポーツ、健康・体力の保持増進のためのスポーツ。女性のスポーツが広がりを見せている今、将来の運動習慣につなげるための絶好の機会として、このコースをとらえて下さい。チームスポーツ種目を中心に、ソフトバレーボール、バレーボール、バスケットボール、シュートボール、ユニバーサルホッケー、ドッジボール、フライングディスク(アルティメット)、インディアカなどの種目を、また個人種目としてはバドミントン、卓球、テニスなど人数に応じて、それぞれ1～2週体験します。また、生涯スポーツとしての体育・スポーツ活動を理解するための講義や体力トレーニングも並行して行います。本コースでは、女性の視点を大切にしながら、時代の流れや社会の変化、文化の変容を背景にしつつ、女性の心身の特性を踏まえたスポーツの理論、そして具体的方法を総合的に提示していきます。	
	スポーツ・健康科学B	さまざまなスポーツに関する講義や実技を通して、ひとりひとりのより一層の身体運動能力の改善をめざすとともに、女性の心身の特性を踏まえたスポーツの理論や具体的方法を身につけ、生涯スポーツにつなげることを目的としています。 【コース】 ・女性とスポーツ（スポーツ専門コース・バドミントン） ・フィットネス&エアロビクス ・バドミントン・ビギナーコース ・女性とスポーツ（スポーツ専門コース・テニス） ・女性とスポーツ（スポーツ専門コース・バレーボール） ・テニス	集中(一部)
	スポーツ・健康科学C	【ダンスエクササイズ】 この授業では、ダンスの経験がいくらかある人や、ダンスが好きで得意としている人を対象に行います。ダンスが上手になるためには、ダンスの運動基本運動を極めることと、豊かな表現力やテクニックが必要となります。モダンダンスやジャズダンスを中心に、基礎運動や基本ステップ、ステップコーディネーション、表現の仕方を学びます。また、ダンスに関する基本事項についても、適宜講義をします。ダンスに関する基本事項についても、適宜講義をします。 【バドミントン・アドバンスコース】 この授業では、バドミントンの実践を通じて、からだの構造とストロークの関係についての理論、ルールや歴史に関する知識を習得することを目指します。また生涯スポーツの観点から、運動の実践や理論を学ぶことで、からだや健康に関する知識を高め豊かなライフスタイルを構築するのに寄与することを目的としています。ストロークやトレーニングによる体力向上や効率的運動の理論について理解を深めるため、実技と並行して講義も行います。 授業では、運動理論に基づく効率的なストロークについて学び、それを試合で実践します。各自で技術習得状況を確認し、技能向上にむけ練習を重ねてゆきます。	
	身体運動科学	身体運動には、スポーツ活動だけでなく、健康の維持・増進、あるいは障害予防のための運動や、日常の生活動作も含まれます。運動不足病が問題になっている現代社会において、文化的で健康な生活を送るためには、身体運動のメカニズムや生理的作用、心身両面の健康との関わり、スポーツの社会・文化的意味などについて、実際にからだを動かしながら理解しておく必要があります。一方、女性のからだは男性とは質的・量的にも異なる特性を有しています。また、心理・思考・行動パターンにも女性の特性が見られます。そのような心身の女性の特性を理解し、その特性に即した身体運動の適切なあり方を見出せることは、女性の能力をより大きく発揮させることになるとともに、身体運動に伴う健康障害・事故の事例を減らすことにもつながります。本コースでは、そうした観点から、講義だけでなく運動を体験する中で、女性の身体運動に関する理解を深めます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教養総合セミナーA	女性と子どもの人権に関わる具体的な事例から、現代社会と人権について考える。まず、ジェンダー・セクシュアリティに関する基礎知識を学習し、家庭や学校などにより形成された自身のジェンダーに気づき、ジェンダー再生産のプロセスを検証する。その際、偏見を生まないための授業方法として開発された「差別体験授業」に参加することにより、性差別の実態と構造を理解する。次に、女性への暴力例としてデートDV、子どもへの暴力例として児童虐待（DV環境下の子ども）を取り上げ、女性と子どもの人権侵害の実態を学習し、その原因と背景を理解した上で、暴力防止対策について考える。最後に、セクシュアル・マイノリティを取り上げ、多様な性のありようを確認することにより、一人ひとりの個性と能力が尊重・発揮される社会とジェンダー平等の実現について理解する。	
	教養総合セミナーB	この授業では、関わりや体験を通して自分自身について、また、社会について考え、自らの言葉で発信することを目指しています。様々な体験や経験を通して、それを深めることなくそのまま終わってしまうことを避けるために、授業内では主に、体験や経験をどうとらえ、分析し、表現し、言葉化し、分かち合っていくかについての認識論的な基礎と、発信の仕方について共に学んでいきます。具体的には、グループでの作業と学外の方々との関わりでの体験との組み合わせによる演習を通して、学びを深めていきます。	
	教養総合セミナーC	新しい学問としての「サウンドスケープ」。都市環境と自然の様相を、音・騒音・音楽を通じて感じ、考察する。そして「深く聴く」ことで普段は意識することのない音を発見する。また、サウンド編集をコンピュータ（Mac）を使って行ない、サウンドダイアリー（音の日記）を作成する。	共同
	教養総合セミナーD	日々の生活の中に溶け込んでいる宗教文化の理解を深めることを目指して授業を行う。日本の古来の宗教文化を見直すと同時に、グローバル化の進行とともに国外からやってくる宗教文化についての基礎的知識を得られるようにする。とくに東アジアや東南アジア、南アジアの宗教文化について、日本との関わりを指摘しながら紹介する。各テーマの理解度の助けとなるように、なるべく多くの映像あるいはパワーポイント等を用いる。物事を具体的な事例に即して考えるというやり方を身につけられるようにする。宗教文化はきわめて多様であるが、同時に共通性も多く見えてくることに注意をうながす。異なる宗教文化を理解することを通して、自分が無意識に影響を受けてきた宗教文化についての確認をするような機会ももうける。	集中
	教養総合セミナーE	「教養総合セミナーC」で習得したサウンド編集の技術を応用して、音楽を創造する。コンピュータ（Mac）を使った現代的な音楽制作の基礎と技法を用いることにより創造力を高め、作品を作り出す喜びを知る。そして、サウンドスケープ演習とともに、現代の都市をめぐる音環境を総体として考察する。	
	教養総合セミナーF	本演習では、沖縄本島北部にある運天港からフェリーで1時間に位置する沖縄の離島の一つである伊是名島に約一週間滞在し、様々なフィールド演習を通じて、自然（地球）の美しさに触れ、自然科学的な教養を身につけること、そして、合宿生活や伊是名島に暮らす人々との交流を通じてコミュニケーション能力を養うこともこの演習の目的とする。伊是名島では、生き物が目覚め出す時間帯に島の神聖な領域にまで入らせて頂き、そこで今までに聞いたことのないような「音」に耳を傾けながら、その空間を肌で感じとる。そして、その場所の「音」をPCMレコーダーによって記録する。島での演習では「音」を記録するだけではなく、島の各所を歩いたり、山に登って朝日を見たり、誰もいない海で泳いだり、島の子どもたちと遊んだり、祭りに参加させて頂くことなど多岐にわたるが、そのような伊是名島での貴重な体験は学びを越えた楽しさに結びついていく。そして、伊是名島から持ち帰った「音」は、伊是名を「音」だけで表現するための素材となる。	集中
	数と形の世界A	今まで学んできた数と形について、機械的に問題を解くのではなく、問題の背後で問われている数の意味、図形の意味を理解しながら、様々な角度から問題に取り組み、算数や数学の本来の楽しさを知ってもらうことを主たる目的とした授業である。「数と形の世界A」では、小学校4年生から6年生で学習する算数の問題に改めて取り組み、それらの問題を深く理解させることで、算数の本来の楽しさを理解させることを目標としている。	隔年
	数と形の世界B	今まで学んできた数と形について、機械的に問題を解くのではなく、問題の背後で問われている数の意味、図形の意味を理解しながら、様々な角度から問題に取り組み、算数や数学の本来の楽しさを知ってもらうことを主たる目的とした授業である。「数と形の世界B」では、中学校1年から3年生で学習する数学の問題に取り組み、今までとは違った角度からそれらの問題を解き、数学本来の楽しさを理解させることを目標としている。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	自然科学の世界 A	自然科学全般について、今まで学んできたことに新しい知識、新しい考え方を付け加えながら、自然科学の世界について改めて学ぶ楽しさを知ってもらうことを主たる目的とした授業である。「自然科学の世界 A」では、地球 46 億年の歴史を振り返りながら、自分を含めた生物の進化と地球環境との関係を主たるテーマとし、地球に住む生物の一種である人間について深く理解すること、さらに、自分たちが一生を住むであろう地球の環境について理解を深めさせることを目標としている。	隔年
	自然科学の世界 B	自然科学全般について、今まで学んできたことに新しい知識、新しい考え方を付け加えながら、自然科学の世界について改めて学ぶ楽しさを知ってもらうことを主たる目的とした授業である。「自然科学の世界 B」では、人間である自分そのものの科学的な不思議について細胞レベルで理解を深めること、さらに、自分が住む地球と地球外の世界について理解を深めてさせることを目標としている。	隔年
	社会と倫理	この授業では、私たちが日頃よく耳にする現代社会の諸問題をとりあげ、倫理という観点から、歴史的、世界的視野に立って考えていきます。現代の私たちの周りで生じている問題や課題は、よく振り返ってみると、歴史の中ですでに起こっていた問題や世界各地で起こっていることと無関係ではないことがはっきりと見えてきます。「生きる力」の重要性が叫ばれていますが、「ただ生きる」だけではなく、「良く生きる」とは、「美しく生きる」とは、という観点から、社会と私たちのより良い在り方について一緒に考えていきます。	
外国語科目	必修		
	総合英語 I	本大学は2000冊以上の英語のgraded readersを所蔵し、CEFRレベル等を参照しこれを9つの白百合レベルに分類をしている。この授業では、学生はこれを使って多読を行う。各自自分の英語レベルにあったレベルのものを大量に読み、一冊読むごとにその記録とワークシートを作成する。これによって英語で内容を理解しながら短時間で読む習慣をつけ、読む「流暢性」を高めていく。また、定期的にブックレポートを作成し、学生同士で交換し面白い本の紹介をするなど、単なる読み捨てにならないよう留意する。単位取得のための読書量は累計3万語を目安とする。	
	総合英語 II	この授業では読む・書くを中心として、英語でコンパクトに自分の意見を表現する練習を行う。毎回の授業で一定の英語で書かれた文書が与えられ、それについての内容の確認と要約を行う。続いてその文書についての自分の意見を英語で100～150語程度で書く。さらにグループ内で作文を交換し、内容や言語についてのフィードバックをもらい、改訂作業をする。これを毎回繰り返すことによって、文章の内容把握、簡単な意見表明を英語で流暢にできるようになることを目指している。	
	総合英語 III	この授業で、学生は特定の事柄についてリサーチをし、その結果をまとめ発表をすることを求められる。リサーチに必要な資料はすべて英語である必要はないが、各自で見つけ、内容を要約、理解し、教員に報告する。そして、「英語コミュニケーションII」で養ったプレゼンテーション技能を駆使し、より詳細で説得力のある発表を行う。発表についてはビデオで収録し、各自で見返して話し方の修正のためのツールとする。リサーチと発表は1つのセットになっており、半期の授業で短いものを中間で1セット、比較的長いものを学期末に1セット発表する。	
	総合英語 IV	この授業は、大学院やビジネスに進むための準備として英語の文章表現力を養成することを目的としている。同時に、「英語コミュニケーションII」および「IV」で練習した内容を調べ考えをまとめていく力と「総合英語II」の中で意見を表現する力を集大成する授業でもある。特に学術的文章を作成するためのブレインストーミングの手法や文章中に用いる論理パターンを学び、説得力のある文章を書く練習を繰り返す。ビジネスレターの書き方、レポートの作成などは適宜紹介するが、目指しているのは、内容を順序立てて説明する一般的な文章を書く力である。	
	英語コミュニケーション I	この授業は、自分自身のことを説明したり、身の回りのものについて描写することができ、それらを英語で理解し、表現できることを目指している。授業の活動はペアやグループといった少人数でのインターアクションを中心とし、その中で身近な話題について相手に簡単に英語で伝える練習を積み重ね、聴く・話すの技能を高めていく。語彙の習得も行うが、活動の中では限られた語彙でも自分の言いたい内容を伝えるためのストラテジーの活用に重点が置かれる。学生はこれらの授業活動を振り返り記録をつけることで自分の技能の向上をモニターする。	
英語コミュニケーション II	この授業は、人の前に立って英語で説明するスピーチ、プレゼンテーション能力を高めることを目的とする。初期では、ペアや三人組で身近な話題について1分間で説明したり、意見を述べたりといった口頭練習を行う。中期には、良いスピーチを行うための話題の調べ方、内容の提示の仕方、聴き手の想定などについて学ぶ。さらに効果的なビジュアルの使い方を学び、最後に比較的大きなグループ、またはクラス全体の前で英語の発表を行う。これらの授業活動を通じて、相手に理解しやすい話し方をするというコミュニケーションの基礎を学ぶことを目指す。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語コミュニケーションⅢ	この授業は、「英語コミュニケーションI」の練習を基盤とし、さらなる英語の表現力を高めることを目的とする。「I」の自分自身や身の回りの出来事を話題とすることから発展し、自分を取り巻く社会や文化について説明したり、考えを述べるのが求められる。授業の活動はペアやグループといった少人数でのインターアクションを通じて、聴く・話すの技能を高めていく。話題に即した語彙力の増強を行い、同時に質問の仕方、コメントの仕方などより高いレベルで行えるように練習をする。この授業についても振り返り記録をつけ、自分の技能の向上をモニターする。	
	英語コミュニケーションⅣ	この授業は、特定の話題についてグループ内やグループ間で英語でディスカッションやディベートを行う。学生には毎回、社会文化問題に関するトピックが提示され、各自がそれについての意見をメモ書きし、それを基にグループ内で簡単な英語スピーチを行う。こうして交換した意見の中からそれぞれ数点のディスカッションポイントを選び、グループ内あるいはグループ間でディスカッションを行う。これらの授業活動を通じて、論理的な思考力と同時に英語で意見を述べる能力を磨いていく。	
	英講読文法A	英語未習者を対象とした科目である。英文法の基礎が身につくように工夫された99コマの絵を活用しながら、多様な文型と達意の語彙を同時に学習することで、英文講読の力を高めることを目標とする。絵を取り入れた例文に慣れ親しむことで、講読に軸足が置かれてはいるが、それ以外の3技能（書く、話す、聴く）も相乗的・横断的に習得することもねらいとしている。	
選択	上級総合英語Ⅰ	この授業では、専門性のある学術的文章を理解し、それについてまとめたり、考えを深めるトレーニングを繰り返し行っていく。同時に大学院進学希望者の準備講座の役割も兼ねている。限られた時間で要旨をつかみ、それについて分析を加えて批評ができるような練習を行う。また得られたインプットが定着するように定期的な語彙学習を行う。こうした文章理解を基盤に内容批評を短い文章に書きおこしたり、口頭発表を行う。ただし、クラス全体での統一した到達言語レベルを設定することはせず、学生各自が自分自身のレベルに応じた目標設定をし学習を進めていく。	
	上級総合英語Ⅱ	この授業は、これまでの外国語の学び方をふり返り、どのようにしたらよりよく外国語を自学自習ができるようになるかを考える。言語学習に影響を与える要因や学習ストラテジーについて英語の資料を読み、それを基に自分の学習行動をふり返るといった作業を繰り返す。単に言語学習についての研究を学ぶのではなく、これから先の外国語学習を実りのあるものにするという目的がある。さらに、学んだことを基に子どもたちの英語活動を支援する活動を考え、近隣の小学校や姉妹校などで実践を行う。	
	上級英語コミュニケーションⅠ	さらなる口頭によるコミュニケーション能力の獲得のためにすべて英語で授業を行う。社会・文化・科学など多岐に渡る話題について、内容を理解し、自分の意見・考えを表現する力を向上させることを目的とする。授業では、与えられたトピックについてグループディスカッションを行い考えを深め、それについて各自が小プレゼンテーションを行っていく。単に話す能力を高めるだけでなく、積極的に意見を述べることでコミュニケーションを活性化させようという姿勢を育成する目的もある。	
	上級英語コミュニケーションⅡ	さらなる口頭によるコミュニケーション能力の獲得のためにすべて英語で授業を行う。教員や教科書によって与えられたトピックではなく、学生各自の興味や活動について英語で議論する。そのため、学生は各自が見つけてきたトピックを紹介し合い、それについてペアやグループで議論をする。ここで話し合ったことを基にグループ間で討論を行う。勝ち負けを競う討論ではなく、グループ相互で納得できる結論に導くように指導がされる。馴れ合いではなく、言語活動を通じた協調性を身に付けることを目指す。	
	English for JFL Teachers I	この授業では、英語で日本文化を紹介する練習をしていきます。日本語を勉強する外国の方々は、必ずしも英語圏出身ではありません。ですので、シンプルな英語で、簡潔に説明できるようになることを目標とします。日本文化を再確認しつつ、外国の方が興味をもつポイントや、国別の特徴なども解説していきます。	
	English for JFL Teachers II	日本語、そして日本文化を外国のかたがたに伝える未来の日本語教師のみなさんとともに、人に伝えたい思い、考え、さまざまな情報を、英語で発信していく練習をしていきます。各自新しい語彙や表現を身につけさらに豊かな表現ができるようにすると同時に、自分がこれまで習得してきた英語を最大限に駆使し、さまざまなシーンにおける多様なトピックについて、正確かつ論理的で説得力のある発言ができるようにすることを目指します。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	初級フランス語	これまでに習得したフランス語文法の内容を復習しつつ、おもに会話を中心とする練習を通じて、実践的なフランス語の総合的力を伸ばす。日常的なフランス語を十分に話し、聞き、書き、読むことのできる初級レベルの完成を目標とする。また、フランス語およびフランス語圏文化について知識と関心を深めていく。	
	フランス語入門	フランス語を初めて学ぶ方を対象にしています。アルファベット、発音と綴りの読み方から始めて、一年間で、フランス語文法の基礎を学びます。具体的には 1. 基本語彙をマスターする 2. 基本動詞の活用と用法を覚える 3. 代名詞の種類と用法に注意する 4. 前置詞・冠詞の多様な用法を習う 5. 様々な構文に習熟する 6. 文相互間の関係を把握する 7. 発音が流暢になる などを目標にします。	
	フランス語Ⅰ (文法・講読)	「フランス語Ⅰ(会話)」と「フランス語Ⅰ(文法・講読)」は、1冊の教科書を共通して使用する連動した授業です。この2つの授業を通して、フランス語学習1年目は、フランス語でコミュニケーションをとるために必要な4技能(聞く・話す・読む・書く)の基礎を効率よく身に付けていくことを目的とします。「フランス語Ⅰ(会話)」では、日常の会話に必要な語彙と表現(キーセンテンス)、正しいフランス語の発音、そして聞き取り能力を身に付けることに重点を置いて授業を行っていきます。「フランス語Ⅰ(文法・講読)」では、文法項目をより詳しく学んでいきます。	
	フランス語Ⅱ (文法・講読)	「フランス語Ⅱ(文法・講読)」は、「フランス語Ⅰ」で学んだフランス語の基礎を文法の面から復習し、体系的に理解することを目的とする授業です。1年での既習項目も含めて基礎文法を段階的に学習することによって、フランス語がどのような言葉であるかその全体像をつかむことを目指します。	
	フランス語Ⅰ(会話)	「フランス語Ⅰ(会話)」と「フランス語Ⅰ(文法・講読)」は、1冊の教科書を共通して使用する連動した授業です。この2つの授業を通して、フランス語学習1年目は、フランス語でコミュニケーションをとるために必要な4技能(聞く・話す・読む・書く)の基礎を効率よく身に付けていくことを目的とします。「フランス語Ⅰ(会話)」では、日常の会話に必要な語彙と表現(キーセンテンス)、正しいフランス語の発音、そして聞き取り能力を身に付けることに重点を置いて授業を行っていきます。「フランス語Ⅰ(文法・講読)」では、文法項目をより詳しく学んでいきます。	
	フランス語Ⅱ(会話)	「フランス語Ⅱ(会話)」と「フランス語Ⅱ(文法・講読)」は、連動した授業です。この2つの授業を通して、フランス語でコミュニケーションをとるために必要な4技能(聞く・話す・読む・書く)をさらに身に付けていくことを目的とします。「フランス語Ⅱ(会話)」では、日常の会話に必要な語彙と表現(キーセンテンス)、正しいフランス語の発音、そして聞き取り能力を身に付けることに重点を置いて授業を行っていきます。文法項目は「フランス語Ⅱ(文法・講読)」でより詳しく学んでいきます。	
	ドイツ語ⅠA	第一にドイツ語を発音できること、第二にドイツ語を理解し活用させるために初級ドイツ文法をひとつお習得すること、これを目標とします。その文法内容は、前期ではドイツ語技能検定試験、いわゆる独検の4級程度(必要な語彙は約500語)、後期では独検の3級程度(必要な語彙は約1500語)に相当します。さらに文法の学習にとどまらず、それを活用させることで、日常会話においても簡単な意思の伝達ができるようになってください。時間の許す限り、消化しやすいようにゆっくと進み、ていねいに説明し、わかりやすい授業をめざします。	
	ドイツ語ⅡA	テキストは、ハインリヒ・ベル(1917-1985)の『蒼白きアンナ』で、短編二編がおさめられています。授業の主たる目的は、「ドイツ語ⅠA」、「ドイツ語ⅠB」で学習したドイツ文法を確実なものにするとともに、ドイツ語の書き言葉に慣れ親しんでもらうことです。簡潔な文章で少し、慣れるまでは丁寧にやります。ドイツ語を学習しつつ、話も楽しんでもらえれば、と思っています。とはいえ、明るい話というわけではありませんが、また折を見て、「ドイツ語ⅠA」、「ドイツ語ⅠB」でやり残した文法事項(接続法等)を説明します。	
	ドイツ語ⅠB	「ドイツ語ⅠA」と同じテキストを用います。初級ドイツ文法を踏まえて、ドイツ語圏とその文化を紹介する簡単なドイツ語のテキストを読み進めたり、練習問題を解いたりします。さらに、数百語ぐらいのドイツ語の語彙力も身につけてもらいます。日常会話であいさつしたり、自己紹介したり、相手に質問したり、簡単な意思の伝達ができるようになってください。「ⅠA」と同様に、消化しやすいようにできるだけゆっくと進み、ていねいに説明し、わかりやすい授業をめざします。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ドイツ語ⅡB	学生が自分の日常生活をドイツ語で表現できるようになることを目指します。テキストのドイツ語文は、やさしい日常会話が中心です。どんどん練習して、どんどん慣れて、どんどん覚えていきましょう。あわせて独作を練習してゆきます。その教材はプリントの形でこちらで用意します。またドイツについての基本情報、ドイツ文化圏の過去の著名人、学校制度等、ドイツについて適宜紹介していきたいと思っています。	
	中国語（初級）	この授業は、初めて中国語を学ぶ学生を対象としています。授業の内容は中国語の発音、基礎文法、基礎会話となります。授業は基礎会話を中心に、一年間勉強した後、日常会話ができるように進む予定です。そのため、習った会話を声を出して朗読、暗誦し、更に暗誦したものを使って会話の練習を行います。授業の時間を有効に利用するため、予習、復習を欠かさずに取り組んでほしいです。	
	中国語（中級）	この授業は初級中国語を終えた学生を対象とします。この授業では初級に習った内容を復習しながら、中級に習得すべき内容を勉強します。初級に比べてより豊かな表現力、読解力、リスニング、実用的な会話力、応用力をアップさせるのが目的です。また、授業の内容にあわせて、中国の文化や現代社会なども紹介したいと思います。	
	韓国語（初級）	韓国語を初めて学ぶ方を対象にしています。一年間で、韓国語の文字であるハングルと発音、韓国語の文法の基礎を学びます。具体的には、「基本語彙を覚える」「用言の基本活用（現在形、過去形）をマスターする」「基本文型を覚える」ことによって、「韓国語で日常会話ができるようになる」ことを目標としています。	
	韓国語（中級）	韓国語の初級レベルを学習した方を対象にしています。一年間で、中級レベルの文法や語彙表現を学び、「高度で総合的なコミュニケーションスキルを身につける」ことを目標とします。この授業では、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能のバランスを意識した学習をします。各課の内容に従って中級レベルの語彙と文法を徹底的に練習し、一つの課が終わるとその課に出てきた表現を使って、作文と会話の練習をします。また、韓国語力をより高めるために、言葉だけでなく韓国の文化や事情も紹介します。	
学部 共通 科目	子どものイメージ	子ども像・子ども観の研究。絵本・童話・マンガ・アニメ・TVなどの具体例から、主人公の「子ども像」や作者の「子ども観」を読み取る。「子どもの誕生」と呼ばれる心性史の基本的な発想を説明した後、子どものイメージの主要なタイプ（類型）として「成長する子ども」「無垢な子ども」「異化する子ども」を取り上げ、児童文学からサブカルチャーまで、クロスメディア時代の実例を考察する。それを通して子どもおよび人生の諸時期のとらえ方が時代や社会によって多様に変遷していることを理解する。	
	子どもとファンタジー	ファンタジーおよび想像力の研究。児童文学ファンタジー作品を主要な題材としながら、神話、伝説など口承文芸と通底するファクターを探るとともに、現代のアニメ化・映像化における意味づけの変容なども見てゆく。合わせて、絵本やTVの登場人物を、子どもがどのように現実と連関させているのか、「リアル」と想像力の問題について理解を深めることを目的とする。遊園地の着ぐるみショー、ゆるキャラ、聖地巡礼、TDL、テーマパークなど夢の圏内にとどまらず、実体化・環境化した想像力のあり方にまで視野を広げて考察する。	
	子育て支援論	現代社会における子育て支援をめぐる問題とその背景について理解を深めることを前提とする。次に、子育て家庭への支援、社会的子育てへの支援など、子育て支援の基本姿勢とその理論、支援技法、支援の実践について学ぶ。子育て支援に関わる専門職の資質について検討する。また行政施策としての地域子育て支援のこれまでを学びながら、子育て支援の課題を理解し、それを充実させるために何か必要かを履修生がそれぞれに考えていく。	
	発達と文化	人間の認識・行動には、大きな文化差があることが知られている。本講では認識・行動の形成・発達には個体が活動する文脈（文化的環境、生活世界）に大きな影響を受けることを学ぶと共に、その過程を理解して、必要に応じてその影響をコントロールする方法を学び、適切な支援のあり方を追求する。その際、人間の発達にとって「文化とは何か」ということの理解を通して、人間の生物学的側面と文化的側面の統合的理解こそが発達および発達支援の根幹であることを学ぶ。	
	学校と発達	学校が子どもの発達をどのように方向づけているのかについて、例えば、就学が当たり前ではない文化圏の子どもの比較によって、また、教育によって形成される知識と日常的な経験から形成される知識との対比などによって、考察する。さらに、学校および学級の仕組み自体やそこにおける人間関係の特質を見たらうで、子どもの成長・発達を導く環境として学校がどのようにあるべきかについても検討する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	家庭の教育・地域の教育	家庭におけるしつけや、地域における生業に向けた修練は、かつて、子どもの発達を方向づける重要な役割を果たしていた。いっぽう現在、学校教育と相補いながら子どもの発達を支えていく役割を期待されている家庭教育・地域の教育ではあるが、家庭や地域の実態が大きく変貌したことを前提にすれば、それらが果たす役割も自ずと変わらざるを得ない。親子関係・家族関係、地域の子育ての仕組み・社会教育的取り組みなどを概観しながら、家庭教育や地域の教育のこれからの役割について考察する。	
専門科目	必修		
	児童文学入門A	欧米の児童文学の中で子どもがどのように描かれてきたかを学ぶことで、児童文学が子どもに向けて単純に書かれた物語ではなく、文学作品であり、また社会と子どもの関係を映し出す文学であることに目を向けていく。教訓物語、ファンタジー、冒険物語、少女小説、絵本などから具体的な作品を取り上げ、作品に描かれた子ども像や社会背景、時代による変化を知ることで、過去および現代社会における子どもの状況、子ども観の変化、大人と子どもの関係を考えるきっかけとする。	
	児童文学入門B	物語の源である口承文学、特に口伝えのおとぎ話である昔話について理解することを目標とする。昔話とは何か、伝説など他の口承話と昔話の違い、といった基本事項をおさえたうえで、書かれた文学とは異なる昔話の文法、また、昔話の語り手や昔話の国際性について学び、昔話の特徴を理解する。これらを通して、児童文学・文化における昔話の役割や機能を知り、文化財としての昔話を伝承していくことの重要性を把握することを旨とする。	
	児童文学史・日本I	日本の児童文学の歴史と現在を理解するための基本的な知識の習得を目的とする。とくに、どのような時代的変遷の結果として現代の子どもの文学・出版があるのかを知ることを目指す。児童文学の多様化をふまえて、編年体ではなく、「リアリズム・ファンタジー・ナンセンス」にわけて、それぞれのジャンルにおいて歴史的な転換点となった作品や出来事を考察する。「御伽噺の時代・童話の時代・児童文学の時代」という時代区分をふまえて、1960年前後の「童話伝統批判」から2010年代までの現代史を対象とする。	
	児童文学史・日本II	日本の児童文学の歴史と現在を理解するための基本的な知識の習得を目的とする。どのような時代的変遷の結果として現代の子どもの文学・出版があるのかを知ることを目指す。児童文化財の一つとしての児童文学という視点から、子どもに多く受容されているにも関わらず文学史や文学教育の対象になりにくいジャンルの歴史をあつかう。また、クロスメディア時代の児童文学のあり方をふまえて、ミステリー、ケータイ小説、ライトノベル、ヤングアダルト文学、マンガのノベライズ、メルヘンのアニメ化など競合するジャンルの発生の意味も考察する。	
	児童文化入門A	児童文化とは何か、その本質と意義を歴史的に理解することで、子どもの生活世界に対する認識ならびに子ども観を深めるとともに、児童文化研究の基礎を身につけることを目的とする。時代とともに変化してきた、子どもたちの生活にかかわる広範な文化と、その遊びの中に大人がもたらしたさまざまな児童文化財のありようを概観していく。可能な限り、実物・画像・映像の提示ならびに絵本の読み聞かせや紙芝居の実演などを通して、体験的・実感的な理解を促すこととする。	
	児童文化入門B	児童文化研究の入門として、子ども特有の感覚を掘り起こすこと・そこから人間社会の入口にいる子どもと大人との関係を考える視点をもつことを目的とする。子どもの感受性と遊びの意味をとらえたうえで、子どもを取り巻く文化的環境を、おもちゃやおまけ・お菓子などに現れるモノ的環境、絵本やアニメなどに描かれた物語的世界に分けてみていく。できるだけ具体的な対象や現象を取り上げ、そこから子どもの世界を解読するための視点や方法を提示し「児童文化」の輪郭と動きをつかめるようにする。	
	児童文学史・英語圏I	19世紀後半から、20世紀末すなわち『ハリー・ポッター』シリーズ以前までの児童文学の重要作品を取り上げる。この前半部分では、まず『不思議の国のアリス』『ピーターパン』など古典名作を、当時の時代相のみならず、以降のパロディ、映像化作品等現代的展望から捉え返すとともに、子ども観の変遷についても考える。全体として多角的な視野を養うことを目的とし、年表的な歴史をたどるよりも、例えば「タイム・ファンタジー」などテーマにそっての分類、鑑賞を試みる。	
児童文学史・英語圏II	「I」に引き続いて、より新しい時代の作品を取り上げてゆくが、「I」と同じくテーマ的な問題意識を持つことと、作品が時代を敏感に先取りし、反映する面に注目する。たとえばメディア・テクノロジーの発達、ファンタジー作品をより先鋭的に押し進める起動力になっており、魔法の描写や意味づけ、世界観の変化だけでなく、書物以外のメディアへの展開を前提した表現をも生むようになった。作品としては『指輪物語』『ナルニア国ものがたり』『ゲド戦記』などを作者の理論と合わせて押さえてゆく。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	卒業論文	3年次の「演習」を踏まえ、4年間にわたる児童文化学科での学びの集大成として、卒業論文あるいは卒業制作を完成させるのが目標である。日本児童文学、海外児童文学、伝承文学、児童文化、創作・制作の各分野において、学生は各自が取り組むテーマに従って、担当教員の指導を受けながら、卒業論文あるいは卒業制作を仕上げる。 2 石井直人 日本児童文学を担当 3 井辻朱美 ファンタジーを担当 4 白井澄子 英語圏児童文学を担当 5 間宮史子 伝承文学を担当 6 森下みさ子 児童文化を担当 1 浅岡靖央 児童文化を担当 7 やたみほ 創作・制作の分野を担当	
	キャリア研究	学生が将来の進路を考えるにあたって、児童文化学科での学びが卒業後の仕事にどう結びついていくか、ということイメージできるようにすることが目標である。授業は、児童文化と関わる様々な仕事分野のゲストスピーカーによる話と、キャリア支援課による「世の中のことを知るための基礎知識」および卒業生の就職活動についての講義・講座で構成し、学生が「働く」とはどういうことかを理解し、職種の多様性に気づけるようにする。	
選択必修 I	基礎演習A	1年次の「入門」の授業を踏まえ、学生が自分のテーマを見つけだし、調査や考察の方法を学ぶことを目標とする。合わせて、資料の収集、レジュメの作成、口頭発表のしかた、レポートの書き方など、研究の基礎となる力を身につけることをめざす。日本児童文学、海外児童文学、伝承文学、児童文化（2種類）、創作・制作の6つが開講されるので、そのうち1つを選んで発表や制作を行い、自分に合った分野の「演習」「卒業論文」に進む準備をする。 97 甲木善久 日本児童文学を担当 8 八代華子 海外児童文学を担当 98 裕村裕子 伝承文学を担当 2 石井直人 児童文化（物語的児童文化財）を担当 1 浅岡靖央 児童文化（非物語的児童文化財）を担当 7 やたみほ 絵本およびアニメーション制作を担当	
	基礎演習B	1年次の「入門」の授業を踏まえ、学生が自分のテーマを見つけだし、調査や考察の方法を学ぶことを目標とする。合わせて、資料の収集、レジュメの作成、口頭発表のしかた、レポートの書き方など、研究の基礎となる力を身につけることをめざす。日本児童文学、海外児童文学、伝承文学、児童文化（2種類）、創作・制作の6つが開講されるので、「基礎演習A」とは異なる1つを選んで発表や制作を行い、自分に合った分野の「演習」「卒業論文」に進む準備をする。 97 甲木善久 日本児童文学を担当 8 八代華子 海外児童文学を担当 98 裕村裕子 伝承文学を担当 2 石井直人 児童文化（物語的児童文化財）を担当 1 浅岡靖央 児童文化（非物語的児童文化財）を担当 7 やたみほ 絵本およびアニメーション制作を担当	
選択必修 II	演習	1年次の「入門」の授業、2年次の「基礎演習」を踏まえ、学生が4年次で取り組む卒業論文・卒業制作を視野に入れながら、自分が専門的に研究あるいは制作したいテーマを見つけ、その内容を掘り下げていくことを目標とする。日本児童文学、海外児童文学、伝承文学、児童文化、創作・制作の分野の演習が開講されるので、学生は自分が取り組みたい分野の演習を1つ選んで研究や制作を行い、「卒業論文」につなげられるようにする。 2 石井直人 日本児童文学を担当 3 井辻朱美 ファンタジーを担当 4 白井澄子 英語圏児童文学を担当 5 間宮史子 伝承文学を担当 6 森下みさ子 児童文化を担当 1 浅岡靖央 児童文化を担当 7 やたみほ 創作・制作の分野を担当	
選択	選択A 日本児童文学研究A	日本児童文学の原典を読んで文学研究の基礎を実践的に学ぶことを目指す。授業は、講義と学生の発表の組み合わせ。大正期は「童話」の時代といわれるが、実際にどのような作品が生まれたのか。有島武郎や小川未明らは、子どもをいかに描いたのか、それはなぜか、という点に注目し、時代の特徴を捉えながら作品を講読する。現代の子ども達にも読み継がれている作品を中心に取り上げ、児童文学の持つ可能性や課題についても考えていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本児童文学研究B	日本児童文学の原典を読んで文学研究の基礎を実践的に学ぶことを目指す。授業は、講義と学生の発表の組み合わせ。児童文学の中でもとりわけ幼い子どもにむけてかかれた作品を中心とする。明治期に生まれた「お伽噺」は、どのような特徴を持っていたのか。子ども読者の誕生、作家の子ども観等から、幼年文学の出発期について考える。また、松谷みよ子、寺村輝夫などの作品の講読を通して、幼い子どものための文学の特徴や課題について考えていく。	
	英米児童文学研究A	英米児童文学がどのように誕生し発展してきたかを、講義と実際の作品抜粋を読んで考えていく。児童文学は時代により、子どもをとりまく環境変化の影響を強く受けて変容してきたが、どのような経緯で児童文学が生み出されたのかを考察する過程で、児童文学というジャンルの特質が浮かび上がってくると思われる。この講義では、黎明期から20世紀前半までの作品の中から、ファンタジー、リアリスティックな作品を適宜取り上げて考察し、子ども観の変遷や想像力のとらえ方の変化についても考えてみたい。	
	英米児童文学研究B	20世紀半ば以降、英米児童文学がどのように変化・発展してきたかを、講義と実際の作品抜粋を読んで考えていく。児童文学は時代により、子どもをとりまく環境変化の影響を強く受けて変容してきたが、この講義では、20世紀後半から現代までの作品の中から、ファンタジー、リアリスティックな作品を適宜取り上げて考察し、子ども観や家族観の変遷、扱うテーマの変化、想像力のとらえ方の変化、英米両国における違いについても考えてみたい。	
	伝承文学研究	物語の源である昔話についてより理解するために、様々な昔話のテキストを分析的に読む。日本昔話やグリム童話などの外国昔話を読みつつ、昔話の構造や構成を把握すること、類似の昔話を比較して共通点と相違点を明らかにすること、昔話に映し出された人間観や自然観を読み解くことをめざす。さらに、昔話の語りを読むこと、絵本化や映像化された昔話作品を検討することを通して、現代の私たちが昔話をどのように伝承していくのかを考える。	
	創作文化研究I	映像作りの基礎を学ぶ。19世紀初めに発明された動画を見る装置「フェナキスティスコープ」「ゾートロープ」などを身近な材料で作ることで残像の効果を学び、映像の歴史について研究をする。国内外のサイレント映画作品を考察して実際に撮影を体験する。音のない映像ならではの演技を考え、見る側の想像力をかりたてる映像作りを目指すことで自らも表現の幅を広げていくことを目的とする。作品は地域との交流を図るためのイベントとして、地元の劇場で上映や上演を行っていく。	
	創作文化研究II	「創作文化研究I」履修者のみ受講できる。トーキー映画に入った初期の作品から現代の映画まで幅広く取り上げ、ドキュメンタリー、ドラマ、ミュージカル、アニメーションなどから1つのジャンルの歴史を探り、好きな作品について研究発表する。そして映画・演劇・紙芝居など自分に合った技法を用いて個人もしくはグループで制作を行い、発表をする。脚本作り、演出などを体験することによって幅広い知識や教養を身につけ、複数人で制作することでコミュニケーション能力を高めることを目的としている。	
	キャラクター文化研究	私たちの身近にあるキャラクターは、どのようにして生まれ、広がり、定着していくのか？ その過程から「キャラクター」なるものの特性、「かわいい」感覚や「癒し」効果との関係等を掘り下げて考え、キャラクター化が進む社会や文化の深層を探ることを目的とする。キャラクター市場のフィールドワーク、キャラクターを活用したイベントの参加、キャラクター制作実践等、授業外の体験をフィードバックするかたちで研究を深めていく。	
	ストーリーテリング研究I	「ストーリーテリング」とはお話を覚えて語ることをいう。まず講師の語りを聞くことにより、その楽しさやことばを聞いてイメージする喜びを知り、さらに語る喜びを体験することをめざす。絵本朗読と語りの違い、語る意義、絵本の大切さ、絵本の選び方と読み方、絵本を読む、お話とは、話の選び方、昔話を考える、昔話の法則といった内容に沿って学びつつ、生の声のもつ魅力に気づき、人が人に語りかけることの大切さを改めて考える。	
	ストーリーテリング研究II	「ストーリーテリング研究I」の内容を踏まえ、実際に語ることを通じてストーリーテリングのやり方を把握することを目標とする。昔話の法則をみつける、昔話の残酷性、再話の比較検討、語るにふさわしい話とは、語る話を選ぶ、選んだ話の検討、話の覚え方、話の語り方、語る、といった内容に沿って学びつつ、語る喜びを体験することで、ストーリーテリングができるようになることをめざす。	
	ストーリーテリング研究III	「ストーリーテリングI」、「II」の内容を踏まえ、実際に聞き手の前で語ることを目標とする。ストーリーテリングの意義、話の選び方、覚え方、語り方、語る話を選ぶ、選んだ話の検討、語る場の設定について、計画の立て方、覚え方練習、語り方練習、プログラムのたて方、発表の場をもつ、反省、といった内容に沿って、実体験を積み、ストーリーテリングに対する理解を深めることで、物語や昔話の奥深い味わいを楽しめるようになることをめざす。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	わらべうた研究	日本人の子育て、子ども同士の生活の中で育まれてきた知恵のひとつである「わらべうた」とその有効性を知り、子どもの発達を支える方法を身につけることを目標とする。実際にわらべうたを歌い遊んで覚え、そのうえで、わらべうたと子どもの成長発達に関しての分析、また、わらべうたの音楽的な分析を行う。それらを通して、わらべうたを子どもと一緒に歌い遊びながら子どもの成長を支えることのできる力を養うことをめざす。	
	マザーグース研究	日本で「マザーグース」として知られている英国伝承童謡は、イギリスでは「ナーサリー・ライム」と呼ばれる英語圏底辺文化の一つであり、英米文化・文学を理解するうえで不可欠なものといえる。この授業では、日本のわらべ歌以上に幅広いジャンルを有し、大人と子どもの共通文化として、現代にいたるまで深く生き続けているマザーグースの魅力や背景について知ることを目的とする。さらに、日本人には不得手な英語の強弱のリズムや韻の感覚を体得することにより、より深くマザーグースの文化を理解することを目指す。	
	絵本制作研究Ⅰ	子どもをはじめとして人々を引き寄せ心に刻まれる絵本の力はどこにあるのだろうか。絵本制作の起点や過程において生じていることを掘り下げてとらえることにより、絵本が自身の心の内にある子どもの感受性や世界のとらえ方と深くかわり、自分自身と社会との関係を見つめ直す糸口であることに気づかせる。具体的な絵本の読み解きや絵本の制作過程を取り扱うことにより、受講生みずからが絵本体験を深めつつ、絵本特有の力を発見していくことを目的とする。	
	絵本制作研究Ⅱ	「絵本制作研究Ⅰ」を踏まえて開講する。受講生自身が実際に絵本制作を体験することにより、自身の内にある子どもの感受性をとらえたり、人間および社会の見方を深めたり、自身の感性や表現の仕方を見つめ直したりする機会とする。制作体験を通して絵本という紙媒体の機能・意味および現代社会における可能性についても考え、子どもに限らず広く人間社会において絵本が果たす役割について考えられるようにすることを目的とする。	
	編集研究	子どもの本を出版物として作り上げる過程で、なくてはならない編集者の役割について、その存在意義から実際の編集作業、販売まで、本作りの流れを総合的に学んでいく。書籍が市場に出回るには、作者、画家、装丁家、印刷・製本会社、取次、書店員などが関わるが、中でも編集者の役割は大きい。子どもの本は児童文化財であると同時に、予算の制約を受ける商品でもあるため、編集者には知識・技術・販売センス等が要求される。授業ではこれらのことを総合的に扱い、編集という仕事の意味を考える。	
	出版演習Ⅰ	企画アイデアから出版に至るまで、雑誌がどのように作られていくのか、実践を通して学ぶ授業。年度末に児童文化学科から発行される『開花宣言』の編集者として、企画・取材・校正などの雑誌制作の過程を体験しつつ、『開花宣言』の完成を目指す。出版演習Ⅰでは、台割制作、企画書の書き方、執筆依頼、取材、撮影などを実際に行いながら編集作業のノウハウを身につける。授業は出版業界や雑誌制作に関心のある学生を対象として、少人数で展開する。	
	出版演習Ⅱ	「出版演習Ⅰ」で学んだことを踏まえて、企画アイデアから出版に至るまで、雑誌がどのように作られていくのか、実践を通して学び、児童文化学科から発行される『開花宣言』の発行を目指す。「出版演習Ⅱ」では、「出版演習Ⅰ」で学んだことをさらに発展させ、原稿整理、レイアウト、文字校正などを実践的に学び、入稿、雑誌発行にむけて作業を進める。一連の編集作業を通して、発行に至るまでの緻密な作業能力、編集スタッフとしての責任感、積極性も養う。	
	アニメーション制作Ⅰ	カメラを用いた「コマ撮りアニメーション」を制作する。絵を何枚も描くばらばらマンガ作りから始まり、切り紙を使った半立体アニメーション、粘土の人形を使った立体アニメーションと徐々に被写体を立体化させていくことで創作の幅を広げていくことを目的としている。また、国内外の様々なアートアニメーションを紹介し、ストーリーの構築に役立てていく。最終課題では自由な手法でオリジナルのストーリー、もしくは白百合女子大学や地域をPRするアニメーションを制作し、地域交流のためのイベントにも活用する。	
	アニメーション制作Ⅱ	「アニメーション制作Ⅰ」を踏まえ、キャラクター設定、プロット、ストーリーボード、絵コンテ作りと内容を固めてからアニメーションの制作に入っていく。BGMや効果音などもつけて編集まで行い、1本の完成されたアニメーション作りを目指す。アニメーションを一から段階を踏んで制作することによって1本の映像の演出を学び、また人や物、自然の動きを観察したり運動の法則、アニメーションならではの誇張や間といったものを認識したりすることで感性を高めることを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択B	児童文学・日本A	明治・大正の児童文学。日本の近代児童文学がどのように誕生し、発展してきたかを代表的な作品をとおして概観する。グリム童話やアンデルセン童話などの海外児童文学作品の受容に始まり、教育の普及や児童向け出版の発展と共に巖谷小波、小川未明、宮沢賢治などのさまざまな書き手が多様性に富んだ多くの児童文学作品を生み出した。近代児童文学の流れを理解すると共に、各時代の文化的・社会的背景がこれらの作品に与えた影響を読み取り、日本の児童文学の特質を考えることを目的とする。	
	児童文学・日本B	ジェンダーと日本児童文学。明治期から現代までの女子を対象として書かれた代表的な児童文学作品をとおして、ジェンダーという視点から日本の児童文学の歩みを概観する。明治期における「少女」という呼称の成立、女子教育の拡大と少女向け雑誌の出現、少女小説の流行といった現象を辿ると共に、これらの作品において女の子はどのように描かれたか、そしてまた読者は何を読み取ったのかを検討し、ジェンダーと児童文学の関係性を考えることを目的とする。	
	児童文学・日本C	日本児童文学研究。児童文学史の時代区分として、1960年代から現在にいたる「現代児童文学」をあつかう。その代表作・問題作について、時代背景や児童文学状況と関連させながら、その歴史的意味や普遍的価値を考察することを目的とする。テーマとして、現代児童文学の発期にあたる1960年代から、1970年代末の「タブーの崩壊」、その後には多様化する現在までの児童文学の歴史の変遷を検討する。	
	児童文学・日本D	日本児童文学研究。児童文学史の時代区分として、1960年代から現在にいたる「現代児童文学」をあつかう。その代表作・問題作について、時代背景や児童文学状況と関連させながら、その歴史的意味や普遍的価値を考察することを目的とする。テーマとして、「民話」「幼年童話」「メルヘンとファンタジー」「戦争児童文学」「ノンフィクション」など、ジャンルごとの特質や変化を把握する。	
	児童文学・ドイツA	ドイツのグリム兄弟が編集出版した昔話集である『グリム童話集』について理解することを目標とする。グリム童話の成立と構成、その語り手、グリム兄弟の再話と稿の変遷、といった基本事項を学んだうえで、「グリム童話における子ども」というテーマに沿って、個々の話を具体的に検討する。本来「子どものための教育の書」として編まれた『グリム童話集』の特徴と意義、また初版刊行から200年たっても色褪せない魅力を把握することをめざす。	
	児童文学・ドイツB	ドイツ語圏の児童文学について学ぶことを目標とする。古典作品の『くみ割り人形とねずみの王様』や『バンビ』や『ハイジ』、現代作品『はてしない物語』などは、各メディアを通じて有名であるが、原作はあまり知られていない。そうした作品の原作を知ること、また、子どもの心を描くことに優れたコルシュノフや、激動の社会を生き抜く人々の姿を力強く描くコルドンなど、多様な作家や作品について学ぶことによって、ドイツ語圏の児童文学とその背景にある文化、歴史を理解することをめざす。	
	児童文学・イギリスA	この授業ではイギリスの風土と関わりの深い児童文学作品を取り上げ、風土がそれぞれの作品においてどのような役割を果たしているかを学ぶ。毎回のテーマごとに作品を紹介し、映像も参照しながら、登場する自然の風景や建物などについておおよそのイメージをつかんでから、風土がいかんして描かれ、それによって何が表現されているかを受講者と一緒に考えてみたい。自然の風景だけでなく、そのような風景と一体化した炭鉱、屋敷、伝承や伝説、囲い込まれた自然としての庭園や公園、都会の風景についても触れる。	
	児童文学・イギリスB	イギリス児童文学作品に描かれた土地や文化などの背景に注目して作品分析を行うことで、作品鑑賞および研究の助けとなる知識を養うことを目的とする。『不思議の国のアリス』、『ピーター・パン』、『秘密の花園』、『ハリー・ポッター』など19世紀から20世紀の主要なイギリス児童文学を扱い、作品に描かれた多様なイギリスの文化・風土・自然・歴史・社会への理解を深め、学生自身の視野を広げ、異文化理解につなげる。	
	児童文学・フランスA	フランス児童文学史上の重要な作品を読み、フランス児童文学史の全体概要を理解する。その際、当時の児童文学を取り巻く環境を知り、どのような文脈で受容されていたのかを把握することで、フランスにおける「児童文学」という文化が、どのように醸成されてきたのかを理解する。フランスの児童文学が誕生した17世紀から現代に至るまでの、各時代を代表する作品を順に取り上げ、その内容、特色、新規性、当時の文化背景における受容などを概説していくが、児童文学だけでなく、その周辺にある絵本やバンド・デシネなども対象とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	児童文学・フランスB	フランス児童文学史の中から、年度ごとに異なる論点を基に作品を選び、フランス児童文学の側面をより焦点化して理解することを目的とする。それぞれの作品が論点をどのように描いているかを読み解くにあたり、フランス児童文学の知識を獲得するだけでなく、個別の作品の分析を通じ、児童文学研究の手法への理解を養うことを目指す。講義だけでなく、学生の文学研究の素養を養うため、授業内外の課題や、授業内での発表、討議などにより、学生に分析の実践を多く与える。	
	児童文学・アメリカA	アメリカ児童文学の鑑賞を通して、作品に描かれた子ども像、作家、表現方法について学ぶことを目的とする。また、背景となるアメリカの社会、文化、歴史、教育、風土についても触れ、作品の理解を深める一助とする。この授業では、『トム・ソーヤの冒険』『若草物語』『オズの魔法使い』などアメリカ児童文学初期の作品から20世紀半ばまでの作品を扱い、作品理解とあわせて当時の教育、宗教、想像力のありかたについても考察する。	
	児童文学・アメリカB	アメリカ児童文学の鑑賞を通して、作品に描かれた子ども像、作家、表現方法について学ぶことを目的とする。また、背景となるアメリカの社会、文化、歴史、教育、風土についても触れ、作品の理解を深める一助とする。この授業では、世間に衝撃を与えた『ライ麦畑でつかまえて』以来、アメリカ社会の変化に伴って起こった「タブーの崩壊」後に生まれた現代作品を扱い、作品理解とあわせて教育、宗教、想像力のありかたについても考察する。	
	児童文学・カナダ	カナダ英語圏の児童文学を通してカナダの社会、国民性、子ども観について理解を深める。英米両国からの影響を受けつつ発達してきたカナダ児童文学ではあるが、北国の地域性、移民・先住民とともに国家を形成する多文化主義、自然との共存意識など、カナダの独自性が色濃く表れている。古典の『赤毛のアン』をはじめ、『シートン動物記』などの動物物語から現代作品までを俯瞰することでカナダ児童文学に親しみ、さらには日本とカナダの関係にも目を向ける機会にしていく。	
	児童文学・北欧	この授業では北欧諸国のうちフィンランドの児童文学を中心に学び、これ以外の北欧の児童文学についても適宜ふれていく。フィンランドの児童文学「ムーミン」シリーズは日本でも良く知られているが、ムーミンのような不思議な生き物が誕生する背景には何があるのだろうか。授業では絵本から児童文学作品まで幅広く取り上げ、作品や作家についての学びを通して北欧の歴史、文化、社会、風土にも目を向ける。	
	児童文学・韓国	韓国の児童文学や絵本について学ぶことを目標とするが、それだけでなく、広く韓国の歴史文化と言葉を学ぶこともねらいである。現代韓国の代表的な作家や絵本作家とその作品、韓国文化と絵本、近代の韓国と児童文化、韓国児童文学概観、日中韓平和絵本などについて学びつつ、映画・音楽・写真・アニメ・ドキュメンタリーなどを用いることにより、韓国の歴史文化とそのエッセンスで成り立っている子ども文化を実感することをめざす。	
	児童文学・YA文学	若者を読者対象として書かれた文学を通して、心身両面で不安定な時期にある思春期の若者や彼らが直面する問題が、どのように作品に描かれているかを、実際の作品を読み考察することを目的とする。扱うのは主に英米の作品であるが、若者が成長過程で直面する大人社会への反発、居場所のない孤独感、アイデンティティの模索などは日本の若者にも共通する問題だろう。社会背景、思春期の特性、文学作品としての表現の多様性などを合わせて考察していく。	
	おもちゃ論A	おもちゃを媒介として生じる遊びの意味に気づかせ、特に子どもとおもちゃとの関係に焦点を当てることで子どもの遊びの特性を把握する。また、おもちゃの変遷から、子どもと大人の関係および社会との関係をとらえ、おもちゃの普遍性と可変性を掘り下げて理解することを目的とする。伝統的玩具から流行玩具まで具体的に幅広く扱い、教育性と娯楽性、性差、市場の問題等も視野に入れて、子どもとおもちゃと社会との関係を考えることができるようにする。	
	おもちゃ論B	現代社会における「おもちゃ」に焦点を当て、おもちゃから社会や文化をとらえなおすと同時に、おもちゃの可能性と問題にも目を向け、現代の「玩具文化」に対して見解をもてるようにする。手作りおもちゃ・電子玩具やゲーム・教育的玩具・グッドトイ・コミュニケーショントイ・シルバートイ等幅広く扱う。また、おもちゃ美術館・おもちゃ病院・おもちゃ図書館等の活動やおもちゃショー・おもちゃまつり・おもちゃ制作現場等の紹介を行い、授業外での体験も重視しながら、おもちゃが創り出す関係や場について考えられるようにする。	
	キャラクター論	現代社会はさまざまなキャラクターに溢れている。私たちの社会に浸透した「キャラクター」とは何なのか？ その変遷や魅力をとらえることにより、キャラクターと親和性の高い子ども文化や日本文化の特性を把握することを目的とする。また、「キャラ化」と称される現象を読み解くことによりマンガ・アニメ・ネット等のメディアとの関係や身体とのかかわり、社会のフラット化についても考えられるようにする。これらのことを、身近で具体的なキャラクターを通して受講生みずからが発見していくかたちで講義を進める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	マンガ論	マンガをとらえる視点として、登場人物の「成長」に着目する。マンガ史上重要な作品を取り上げながら、日本の戦後マンガの流れにおいて「成長」がどう描かれてきたかを把握する。日本の物語マンガの歴史は、登場するキャラクターの肉体的・精神的成長を、よりリアルに描こうとして発展してきた側面を持っている。いっぽうで、あえて成長しないキャラクターを描くマンガもあり、特有の位置を占める。受講生には、「成長」をキーとすることで日本のマンガの流れを概観すると同時に、マンガというメディアの特性を把握させる。	
	アニメ論	世界的にも高い評価を受け、特別な意味を持つに至った日本のアニメーション作品「アニメ」について、黎明期から現代に至るまでの歴史を学ぶ。併せて海外のアニメーション史にみられる特質も検討しながら、日本のアニメーション作品の独自性や固有性を把握することを目的とする。また、個人作家たちの作品を通して、アニメーション表現の多様性について理解を深めていくことも目指している。授業内で部分的に視聴を行うが、課外でのアニメーションの視聴もすすめ、見て感じて考えることを推し進める。	
	絵本論	絵本はヴィジュアルイメージと文章テキストのコラボレーションにより、豊かな世界が構築される独特のアートである。授業では絵本の絵を批評的に読み取る力を養うことを目的とする。批評眼を養うことで、各々の絵本が描かれた時代の軋みを読み取り、また作品の面白さや深みが倍増する。授業では英語圏の絵本を中心に、古典から最新の絵本まで扱うが、日本の絵本との比較も行うことで、比較文化論をも試みたいと考えている。	
	創作演習AI	言葉の持つ魅力や不思議さを味わい、言葉への関心と感受性を高めることによって、絵本などの文章を書くための基礎力を養うことを目標とする。まず、言葉および表現全般についておさえたうえで、言葉遊び（回文、アナグラム）入門と応用、翻訳の言葉について、詩を読む、詩を書く、エッセイ入門、エッセイ応用、といった内容に沿って、毎回、時間内に短い作品を書き上げることを通して、自分に合った表現手段を見つけることをめざす。	
	創作演習AII	「創作演習A I」の内容を踏まえ、さらに文章力を高めることを目標とする。言葉遊び（早口言葉、折り句）入門と応用、翻訳の言葉について、詩を読む、詩を書く、作詞入門、作詞応用、言葉を極める、といった内容に沿って、毎回、時間内に短い作品を書き上げることを通して、自分に合った表現手段を見つけ、無駄な部分を削ぎ落したリズムカルな文章を書けるようになることをめざす。	
	創作演習BI	創作するということは、物事を深くとらえ、自分自身を掘り下げて見つめることにほかならない。その「目」を育てていくことを主眼とする授業である。「ものを書く目」で見直すことにより、ありふれていると思っていた日常を捉え直し、自己の思いがけない一面や評価できる点を発見することを試みる。児童文学・小説・映画・演劇・コント・漫画等の具体的な作品を例に、人称と文体、書き出し、舞台・時代背景、登場人物、構成、展開法等を中心に解説しながら創作を進めていく。	
	創作演習BII	「創作演習B I」を踏まえて行われる、さらに創作の完成度をめざす演習である。「I」と同様、児童文学・小説・映画・演劇・コント・漫画等の名作から選び出した例を用いて、小道具の活用、比喩の使い方、テーマの描き方、パロディ、擬人法等について解説する。さらに日記・手紙等の形式の作品や、絵画・写真・音楽等と連動した作品等、多様な創作形式・方法を知り、自分の創作意識と方法を磨くことで、個々の作品の完成を目指す。と同時に、互いに作品を評価することを含めて、さらに作品を見る目を養っていく。	
	翻訳演習I	翻訳は、外国語の読解力同様、日本語力も大切だと言われるが、それは原文をできるかぎり正確に読み取り、読み取った内容をできるかぎり正確に伝える力、ということだろう。授業では、英文の「字面（意味）」だけ追わずに、その「意図」するところを拾い、さらにそれを「相手に伝わるように」伝えるコミュニケーション力を養うため、絵本、児童書などを教材に使い、翻訳の基礎を学ぶ。その際、受講者どうしの訳文の比較、教員による添削指導を交え、翻訳の面白さを味わいつつ翻訳力をつけるよう指導していく。	
	翻訳演習II	原文を正確に読み取り、読み取った内容を正確に伝えるためには、英語力も当然ながら、「日本語力」も非常に重要になる。そのためには、物語の世界や登場人物像を理解し、作品に流れる雰囲気を感じとること、さらには物語の舞台となった国や地域の歴史のサーチなどが必要になる場合がある。こうして理解した内容を正確に読み手に伝えるためには、対象となる読者の年齢や生きている時代、ひいては日本文化への理解も重要である。授業では具体的な作業を通し、以上の手順を学んでいく。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	伝承文学	「児童文学入門B」における内容を踏まえ、さらに昔話についての理解を深めることを目標とする。口伝え昔話の文法をおさえたうえで、昔話の比較について学ぶ。世界の様々な地域に類似の構成やテーマをもつ昔話が存在するが、同じ話型に属する昔話、人間が異界を訪問したことを語る昔話、といったテーマに沿って、主に日本とヨーロッパの昔話を具体的に比較し、昔話の比較研究の方法とその意味について理解することをめざす。	
	SFファンタジーI	SFファンタジーの源流と考えられる童話、妖精譚、古典的作品等を取り上げ、これらの作品がどのような時代の社会・文化において独特の想像力を駆り立てていったか考察する。ペロー童話、グリム童話、アラビアン・ナイト、アンデルセン、ジョージ・マクドナルド、ルイス・キャロル等の作品を扱うほか、影響関係にある映画や絵画等の視覚芸術分野も取り入れ、広く想像力の形象化としてSFファンタジーの流れを把握することを目的とする。	
	SFファンタジーII	「SFファンタジーI」に続き、現代にいたるまでのSFファンタジー作品を取り上げ、特に近現代社会におけるSFとファンタジーの意味作用を解き明かす。『ゲド戦記』『ハリー・ポッター』等人気を博した児童文学作品をはじめ、近接領域にあるホラーやミステリー、純文学等他の分野も扱い、社会や文化が求める想像力の形を広範囲に探る。「I」と同様、視覚芸術分野にも目を向けることにより、作品の背景にある社会や文化が希求するものについて考えを深めることを目指す。	
	ネオ・ファンタジーI	この講義では1980年代後半からの、「ネオ・ファンタジー」と呼ばれることもある新しい世界観を持つ作品群をとりあげてゆく。代表とされるのは「ハリー・ポッター」シリーズであるが、ほぼ同時期に『黄金の羅針盤』シリーズ、「ダレン・シャン」シリーズ、日本の『十二国記』シリーズなど、大胆な並行宇宙的世界観を持つ作品が出現している。それらの作品における「リアル」とはいったい何なのか。従来とは違う「私のありかた」観を持つ主人公たちと、それらに呼応する読者の存在を考える。	
	ネオ・ファンタジーII	「I」に引き続いて、「ネオ」と呼ばれる作品群が、古典的な児童文学のテーマや神話、昔話にルーツを持ち、また「スーパーマン」などの大衆メディアの英雄物語の発展形、総括形であることを、時系列的に見てゆく。ゲームの存在も見逃さずこのできない物語のデータベースであり、そのノベライズについても考える。「ヒーローもの」の系譜、「吸血鬼」の系譜、コンピュータやヴァーチャル・リアリティそのものをテーマとした作品、さらに工学者の探求を視野にいれたロボット論などを取り上げる。	
	児童文化・紙芝居	児童文化財として紙芝居をとりあげ、その特性を把握するとともに、これからの可能性を展望することを目的とする。街頭娯楽に始まり、宗教伝道、保育教材、学校教具、さらに大衆宣伝など、さまざまに活用されてきた中で、脚本と絵画からなる作品と読み手(演者)によるパフォーマンスとによってはじめて成立する独自のメディアとして展開してきたことの意味について、作品の鑑賞、紙芝居論の検討さらに受講生自身による実演などを通して理解を深めていく。	
	児童文化・民俗と子ども	民俗学や文化人類学の立場から子どもとは何かを考えることを目標とする。伝統的な日本社会での子どもの扱われ方や、子どものもつ意味について検討し、子どもの成長に伴う儀礼やしつけのあり方を見る。合わせて、子どもをとりまく存在としての家族や親子関係について検討する。さらに他文化の子どもをみることにより子どもの多様性についても考える。子どもをもつことの意味、女性と子どもの問題など現代社会の問題も含めて検討する。	
	児童文化・子ども社会学	ヨーロッパおよび日本の歴史と社会の中で、子どもがどのように理解されてきたのか、幅広い文脈から考察することを目的とする。子ども観、子育て、子ども文化の観点から子ども研究の世界的動向をつかむことで、問題となるトピックを抽出し、社会史、文化史、教育史的な観点からの解釈を試みる。これにより、従来の学説や研究視点からは見えなかった子ども史の社会史的基盤の再検討を行い、現代社会における子どもの発達と教育をめぐる諸問題を考える手立てとする。	
	児童文化・子ども論	子どもは社会や文化のなかで、どのような存在として認識されてきたのか、すなわち「概念としての子ども」を探ることにより、子ども観の多様性や可変性を知り、子どもを「再発見」していく。毎回、子どもをめぐる時事的なトピックスを取り上げ、子どもの同時代(史)を子どものイメージやシンボル、子どもをめぐる言語、歴史、人口問題と家族、法と権利、情報化、科学技術、消費文化、国際化、市場経済の観点から分析し、「現代における子どもの育ち」、「子ども期と大人期の境界」、「子どもが大人になることの意味」を考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	絵本演習Ⅰ	絵具、色鉛筆などで「描かれた絵本」ではなく、刺繍、パッチワーク、編み物など手芸で「作られた絵本」について研究、創作をする。前半は国内外の様々な絵本を取り上げ、手芸ならではの特徴や各国の文化との関係性について考える。後半は好きな手法、素材を用いてミニ絵本の創作を行う。縫ったり編んだり、切ったり貼ったりすることで手作りの大切さを学び、手作りのぬくもりが伝わる絵本作りを目指すことで表現能力を高めることを目的としている。	
	絵本演習Ⅱ	「絵本演習Ⅰ」履修者のみ受講できる。「Ⅰ」で学んだ手芸絵本の中から好きな手法を選び、1冊の絵本を創り上げていく。ストーリーを組み立てて下描きをし、布、フェルト、毛糸などの素材をどこにどう組み合わせるか、文字はどこに入れていくか。全体のバランスを考えながら手芸の絵本を構築していく。素材をそのまま絵本にしても良いし、イラストを撮影してプリントアウトして製本しても良い。創作力の向上とともに想像力、表現能力を高めることを目的としている。	
	絵本制作Ⅰ	絵本を含むさまざまな創作物がデータ化され配信される現代の状況にあわせて、授業ではコンピュータ (iMac・ペンタブレット・画像編集ソフト) を実際に使用して、絵本制作を体験する。日本では、ほとんどの印刷現場でMacのプラットフォームを採用しているため、実際の印刷データに対応した絵本のカバーデザイン・画像データ制作等々をシミュレーションしつつ、制作現場のノウハウの習得を目指す。	
	絵本制作Ⅱ	「絵本制作Ⅰ」で学んだことを踏まえ、さらにレベルアップした絵本制作を行う。絵本のキャラクター設定、ストーリー構成、ストーリーの修正を行い、続いて、ラフスケッチ制作、線の描画、面の描画、探知の描画などの技術を習得・使いこなすことで、絵本の見開きページの仕上げをしていく。この際に、Adobe Photoshopの操作についても習熟度を確認しつつ進める。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要			
(人間総合学部 発達心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
宗 教 学 科 目	キリスト教学Ⅰ	本学に入学した皆さんが、大学生活を意義あるものにし人生を深めていくために、私たちの生きる基盤がどこにあるのかをキリスト教を通じて学びます。旧約・新約聖書の主要な箇所を中心に関連するさまざまな媒体（映画・文学・音楽・絵画）を用いながら、知性と感性の両面から私たちが本当の意味で生かし自由にする真理とは何かを考え、いのちの源となる存在を知ることが目的です。また、新しい生活にスムーズに溶け込めるよう、授業の初めに毎回コミュニオン時間を設けて、開かれた自己理解と他者理解を目指します。	
	キリスト教学Ⅱ	新約聖書のマルコ福音書を読みながら、イエスが当時の人々に語られたこと、行われたことを通して、イエスがどんな人に心を向け、何を大切にされたのかを学んでいきたい。そして、それが私にどのような意味があるのかを考えていきたい。イエスとそのメッセージが学生のこれからの生き方に力を与え、支えとなるように、単に知的レベルにとどまらず、心で味わっていけるように工夫していきたい。イエスが私たち人間に無関心な方ではなく、それどころか、イエスが私に、私の人生にあきらめない方、私の生命を支えている方、私の心に響き合える方であることを味わうことができたなら、前に進む力が生まれるのではないだろうか。また、イエスが十字架を引き受けていかれる姿の中に、私たちの罪や悪を受けていかれるイエスの受け身の生き方に、むしろ強く積極的な愛の姿があることに気づくのではないだろうか。イエスとそのメッセージが希望をもたらすものとなるように配慮していきたい。	
	宗教学ⅠB	家庭は人類社会の基盤であり人間の基本的ニーズに最も深い関わりを持っています。「人類の将来は家庭を通して過ぎこしていく」（ヨハネ・パウロ二世）。その家庭が多様化と相対化の流れの中で方向を見失い弱体化し、あなたも波間に漂う小さな船のように、今日危機に曝されています。結婚、家族、そこで育まれるいのち、子育て、仕事、高齢化社会…、それら一つ一つが「課題」と化しました。家族という小さな共同体において、親子、夫婦、高齢者がどのように相互に親密で自由な関わりを育てることが可能なのでしょうか。その基盤である自己をどう受容することから始まるのでしょうか。この一年間、これから社会に巣立とうとしている皆さんの近い将来の問題として人生の様々な局面に現れる家族の課題を正面から取り上げながら、愛といのちの絆である家庭、その光と影を一緒に考察する機会としていただきたいと思います。	
	宗教学ⅠC	キリスト教とユダヤ教の聖典であり、また、世界の古典文学としても名高い旧約聖書の歴史物語を読み、そこに登場する男と女の人物像の読み取りを行います。その作業を通して、自分自身の人間理解を深めることが授業の目標です。旧約聖書は2000年以上も前にまとめられた書物ですが、そこに描かれる家族、国家、社会の問題は、その後の世界の歴史に繰り返し現れ、また現在私たちが直面することもあるものです。物語の考察を通して、その克服の道を探ります。	
	宗教学ⅠD	キリスト教は2000年を超える歴史の中で、哲学や思想、文学、心理学や精神医学など多様な分野に大きな影響を及ぼしてきました。その影響関係は、時に緊張を孕んだものでありましたが、いずれの分野においても相互に人間理解・存在理解を深めてきたと言えます。この授業では、キリスト教ないし宗教との対話を重ねた近世から現代にいたる哲学者・思想家について、信仰と理性の関係、神と人間との関係性を主題にして、時に時代を遡るかたちで宗教哲学の観点から学びます。合わせて背景となる時代状況ならびに同時代に与えた文化的影響にも目を配り、近現代の基本的な思想史・精神史の理解を深めることを目指します。	
宗教学ⅠE	現代社会に生きる私たちにとって、世界の様々な問題を理解することはとても重要なこととなっています。近年の世界情勢や社会問題を考えてみても、実は宗教的背景を理解しないと出来事の意味がわからない場合がたくさんあり、基礎的な諸宗教や宗教文化に関する基礎教養や理解を持つことが必要となってきています。この授業ではそのような問題意識に立ち、具体的な映像や資料を用いながら学んでいく、「現代社会を生きるための宗教学」、「新聞やテレビのニュースの理解を助けるための宗教学」を目指します。また、世界宗教としてのキリスト教が歴史の中で果たしてきた役割やその現代的意味などについて宗教学の立場から考えていきますので、「キリスト教はちょっと苦手」、「少し離れた立場からキリスト教を見てみたい」という学生にとっても助けになるように進めていきたいと思えます。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	宗教学 I F	「キリスト教は苦手だけれど、イエスという人には何となく惹かれる」という言葉をしばしば耳にします。キリスト教や聖書に関して、もう一度、全体としてその知識を整理し直してみたい、他の宗教のことも知った上でキリスト教を見つめ直してみたいなど、「社会に出る前に大学生としてこれだけは知っておきたい教養としてのキリスト教」が、この授業の一つのコンセプトです。同時に「宗教文化」に関する教養として、巡礼や文化遺産等を題材にキリスト教以外の諸宗教についても扱います。海外の美術館や教会・モスクなどの宗教施設を訪ねた際に、その中に隠されている意味を理解する為の基礎知識や、その背景にある人間の宗教性に気づく為の教養を、具体的な映像や画像を用いながら身につけていきます。	
	宗教学 I G	この講義では、近代日本の精神史におけるキリスト教の諸相を多角的に検討していきます。明治期に再宣教されたキリスト教が近代日本の形成期にどのように受容され、その後、日本の社会・思想・文化にいかなる影響をもたらしたかを主要なキリスト者、哲学者を軸として学びます。明治から昭和にかけての日本のキリスト教史を知るとともに、キリスト教を通して近代日本の精神史を理解することを目指します。授業内容に関連して、トピックとなるテーマを選んで任意で発表してもらうことがあります。	
	宗教学 I H	すべての人は幸福を求めています。あらゆる行為の目的をさかのぼっていくと、そこには「幸福」があるにちがいません。しかし、ほんとうの幸福はどこにあるのでしょうか。イエス・キリストの生涯と教えが記されている新約聖書の「福音書」は、まさに人間の「福」（さいわい）への「告知」（音）です。果たして、その福音は、どのような「幸せ」を語っているのでしょうか。本講義では、そのイエスの福音の核心にあるものをじっくり味わいながら、幸せな人となり、また他の人を幸せにできる道筋を考えてみます。	
	宗教学 I I	『源氏物語』は世界に類を見ないような、女流作家による大恋愛小説です。そこには人間の愛の歓びと悲しみ、愛執と罪、病と死が、物語の時間の中に細やかに描かれています。この講義では、登場人物、とりわけ女性たちの生き死にのありようと魂の救いの問題に注目します。これによって学生諸君は日本における「宗教と芸術・文化」の理解に進むことが期待できます。なお、全体は膨大なため、本講では、本編終わりの「幻」までを扱います。なお、本講義では、必要に応じて、源氏物語とキリスト教・西洋文化との対比をも扱います。	
	宗教学 I J	キリスト教美術の誕生から盛期中世に至るまでの歴史を学びます。この時代は、キリスト教を中心としたヨーロッパ文化が形成されていく時代で、ヨーロッパ文化の原点といえます。講義では、神の家である教会の建築と装飾、そして福音を記した書物として豪華な装飾が施された聖書写本の挿絵と装飾を中心に取り上げます。作品のもつ宗教性を味わい、芸術作品にこめられたキリスト教のメッセージについて考えます。	
	宗教学 I K	副題：歴史・思想・文化・社会活動からみたキリスト教 約2000年の歴史を持つキリスト教は、欧米の文化や思想などに大きな影響を与えてきました。現代社会においても、平和問題や国際協力、教育、福祉などの各分野の働きを通じてキリストの教えと精神を实践する動きも多く見ることができます。この講座では、キリスト教の誕生以前の歴史から始まり、現代のキリスト教までを見ながら、キリスト教の宗教性や霊性、キリスト教が歴史の中で文化や芸術、思想などに与えた影響やキリスト教の諸活動や現代社会とのかかわりなどについて検証してゆきます。	
	宗教学 I L	キリスト教の中でもカトリック教会は、約2000年の歴史を持ち、教派の中でも最大の教会です。カトリック教会が、歴史の中で欧米の文化や思想に与えた影響は大きく、現代社会においても、平和問題や国際協力、教育、福祉などの分野などの働きを通じてキリスト教精神を实践する動きも見ることができます。この講座では、カトリック教会の誕生以前のイエス・キリストの宣教から、現代の教会までを見ながら、カトリック教会の教えや霊性、宗教活動、文化や芸術、思想などに与えた影響やカトリック教会の社会的な活動や現代社会における働きについて検証してゆきます。	
	宗教学 I N	「心のケア」や「スピリチュアルケア」は現代の人にとって特に必要なものだ、と言われていて。この用語は精神的に痛む人に関して使われている。しかし、V・E・フラクルがかつて指摘したように、私たちはみなある意味で「Homo Patiens」（痛んでいる人間）である。したがって、このテーマをもっと広い意味(一般の私たちを含めて)で考えてみたい。そのために講義ばかりではなく、クレヨンや紙粘土を使用して、自分の心(自分の内面)の声に耳を傾けるためのエクササイズを行ってみたい。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	宗教学 I P	この授業は、日本の文化の中で読み継がれてきた古代から江戸時代までの文学・詩歌・宗教思想などを読み直すことを通して、現在に生きる私たちの生と死をより深く理解しようとするものです。国際化と言われる時代だからこそ、私たちに自分たちの文化を養ってきた古人の言葉や思想に耳を傾け、そこに秘められた意味と可能性を学習することが不可欠です。この授業では膨大な日本人の文学・哲学・思想の中から、特に、悲しみの思想、死生観と宗教性という観点から下記の作品・思想の中心的な内容を学びます。これによって学生は「日本人の宗教と芸術・文化」のかかわりについて理解を深めることになるでしょう。	
	宗教学 I Q	キリスト教は「神の言葉に聴く」宗教であり、「聴く」芸術である音楽がとりわけ重視されてきました。心をもって聴くことで神と人間とが出会い、神への祈りや賛美の言葉が「歌う」という形で表現されました。西洋音楽はキリスト教の典礼と結びついて発展し、聖書にインスピレーションを汲みながら沢山の宗教音楽が生まれました。この授業では、J.S.バッハまでのさまざまなキリスト教音楽を歴史的な並びに主題的に学びます。同時に、曲だけでなく歌詞にも注意を払いながら、聖書の知識を深めていきます。音楽の背後にある神学的背景を知ることで、キリスト教理解を深めることを目的とします。また後半部では、キリスト教、特にカトリシズムの霊性についても概観する予定です。	
	宗教学 I R	『源氏物語』は世界に類を見ないような、女流作家による大恋愛小説です。そこには人間の愛の歓びと悲しみ、愛執と罪、病と死が、物語の時間の中に細やかに描かれています。この講義では、登場人物、とりわけ女性たちの生き死にのありようと魂の救いの問題に注目します。これによって学生諸君は日本における「宗教と芸術・文化」の理解に進むことが期待できます。なお、全体は膨大なため、本講では、本編終わりの「幻」までを扱います。なお、本講義では、必要に応じて、源氏物語とキリスト教・西洋文化との対比をも扱います。講義であつかわれる物語のテキストは原文と現代語訳を用いるので古語文法の理解は前提にしません。	
	宗教学 I S	この授業では前半は多様な音楽家たちの魂とおもに感性を通しての出会いを経験し、後半ではおもに知性を通してあなたにとって異性である男性と、セクシャルマイノリティーについて学びます。こうした多くの他者との交わりのプロセスを通して神が一人一人をユニークなものとして創造していることをあなたの感性と知性で確かめ、違った他者との共生時代を生きるセンスを養うことを目指します。	
	宗教学 I T (キリスト教的教育実践法)	この授業は教育という切り口からキリスト教を理解し、将来大人として教師としてまた母親として子どもに接する時の実践力、識別力を養成することを目指すものである。前期には人間の成長を段階的に考察しそこに込められたキリスト教的意味を問う。後期には日本の学校教育の歴史と現状を見わたし、みなさんが受けた教育を意識化する作業を行う。今までの人生の多くの時間を費やした教育というものを見直すことによって自分の中に蓄えられている力を再確認し、神の似姿として創造された人生を大切に生きていく準備をしようと思う。	
	宗教学 I X	宗教改革という言葉は、高校で世界史や倫理の授業を受けた方はどこかで聞いたことがあるでしょう。ルターやカルヴァンといった名前をご存じの方もいるかもしれませんが。西洋のキリスト教は宗教改革をきっかけにカトリックとプロテスタントに分かれました。この出来事は一見私たちと関係ないように思えますが、実は、キリスト教と直接関係ない人にも関係があるのです。それは、現代日本社会全体が西洋から大きな影響を受けており、その西洋のものの考え方が宗教改革と深いつながりを持っているからです。この授業では、宗教改革にかかわるものの考え方を、中立な立場からできるだけ分かりやすく解説します。	
	宗教学 I Y	私たち白百合女子大学はカトリック系大学ですが、西洋のキリスト教は大きく分けてカトリックとプロテスタントの二つに分かれています。どちらもキリスト教として主な考え方にそれほど違いがあるわけではありません。しかし細かいところ、しかも重要なところでいくつか異なる考え方を持っています。そこに注目して見てみると、西洋キリスト教の特徴がよく見えてきます。この授業では、カトリックとプロテスタントで考え方が異なるいくつかのテーマを取り上げ、それを中立な立場からできるだけ分かりやすく解説して、西洋キリスト教の特徴を明らかにしたいと思います。	
	宗教学 I Z	現代社会において生命科学の進歩とともに、人間の生存にかかわるたくさんの方が生じています。みなさんも普段の生活のなかで、テレビのニュースや新聞を注意して見てみると、いのちにかかわる問題に出会わない日はないと思います。この授業はカトリックの立場から人間のいのちの問題をみなさんと一緒に考えていきたいと思っています。今年の本講義では、特に人間のいのちのはじまる場面(生)と終える場面(死)におけるさまざまな問題について、具体的な事例をもとに考えます。この授業をとおして、最終的にレポートをまとめるときまでには、人間のいのちの意味を一人ひとりが自分の問題として深く考えられるようになることを目指しています。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	宗教学ⅡB	<p>家庭は人類社会の基盤であり人間の基本的ニーズに最も深い関わりを持っています。「人類の将来は家庭を通して過ぎこしていく」(ヨハネ・パウロ二世)。その家庭が多様化と相対化の流れの中で方向を見失い弱体化し、あたかも波間に漂う小さな船のように、今日危機に曝されています。結婚、家族、そこで育まれるいのち、子育て、仕事、高齢化社会…、それら一つ一つが「課題」と化しました。家族という小さな共同体において、親子、夫婦、高齢者がどのように相互に親密で自由な関わりを育てることが可能なのでしょうか。その基盤である自己をどう受容することから始まるのでしょうか。この一年間、これから社会に巣立とうとしている皆さんの近い将来の問題として人生の様々な局面に現れる家族の課題を正面から取り上げながら、愛といのちの絆である家庭、その光と影をご一緒に考察する機会としていただきたいと思います。「宗教学ⅠB」と合同授業。「宗教学ⅠB」を既に履修した者は履修することができない。</p>	
	宗教学ⅡC	<p>キリスト教とユダヤ教の聖典であり、また、世界の古典文学としても名高い旧約聖書の歴史物語を読み、そこに登場する男と女の人物像の読み取りを行います。その作業を通して、自分自身の人間理解を深めることが授業の目標です。旧約聖書は2000年以上も前にまとめられた書物ですが、そこに描かれる家族、国家、社会の問題は、その後の世界の歴史に繰り返し現れ、また現在私たちが直面することもあるものです。物語の考察を通して、その克服の道を探ります。「宗教学ⅠC」と合同授業。「宗教学ⅠC」を既に履修した者は履修することができない。</p>	
	宗教学ⅡD	<p>キリスト教は2000年を超える歴史の中で、哲学や思想、文学、心理学や精神医学など多様な分野に大きな影響を及ぼしてきました。その影響関係は、時に緊張を孕んだものでありましたが、いずれの分野においても相互に人間理解・存在理解を深めてきたと言えます。この授業では、キリスト教ないし宗教との対話を重ねた近世から現代にいたる哲学者・思想家について、信仰と理性の関係、神と人間との関係性を主題にして、時に時代を遡るかたちで宗教哲学の観点から学びます。合わせて背景となる時代状況ならびに同時代に与えた文化的影響にも目を配り、近現代の基本的な思想史・精神史の理解を深めることを目指します。「宗教学ⅠD」と合同授業。「宗教学ⅠD」を既に履修した者は履修することができない。</p>	
	宗教学ⅡE	<p>現代社会に生きる私たちにとって、世界の様々な問題を理解することはとても重要なこととなっています。近年の世界情勢や社会問題を考えてみても、実は宗教的背景を理解していないと出来事の意味がわからない場合がたくさんあり、基礎的な諸宗教や宗教文化に関する基礎教養や理解を持つことが必要となってきています。この授業ではそのような問題意識に立ち、具体的な映像や資料を用いながら学んでいく、「現代社会を生きるための宗教学」、「新聞やテレビのニュースの理解を助けるための宗教学」を目指します。また、世界宗教としてのキリスト教が歴史の中で果たしてきた役割やその現代的意味などについて宗教学の立場から考えていきますので、「キリスト教はちょっと苦手」、「少し離れた立場からキリスト教を見てみたい」という学生にとっても助けになるように進めていきたいと思います。「宗教学ⅠE」と合同授業。「宗教学ⅠE」を既に履修した者は履修することができない。</p>	
	宗教学ⅡF	<p>「キリスト教は苦手だけれど、イエスという人には何となく惹かれる」という言葉をしばしば耳にします。キリスト教や聖書に関して、もう一度、全体としてその知識を整理し直してみたい、他の宗教のことも知った上でキリスト教を見つめ直してみたいなど、「社会に出る前に大学生としてこれだけは知っておきたい教養としてのキリスト教」が、この授業の一つのコンセプトです。同時に「宗教文化」に関する教養として、巡礼や文化遺産等を題材にキリスト教以外の諸宗教についても扱います。海外の美術館や教会・モスクなどの宗教施設を訪ねた際に、その中に隠されている意味を理解する為の基礎知識や、その背景にある人間の宗教性に気づく為の教養を、具体的な映像や画像を用いながら身につけていきます。「宗教学ⅠF」と合同授業。「宗教学ⅠF」を既に履修した者は履修することができない。</p>	
	宗教学ⅡG	<p>この講義では、近代日本の精神史におけるキリスト教の諸相を多角的に検討していきます。明治期に再宣教されたキリスト教が近代日本の形成期にどのように受容され、その後、日本の社会・思想・文化にいかなる影響をもたらしたかを主要なキリスト者、哲学者を軸として学びます。明治から昭和にかけての日本のキリスト教史を知るとともに、キリスト教を通して近代日本の精神史を理解することを目指します。授業内容に関連して、トピックとなるテーマを選んで任意で発表してもらうことがあります。「宗教学ⅠG」と合同授業。「宗教学ⅠG」を既に履修した者は履修することができない。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	宗教学ⅡH	すべての人は幸福を求めています。あらゆる行為の目的をさかのぼっていくと、そこには「幸福」があるにちがいません。しかし、ほんとうの幸福はどこにあるのでしょうか。イエス・キリストの生涯と教えが記されている新約聖書の「福音書」は、まさに人間の「福」（さいわい）への「告知」（音）です。果たして、その福音は、どのような「幸せ」を語っているのでしょうか。本講義では、そのイエスの福音の核心にあるものをじっくり味わいながら、幸せな人となり、また他の人を幸せにできる道筋を考えてみます。「宗教学ⅠH」と合同授業。「宗教学ⅠH」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡI	『源氏物語』は世界に類を見ないような、女流作家による大恋愛小説です。そこには人間の愛の喜びと悲しみ、愛執と罪、病と死が、物語の時間の中に細やかに描かれています。この講義では、登場人物、とりわけ女性たちの生き死にのありようと魂の救いの問題に注目します。これによって学生諸君は日本における「宗教と芸術・文化」の理解に進むことが期待できます。なお、全体は膨大なため、本講では、本編終わりの「幻」までを扱います。なお、本講義では、必要に応じて、源氏物語とキリスト教・西洋文化との対比をも扱います。「宗教学ⅠI」と合同授業。「宗教学ⅠI」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡJ	キリスト教美術の誕生から盛期中世に至るまでの歴史を学びます。この時代は、キリスト教を中心としたヨーロッパ文化が形成されていく時代で、ヨーロッパ文化の原点といえます。講義では、神の家である教会の建築と装飾、そして福音を記した書物として豪華な装飾が施された聖書写本の挿絵と装飾を中心に取り上げます。作品のもつ宗教性を味わい、芸術作品にこめられたキリスト教のメッセージについて考えます。「宗教学ⅠJ」と合同授業。「宗教学ⅠJ」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡK	副題：歴史・思想・文化・社会活動からみたキリスト教 約2000年の歴史を持つキリスト教は、欧米の文化や思想などに大きな影響を与えてきました。現代社会においても、平和問題や国際協力、教育、福祉などの各分野の働きを通じてキリストの教えと精神を实践する動きも多く見ることができます。この講座では、キリスト教の誕生以前の歴史から始まり、現代のキリスト教までを見ながら、キリスト教の宗教性や霊性、キリスト教が歴史の中で文化や芸術、思想などに与えた影響やキリスト教の諸活動や現代社会とのかかわりなどについて検証してゆきます。「宗教学ⅠK」と合同授業。「宗教学ⅠK」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡL	キリスト教の中でもカトリック教会は、約2000年の歴史を持ち、教派の中でも最大の教会です。カトリック教会が、歴史の中で欧米の文化や思想に与えた影響は大きく、現代社会においても、平和問題や国際協力、教育、福祉などの分野などの働きを通じてキリスト教精神を实践する動きも見ることができます。この講座では、カトリック教会の誕生以前のイエス・キリストの宣教から、現代の教会までを見ながら、カトリック教会の教えや霊性、宗教活動、文化や芸術、思想などに与えた影響やカトリック教会の社会的な活動や現代社会における働きについて検証してゆきます。「宗教学ⅠL」と合同授業。「宗教学ⅠL」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡN	「心のケア」や「スピリチュアルケア」は現代の人にとって特に必要なものだ、と言われている。この用語は精神的に痛む人に関して使われている。しかし、V・E・フラクルがかつて指摘したように、私たちはみなある意味で「Homo Patiens」（痛んでいる人間）である。したがって、このテーマをもっと広い意味（一般の私たちを含めて）で考えてみたい。そのために講義ばかりではなく、クレヨンや紙粘土を使用して、自分の心（自分の内面）の声に耳を傾けるためのエクササイズを行ってみたい。「宗教学ⅠN」と合同授業。「宗教学ⅠN」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡP	この授業は、日本の文化の中で読み継がれてきた古代から江戸時代までの文学・詩歌・宗教思想などを読み直すことを通して、現在に生きる私たちの生と死をより深く理解しようとするものです。国際化が言われる時代だからこそ、私たちには自分たちの文化を養ってきた古人の言葉や思想に耳を傾け、そこに秘められた意味と可能性を学習することが不可欠です。この授業では膨大な日本人の文学・哲学・思想の中から、特に、悲しみの思想、死生観と宗教性という観点から下記の作品・思想の中心的な内容を学びます。これによって学生は「日本人の宗教と芸術・文化」のかかわりについて理解を深めることになるでしょう。「宗教学ⅠP」と合同授業。「宗教学ⅠP」を既に履修した者は履修することができない。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	宗教学ⅡQ	キリスト教は「神の言葉に聴く」宗教であり、「聴く」芸術である音楽がとりわけ重視されてきました。心をもって聴くことで神と人間が出会い、神への祈りや賛美の言葉が「歌う」という形で表現されました。西洋音楽はキリスト教の典礼と結びついて発展し、聖書にインスピレーションを汲みながら沢山の宗教音楽が生まれました。この授業では、J.S.バッハまでのさまざまなキリスト教音楽を歴史的ならびに主題的に学びます。同時に、曲だけでなく歌詞にも注意を払いながら、聖書の知識を深めていきます。音楽の背後にある神学的背景を知ること、キリスト教理解を深めることを目的とします。また後半部では、キリスト教、特にカトリシズムの霊性についても概観する予定です。「宗教学ⅠQ」と合同授業。「宗教学ⅠQ」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡR	『源氏物語』は世界に類を見ないような、女流作家による大恋愛小説です。そこには人間の愛の喜びと悲しみ、愛執と罪、病と死が、物語の時間の中に細やかに描かれています。この講義では、登場人物、とりわけ女性たちの生き死にのありようと魂の救いの問題に注目します。これによって学生諸君は日本における「宗教と芸術・文化」の理解に進むことが期待できます。なお、全体は膨大なため、本講では、本編終わりの「幻」までを扱います。「宗教学R」は「宗教学Ⅰ」と同内容であるが、原文を多く使うので、前年「Ⅰ」を履修した人でも履修ができません。なお、本講義では、必要に応じて、源氏物語とキリスト教・西洋文化との対比をも扱います。講義であつかわれる物語のテキストは原文と現代語訳を用いるので古語文法の理解は前提にしません。「宗教学ⅠR」と合同授業。「宗教学ⅠR」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡS	この授業では前半は多様な音楽家たちの魂とおもに感性を通しての出会いを経験し、後半ではおもに知性を通してあなたにとって異性である男性と、セクシャルマイノリティについて学びます。こうした多くの他者との交わりのプロセスを通して神が一人一人をユニークなものとして創造していることをあなたの感性と知性で確かめ、違った他者との共生時代を生きるセンスを養うことを目指します。「宗教学ⅠS」と合同授業。「宗教学ⅠS」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡT(キリスト教的教育実践法)	この授業は教育という切り口からキリスト教を理解し、将来大人として教師としてまた母親として子どもに接する時の実践力、識別力を養成することを目指すものである。前期には人間の成長を段階的に考察しそこに込められたキリスト教的意味を問う。後期には日本の学校教育の歴史と現状を見わたし、みなさんが受けた教育を意識化する作業を行う。今までの人生の多くの時間を費やした教育というものを見直すことによって自分の中に蓄えられている力を再確認し、神の似姿として創造された人生を大切に生きていく準備をしようと思う。「宗教学ⅠT」と合同授業。「宗教学ⅠT」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡX	宗教改革という言葉は、高校で世界史や倫理の授業を受けた方はどこかで聞いたことがあるでしょう。ルターやカルヴテンといった名前をご存じの方もいるかもしれませんが、西洋のキリスト教は宗教改革をきっかけにカトリックとプロテスタントに分かれました。この出来事は一見私たちと関係ないように思えますが、実は、キリスト教と直接関係ない人にも関係があるのです。それは、現代日本社会全体が西洋から大きな影響を受けており、その西洋のものの考え方が宗教改革と深いつながりを持っているからです。この授業では、宗教改革にかかわるものの考え方を、中立な立場からできるだけ分かりやすく解説します。「宗教学ⅠX」と合同授業。「宗教学ⅠX」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡY	私たち白百合女子大学はカトリック系大学ですが、西洋のキリスト教は大きく分けてカトリックとプロテスタントの二つに分かれています。どちらもキリスト教として主な考え方にそれほど違いがあるわけではありません。しかし細かいところ、しかも重要なところでいくつか異なる考え方を持っています。そこに注目して見てみると、西洋キリスト教の特徴がよく見えてきます。この授業では、カトリックとプロテスタントで考え方が異なるいくつかのテーマを取り上げ、それを中立な立場からできるだけ分かりやすく解説して、西洋キリスト教の特徴を明らかにしたいと思います。「宗教学ⅠY」と合同授業。「宗教学ⅠY」を既に履修した者は履修することができない。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	宗教学ⅡZ	現代社会において生命科学の進歩とともに、人間の生存にかかわるたくさんの方が生じています。みなさんも普通の生活のなかで、テレビのニュースや新聞を注意して見てみると、いのちにかかわる問題に出会わない日はないと思います。この授業はカトリックの立場から人間のいのちの問題をみなさんと一緒に考えていきたいと思っています。今年の本講義では、特に人間のいのちのはじまる場面（生）と終える場面（死）におけるさまざまな問題について、具体的な事例をもとに考えます。この授業をとおして、最終的にレポートをまとめるときまでには、人間のいのちの意味を一人ひとりが自分の問題として深く考えられるようになることを目指しています。「宗教学ⅠZ」と合同授業。「宗教学ⅠZ」を既に履修した者は履修することができない。	
	人間交流力構築演習A	パチカンとはたびたび他の宗教との対話を行っている。ローマ教皇ベネディクト16世はイスラム教との会合で「我々はともにわれわれの宗教が調和と相互理解のメッセージをもたらすことを言葉と行いで示す必要がある」と述べている。カトリック教会は今までも他の宗教の中にすべての人類にとってよき知恵があることを認めている。このゼミではイスラムの文化の中で発展し、ロシアのコーカサス地方出身のグルジェフ（1877～1949）によって西欧社会にもたらされたエニアグラムの人間学を使って自分を知り、他者との交流力を構築するにはどうしたらよいかを互いに学び合うために開講される。現在エニアグラムはカリフォルニアのスタンフォード大学を中心に研究され、非宗教化された人間学として一般社会で受け入れられ、USAや日本のビジネス現場でのリーダー養成の指針としても活用され高い評価を得ている。またカトリックの修道会・イエズス会士たちにより霊操指導に活用され、まじめにキリスト教的な生き方をしようとする人々により影響を及ぼしている。このゼミは、この方法によって学生たち自身が神の恵みとしていただいている自分のほんとうの姿を知り、他者と関わる力を引き出し、自分を社会的存在として意識し、さらには良き社会人として持てる力を活用し社会貢献を重ね、実り多き人生をおくる力を自己養成することを目的としている。宗教的世界観を通じての人間理解・世界理解をめざす。	
	人間交流力構築演習B	本学の建学の精神であるキリスト教は神との親しい交わりと全人類一致を最終的目標としている。それはまずイエスが言うように自分の隣人を愛するところから始まる。隣人とよき関係を築くことは人間の根本的な召命である。すなわち社会的存在としての人間の出発点である。コアクティブ・コーチングはU.S.Aで開発組織化されて2000年より日本でも一般化され、さまざまな分野で応用されている。組織内のリーダー、教師、カウンセラー、親を「コーチ」、その配慮のもとにある人を「クライアント」と名付け、いかにしてこの両者の関係を協力的、積極的、協働的で柔軟かつ力強いものにして独特な関係を築き上げ、高い成果を上げるかをテーマとする。人はみなもともと力と才能にあふれている。また全力を尽くして持てる可能性を余すことなく発揮したいという深い願いを持っている。そして自分が他者の役に立ち、他者から承認されたいという強い願望を持って生まれてくる。決して自分だけがよい思いができればそれでよいとは思っていない。それなのにふと気付くと自分のことだけで頭がいっぱいになっている。そしてそれを本音だと信じて他者との関係に入って行き職業的にも社会的にもプライベートな関係においても失敗をくりかえしてしまう。これをキリスト教的には罪という。こうした罪の連鎖である悪循環から抜け出し他者と協力し、他者と自分を最大限に生かしてよりよき社会貢献ができるためのスキルを身に付ける機会を提供しつつ人間の宗教性と霊性理解、宗教的世界観を通じての人間理解・世界理解をめざす。	
	ルカ福音書講読演習A	本学では、キリスト教学や必修の宗教学において、聖書に触れることがしばしばあります。しかし、時間的制約から、聖書を集中的に読むということは難しいものです。この演習では、新約聖書の中から、一つの福音書をじっくりと読むことにより、聖書の味わいと福音書の精神に近づくことを目的とします。福音書の中でも特に、読みやすく、また芸術的にも美しいルカ福音書を読みます。この福音書は、神殿の場面から始まって、神殿の場面で終わることにも示されているように、全体が「祈り」の基調によって描かれ、私たちに深い精神性へと招いています。この「演習A」では、ルカ福音書の前半を扱います。	
	ルカ福音書講読演習B	本学では、キリスト教学や必修宗教学において、聖書に触れることがしばしばあります。しかし、時間的制約から、聖書を集中的に読むということは難しいものです。この演習では、新約聖書の中から、一つの福音書をじっくりと読むことにより、聖書の味わいと福音書の精神に近づくことを目的とします。福音書の中でも特に、読みやすく、また芸術的にも美しいルカ福音書を読みます。この福音書は、神殿の場面から始まって、神殿の場面で終わることにも示されているように、全体が「祈り」の基調によって描かれ、私たちに深い精神性へと招いています。この「演習B」では、ルカ福音書の後半を扱います。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	宗教と文学・思想演習 A	この授業では、20世紀を代表するユダヤ人女性哲学者でありカルメル会修道女でもあったエディット・シュタインの最晩年の著作『十字架の学問』を英語で精読します。シュタインは哲学（現象学）を学んだ後にカトリックに改宗し、アウシュビッツで亡くなりました。本書は、ナチズムの席捲する時代の暗夜と対峙しながら、16世紀スペインの神秘思想家である十字架のヨハネをとおして十字架の意味を考察・黙想したものです。原文はドイツ語ですが英訳を使用します。授業の中で分担して訳してもらい、訳文を作成していきます。同時に、関係するキリスト教思想への理解を深めていきましょう。特に、旧約聖書の預言書と福音書の受難物語に関わる箇所を集中的に学ぶ予定です。	
	宗教と文学・思想演習 B	この授業では、20世紀を代表するユダヤ人女性哲学者でありカルメル会修道女でもあったエディット・シュタインの最晩年の著作『十字架の学問』を英語で精読します。シュタインは哲学（現象学）を学んだ後にカトリックに改宗し、アウシュビッツで亡くなりました。本書は、ナチズムの席捲する時代の暗夜と対峙しながら、16世紀スペインの神秘思想家である十字架のヨハネをとおして十字架の意味を考察・黙想したものです。前期からの継続となりますが、後期からの参加も歓迎します。原文はドイツ語ですが英訳を使用します。授業の中で分担して訳してもらい、訳文を作成していきます。同時に、関係するキリスト教思想への理解を深めていきましょう。特に、旧約聖書の預言書と福音書の受難物語に関わる箇所を集中的に学ぶ予定です。	
	いのちと家族演習 A	現代社会において、生命科学の進歩とともに、今まではなかった人間の生存にかかわる多くの問題が生じています。カトリックにおける生命哲学について、テキストを読みながら考えていくことで、最終的には人間のいのちの意味について参加している学生一人ひとりが自分の問題として深く考えることを目指しています。	
	いのちと家族演習 B	現代社会において家庭の危機が叫ばれています。カトリックは最も小さな共同体である家庭こそ最も重要な教育の場だと考えています。この授業では教皇ヨハネ・パウロ二世の『家庭』を読みながら、家庭とはなにかを考えていくことで、最終的には家族の意味について参加している学生一人ひとりが自分の問題として深く考えることを目指しています。	
共通科目	文化と人間	私たちは自分たちが慣れ親しんだものと異なるものと出会う時に初めて、今まで自分の中で当たり前と思っていたことが当たり前とは限らないという事実と直面します。この授業では「当たり前」と思っていることに対して、「それは本当に当たり前なのか」という問いを持ち、自らの「常識」を問い直し、視野を広げ、大学生としてふさわしい考える力を養うことを目的としています。いのちをめぐる現実の社会問題を取り上げることにより、大学生としての基礎的な教養を身につけ、物ごとを考える際の自分の弱点についても気づくヒントを提供できればと願っています。	
	哲学	人間の生き方の指針が見えにくい現代社会において、これまで世界に大きな影響を与えてきた哲学・思想の源流であるギリシア文明とキリスト教哲学、そしてそこから発展した現代哲学にまで及ぶ西洋思想から、人間とそのいのちについての主な思想をたどりながら、同時に、他者に関わり、他者を助けるための実践的なケアの思想を学びます。ケアの思想は今や医療・看護・介護・福祉の領域にとどまらず、私たち一人一人の身近な課題となっており、それは、生命倫理からターミナルケア（終末期医療）まで、広範囲に及びます。したがってこの哲学の時間は、受講者それぞれが自らの誕生から死までを視野に入れた、いのちの人間学となるでしょう。	
	現代思想 I	西洋思想を見習ってきた日本の近代化がもたらした様々な問題を克服する道は東洋思想の中にあるのだろうか。宗教と倫理との連関という観点から、東洋思想の諸相について学んでいきたい。	
	現代思想 II	（概要）指定テキストにはぼ沿うかたちで、『共生』（convivialityもしくはsymbiosis）をめざす現代思想の問題群を《ケア》と《正義》を軸に概観する。“Homo sum. Humani nil a me alienum puto.”（「私は人間である。人間に関わることで自分に無縁なものはないと思う」）というテレンティウスの箴言を實踐し、専門分野以外にも貪欲な知的好奇心を燃やしている「学生」（学びを生き、生きることを学ぼうとする者）の受講と積極的参加を強く望む。 （オムニバス方式／全15回） （42 川本隆史／6回） 導入部分を担当 （43 佐藤静／9回） 本論部分を担当	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	世界の中の日本思想	日本では、東アジアや欧米さらに地球上と関わる内外の流通の中で、文化の基礎となる思想・宗教などを種々に形づくって来ました。では、その思想・宗教と称されるものはどんな事物であり、どのような歴史を持って現在に至っているのでしょうか。それは、日本ではどのような形態がありまた更に変化があるのでしょうか。ここでは、そのあり方を、研究をも踏まえて大掴みにまた出来るだけ理性的に知る作業を行います。とくに近世（戦国の後、ある根・型をつくった江戸期）また近代（維新後、欧米との交流での形態をつくった明治大正昭和期）さらに現代（グローバル化する20世紀末以後）をとらえる作業を行います。これは、結局は、思想家といわれる人々の仕事の〈基礎〉を知る作業です。それは特に判りにくい難しいものではなく、日本文化を成り立たせる生活形態のいくつかの根本的な「型」（様式）やその変化を知ることです。前期では、その基礎が作られる構造と世界史的な位置をおさえ、近世のいくつかの基本的な姿をとらえます。後期では、近代（維新後から昭和前期）を中心にし、さらに現代にも入り、内容の変化とその意味を考えます。個々の史料に入るだけではなく、表現する重要な文化人・思想家・哲学者の仕事をとらえます。	
	美学	理屈を超えた事柄のように思える美的体験やその対象である美について、論理的に思考し、言葉によって説明することの「難しさ」と「楽しさ」を徹底的に味わおうとする授業です。自然でも芸術でも人間でも、何かしら美しいものに関心があり、その正体に一步近づいてみたいと思う方にお薦めです。本講では、美学の分野で問われ続けてきた数々の根本問題（十五の主題）を扱います。まず、それらをめぐる歴史上の美学者たちの格闘を跡付けたのち、いくつかのものについては具体例に即して、同じ問題に取り組みます。実際の芸術（あるいは非芸術）作品に触れながら美なるものについての思索を深め、それを言葉にする訓練を積むことで、最終的には、各自の美的体験の幅が広がること、またその質も高まることを狙っています。	
	美術史	初めて美術史を学ぶ学生を対象として、作品のスタイルの変遷を主テーマに古代から現代までの西洋美術の主要な作品をスライドやビデオによって概観します。また、作品の主題、構図や構成、あるいは色彩や描写方法の特徴を理解することによって、西洋美術の特質と画家や彫刻家たちの個性を理解してもらいます。さらに、同時代の鑑賞者や依頼者との関係を取り上げ、一点の作品に仮託した彼らの精神と作品の背後に隠された様々な様相を詳細に検討する予定です。	
	神話の世界A	ヨーロッパの神話のなかから、ゲルマン、ケルトの神話について学ぶ。ほかの地域の神話との比較や、ファンタジー、アニメ、ゲームなど現代との関わりも考えつつ学んでいく。	
	神話の世界B	「本説を取る」ということばを御存知でしょうか。ある和歌の語句やイメージを取り入れ、新たな句を作る「本歌取り」。それに対して「本説取り」は、物語や小説の筋や場面をもとにして歌を詠むものです。芸術のあらゆるジャンルにおいて、洋の東西を問わず、本説取りは連綿と行われてきました。その際「聖なるもの」、あるいは「神的なもの」と人との結びつきを語る「神話」は、創作の源泉だったのです。詩人の奥深くにひそむ、ことばでは言い表し得ぬもの。あるときそれが神話に出会い、時を経て形を得て作品に変容する。ヨーロッパを舞台としたものに限られますが、この過程を本説である神話、本説取りした芸術作品、神話に対峙した思想家のことばを通してつぶさに見て行きたいと思えます。	
	神話学入門Ⅰ	「神話」はかつては、あり得ない、ばかばかしい、非合理で幼稚な物語だと思われていました。しかし19世紀以降、主にヨーロッパの学者たちが研究を重ねるなかで、神話には神話独自の理屈があり、神話は「人間」の一面を明らかにする重要な物語だと考えられるようになりました。また神話は単なる物語ではなく、年中行事で大きな役割を果たすなど、社会の中で固有の働きをしてきました。授業では、そのような「神話独自」の世界を知り、理解を深めるために、世界の神話を紹介しながら、神話をモチーフごとに分析する「神話理論」を学習していきます。	
	神話学入門Ⅱ	「神話」はかつては、あり得ない、ばかばかしい、非合理で幼稚な物語だと思われていました。しかし19世紀以降、主にヨーロッパの学者たちが研究を重ねるなかで、神話には神話独自の理屈があり、神話は「人間」の一面を明らかにする重要な物語だと考えられるようになりました。また神話は単なる物語ではなく、年中行事で大きな役割を果たすなど、社会の中で固有の働きをしてきました。授業では、そのような「神話独自」の世界を知り、理解を深めるために、世界の神話を紹介しながら、神話をモチーフごとに分析する「神話理論」を学習していきます。なおこの授業は、「神話学入門Ⅰ」の講義内容を踏まえて進めます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	コンピュータ文学研究 A	本講は、コンピュータを用いる新しい文学研究手法を含めた学問の作法を学び、童話、絵本やマンガ作品に隠れている“かたち”を明らかにすることを目的としています。皆さんの好きな作家をより深く、より多面的に理解するための科学的方法を学び、基礎素養を習得する科目です。学生の皆さんにはコンピュータを利用して、いくつかの文学作品の文体構造の解析実習をしてもらいます。	
	コンピュータ文学研究 B	本講は、コンピュータを用いる新しい文学研究手法を含めた学問の作法を学び、小説やエッセー等の文学作品に隠れている“かたち”を明らかにし、皆さんの好きな作家をより深く、より多面的に理解するための方法を学び、基礎素養を習得する科目です。学生の皆さんにはコンピュータを利用して、いくつかの文学作品の文体構造の解析実習をしてもらいます。小説やエッセイなど文学作品の文体構造・論理的文体構造と感性的文体構造・文体構造の可視化方法や、源氏物語、夏目漱石作品や宮澤賢治作品などの解析事例についての説明を暫時演習の合間に行います。	
	教養としての日本語	この授業では、言葉の基礎力を身につけて、周りの人たちと気持ちよくコミュニケーションが取れることを目指します。まず、相手にわかりやすく聞きとりやすい話し方について演習形式で学び、次に、どのような言葉を選択したらよいかという視点から、類義語の意味の違いと印象の違いについてグループ討議をしながら考えます。また、話し言葉を磨くために、書き言葉との違いや性別による言葉の違いについて考え、さらに、話し言葉に多く見られるオノマトペ（擬音語・擬態語）の特徴を考えます。書き言葉については、文字表記の面から特徴と留意点を考えます。最後に、敬語を中心に、コミュニケーションを円滑にするための言葉遣いについて、グループ演習を交えて学習します。	
	日本語を磨く（読解力を養う）	日本語運用能力を高めるために実用的文章及び文芸的文章の読解力を養うことを目的とする。2クラスを2人の教員が交代で担当し、1人が新聞記事や評論など実用的文章の読解を、もう1人が小説など文芸的文章の読解を担当する。読解に必要な語彙力の養成も行いながら、文章理解のしくみ、文章構成のとなえ方、書き手の視点、レトリック、人物の心情理解、文章による文体の違いなどを観点として総合的に読解力を高めることを目指す。 (15 中里理子) 実用的文章担当 説明文や評論を対象に、難解な語句や文章構成などを解説し、正確に読み取ることを目指す。 (51 柳井まどか) 文芸的文章担当 小説作品を対象に、文体や修辞技法も交えて小説の読み方を解説し、文章を味わうことを目指す。	共同
	日本語を磨く（文章力を養う）	日本語運用能力を高めるために文章表現力を養うことを目的とする。2クラスを2人の教員が交代で担当し、1人が説明文や実用的文書などの書き方を、もう一人がレポートや意見文の書き方を担当する。文章表現に必要な語彙力の拡充も図りながら、説明文のポイント、手紙やメール、ビジネス文書の書き方、要約のしかた、伝える情報の取捨選択、文章の組み立て方、引用のしかた、推敲の方法などを観点として、総合的に文章力を高めることを目指す。 (15 中里理子) 説明文・実用的文章担当 わかりやすく説明することを目指し、説明文を書く実践練習を積む。 (52 山梨有希子) 意見文・レポート担当 意見文・レポートの書き方を、段階を追って解説し実践練習を行う。	共同
	美しい日本語を話す（基礎）	周囲の人と気持ちよくコミュニケーションを取る上で身につけたい言葉遣いと態度について学ぶことを目的とする。言葉遣いの基礎となる敬語を基本から学習し、尊敬語・謙譲語・丁寧語を正しく身につけることを目指す。さらに、日本の社会で必要なマナーや振る舞い、手紙やはがきの書き方、電話のかけ方・受け方など、社会生活を送る上で基礎となる事項を取り上げ、知識と実践の両面から学んでいく。	
	美しい日本語を話す（実践）	対人コミュニケーションの心構えを学び、言葉遣いの基礎となる敬語を、場面や状況に応じて使えるようになることを目的とする。敬語を中心に心地よい言葉遣いについて演習方式で学んだ後、依頼や断りなどの場面ごとにロールプレイング等を通して望ましい対応の仕方について学ぶ。また、文書の書き方や効果的なメールの書き方、会社とのやりとりを想定した電話の応答など、実社会で使えるコミュニケーションの方法を学ぶ。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	コミュニケーションのための日本語	<p>日本語運用能力を高め、円滑なコミュニケーションを行う上で必要な「話す・聞く」の技術を磨くことを目的とする。2クラスを2人の教員が交代で担当し、それぞれが複数の話題を提供し、ディベートとディスカッションを複数回行う。話し合いを通してテーマに関する知識を深め、意見形成する思考力を養い、説得力を持って語る表現力を養う。話し合いの回数を多く経験することで、積極的に意見を述べ合うことの必要性を実感し、その技術を高めることをねらう。</p> <p>(15 中里理子) ディベート担当 ディベート形式で話し合うために、意見のまとめ方、反論の述べ方などを練習し、最後に実践練習を行う。</p> <p>(51 柳井まどか) ディスカッション担当 テーマについて話し合うことを目指し、自分の意見形成から始めて他人の意見の聴き方、話し合いのこつなどを実践的に学ぶ。</p>	共同
	日本中世文化史	この授業では、現代の日本の文化に通じる点の多い、中世の文化やその根底となる思想に関する事項についてとりあげ、中世の人々の認識や考え方、文化のあり方などを学び、現代との類似点や継続性、差異などを考えていくことを目的とする。前期では衣食住といった日常的なものや、天皇家とそれに関わる文化を中心に、後期では様々な認識にかかわる問題、災害や信仰に関するものを中心に取り上げる。	
	日本近代文化史	本講義では「文化」というものを文学や芸術に限定せず、生活様式、風俗、慣習、宗教、教育、社会通念などを含むものとして捉える。この広義の文化は複雑に関与しあって、我々の活動を規定する心理的・社会的規範や価値基準あるいは世界観を形作っており、人間の行動に隠微ではあるが一定の影響を与えている。したがって近代「文化」史の検討は、近代史を様々な視角から再解釈することであり、それによって全体的な歴史把握が可能となる。本講義では社会学、宗教学、民俗学などの他の学問領域の研究成果も参照しながら「目に見えない何か」「神と仏」「生と死」「鎮魂と慰霊」という非日常的・宗教的な問題から日本近代史を論じていくつもりである。またビデオなどの教材も使って分かりやすく説明を加えていく予定である。	
	日本の外交と社会史	近代の国際社会と日本社会の連繋性を理解することを目的とします。特に1920年代の日本社会を重視する。そのために、1900年から1945年までの外交史・軍事史・経済史などの時期区分に、1920年代の日本の社会を対比させる内容の講義です。ワシントン体制の国際秩序、満州事変と国際的孤立、国際体制の現状打破（東亜新秩序建設）、太平洋戦争の破局を通して、日本の社会がどのように変化し、どのような問題をかかえ、それを解決する努力の実態について、史料を通して検証します。また、日本の近代社会を実証的に理解することも目標とします。そのため関連史料としては、当時の新聞・雑誌とともに、外務省外交史料館・国立公文書館・防衛省防衛研究所図書館・国会図書館憲政資料室などに所蔵されている、公文書・個人文書なども紹介します。	
	西洋史 I	現代の西洋世界を理解するために不可欠な古代ギリシャ・ローマ世界から15世紀ごろまでを扱います。豊かな文化、文明を現代に伝え、民主政、共和政、帝政などの政治形態を生みだした古代世界から、キリスト教ヨーロッパの基礎を築いた中世初期、現代の国際関係のもととなる国民意識を生みだした中世後期の世界までを概観します。現代世界に通じる部分と異質な部分を合わせ持つ前近代の西洋世界の歴史を学ぶことを通じて、今の自分自身が置かれた位置を広い視野で考えてほしいと思います。授業には二つの目的を設定します。一つ目は、異文化や異世界に対する理解と、自らの文化や世界に対する相対的な見方、そして歴史的なものの考え方を身につけることです。二つ目は、文献を収集し、比較・分析し、そこから自分の見解を導きだし、表現できるようになることです。前者については授業内容で、後者についてはレポートの作成を通じて学んでいきます。	
	西洋史 II	前期の西洋史 I の続きとして、西洋の中世末期から近世、近代までの世界を扱います。ルネサンスや宗教改革、大航海時代で始まり、西洋近代世界の基礎を作った近世という時代、そして産業革命や市民革命を通じて西洋世界のみならず現代の世界全体の出発点となった近代という時代を、今の世界を生きる人間として、自分自身との関わりを意識しながら学んでほしいと思います。授業には二つの目的を設定します。一つ目は、異文化や異世界に対する理解と、自らの文化や世界に対する相対的な見方、そして歴史的なものの考え方を身につけることです。二つ目は、文献を収集し、比較・分析し、そこから自分の見解を導きだし、表現できるようになることです。前者については授業内容で、後者についてはレポートの作成を通じて学んでいきます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	歴史からみた現代	授業では西洋史の歴史家たちを題材に、これまでどのような人々がどのような方法で「歴史」を解釈してきたのかを紹介します。授業からは第一に現代を生きる自分自身と歴史との関わりを深く考える視点を得てほしいと考えます。さらに、実際に一人の歴史家の作品を読むことで、歴史を書くという行為がどのようなものであるのかを体験してほしいと思います。毎回一人の歴史家を取り上げ、その人物の生い立ちや経歴、時代背景などを解説し、その歴史家が時代の要請する歴史像にどう答えていったのか、という視点から歴史の書かれたプロセスを紹介していきます。	
	豊かさの中の経済	経済社会の発展と繁栄を促す原動力としての「成長」は、どんな背景のもとで生まれるのか。世界のさまざまな地域が抱える歴史や宗教、科学技術の力や社会の仕組みの違いを比較検討するなかで、優位な立場が形成される条件を探ります。近代社会は企業制度、貿易や金融のシステムなどで西欧が市場経済の仕組みを主導し、日本など後発資本主義国はそれをモデルに追いつきました。グローバル化で中国などの新興国家が急激な成長を遂げた21世紀は、資源とエネルギーや地球環境の制約で「成長」そのものが問われています。大きな文明の流れから経済社会の成長と発展の条件を探ります。	
	暮らしと現代経済	グローバルゼーションという大きな波のなかで、われわれの暮らしを支える経済社会の姿はどう変化しつつあるのか。世界の中の「日本」というモデルを通して、市場経済と社会の仕組みの現状と課題を探ります。日本は明治以降の近代化と敗戦の挫折、戦後の復興と高度成長からバブル崩壊以降現在にいたるまで、その社会の強さとひ弱さを浮き彫りにしてきました。著しい高齢化と脱成長時代へ向かう中で、税、雇用、規制、福祉など社会システムの信頼の揺らぎを通して、人々の満足感と幸福感というゴールへの道筋を考えてゆきます。	
	政治学 A	日本の政治について、直近のニュースの解説をまじえながら、取材記者の視点で、内政、外交、安全保障、選挙を中心に考えます。政治ジャーナリズムの実態を日米比較などもまじえてとりあげるほか、政治報道の意義と目的、政治報道の課題などにも焦点をあてます。新聞報道がどのように形成されているかという理解を通じ、メディア・リテラシーを高めることの重要性を学んでもらうことも、講義の大きな目的です。	
	政治学 B	今、世界は激動しています。グローバル化する社会において、それは他人事ではなく、自らの生活に影響します。社会人の教養としても国際情勢の理解は欠かせません。読売新聞の特派員として、国際報道の現場で取材を重ねてきた講師が、ニュースを題材に世界の最新の動きとその背景、歴史を解説します。国際情勢を理解、分析する力を養うと同時に、報道に対するリテラシーを高めます。	
	憲法	憲法に関連する具体的な問題を題材に1回につき1テーマを講義する。特にわれわれの身の回りで発生している様々な事件を通じて、条文および判例・学説に沿って解釈し、妥当な解決を目指す。したがって、授業では身近な事件や事例を取り上げ、抽象的な議論よりも個別具体的な議論を展開し、必要があれば、ビデオなどの映像によって理解しやすい手法で受講者の学習を支援するつもりである。基本的に授業はパソコン画面を使用し、場合によってはそれを補うために資料を配付する。	
	法とは何か	人が二人集まれば、トラブルは発生しやすくなるものである。そこで、法がそのトラブルを解決しようとする。つまり、法とは、広くわれわれが社会生活を営むうえで他人とのトラブルを避けるためのルール一般を意味する。普段、われわれは法を意識することはほとんどなく、平和な生活をしていれば不要である。しかし、現実には種々のトラブルが発生し、また被害を受けることも少なくない。そこで、生活のあらゆる事柄が詳細に法律や慣習などによって規制されており、いざというときの解決手段として法は存在するのである。その際、法に関する知識を持ち合わせていなければ、自らに不利な結果に終わるかもしれない。この講義では、このような法に関する基本的知識を学生諸君が身につけることを目的とする。法に関しては抽象的概念が多いが、可能な限り具体的事例を挙げて説明し、またパソコン画面、プリント、ビデオ等を活用し受講者の学習支援を図る予定である。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	女性と社会 A	私たち女性の弱さと限界を知ると同時に、その強さと豊かさの理解を深め可能性の実現を模索する、最も基本的な、女子大ならではの授業です。まず日々の生活を通して見、聞き、感じている共通の体験を掘り下げることから始めます。そのプロセスにおいて私たちは様々な生活場面の中の女性特有の課題に直面しますが、特にその背景となっている伝統的に培われてきた女性観が、ポジティブな意味でもネガティブな意味でも浮き彫りになります。また女性の視点で社会の諸問題を捉えなおそうと試みることによって、同じような経験を共有する世界の女性たちの関心とその動きに敏感になっていきます。この一年間を通してグローバルな共感と連帯の輪を広げ、私たち女性の意識の地平を大きく広げていきます。その広がりの中で、もう一方の性である男性と、様々な生活場面でどのようにお互いを一個の人格として尊重しあい生かしあえる豊かなかかわりが築けるのか、今日の社会にとともに対等なパートナーとしてどのような貢献をなすことが可能なのか、新しい視点で共に模索していきます。	
	男女共同参画と政策	本科目は、働くことと幸せな生活の調和（ワークライフバランス）の実現に向けて、企業との連携や「仕事と生活の調和推進のための行動指針」を理解させる。企業の力の源泉である有能な人材である女性の定着を高めるため、中小企業においてもその取組の利点は大きく、意識や働き方の改革に取り組む取組を先進的に行っている企業を紹介する。女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約（CEDAW）以後の国際的な動向も触れ、男女共同参画の考え方や政策の国際的動向を踏まえた働き方に対する学生の意識改革を図る。	
	犯罪学概論	犯罪はどの社会、どの時代にもみられる普遍的な社会現象であり、人類の歴史を通じて犯罪に対する闘いが続けられてきた。19世紀に誕生した犯罪学は、犯人を逮捕して犯罪原因を探り、刑務所などの施設で矯正して社会復帰させる手法を考案し、実施してきた。しかし、実際に犯罪がなくなることはなく、次第に人々は犯罪から身を守る意識を発展させてきたのである。そこで、近年、犯罪予防が強調されるようになり、犯罪を未然に防ぐ安全・安心まちづくりが盛んに唱えられている。女性は、犯罪の加害者になる場合よりもむしろ被害者になる可能性のほうが高い。とくに日常生活において日々の注意が必要である。授業では、犯罪学の一般的な事項を学習したあと、個別の犯罪問題（たとえば、特に女性に関係する性犯罪、ストーカー、DV、ひったくりなど）を調査データを元に取り扱い、それらに対応した予防策・防犯策を検討する。そして、最終的には、どのようにすれば犯罪を防ぐことができるか、犯罪をしにくい環境をどのように構築すべきかを考える。	
	女性と法	大正時代の著名な法学者である徳積重遠は、約90年前の大正14（1925）年に、「我国の人民殊に婦人に法律上の知識が足りない」として、国民とりわけ女性の法知識の不十分さを指摘しています。この指摘は、2014年の現在においても、依然として可能ではないでしょうか。そもそも「社会あるところに法あり」という言葉があるように、私達は様々な社会に属し、生活のあらゆる場面で法と関わっています。数年後には大学を卒業し、社会へと独り立ちしていく女学生の皆さんもまた、今後、法律問題に遭遇する機会が多くなっていくことでしょう。より良い社会生活を営むためにも、早い段階から法知識を身につけることが必要不可欠となってきます。そこで本講義では、女性と法とのかかわりを考え、私達の身近にある具体的事例を想定しながら、社会に関連する法的問題の理解を深めていきたいと思ひます。その際には、「家族生活」そして「社会生活」という2つの場面において、私達が必要とする法の基礎知識の習得を目指していきたいと思ひます。	
	子どもの権利と国際社会	本科目は、子どもの権利条約が採択されてから四半世紀が過ぎ、子どもの権利が思いやりではなく、法的に義務づけられた規範となったグローバルな進展について概観する。次に「貧困」「紛争」「HIV/エイズ」が世界の子ども22億人中10億人以上から「子どもの生存、成長・発達する権利」を奪い、さらに性的な暴力、殺人、いじめ、暴力的なしつけ、暴力に関する考え方など子どもに対する暴力の現状を明らかにする。成功した取り組みに焦点をあてて暴力は防止できるという考え方を身につけさせ、国際社会における市民的責任感を涵養する。	
	ボランティア・キャリア体験 I	体験を通じて対人関係や他者への理解を深めることを目的として、近隣小学校や福祉施設においてボランティア・キャリア体験を行う。また、社会人としての基礎力、接遇者としての基礎力を身につけるとともに、就活サポートを目的として、ANAエアラインスクールの体験を行う。そのBasicコースでは3回程度にわたって繰り返し自己分析を支援し、学生の適性や強み弱み分析を行うことで、将来めざしたい業界や職種を考える契機とする。1・2限は調布市立小学校での学校ボランティアやフランス留学応援パティシエ修行等の企業体験、5・6限は調布市、世田谷区、三鷹市等の福祉施設と、ANAエアラインスクールBasic等において体験を行う。後期科目「ボランティア・キャリア体験 II」と通年で履修する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ボランティア・キャリア体験Ⅱ	前期科目「ボランティア・キャリア体験Ⅰ」と通年で履修する。体験を通じて単なる関わりレベルから、子ども理解や利用者理解を洞察するレベルのエピソード記述を繰り返し演習しつつ、近隣小学校や福祉施設では、学生が子どもや障がいのある人に寄り添う人的サービスを行うことで、地域に役に立つことを目的とする。学生には就職活動の自己アピール、対人援助、教職・保育実習に向けた現場体験の経験となる。1・2限は調布市立小学校や都立特別支援学校等、5・6限は調布市、世田谷区、三鷹市等の福祉施設において体験を行う。また企業体験としては、「ボランティア・キャリア体験Ⅰ」で学んだホスピタリティの精神を活かし、体験を通して社会的基礎力、接遇者としての力を培うことを目的として、ANA羽田空港実務体験を行う。	
	ボランティア・キャリア体験Ⅲ	2年目の学習では、より地域の役立つ人材として地域貢献できるような学生自ら問い直しつつ、学校理解や福祉理解を深める。「ボランティア・キャリアⅠ・Ⅱ」に引き続き、または異なる業界や受入先を選択することが可能で、近隣小学校や福祉施設、または企業において体験を行う。体験先については担当教員と相談により決定する。企業体験としてANAエアラインスクールBasic、ANA羽田空港実務体験を行うが、「ボランティア・キャリア体験Ⅰ・Ⅱ」において既にこれらを体験した学生には、ANAエアラインスクールAdvance、およびTOEIC対策講座を組み合わせ、社会人基礎力と接遇力アップを目指す自主的な取り組みのPDCAを支援する。	
	ボランティア・キャリア体験Ⅳ	1年目に履修したANAエアラインスクールBasicの応用としてよりキャビンアテンダントをめざす学生に特化したANAエアラインスクールAdvance、およびTOEIC対策講座を行い、より明確にキャビンアテンダントを目指す学生の就職活動支援の面が強い科目である。社会人としての基礎力づくりとして、チームビルディングや言葉遣い、日本語検定対策を行い、接遇者としての基礎力づくりとして、より具体的に機内サービス等を想定し、学んだことを全て統合した実習を行う。担当教員との相談により、教職をめざす学生は小学校や児童福祉施設での体験を行う。	
	海外ボランティア実践演習A	フィリピンと山形の農村という異文化の旅先で、先進的な活動と使命を体験する計画づくり。比べずにつながりを、想いを洞察する。 (山形) 山形高島町の有機農業運動との交流、農ある生活の体験、農作業支援などを企画し、「まほろばの里農学校」に参加する。 (フィリピン) フィリピンのダバオ訪問。ダバオ医科大学DMSFプライマリヘルスケア研究所IPHCの活動説明(参加型生活調査COPAR、住民参画制度支援SIAD) タライゴッド村訪問では、族長、小中学生平和運動家の声、伝統舞踊。南西フィリピン大学の先住民科学生との交流およびパムラアン生活遺産センター。地域滞在は各村でのホームステイとともに、村落保健員の自立活動、村の集会があるニューコレア村および、幼稚園支援、先住民女性によるヒーリング活動、先住民低学年児のための小学校給食、山間部農業があるマリログ村。	
	海外ボランティア実践演習B	ネパールと山形に旅する計画づくり支援 (山形) 山形高島町の有機農業運動との交流、農ある生活の体験、農作業支援などを企画し、「まほろばの里農学校」に参加する。 (ネパール) ネパール中西部費ならや観光の拠点ポカラ周辺のパルバット郡とシャンジャ郡の村訪問。村では村落保健員の活動、母親栄養研修および乳幼児栄養支援。アメリカ政府の国際協力、統括NGOであるセイブザチルドレンSCF、村で活動するローカルNGOの活動、ネパール政府厚生省の取り組み、これら全体の支援の仕組みについても学ぶ。カトマンズではスラムの栄養活動も可能。	
	社会福祉と私たち	本科目では、まず慈善活動や戦傷者への給付から始まった福祉の歴史から、権利基盤型の広義の福祉への変遷を概観する。そのうえで制度利用する当事者の知識理解として、社会保険(医療保険、年金保険、労災保険、雇用保険、介護保険)、公的扶助(生活保護)、狭義の社会福祉(高齢者福祉、障害者、児童・母子福祉)について理解させる。またアマルティア・セン等の哲学的な理解と現代の貧困、国際福祉における権利基盤型アプローチの実際、国連統計の理解と事例演習によって、市民としての社会的責任を涵養する。	
	児童と家庭の福祉	本科目ではまず、以下の施策とその対象を概観する。(ア)家庭環境や対人関係等によって問題を抱える児童の社会的養護と児童自立支援施策(イ)障害児施策(ウ)母子家庭の母親と児童の支援策(エ)母子保健施策(オ)一般の子どもたちや、保護者が昼間家庭にいない小学校低学年児が対象である児童健全育成施策(カ)保育施策。次に身近なサービスを利用する視点から、子育て支援や、母子健康手帳、予防接種、乳幼児健診などの母子保健をとりあげ、幅広く児童家庭福祉を理解させ、当事者意識を涵養する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際協力論A	ジェンダー（男女共同参画）に配慮した国際協力を学ぶ。女性にかかわる教育、貧困を改善する女性向け融資などの協力手法などについて短い視聴覚資料をいくつか使う。教科書のPart Iと、Part IIIの第7章と第8章前半を使用。話し合い活動を多くとり入れた体験型のワークショップ手法により授業が行われる。就職に役立つフレームワーク思考法、ランキング手法、分析ツールを身につけることができる。	
	国際協力論B	地球規模の課題に関するジェンダー（男女共同参画）の課題を学ぶ。理論の講義や視聴覚を使った知識伝達というより、ジェンダー分析フレームワーク（分析表やチェックリスト）を使って国際協力および「地球規模の課題」の要点をつかむ、話し合い活動を中心とした体験型の学び（事例の分析作業をおこなうワークショップ）である。たとえばできごとを知る（伝える）ために便利な質問セットである5WIHのように、開発途上国の女性の苦境について詳しい知識がなくても、要点をつかむための質問セットが、ジェンダー分析フレームワークである。現場で国際協力の調査や計画づくりのために使われてきた技術だが、授業では思考法訓練のひとつとして就職に役立つ、フレームワーク思考や事例研究を身につけることができる。	
	社会活動におけるマネジメントA	マネジメントに欠かせない「評価」と「交渉」を英語表現で理解する。評価に関しては、公共機関、外資系団体、非営利組織における、成果と顧客を重視した「自己評価」や、そのワークシートを使ったミーティング運営を学び、組織の意思決定プロセスや組織上層部にくい込むことを目指す。さらにお互いの「評価」に基づいた意思疎通のマネジメントとして、異なる価値観をもつ人々とのWin-Win型「交渉」を学び、お互いがYESと合意できるコミュニケーションを学ぶ。	
	社会活動におけるマネジメントB	男女共同参画推進にかかせない、社会の変動によって「ジェンダー」が変化する概念、「男と女それぞれ自分への気づき」を体験的に学ぶ。そのために講義ではなくワークショップ手法を全面的に導入して、「学びの逆転」を図る。受講人数によっては学生がファシリテーター役を体験し繰り返しワークショップの経験を積み重ねることで、社会活動のマネジメントを理解する。教科書のPart IIファシリテーター用指針および、Part III（第6章）気づきの研修コースを使用する。就活や社会で役立つグループ討論や、話し合いの方法であるファシリテーション技術を学ぶことができる。	
	食農フィールド演習	美しい自然の中、自分たちの手で大地を耕し、種を播き、食物を育てる。そして収穫し、調理するという食のプロセスを実践する。化学肥料や農薬を用いない健全な食生活と健康を実現する方法を自らの身体を通じて学び、生きるための基本的な知識を得ることを目的とする（2005年成立「食育基本法」の理念に基づく）。同時に、新たなライフスタイルの設計や精神史としての農についても学ぶ。	共同
	食と環境	本講では、食を取り巻く環境、例えば食品添加物・農薬・遺伝子組み換え・放射能を概観し、人間と食の関係視座から「人間にとっての最善の食環境」を考え、相対的学説提示による「憶える力から問う力」の学問作法習得にチャレンジします。食べ物には、多くの不思議と興味深い現象があります。今年度は、科学的視点からの食欲のメカニズムや脳内ホルモンの働きを修得することを主眼とします。特に、食欲、脳内ホルモン、人間の知性や感情はどのような関連があるのだろうか、そのメカニズムを明らかにするとともに、身近な化学現象についても併せて触れ、科学的基礎素養の涵養をはかる予定です。また、社会的関心の高い、TPP問題に関わる食糧自由化、日本の農業問題についても理解を深めるために、受講生による調査、演習、プレゼンを行います。さらには、文学作品に現れる食についても、言及する予定です。作品の食には、作品の本質に迫る一つの糸口になる可能性があり、時代背景が浮かび、文学作品のより深い理解に繋がるものと思います。	
	環境学のフロンティア	本講では、地球や社会で起こっている環境問題、例えば、地球温暖化・食糧危機・水不足・エネルギー問題などを取り上げ、厳しい現状を創り出した人間の営みを概観し、環境問題への理解を深めるとともに、文学研究との関係性を明らかにすることを目的にします。持続可能な社会の維持が困難である現状、すなわち、人の営みの結果を、人の生き方の軌跡でもある文学作品、人間とはどのような存在であるかを命題とする文学研究を通して、明らかにすることを指向します。文学を学ぶ意味を、環境と文学作品との学際的・総合的視座からも考えます。具体的には、Mappingにより環境問題と文学作品に内在する、人間とは如何なる存在かを模索し、人文科学と自然科学の学際的かつ融合的視野涵養をはかります。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	観光文化論	21世紀最大の産業といわれる「観光」を、情報・環境・教育・福祉、とりわけ異文化コミュニケーションの側面から新しい視点で概観します。観光の意味やシステムを学ぶとともに、各国の観光政策を理解し、今後の私たちにとっての「より良い観光の在り方」を考えます。授業は初歩的な概論から始まり、特別な予備知識や語学力は必要としません。海外の文化やボランティア・ホスピタリティに関心を持つ学生には、観光を通じて教養の新しい窓が開かれる契機になることと思います。	集中
	現代心理学概論	心理学を初めて学ぶ学生のために、教科書に沿って基礎から学んで頂く講義である。現代心理学の3つの潮流を概説し、環境の知覚と行動、記憶、発達、パーソナリティー、心の健康、心理検査、社会と環境などの基礎的な分野を紹介していく。オーム真理教など悲惨な事件を経験した日本のはずだが、現在の若者にとっては遠い過去のことになってしまい、今また多くの若者がカルト信仰や占いの類に巻き込まれ、振り回されている。また、東日本大震災の経験も我々がトラウマというもの了他人事としてでなく、今、真摯に捉え直してとときであることを自覚せねばならないだろう。また、「他人の痛みへの共感が欠如した人間（様々な犯罪、いじめ等）」、「引きこもりの増加」、「児童虐待」、「自殺や自傷行為」など最近の社会現象についても触れていきたい。適宜、ビデオや資料を使用したり、簡単な実験なども取り入れていく予定である。講師の臨床現場での経験を生かして、理論だけの講義にはしないつもりである。	
	パブリックリテラシー	本授業は、百百合での大学生生活をより豊かに、そしてより有意義に過ごすための初年次教育プログラムです。高校までの「勉強」から、大学での主体的な「学び」への移行に必要とされるスタディ・スキルや学びの基礎作法を身につけながら、公共性という観点からみたブレ社会人としての大学生の社会的役割についても深めていきます。また、この授業では本学の建学の精神及び教育目標に基づいた大学生としてのベーシックな教養を身につけ、他者との関わりを慮った発言や行動をしつつ、内面的な豊かさを磨いていくための基礎を養うことも目指しています。	共同(一部)
	情報リテラシー	本授業は、情報化社会を生きる学生たちにとって必要とされている情報リテラシーや様々な情報機器を用いた学びのためのスキルを確実に身につけ、自らそのスキルを向上させることを目的としています。情報化社会においては、自らの力で問題を発見し、必要な情報の収集・分析・判断を行い、また、それらを表現し、発信する力が求められています。情報倫理を前提とし、情報を受け取る対象に応じた表現方法を習得するための様々な情報コミュニケーション演習が少人数クラスで行われます。	
	ビジネス・コンピュータスキル	コンピュータの実践的演習が中心となる授業である。例えば、「大量のデータを表計算ソフトの様々な関数を用いて、効率的に処理をする」や「データベース管理ソフトの多様な機能を用いてデータベースを構築する」、「聴衆にとって『わかりやすい』資料を提示してプレゼンテーションすることやなどの実現に必要なコンピュータスキルの習得を目標としている。さまざまな事例に基づいたアプリケーション（主に、Excel、Access、PowerPointを使用する）の演習を通して、今後の自分のキャリアデザインを考える上での一助としていただきたい。	
	メディア・デザインスキルA	この演習ではMacの操作、Mac環境におけるPhotoshop、Illustratorの基本操作技術の習得を主眼としています。演習は以下の3つの要素に分けられます。第1の要素はMac初心者のための基本操作演習です。Macの特色でもある直感的なファイル操作を覚えてください。第2の要素は画像処理ソフトであるPhotoshopの基本操作演習です。マウス/ペンタブレットによる描画操作、画像加工、レイヤー操作、課題作製を簡便にするためのショートカットを習得してください。また、デジタルカメラ（もしくは手持ちの携帯かスマートフォン）から素材をとりこむことも基礎演習内容として加えています。第3の要素としてIllustratorによる図形作成、レイヤー操作、レイアウト作成、Photoshopとの連携方法の習得を演習します。上記の3つの要素をふまえて、各自雑誌形式の課題を2つ（課題Aと課題B）製作します。	
	メディア・デザインスキルB	米アップル社のコンピュータMacは、映像編集・音楽・出版・デザイン等の分野で広く使われています。本講義ではこのMacを使い、コンピュータを「自己表現」のツールとして使いこなしていくことを目的とします。その中でもこの講義では映像制作の技法を中心に学びます。映像（映画）は、静止画、音声（音楽）、シナリオ・構成などが組み合わさって成立する総合芸術であり、その制作には多方面にわたる能力とセンスが求められます。同時に、その華やかな印象とは異なり、撮影・編集自体は地道な作業の連続でもあります。デジタルビデオの普及や動画編集ソフトの普及は、より多くの人に映像への門戸を開きました。しかし映像には特有の文法があり、映像の編集にはこの文法の理解と実践が不可欠であることはあまり理解されておられません。この講義では映像の文法の理解を目指しつつ、自己表現としての映像とは何か、ということを追求していきます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	アトリエ・リス・プラク・ワーク ショップ	本演習では、他の人に喜びを感じてもらうことを最終目標とした「ものづくり」のプロセスにおいて、ものをつくる側とそれを使う側の間に生じる様々なギャップを少しでも小さくするためには、どのようなことを考えながら「ものづくり」すべきなのかを演習を通じて学んでもらうことを目的とする。本演習は、前期の通常授業、および、夏期集中演習から構成される。夏期集中演習で得られた成果は、公開プレゼンテーションにて発表してもらおう。	共同 集中
	スポーツ・健康科学A	競い合うことを目的とする競技スポーツ、楽しむことを目的とするレクリエーション・スポーツ、健康・体力の保持増進のためのスポーツ。女性のスポーツが広がりを見せている今、将来の運動習慣につなげるための絶好の機会として、このコースをとらえて下さい。チームスポーツ種目を中心に、ソフトバレーボール、バレーボール、バスケットボール、シュートボール、ユニバーサルホッケー、ドッジボール、フライングディスク(アルティメット)、インディアカなどの種目を、また個人種目としてはバドミントン、卓球、テニスなど人数に応じて、それぞれ1～2週体験します。また、生涯スポーツとしての体育・スポーツ活動を理解するための講義や体力トレーニングも並行して行います。本コースでは、女性の視点を大切にしながら、時代の流れや社会の変化、文化の変容を背景にしつつ、女性の心身の特性を踏まえたスポーツの理論、そして具体的方法を総合的に提示していきます。	
	スポーツ・健康科学B	さまざまなスポーツに関する講義や実技を通して、ひとりひとりのより一層の身体運動能力の改善をめざすとともに、女性の心身の特性を踏まえたスポーツの理論や具体的方法を身につけ、生涯スポーツにつなげることを目的としています。 【コース】 ・女性とスポーツ (スポーツ専門コース・バドミントン) ・フィットネス&エアロビクス ・バドミントン・ビギナーコース ・女性とスポーツ (スポーツ専門コース・テニス) ・女性とスポーツ (スポーツ専門コース・バレーボール) ・テニス	集中(一部)
	スポーツ・健康科学C	【ダンスエクササイズ】 この授業では、ダンスの経験がいくらかある人や、ダンスが好きで得意としている人を対象に行います。ダンスが上手になるためには、ダンスの運動基本運動を極めることと、豊かな表現力やテクニックが必要となります。モダンダンスやジャズダンスを中心に、基礎運動や基本ステップ、ステップコーディネーション、表現の仕方を学びます。また、ダンスに関する基本事項についても、適宜講義をします。ダンスに関する基本事項についても、適宜講義をします。 【バドミントン・アドバンスコース】 この授業では、バドミントンの実践を通じて、からだの構造とストロークの関係についての理論、ルールや歴史に関する知識を習得することを目指します。また生涯スポーツの観点から、運動の実践や理論を学ぶことで、からだや健康に関する知識を高め豊かなライフスタイルを構築するのに寄与することを目的としています。ストロークやトレーニングによる体力向上や効率的運動の理論について理解を深めるため、実技と並行して講義も行います。 授業では、運動理論に基づく効率的なストロークについて学び、それを試合で実践します。各自で技術習得状況を確認し、技能向上にむけ練習を重ねてゆきます。	
	身体運動科学	身体運動には、スポーツ活動だけでなく、健康の維持・増進、あるいは障害予防のための運動や、日常の生活動作も含まれます。運動不足病が問題になっている現代社会において、文化的で健康な生活を送るためには、身体運動のメカニズムや生理的作用、心身両面の健康との関わり、スポーツの社会・文化的意味などについて、実際にからだを動かしながら理解しておく必要があります。一方、女性のからだは男性とは質的・量的にも異なる特性を有しています。また、心理・思考・行動パターンにも女性の特性が見られます。そのような心身の女性の特性を理解し、その特性に即した身体運動の適切なあり方を見出せることは、女性の能力をより大きく発揮させることになるとともに、身体運動に伴う健康障害・事故の事例を減らすことにもつながります。本コースでは、そうした観点から、講義だけでなく運動を体験する中で、女性の身体運動に関する理解を深めます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教養総合セミナーA	女性と子どもの人権に関わる具体的な事例から、現代社会と人権について考える。まず、ジェンダー・セクシュアリティに関する基礎知識を学習し、家庭や学校などにより形成された自身のジェンダーに気づき、ジェンダー再生産のプロセスを検証する。その際、偏見を生まないための授業方法として開発された「差別体験授業」に参加することにより、性差別の実態と構造を理解する。次に、女性への暴力例としてデートDV、子どもへの暴力例として児童虐待（DV環境下の子ども）を取り上げ、女性と子どもの人権侵害の実態を学習し、その原因と背景を理解した上で、暴力防止対策について考える。最後に、セクシュアル・マイノリティを取り上げ、多様な性のありようを確認することにより、一人ひとりの個性と能力が尊重・発揮される社会とジェンダー平等の実現について理解する。	
	教養総合セミナーB	この授業では、関わりや体験を通して自分自身について、また、社会について考え、自らの言葉で発信することを目指しています。様々な体験や経験を通して、それを深めることなくそのまま終わってしまうことを避けるために、授業内では主に、体験や経験をどうとらえ、分析し、表現し、言葉化し、分かち合っていくかについての認識論的な基礎と、発信の仕方について共に学んでいきます。具体的には、グループでの作業と学外の方々との関わりでの体験との組み合わせによる演習を通して、学びを深めていきます。	
	教養総合セミナーC	新しい学問としての「サウンドスケープ」。都市環境と自然の様相を、音・騒音・音楽を通じて感じ、考察する。そして「深く聴く」ことで普段は意識することのない音を発見する。また、サウンド編集をコンピュータ（Mac）を使って行ない、サウンドダイアリー（音の日記）を作成する。	共同
	教養総合セミナーD	日々の生活の中に溶け込んでいる宗教文化の理解を深めることを目指して授業を行う。日本の古来の宗教文化を見直すと同時に、グローバル化の進行とともに国外からやってくる宗教文化についての基礎的知識を得られるようにする。とくに東アジアや東南アジア、南アジアの宗教文化について、日本との関わりを指摘しながら紹介する。各テーマの理解度の助けとなるように、なるべく多くの映像あるいはパワーポイント等を用いる。物事を具体的な事例に即して考えるというやり方を身につけられるようにする。宗教文化はきわめて多様であるが、同時に共通性も多く見えてくることに注意をうながす。異なる宗教文化を理解することを通して、自分が無意識に影響を受けてきた宗教文化についての確認をするような機会ももうける。	集中
	教養総合セミナーE	「教養総合セミナーC」で習得したサウンド編集の技術を応用して、音楽を創造する。コンピュータ（Mac）を使った現代的な音楽制作の基礎と技法を用いることにより創造力を高め、作品を作り出す喜びを知る。そして、サウンドスケープ演習とともに、現代の都市をめぐる音環境を総体として考察する。	
	教養総合セミナーF	本演習では、沖縄本島北部にある運天港からフェリーで1時間に位置する沖縄の離島の一つである伊是名島に約一週間滞在し、様々なフィールド演習を通じて、自然（地球）の美しさに触れ、自然科学的な教養を身につけること、そして、合宿生活や伊是名島に暮らす人々との交流を通じてコミュニケーション能力を養うこともこの演習の目的とする。伊是名島では、生き物が目覚め出す時間帯に島の神聖な領域にまで入らせて頂き、そこで今までに聞いたことのないような「音」に耳を傾けながら、その空間を肌で感じとる。そして、その場所の「音」をPCMレコーダーによって記録する。島での演習では「音」を記録するだけではなく、島の各所を歩いたり、山に登って朝日を見たり、誰もいない海で泳いだり、島の子どもたちと遊んだり、祭りに参加させて頂くことなど多岐にわたるが、そのような伊是名島での貴重な体験は学びを越えた楽しさに結びついていく。そして、伊是名島から持ち帰った「音」は、伊是名を「音」だけで表現するための素材となる。	集中
	数と形の世界A	今まで学んできた数と形について、機械的に問題を解くのではなく、問題の背後で問われている数の意味、図形の意味を理解しながら、様々な角度から問題に取り組み、算数や数学の本来の楽しさを知ってもらうことを主たる目的とした授業である。「数と形の世界A」では、小学校4年生から6年生で学習する算数の問題に改めて取り組み、それらの問題を深く理解させることで、算数の本来の楽しさを理解させることを目標としている。	隔年
	数と形の世界B	今まで学んできた数と形について、機械的に問題を解くのではなく、問題の背後で問われている数の意味、図形の意味を理解しながら、様々な角度から問題に取り組み、算数や数学の本来の楽しさを知ってもらうことを主たる目的とした授業である。「数と形の世界B」では、中学校1年から3年生で学習する数学の問題に取り組み、今までとは違った角度からそれらの問題を解き、数学本来の楽しさを理解させることを目標としている。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	自然科学の世界 A	自然科学全般について、今まで学んできたことに新しい知識、新しい考え方を付け加えながら、自然科学の世界について改めて学ぶ楽しさを知ってもらうことを主たる目的とした授業である。「自然科学の世界 A」では、地球 46 億年の歴史を振り返りながら、自分を含めた生物の進化と地球環境との関係を主たるテーマとし、地球に住む生物の一種である人間について深く理解すること、さらに、自分たちが一生を住むであろう地球の環境について理解を深めさせることを目標としている。	隔年
	自然科学の世界 B	自然科学全般について、今まで学んできたことに新しい知識、新しい考え方を付け加えながら、自然科学の世界について改めて学ぶ楽しさを知ってもらうことを主たる目的とした授業である。「自然科学の世界 B」では、人間である自分そのものの科学的な不思議について細胞レベルで理解を深めること、さらに、自分が住む地球と地球外の世界について理解を深めてさせることを目標としている。	隔年
	社会と倫理	この授業では、私たちが日頃よく耳にする現代社会の諸問題をとりあげ、倫理という観点から、歴史的、世界的視野に立って考えていきます。現代の私たちの周りで生じている問題や課題は、よく振り返ってみると、歴史の中ですでに起こっていた問題や世界各地で起こっていることと無関係ではないことがはっきりと見えてきます。「生きる力」の重要性が叫ばれていますが、「ただ生きる」だけではなく、「良く生きる」とは、「美しく生きる」とは、という観点から、社会と私たちのより良い在り方について一緒に考えていきます。	
外国語科目	必修		
	総合英語 I	本大学は2000冊以上の英語のgraded readersを所蔵し、CEFRレベル等を参照しこれを9つの白百合レベルに分類をしている。この授業では、学生はこれを使って多読を行う。各自自分の英語レベルにあったレベルのものを大量に読み、一冊読むごとにその記録とワークシートを作成する。これによって英語で内容を理解しながら短時間で読む習慣をつけ、読む「流暢性」を高めていく。また、定期的にブックレポートを作成し、学生同士で交換し面白い本の紹介をするなど、単なる読み捨てにならないよう留意する。単位取得のための読書量は累計3万語を目安とする。	
	総合英語 II	この授業では読む・書くを中心として、英語でコンパクトに自分の意見を表現する練習を行う。毎回の授業で一定の英語で書かれた文書が与えられ、それについての内容の確認と要約を行う。続いてその文書についての自分の意見を英語で100~150語程度で書く。さらにグループ内で作文を交換し、内容や言語についてのフィードバックをもらい、改訂作業をする。これを毎回繰り返すことによって、文章の内容把握、簡単な意見表明を英語で流暢にできるようになることを目指している。	
	総合英語 III	この授業で、学生は特定の事柄についてリサーチをし、その結果をまとめ発表をすることを求められる。リサーチに必要な資料はすべて英語である必要はないが、各自で見つけ、内容を要約、理解し、教員に報告する。そして、「英語コミュニケーションII」で養ったプレゼンテーション技能を駆使し、より詳細で説得力のある発表を行う。発表についてはビデオで収録し、各自で見返して話し方の修正のためのツールとする。リサーチと発表は1つのセットになっており、半期の授業で短いものを中間で1セット、比較的長いものを学期末に1セット発表する。	
	総合英語 IV	この授業は、大学院やビジネスに進むための準備として英語の文章表現力を養成することを目的としている。同時に、「英語コミュニケーションII」および「IV」で練習した内容を調べ考えをまとめていく力と「総合英語II」の中で意見を表現する力を集大成する授業でもある。特に学術的文章を作成するためのブレインストーミングの手法や文章中に用いる論理パターンを学び、説得力のある文章を書く練習を繰り返す。ビジネスレターの書き方、レポートの作成などは適宜紹介するが、目指しているのは、内容を順序立てて説明する一般的な文章を書く力である。	
	英語コミュニケーション I	この授業は、自分自身のことを説明したり、身の回りのものについて描写することができ、それらを英語で理解し、表現できることを目指している。授業の活動はペアやグループといった少人数でのインターアクションを中心とし、その中で身近な話題について相手に簡単に英語で伝える練習を積み重ね、聴く・話すの技能を高めていく。語彙の習得も行うが、活動の中では限られた語彙でも自分の言いたい内容を伝えるためのストラテジーの活用に重点が置かれる。学生はこれらの授業活動を振り返り記録をつけることで自分の技能の向上をモニターする。	
	英語コミュニケーション II	この授業は、人の前に立って英語で説明するスピーチ、プレゼンテーション能力を高めることを目的とする。初期では、ペアや三人組で身近な話題について1分間で説明したり、意見を述べたりといった口頭練習を行う。中期には、良いスピーチを行うための話題の調べ方、内容の提示の仕方、聴き手の想定などについて学ぶ。さらに効果的なビジュアルの使い方を学び、最後に比較的大きなグループ、またはクラス全体の前で英語の発表を行う。これらの授業活動を通じて、相手に理解しやすい話し方をするというコミュニケーションの基礎を学ぶことを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語コミュニケーションⅢ	この授業は、「英語コミュニケーションI」の練習を基盤とし、さらなる英語の表現力を高めることを目的とする。「I」の自分自身や身の回りの出来事を話題とすることから発展し、自分を取り巻く社会や文化について説明したり、考えを述べるのが求められる。授業の活動はペアやグループといった少人数でのインターアクションを通じて、聴く・話すの技能を高めていく。話題に即した語彙力の増強を行い、同時に質問の仕方、コメントの仕方などより高いレベルで行えるように練習をする。この授業についても振り返り記録をつけ、自分の技能の向上をモニターする。	
	英語コミュニケーションⅣ	この授業は、特定の話題についてグループ内やグループ間で英語でディスカッションやディベートを行う。学生には毎回、社会文化問題に関するトピックが提示され、各自がそれについての意見をメモ書きし、それを基にグループ内で簡単な英語スピーチを行う。こうして交換した意見の中からそれぞれ数点のディスカッションポイントを選び、グループ内あるいはグループ間でディスカッションを行う。これらの授業活動を通じて、論理的な思考力と同時に英語で意見を述べる能力を磨いていく。	
	英講読文法A	英語未習者を対象とした科目である。英文法の基礎が身につくように工夫された99コマの絵を活用しながら、多様な文型と達意の語彙を同時に学習することで、英文講読の力を高めることを目標とする。絵を取り入れた例文に慣れ親しむことで、講読に軸足が置かれてはいるが、それ以外の3技能（書く、話す、聴く）も相乗的・横断的に習得することもねらいとしている。	
選択	上級総合英語Ⅰ	この授業では、専門性のある学術的文章を理解し、それについてまとめたり、考えを深めるトレーニングを繰り返し行っていく。同時に大学院進学希望者の準備講座の役割も兼ねている。限られた時間で要旨をつかみ、それについて分析を加えて批評ができるような練習を行う。また得られたインプットが定着するように定期的な語彙学習を行う。こうした文章理解を基盤に内容批評を短い文章に書きおこしたり、口頭発表を行う。ただし、クラス全体での統一した到達言語レベルを設定することはせず、学生各自が自分自身のレベルに応じた目標設定をし学習を進めていく。	
	上級総合英語Ⅱ	この授業は、これまでの外国語の学び方をふり返り、どのようにしたらよりよく外国語を自学自習ができるようになるかを考える。言語学習に影響を与える要因や学習ストラテジーについて英語の資料を読み、それを基に自分の学習行動をふり返るといった作業を繰り返す。単に言語学習についての研究を学ぶのではなく、これから先の外国語学習を実りのあるものにするという目的がある。さらに、学んだことを基に子どもたちの英語活動を支援する活動を考え、近隣の小学校や姉妹校などで実践を行う。	
	上級英語コミュニケーションⅠ	さらなる口頭によるコミュニケーション能力の獲得のためにすべて英語で授業を行う。社会・文化・科学など多岐に渡る話題について、内容を理解し、自分の意見・考えを表現する力を向上させることを目的とする。授業では、与えられたトピックについてグループディスカッションを行い考えを深め、それについて各自が小プレゼンテーションを行っていく。単に話す能力を高めるだけでなく、積極的に意見を述べることでコミュニケーションを活性化させようという姿勢を育成する目的もある。	
	上級英語コミュニケーションⅡ	さらなる口頭によるコミュニケーション能力の獲得のためにすべて英語で授業を行う。教員や教科書によって与えられたトピックではなく、学生各自の興味や活動について英語で議論する。そのため、学生は各自が見つけてきたトピックを紹介し合い、それについてペアやグループで議論をする。ここで話し合ったことを基にグループ間で討論を行う。勝ち負けを競う討論ではなく、グループ相互で納得できる結論に導くように指導がされる。馴れ合いではなく、言語活動を通じた協調性を身に付けることを目指す。	
	English for JFL Teachers I	この授業では、英語で日本文化を紹介する練習をしていきます。日本語を勉強する外国の方々は、必ずしも英語圏出身ではありません。ですので、シンプルな英語で、簡潔に説明できるようになることを目標とします。日本文化を再確認しつつ、外国の方が興味をもつポイントや、国別の特徴なども解説していきます。	
	English for JFL Teachers II	日本語、そして日本文化を外国のかたがたに伝える未来の日本語教師のみなさんとともに、人に伝えたい思い、考え、さまざまな情報を、英語で発信していく練習をしていきます。各自新しい語彙や表現を身につけさらに豊かな表現ができるようにすると同時に、自分がこれまで習得してきた英語を最大限に駆使し、さまざまなシーンにおける多様なトピックについて、正確かつ論理的で説得力のある発言ができるようにすることを目指します。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	初級フランス語	これまでに習得したフランス語文法の内容を復習しつつ、おもに会話を中心とする練習を通じて、実践的なフランス語の総合的力を伸ばす。日常的なフランス語を十分に話し、聞き、書き、読むことのできる初級レベルの完成を目標とする。また、フランス語およびフランス語圏文化について知識と関心を深めていく。	
	フランス語入門	フランス語を初めて学ぶ方を対象にしています。アルファベット、発音と綴りの読み方から始めて、一年間で、フランス語文法の基礎を学びます。具体的には 1. 基本語彙をマスターする 2. 基本動詞の活用と用法を覚える 3. 代名詞の種類と用法に注意する 4. 前置詞・冠詞の多様な用法を習う 5. 様々な構文に習熟する 6. 文相互間の関係を把握する 7. 発音が流暢になる などを目標にします。	
	フランス語Ⅰ (文法・講読)	「フランス語Ⅰ(会話)」と「フランス語Ⅰ(文法・講読)」は、1冊の教科書を共通して使用する連動した授業です。この2つの授業を通して、フランス語学習1年目は、フランス語でコミュニケーションをとるために必要な4技能(聞く・話す・読む・書く)の基礎を効率よく身に付けていくことを目的とします。「フランス語Ⅰ(会話)」では、日常の会話に必要な語彙と表現(キーセンテンス)、正しいフランス語の発音、そして聞き取り能力を身に付けることに重点を置いて授業を行っていきます。「フランス語Ⅰ(文法・講読)」では、文法項目をより詳しく学んでいきます。	
	フランス語Ⅱ (文法・講読)	「フランス語Ⅱ(文法・講読)」は、「フランス語Ⅰ」で学んだフランス語の基礎を文法の面から復習し、体系的に理解することを目的とする授業です。1年での既習項目も含めて基礎文法を段階的に学習することによって、フランス語がどのような言葉であるかその全体像をつかむことを目指します。	
	フランス語Ⅰ(会話)	「フランス語Ⅰ(会話)」と「フランス語Ⅰ(文法・講読)」は、1冊の教科書を共通して使用する連動した授業です。この2つの授業を通して、フランス語学習1年目は、フランス語でコミュニケーションをとるために必要な4技能(聞く・話す・読む・書く)の基礎を効率よく身に付けていくことを目的とします。「フランス語Ⅰ(会話)」では、日常の会話に必要な語彙と表現(キーセンテンス)、正しいフランス語の発音、そして聞き取り能力を身に付けることに重点を置いて授業を行っていきます。「フランス語Ⅰ(文法・講読)」では、文法項目をより詳しく学んでいきます。	
	フランス語Ⅱ(会話)	「フランス語Ⅱ(会話)」と「フランス語Ⅱ(文法・講読)」は、連動した授業です。この2つの授業を通して、フランス語でコミュニケーションをとるために必要な4技能(聞く・話す・読む・書く)をさらに身に付けていくことを目的とします。「フランス語Ⅱ(会話)」では、日常の会話に必要な語彙と表現(キーセンテンス)、正しいフランス語の発音、そして聞き取り能力を身に付けることに重点を置いて授業を行っていきます。文法項目は「フランス語Ⅱ(文法・講読)」でより詳しく学んでいきます。	
	ドイツ語ⅠA	第一にドイツ語を発音できること、第二にドイツ語を理解し活用させるために初級ドイツ文法をひとつお習得すること、これを目標とします。その文法内容は、前期ではドイツ語技能検定試験、いわゆる独検の4級程度(必要な語彙は約500語)、後期では独検の3級程度(必要な語彙は約1500語)に相当します。さらに文法の学習にとどまらず、それを活用させることで、日常会話においても簡単な意思の伝達ができるようになってください。時間の許す限り、消化しやすいようにゆっくと進み、ていねいに説明し、わかりやすい授業をめざします。	
	ドイツ語ⅡA	テキストは、ハインリヒ・ベル(1917-1985)の『蒼白きアンナ』で、短編二編がおさめられています。授業の主たる目的は、「ドイツ語ⅠA」、「ドイツ語ⅠB」で学習したドイツ文法を確実なものにするとともに、ドイツ語の書き言葉に慣れ親しんでもらうことです。簡潔な文章で少し、慣れるまでは丁寧にやります。ドイツ語を学習しつつ、話も楽しんでもらえれば、と思っています。とはいえ、明るい話というわけではありませんが、また折を見て、「ドイツ語ⅠA」、「ドイツ語ⅠB」でやり残した文法事項(接続法等)を説明します。	
	ドイツ語ⅠB	「ドイツ語ⅠA」と同じテキストを用います。初級ドイツ文法を踏まえて、ドイツ語圏とその文化を紹介する簡単なドイツ語のテキストを読み進めたり、練習問題を解いたりします。さらに、数百語ぐらいのドイツ語の語彙力も身につけてもらいます。日常会話であいさつしたり、自己紹介したり、相手に質問したり、簡単な意思の伝達ができるようになってください。「ⅠA」と同様に、消化しやすいようにできるだけゆっくと進み、ていねいに説明し、わかりやすい授業をめざします。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ドイツ語ⅡB	学生が自分の日常生活をドイツ語で表現できるようになることを目指します。テキストのドイツ語文は、やさしい日常会話が中心です。どんどん練習して、どんどん慣れて、どんどん覚えていきましょう。あわせて独作を練習してゆきます。その教材はプリントの形でこちらで用意します。またドイツについての基本情報、ドイツ文化圏の過去の著名人、学校制度等、ドイツについて適宜紹介していきたいと思っています。	
	中国語（初級）	この授業は、初めて中国語を学ぶ学生を対象としています。授業の内容は中国語の発音、基礎文法、基礎会話となります。授業は基礎会話を中心に、一年間勉強した後、日常会話ができるように進む予定です。そのため、習った会話を声を出して朗読、暗誦し、更に暗誦したものを使って会話の練習を行います。授業の時間を有効に利用するため、予習、復習を欠かさずに取り組んでほしいです。	
	中国語（中級）	この授業は初級中国語を終えた学生を対象とします。この授業では初級に習った内容を復習しながら、中級に習得すべき内容を勉強します。初級に比べてより豊かな表現力、読解力、リスニング、実用的な会話力、応用力をアップさせるのが目的です。また、授業の内容にあわせて、中国の文化や現代社会なども紹介したいと思います。	
	韓国語（初級）	韓国語を初めて学ぶ方を対象にしています。一年間で、韓国語の文字であるハングルと発音、韓国語の文法の基礎を学びます。具体的には、「基本語彙を覚える」「用言の基本活用（現在形、過去形）をマスターする」「基本文型を覚える」ことによって、「韓国語で日常会話ができるようになる」ことを目標としています。	
	韓国語（中級）	韓国語の初級レベルを学習した方を対象にしています。一年間で、中級レベルの文法や語彙表現を学び、「高度で総合的なコミュニケーションスキルを身につける」ことを目標とします。この授業では、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能のバランスを意識した学習をします。各課の内容に従って中級レベルの語彙と文法を徹底的に練習し、一つの課が終わるとその課に出てきた表現を使って、作文と会話の練習をします。また、韓国語力をより高めるために、言葉だけでなく韓国の文化や事情も紹介します。	
学部 共通 科目	子どものイメージ	子ども像・子ども観の研究。絵本・童話・マンガ・アニメ・TVなどの具体例から、主人公の「子ども像」や作者の「子ども観」を読み取る。「子どもの誕生」と呼ばれる心性史の基本的な発想を説明した後、子どものイメージの主要なタイプ（類型）として「成長する子ども」「無垢な子ども」「異化する子ども」を取り上げ、児童文学からサブカルチャーまで、クロスメディア時代の実例を考察する。それを通して子どもおよび人生の諸時期のとらえ方が時代や社会によって多様に変遷していることを理解する。	
	子どもとファンタジー	ファンタジーおよび想像力の研究。児童文学ファンタジー作品を主要な題材としながら、神話、伝説など口承文芸と通底するファクターを探るとともに、現代のアニメ化・映像化における意味づけの変容なども見てゆく。合わせて、絵本やTVの登場人物を、子どもがどのように現実と連関させているのか、「リアル」と想像力の問題について理解を深めることを目的とする。遊園地の着ぐるみショー、ゆるキャラ、聖地巡礼、TDL、テーマパークなど夢の圏内にとどまらず、実体化・環境化した想像力のあり方にまで視野を広げて考察する。	
	子育て支援論	現代社会における子育て支援をめぐる問題とその背景について理解を深めることを前提とする。次に、子育て家庭への支援、社会的子育てへの支援など、子育て支援の基本姿勢とその理論、支援技法、支援の実践について学ぶ。子育て支援に関わる専門職の資質について検討する。また行政施策としての地域子育て支援のこれまでを学びながら、子育て支援の課題を理解し、それを充実させるために何か必要かを履修生がそれぞれに考えていく。	
	発達と文化	人間の認識・行動には、大きな文化差があることが知られている。本講では認識・行動の形成・発達には個体が活動する文脈（文化的環境、生活世界）に大きな影響を受けることを学ぶと共に、その過程を理解して、必要に応じてその影響をコントロールする方法を学び、適切な支援のあり方を追求する。その際、人間の発達にとって「文化とは何か」ということの理解を通して、人間の生物学的側面と文化的側面の統合的理解こそが発達および発達支援の根幹であることを学ぶ。	
	学校と発達	学校が子どもの発達をどのように方向づけているのかについて、例えば、就学が当たり前ではない文化圏の子どもの比較によって、また、教育によって形成される知識と日常的な経験から形成される知識との対比などによって、考察する。さらに、学校および学級の仕組み自体やそこにおける人間関係の特質を見たらうで、子どもの成長・発達を導く環境として学校がどのようにあるべきかについても検討する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	家庭の教育・地域の教育	家庭におけるしつけや、地域における生業に向けた修練は、かつて、子どもの発達を方向づける重要な役割を果たしていた。いっぽう現在、学校教育と相補いながら子どもの発達を支えていく役割を期待されている家庭教育・地域の教育ではあるが、家庭や地域の実態が大きく変貌したことを前提にすれば、それらが果たす役割も自ずと変わらざるを得ない。親子関係・家族関係、地域の子育ての仕組み・社会教育的取り組みなどを概観しながら、家庭教育や地域の教育のこれからの役割について考察する。	
専門科目 必修科目	心理学概論A	個人の心の構造（成り立ち）と機能（働き）について理解することが本講義の目的である。まず、心理学が形成してきた人間観を提示し、いかに個人が社会と不可分な存在であるかを理解したうえで、心の成り立ちを「知覚・記憶・学習」という認識のメカニズムの観点から学ぶ。さらに、認識の個人差の問題を「知能・性格」という観点から理解すると共に、心の「発達」における年齢差も個人差のひとつとして理解されることを学ぶ。最後に「臨床」心理学の視点が心を理解する起点になることを学ぶ。	
	心理学概論B	心理学とは何か、本講義では「他者と関わる心のメカニズム」を軸に心理学諸領域の知識や考え方を心理学全体の中に位置づけ、体系的に講義する。専門書領域に進む上での基礎知識から最新動向まで丁寧に解説する。心理学の基礎的考え方、理論、方法論を学ぶことによる心理学のおもしろさを発見していくこと、現代社会の諸現象を心理学の視点から捉え、社会生活を豊かにしていくための活用に結びつける視点を学ぶことを目指す。	
	発達心理学基礎演習A	心理学の文献を読んで理解することや心理学データを分析することを演習形式で学習する。発達心理学の基本的論文（日本語）を読むことを通じて、学術論文の構成や心理学の基本的概念、専門用語などを学ぶ。また、心理学の研究手法（実験、観察、調査、検査など）を体験的に概観した上で、心理統計への導入として確率や統計的データの記述について学ぶ。 (5 秦野悦子) 学術論文の構成や心理学の基本的概念、専門用語などを担当 (3 鈴木忠) 心理統計への導入として確率や統計的データの記述を担当 (8 真栄城和美) 心理統計への導入として確率や統計的データの記述を担当	共同
	発達心理学基礎演習B	心理学の文献を読んで理解することや心理学データを分析することを演習形式で学習する。発達心理学の基本的論文（日本語）を読むことを通じて、学術論文の構成や心理学の基本的概念、専門用語などを学ぶ。また、心理学の英語の論文を読むことを通じて、日本語の概念や専門用語が英語ではどのような概念であり理論的背景、実証的根拠をもつかを理解する。 (8 真栄城和美) 日本語論文を担当 (5 秦野悦子) 英語論文を担当 (3 鈴木忠) 英語論文を担当	共同
	心理統計学 I A	心理学の基本的な方法論である心理統計学を学ぶ。統計学はデータから意味のある情報を抽出するための道具である。授業では統計学の基本概念を中心に学習する。統計学は統計を行なうためのソフトウェアを適切に扱う技能が必要とされる。そのため、授業は講義形式ではあるが、統計ソフトを組み込んだパソコンの設備のある教室で、必要に応じてコンピュータ操作をしながら進める。	
	臨床心理学概論	臨床心理学の歴史について概観し、続いて、現代における心理療法の基本的な考え方について、精神分析的な考え方や遊戯療法、箱庭療法などについて解説する。さらに、パーソナリティ検査の用い方を含めて、アセスメントの実施方法や解釈の方法について解説する。	
	発達心理学概論A	人間の生涯にわたる発達の基盤をつくる重要な発達時期のあり方を講義形式で教授する。また、急速な個体発生を遂げる中で見えてくる発達の法則や原理を理解するために、胎児期から乳幼児期、児童期について概説する。特に胎児期と新生児期に見られる生物学的基盤、乳幼児期から児童期において大きな影響を及ぼす社会文化的な影響要因などを詳しく説明する。	
	発達心理学概論B	人間の発達を生涯発達の視点から捉え、乳幼児期から老年期に至るまで人間がどのように発達し歳をとっていくかについての基本的な考え方やそれを実証するための方法論、基本的な知見を学習する。おもに生涯発達の後半に焦点をあてる。青年期から成人となり、家族をつくって次世代を育て加齢していく発達の變化を講義形式で学習する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	発達臨床心理学概論	近年、知的遅れのない発達障害児の客観的評価法と支援方法が注目され、また、心因性障害の原因と対応についても、見直しの必要性が生じている。そのことを踏まえて本講義では、精神遅滞、AD/HD（注意欠如多動性障害）、ASD（自閉症スペクトラム障害）、LD（学習障害）、およびその周辺児を中心に、認知発達の障害、アセスメントと治療教育、家族や学校での問題等を解説する。また、乳児から青年の過程で生じる行動上の問題とその背景について説明する。	
	心理学実験観察演習Ⅰ	（概要）心理学研究に用いられる方法（実験、観察、調査、検査など）を小グループに分かれて実地に学習する。おもに学生自身が実験や調査の参加者となってデータをとり、それを統計的な手法を用いて集計・分析し、結果に考察を加えてレポートにまとめるという作業を行う。それを方法ごとに繰り返すことにより、心理学研究の基本的な方法を身につける。 （オムニバス方式／全30回） （4 田島信元／15回） 保育所・幼稚園観察を担当 （3 鈴木忠／15回） 心理学実験を担当 （8 真栄城和美／15回） 心理学実験を担当 （9 中石康江／15回） 性格検査・知能検査を担当	オムニバス方式・共同
	心理学実験観察演習Ⅱ	（概要）心理学研究に用いられる方法（実験、観察、調査、検査など）を小グループに分かれて実地に学習する。おもに学生自身が実験や調査の参加者となってデータをとり、それを統計的な手法を用いて集計・分析し、結果に考察を加えてレポートにまとめるという作業を行う。それを方法ごとに繰り返すことにより、心理学研究の基本的な方法を身につける。 （オムニバス方式／全30回） （5 秦野悦子／15回） 観察を担当 （7 波多江洋介／15回） 実験を担当 （10 平沼晶子／15回） 調査を担当 （11 村田朱美／15回） 調査を担当	オムニバス方式・共同
	心理統計学ⅠB	心理学の基本的な方法論である心理統計学を学ぶ。統計学はデータから意味のある情報を抽出するための道具である。授業では統計学の中心的課題である統計的検定について学習する。統計学は統計を行なうためのソフトウェアを適切に扱う技能が必要とされる。そのため、授業は講義形式ではあるが、統計ソフトを組み込んだパソコンの設備のある教室で、必要に応じてコンピュータ操作をしながら進める。	
	心理統計学Ⅱ	心理学の基本的な方法論である心理統計学を学ぶ。統計学はデータから意味のある情報を抽出するための道具である。授業では分散分析や因子分析など、さまざまな統計モデルに触れながらデータ分析の方法を学ぶ。授業は講義形式ではあるが、統計ソフトを組み込んだパソコンの設備のある教室で、必要に応じてコンピュータ操作をしながら進める。	
	論文講読基礎演習	心理学の研究論文を精読する演習形式の授業である。基本的な論文の構成（目的と研究手法の結びつき）を理解し、心理学の代表的な研究方法、分析方法や結果の解釈、考察のあり方を学習する。受講者は3つのグループに分かれ、3名の担当教員がローテーションで指導をする。与えられた論文を精読し、研究計画を立てて発表を行う。 （10 平沼晶子） 発達心理学領域を担当 （9 中石康江） 発達臨床心理学領域を担当 （11 村田朱美） 臨床心理学領域を担当	共同
	英語論文講読演習	受講者は3つのグループに分かれ、心理学の基本的な理論や方法論、あるいは重要な知見に関係する実証的な英語論文を演習形式で講読する。心理学は欧米の英語圏での研究が最先端であり、それを読んで理解することのできる英語論文読解力をつけることを目標とする。記載されている内容を邦訳するとともに、自分の言葉で説明できるようにする。	共同
	キャリア研究	単なる就職指導ではなく、生涯発達と関連づけて、学生が自分自身の将来の生き方（女性のライフコース）を考える授業である。アカデミック・パス（生涯発達心理学の学習）と、卒業後の自分のキャリア・パスとをつなぐ位置づけである。社会にでて働いている人をゲスト・スピーカーとして招き、その話をめぐって討論をする演習形式を基本とし、何回かのみまとめとして講義を行う。 （5 秦野悦子） 女性のライフコースを担当 （3 鈴木忠） 生涯発達心理学の学習を担当 （104 中山千秋） ゲストスピーカーを担当	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目	心理学研究法演習Ⅰ	発達心理学研究をするために用いられる方法の中から、実験法、行動観察法、質問紙調査法、質的方法などの基礎理論と実践的技法を学習する。履修者は3グループに分かれて担当教員をローテーションし、演習形式で授業を行う。心理学論文の探し方、研究テーマの見つけ方、目的に即したデータの収集と分析のしかた、結果の書き方とレポートのまとめ方を学習する。データの分析に際してはティーチング・アシスタントが補助指導にあたる。	共同
	心理学研究法演習Ⅱ	「心理学実験観察演習Ⅰ」、「Ⅱ」を基礎として、ケース観察法などの質的資料の分析などを補い、また、量的分析における統計パッケージの使用法を復習しながら、受講者自身の研究テーマを立て、それを発達心理学研究として具現化する過程を指導する。受講者は3グループに分かれて演習形式で授業を行う。受講者は担当教員の指導をうけながら、必要な文献を読み、方法を決定し、データを収集し、分析を行い、結果を解釈して研究レポートを作成する。	共同
	認知心理学	認知心理学の簡単な課題を行いながら、講義形式で、認知心理学の主要な領域の理論と基本的知見について学習する。おもな領域は、パターン認識と注意、記憶のメカニズム、概念、問題解決、推論、メタ認知、創造性、熟達化、文章理解、認知と感情の関係などである。また、脳科学との関連についても解説するとともに、教育場面への応用も視野におさめた講義を行う。	隔年
	パーソナリティ心理学	パーソナリティ研究の基本的な方法論である心理測定学と個人差研究の考え方を理解するとともに、パーソナリティ研究のおもな理論と基本的知見を講義する。おもなトピックとしては、パーソナリティの類型論、特性論、構造論、状況主義と相互作用論、遺伝と環境、文化とパーソナリティなどがある。	隔年
	社会心理学	人は社会の中でさまざまな集団に所属し、他者とかかわりながら生きている。その際に自己のある側面を他者から隠したり、逆にアピールしたりする。社会や人間関係の文脈の中で、人の行動や心理にはどのような特徴があるのだろうか。社会心理学の基本的な理論と古典的な実験とともに、最新の研究成果に触れながら、講義形式で概説する。自己評価や対人認知、ステレオタイプ、態度、コミュニケーションや援助行動、攻撃行動、集団と人間、文化と人間などについて概説する。	隔年
	臨床心理学	重要な基礎理論と実践内容について学び、さらに、治療から予防、発達促進的な援助論へと展開する現代臨床心理学を理解することを目指す。心理査定、臨床心理面接、コミュニティーアプローチ、研究方法などを解説する。それぞれのテーマについて、基礎的な理論を学習し、実践的な事例を通してその活用について講義する。	隔年
	教育心理学	この科目では、教職課程における基礎的な理解として、人間の心や行動のしくみについて心理学の基礎理論を学ぶこととともに、教育を受ける側である幼児、児童が学ぶこととその意欲、幼児、児童の心身の発達や学習の過程について理解することを目的としている。また、教員や保育がおかれている状況を総合的・数量的に把握し、その問題の解決を支援するための方略等を学んで行く。授業では、学びと教育の関係を一貫して取り上げ、教育や保育の現場で教師に求められている、子どもたちの心や行動の問題について、一人ひとりの個性や能力を理解したり集団の中の人間関係などを理解したりしながら、それぞれに合った支援をしていく力をもった教員や保育士を目指していく。	
	発達心理学特講A	発達心理学の主要な理論やアプローチ、あるいは先端的の研究など、当該領域の研究者による講義を通して、専門的な知識を学ぶ。人間発達の諸側面（生理神経学・認知・人格・社会性など）、あるいは人間発達の特定の時期についてなど、絞られた領域・テーマについて、基本知識を踏まえた上で、より高度な知識を獲得することを目指す。あわせて最先端の研究・分析手法にも触れ、理解を深めることを目指す。	隔年
	発達心理学特講B	発達心理学の主要な理論やアプローチ、あるいは先端的の研究など、当該領域の研究者による講義を通して、専門的な知識を学ぶ。人間発達の諸側面（生理神経学・認知・人格・社会性など）、あるいは人間発達の特定の時期についてなど、絞られた領域・テーマについて、基本知識を踏まえた上で、より高度な知識を獲得することを目指す。あわせて最先端の研究・分析手法にも触れ、理解を深めることを目指す。	隔年
	発達心理学特講C	発達心理学の主要な理論やアプローチ、あるいは先端的の研究など、当該領域の研究者による講義を通して、専門的な知識を学ぶ。人間発達の諸側面（生理神経学・認知・人格・社会性など）、あるいは人間発達の特定の時期についてなど、絞られた領域・テーマについて、基本知識を踏まえた上で、より高度な知識を獲得することを目指す。あわせて最先端の研究・分析手法にも触れ、理解を深めることを目指す。	隔年
発達心理学特講D	発達心理学の主要な理論やアプローチ、あるいは先端的の研究など、当該領域の研究者による講義を通して、専門的な知識を学ぶ。人間発達の諸側面（生理神経学・認知・人格・社会性など）、あるいは人間発達の特定の時期についてなど、絞られた領域・テーマについて、基本知識を踏まえた上で、より高度な知識を獲得することを目指す。あわせて最先端の研究・分析手法にも触れ、近いを深めることを目指す。	隔年	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	精神医学特講	本講義では、学部卒業後に精神病院、一般病院などの臨床現場に出た時に必要とされる、専門家として最低限の知識を習得することを目標とする。まず、精神医学の歴史、精神障害者の実態、入院等に関わる法的な知識、薬物療法を学ぶ。さらに、各論として統合失調症、双極性感情障害といった精神病からパニック障害、強迫性障害、パーソナリティ障害などの知見を深めることによって、疾患によって異なる対処法を学ぶ。	隔年
	発達障害特講	発達障害に含まれる学習障害（LD）、注意欠如/多動性障害（ADHD）、自閉症スペクトラム障害（ASD）の概念の変遷に触れ、現在の考え方、特性を学ぶ。その上で発達障害児の乳幼児期から老年期までの各発達期を理解し、必要な支援は何かを考えたい。支援については、発達障害児・者についてこれまでに工夫された諸支援技法とその適用について、また、親・兄弟の支援、さらに学校・地域・職場など、どう援助が得られるか広く学ぶ。	隔年
	発達臨床心理学特講A	発達臨床に関する理論と重要な概念、特に精神分析的なアプローチをとる種々の療法の実践的な事柄について、実践に携わる臨床家による講義を通して学ぶ。臨床実践の背景にある理論と基礎的な概念の理解を深めるとともに、具体的な症例の解説を通して、臨床実践の技術についての知識も身に着ける。あわせて倫理的配慮など、臨床家として求められる姿勢についても理解する。	隔年
	発達臨床心理学特講B	発達臨床に関する理論と重要な概念、特に教育相談や地域発達支援等の場で出会うことの多い症例（神経心理学的障害・情緒的な問題など）に対する支援について、実践に携わる臨床家による講義を通して学ぶ。臨床実践の背景にある理論と基礎的な概念の理解を深めるとともに、具体的な症例の解説を通して、臨床実践の技術についての知識も身に着ける。あわせて倫理的配慮など、臨床家として求められる姿勢についても理解する。	隔年
演習科目	発達心理学演習A	発達心理学のいくつかのテーマについて国内外の文献を精読し、演習形式で討論を行う。人間の発達プロセスについての深い理解を目指すほか、発達心理学に関する重要な理論や概念、また人間発達に関する現代社会の問題についての専門的な知識を身につける。発達支援の問題意識を持ちつつ、自分なりの視点で意見を持つことを目指す。同時に、プレゼンテーションのスキルや他者の意見に耳を傾けながら自分の意見を述べる討論の技術を身につける。	
	発達心理学演習B	発達心理学のいくつかのテーマについて国内外の文献を精読し、演習形式で討論を行う。人間の発達プロセスについての深い理解を目指すほか、発達心理学に関する重要な理論や概念、また人間発達に関する現代社会の問題についての専門的な知識を身につける。発達支援の問題意識を持ちつつ、自分なりの視点で意見を持つことを目指す。同時に、プレゼンテーションのスキルや他者の意見に耳を傾けながら自分の意見を述べる討論の技術を身につける。	
	発達心理学演習C	発達心理学のいくつかのテーマについて国内外の文献を精読し、演習形式で討論を行う。人間の発達プロセスについての深い理解を目指すほか、発達心理学に関する重要な理論や概念、また人間発達に関する現代社会の問題についての専門的な知識を身につける。発達支援の問題意識を持ちつつ、自分なりの視点で意見を持つことを目指す。同時に、プレゼンテーションのスキルや他者の意見に耳を傾けながら自分の意見を述べる討論の技術を身につける。	
	発達心理学演習D	発達心理学のいくつかのテーマについて国内外の文献を精読し、演習形式で討論を行う。人間の発達プロセスについての深い理解を目指すほか、発達心理学に関する重要な理論や概念、また人間発達に関する現代社会の問題についての専門的な知識を身につける。発達支援の問題意識を持ちつつ、自分なりの視点で意見を持つことを目指す。同時に、プレゼンテーションのスキルや他者の意見に耳を傾けながら自分の意見を述べる討論の技術を身につける。	
	発達心理学演習E	発達心理学のいくつかのテーマについて国内外の文献を精読し、演習形式で討論を行う。人間の発達プロセスについての深い理解を目指すほか、発達心理学に関する重要な理論や概念、また人間発達に関する現代社会の問題についての専門的な知識を身につける。発達支援の問題意識を持ちつつ、自分なりの視点で意見を持つことを目指す。同時に、プレゼンテーションのスキルや他者の意見に耳を傾けながら自分の意見を述べる討論の技術を身につける。	
	発達心理学演習F	発達心理学のいくつかのテーマについて国内外の文献を精読し、演習形式で討論を行う。人間の発達プロセスについての深い理解を目指すほか、発達心理学に関する重要な理論や概念、また人間発達に関する現代社会の問題についての専門的な知識を身につける。発達支援の問題意識を持ちつつ、自分なりの視点で意見を持つことを目指す。同時に、プレゼンテーションのスキルや他者の意見に耳を傾けながら自分の意見を述べる討論の技術を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	発達心理学演習G	発達心理学のいくつかのテーマについて国内外の文献を精読し、演習形式で討論を行う。人間の発達プロセスについての深い理解を目指すほか、発達心理学に関する重要な理論や概念、また人間発達に関する現代社会の問題についての専門的な知識を身につける。発達支援の問題意識を持ちつつ、自分なりの視点で意見を持つことを目指す。同時に、プレゼンテーションのスキルや他者の意見に耳を傾けながら自分の意見を述べる討論の技術を身につける。	
	発達心理学演習H	発達心理学のいくつかのテーマについて国内外の文献を精読し、演習形式で討論を行う。人間の発達プロセスについての深い理解を目指すほか、発達心理学に関する重要な理論や概念、また人間発達に関する現代社会の問題についての専門的な知識を身につける。発達支援の問題意識を持ちつつ、自分なりの視点で意見を持つことを目指す。同時に、プレゼンテーションのスキルや他者の意見に耳を傾けながら自分の意見を述べる討論の技術を身につける。	
	発達心理学演習I	発達心理学のいくつかのテーマについて国内外の文献を精読し、演習形式で討論を行う。人間の発達プロセスについての深い理解を目指すほか、発達心理学に関する重要な理論や概念、また人間発達に関する現代社会の問題についての専門的な知識を身につける。発達支援の問題意識を持ちつつ、自分なりの視点で意見を持つことを目指す。同時に、プレゼンテーションのスキルや他者の意見に耳を傾けながら自分の意見を述べる討論の技術を身につける。	
	発達心理学演習J	発達心理学のいくつかのテーマについて国内外の文献を精読し、演習形式で討論を行う。人間の発達プロセスについての深い理解を目指すほか、発達心理学に関する重要な理論や概念、また人間発達に関する現代社会の問題についての専門的な知識を身につける。発達支援の問題意識を持ちつつ、自分なりの視点で意見を持つことを目指す。同時に、プレゼンテーションのスキルや他者の意見に耳を傾けながら自分の意見を述べる討論の技術を身につける。	
	発達心理学演習K	発達心理学のいくつかのテーマについて国内外の文献を精読し、演習形式で討論を行う。人間の発達プロセスについての深い理解を目指すほか、発達心理学に関する重要な理論や概念、また人間発達に関する現代社会の問題についての専門的な知識を身につける。発達支援の問題意識を持ちつつ、自分なりの視点で意見を持つことを目指す。同時に、プレゼンテーションのスキルや他者の意見に耳を傾けながら自分の意見を述べる討論の技術を身につける。	
	発達心理学演習L	発達心理学のいくつかのテーマについて国内外の文献を精読し、演習形式で討論を行う。人間の発達プロセスについての深い理解を目指すほか、発達心理学に関する重要な理論や概念、また人間発達に関する現代社会の問題についての専門的な知識を身につける。発達支援の問題意識を持ちつつ、自分なりの視点で意見を持つことを目指す。同時に、プレゼンテーションのスキルや他者の意見に耳を傾けながら自分の意見を述べる討論の技術を身につける。	
	心理検査法A	心理検査は大きく2つに分けられるが、「心理検査法A」ではその一つ能力検査という観点で検査を学ぶ。能力検査に含まれるものは内容別に、認知検査・知能検査・発達検査・視知覚検査・社会性検査など具体的検査を広く取り上げる。各検査の概要、施行法、結果の出し方、解釈法など講義を聞くのみではなく、演習し、臨床利用という観点から種々のケースの検査例を通してアセスメントの基礎能力をつける。	
	心理検査法B	心理検査は大きく2つに分けられるが、「心理検査法B」ではその一つパーソナリティ検査という観点で検査を学ぶ。パーソナリティ検査に含まれるものは方法別に質問紙法、作業検査法、投射法に分類されるが、その代表的検査について取り上げる。各検査の概要、施行法、結果の出し方、解釈法について講義を聞くのみではなく演習により学修を深める。臨床においては多くの研修が必要になるが、その基礎を学ぶ。	
	臨床心理学演習A	心理療法を行うにあたって必要な面接技法、「繰り返し」「開かれた質問」「直面化」「解釈」などに関して演習を行う。また、心理療法の実例を題材に、クライアントの心理をどのように理解すればよいのかについて議論を行い、治療者の役割についても議論を行う。さらに、評価的行動観察を中心に、アセスメントの実施方法や解釈の方法について、演習を行う。	
	臨床心理学演習B	発達障害研究や心理療法などについて、広く臨床心理学についての基礎文献を演習形式で講読し、実際の事例にもとづきながら、治療者の役割について議論し、面接技法について演習を行う。アセスメントや検査、治療教育、カウンセリングなどの方法を学ぶとともに、行動応用分析など各種の支援技法についても学ぶ。乳幼児から青年の過程で生じる行動上の問題とその背景について、受講者の間での討論を通じて理解を深める。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	臨床心理学演習C	発達障害研究や心理療法などについて、広く臨床心理学についての基礎文献を演習形式で講読し、実際の事例にもとづきながら、治療者の役割について議論し、面接技法について演習を行う。アセスメントや検査、治療教育、カウンセリングなどの方法を学ぶとともに、行動応用分析など各種の支援技法についても学ぶ。乳幼児から青年の過程で生じる行動上の問題とその背景について、受講者の間での討論を通じて理解を深める。	
選択科目	子ども観察	発達心理学および発達科学は人間の変化過程について実証的な資料の収集・分析を通して明らかにすることを目的としている。その実証の方法の根幹には「観察法・面接法」が位置づけられており、そこから始まり他の方法が意義をもつことになる。授業では、こうした心理学的方法論を展望すると共に、観察法に焦点をしばり、参加者の自主的、自発的な個人的活動を基盤とした資料の収集・分析を奨励し、参加者間での共有体験の場とする。	
	児童文化・民俗と子ども	民俗学や文化人類学の立場から子どもとは何かを考えることを目標とする。伝統的な日本社会での子どもの扱われ方や、子どものもつ意味について検討し、子どもの成長に伴う儀礼やしつけのあり方をみる。合わせて、子どもをとりまく存在としての家族や親子関係について検討する。さらに他文化の子どもをみることにより子どもの多様性についても考える。子どもをもつことの意味、女性と子どもの問題など現代社会の問題も含めて検討する。	
	児童文化・子ども社会学	ヨーロッパおよび日本の歴史と社会の中で、子どもがどのように理解されてきたのか、幅広い文脈から考察することを目的とする。子ども観、子育て、子ども文化の観点から子ども研究の世界的動向をつかむことで、問題となるトピックを抽出し、社会史、文化史、教育史的な観点からの解釈を試みる。これにより、従来の学説や研究視点からは見えなかった子ども史の社会史的基盤の再検討を行い、現代社会における子どもの発達と教育をめぐる諸問題を考える手立てとする。	
	児童文化・子ども論	子どもは社会や文化のなかで、どのような存在として認識されてきたのか、すなわち「概念としての子ども」を探ることにより、子ども観の多様性や可変性を知り、子どもを「再発見」していく。毎回、子どもをめぐる時事的なトピックスを取り上げ、子どもの同時代(史)を子どものイメージやシンボル、子どもをめぐる言語、歴史、人口問題と家族、法と権利、情報化、科学技術、消費文化、国際化、市場経済の観点から分析し、「現代における子どもの育ち」、「子ども期と大人期の境界」、「子どもが大人になることの意味」を考える。	
	卒業論文	発達心理学の先行研究を踏まえて自分で研究テーマを設定し、指導教員の指導のもと、学習した研究方法(実験、観察、質問紙調査など)を使ってデータを収集し、分析をし、結果を考察する。これまでに学んだ実証的論文の書き方にそって、論文を作成する。データの分析はティーチング・アシスタントの補助をうけることができる。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要			
(人間総合学部 初等教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
宗 教 学 科 目	キリスト教学Ⅰ	本学に入學した皆さんが、大学生活を意義あるものにし人生を深めていくために、私たちの生きる基盤がどこにあるのかをキリスト教を通じて学びます。旧約・新約聖書の主要な箇所を中心に関連するさまざまな媒体（映画・文学・音楽・絵画）を用いながら、知性と感性の両面から私達を本当の意味で生かし自由にする真理とは何かを考え、いのちの源となる存在を知ることが目的です。また、新しい生活にスムーズに溶け込めるよう、授業の初めに毎回コミュニオン時間を設けて、開かれた自己理解と他者理解を目指します。	
	キリスト教学Ⅱ	新約聖書のマルコ福音書を読みながら、イエスが当時の人々に語られたこと、行われたことを通して、イエスがどんな人に心を向け、何を大切にされたのかを学んでいきたい。そして、それが私にどのような意味があるのかを考えていきたい。イエスとそのメッセージが学生のこれからの生き方に力を与え、支えとなるように、単に知的レベルにとどまらず、心で味わっていけるように工夫していきたい。イエスが私たち人間に無関心な方ではなく、それどころか、イエスが私に、私の人生にあきらめない方、私の生命を支えている方、私の心に響き合える方であることを味わうことができれば、前に進む力が生まれるのではないだろうか。また、イエスが十字架を引き受けていかれる姿の中に、私たちの罪や悪を受けていかれるイエスの受け身の生き方に、むしろ強く積極的な愛の姿があることに気づくのではないだろうか。イエスとそのメッセージが希望をもたらすものとなるように配慮していきたい。	
	宗教学ⅠB	家庭は人類社会の基盤であり人間の基本的ニーズに最も深い関わりを持っています。「人類の将来は家庭を通して過ぎこしていく」（ヨハネ・パウロ二世）。その家庭が多様化と相対化の流れの中で方向を見失い弱体化し、あなたも波間に漂う小さな船のように、今日危機に曝されています。結婚、家族、そこで育まれるいのち、子育て、仕事、高齢化社会…、それら一つ一つが「課題」と化しました。家族という小さな共同体において、親子、夫婦、高齢者がどのように相互に親密で自由な関わりを育てることが可能なのでしょうか。その基盤である自己をどう受容することから始まるのでしょうか。この一年間、これから社会に巣立とうとしている皆さんの近い将来の問題として人生の様々な局面に現れる家族の課題を正面から取り上げながら、愛といのちの絆である家庭、その光と影を一緒に考察する機会としていただきたいと思います。	
	宗教学ⅠC	キリスト教とユダヤ教の聖典であり、また、世界の古典文学としても名高い旧約聖書の歴史物語を読み、そこに登場する男と女の人物像の読み取りを行います。その作業を通して、自分自身の人間理解を深めることが授業の目標です。旧約聖書は2000年以上も前にまとめられた書物ですが、そこに描かれる家族、国家、社会の問題は、その後の世界の歴史に繰り返し現れ、また現在私たちが直面することもあるものです。物語の考察を通して、その克服の道を探ります。	
	宗教学ⅠD	キリスト教は2000年を超える歴史の中で、哲学や思想、文学、心理学や精神医学など多様な分野に大きな影響を及ぼしてきました。その影響関係は、時に緊張を孕んだものでありましたが、いずれの分野においても相互に人間理解・存在理解を深めてきたと言えます。この授業では、キリスト教ないし宗教との対話を重ねた近世から現代にいたる哲学者・思想家について、信仰と理性の関係、神と人間との関係性を主題にして、時に時代を遡るかたちで宗教哲学の観点から学びます。合わせて背景となる時代状況ならびに同時代に与えた文化的影響にも目を配り、近現代の基本的な思想史・精神史の理解を深めることを目指します。	
	宗教学ⅠE	現代社会に生きる私たちにとって、世界の様々な問題を理解することはとても重要なこととなっています。近年の世界情勢や社会問題を考えてみても、実は宗教的背景を理解しないと出来事の意味がわからない場合がたくさんあり、基礎的な諸宗教や宗教文化に関する基礎教養や理解を持つことが必要となってきています。この授業ではそのような問題意識に立ち、具体的な映像や資料を用いながら学んでいく、「現代社会を生きるための宗教学」、「新聞やテレビのニュースの理解を助けるための宗教学」を目指します。また、世界宗教としてのキリスト教が歴史の中で果たしてきた役割やその現代的意味などについて宗教学の立場から考えていきますので、「キリスト教はちょっと苦手」、「少し離れた立場からキリスト教を見てみたい」という学生にとっても助けになるように進めていきたいと思えます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	宗教学 I F	「キリスト教は苦手だけれど、イエスという人には何となく惹かれる」という言葉をしばしば耳にします。キリスト教や聖書に関して、もう一度、全体としてその知識を整理し直してみたい、他の宗教のことも知った上でキリスト教を見つめ直してみたいなど、「社会に出る前に大学生としてこれだけは知っておきたい教養としてのキリスト教」が、この授業の一つのコンセプトです。同時に「宗教文化」に関する教養として、巡礼や文化遺産等を題材にキリスト教以外の諸宗教についても扱います。海外の美術館や教会・モスクなどの宗教施設を訪ねた際に、その中に隠されている意味を理解する為の基礎知識や、その背景にある人間の宗教性に気づく為の教養を、具体的な映像や画像を用いながら身につけていきます。	
	宗教学 I G	この講義では、近代日本の精神史におけるキリスト教の諸相を多角的に検討していきます。明治期に再宣教されたキリスト教が近代日本の形成期にどのように受容され、その後、日本の社会・思想・文化にいかなる影響をもたらしたかを主要なキリスト者、哲学者を軸として学びます。明治から昭和にかけての日本のキリスト教史を知るとともに、キリスト教を通して近代日本の精神史を理解することを目指します。授業内容に関連して、トピックとなるテーマを選んで任意で発表してもらうことがあります。	
	宗教学 I H	すべての人は幸福を求めています。あらゆる行為の目的をさかのぼっていくと、そこには「幸福」があるにちがいません。しかし、ほんとうの幸福はどこにあるのでしょうか。イエス・キリストの生涯と教えが記されている新約聖書の「福音書」は、まさに人間の「福」（さいわい）への「告知」（音）です。果たして、その福音は、どのような「幸せ」を語っているのでしょうか。本講義では、そのイエスの福音の核心にあるものをじっくり味わいながら、幸せな人となり、また他の人を幸せにできる道筋を考えてみます。	
	宗教学 I I	『源氏物語』は世界に類を見ないような、女流作家による大恋愛小説です。そこには人間の愛の歓びと悲しみ、愛執と罪、病と死が、物語の時間の中に細やかに描かれています。この講義では、登場人物、とりわけ女性たちの生き死にのありようと魂の救いの問題に注目します。これによって学生諸君は日本における「宗教と芸術・文化」の理解に進むことが期待できます。なお、全体は膨大なため、本講では、本編終わりの「幻」までを扱います。なお、本講義では、必要に応じて、源氏物語とキリスト教・西洋文化との対比をも扱います。	
	宗教学 I J	キリスト教美術の誕生から盛期中世に至るまでの歴史を学びます。この時代は、キリスト教を中心としたヨーロッパ文化が形成されていく時代で、ヨーロッパ文化の原点といえます。講義では、神の家である教会の建築と装飾、そして福音を記した書物として豪華な装飾が施された聖書写本の挿絵と装飾を中心に取り上げます。作品のもつ宗教性を味わい、芸術作品にこめられたキリスト教のメッセージについて考えます。	
	宗教学 I K	副題：歴史・思想・文化・社会活動からみたキリスト教 約2000年の歴史を持つキリスト教は、欧米の文化や思想などに大きな影響を与えてきました。現代社会においても、平和問題や国際協力、教育、福祉などの各分野の働きを通じてキリストの教えと精神を実践する動きも多く見ることが出来ます。この講座では、キリスト教の誕生以前の歴史から始まり、現代のキリスト教までを見ながら、キリスト教の宗教性や霊性、キリスト教が歴史の中で文化や芸術、思想などに与えた影響やキリスト教の諸活動や現代社会とのかかわりなどについて検証してゆきます。	
	宗教学 I L	キリスト教の中でもカトリック教会は、約2000年の歴史を持ち、教派の中でも最大の教会です。カトリック教会が、歴史の中で欧米の文化や思想に与えた影響は大きく、現代社会においても、平和問題や国際協力、教育、福祉などの分野などの働きを通じてキリスト教精神を実践する動きも見ることが出来ます。この講座では、カトリック教会の誕生以前のイエス・キリストの宣教から、現代の教会までを見ながら、カトリック教会の教えや霊性、宗教活動、文化や芸術、思想などに与えた影響やカトリック教会の社会的な活動や現代社会における働きについて検証してゆきます。	
	宗教学 I N	「心のケア」や「スピリチュアルケア」は現代の人にとって特に必要なものだ、と言われていた。この用語は精神的に痛む人に関して使われている。しかし、V・E・フラクルがかつて指摘したように、私たちはみなある意味で「Homo Patiens」（痛んでいる人間）である。したがって、このテーマをもっと広い意味(一般の私たちを含めて)で考えてみたい。そのために講義ばかりではなく、クレヨンや紙粘土を使用して、自分の心(自分の内面)の声に耳を傾けるためのエクササイズを行ってみたい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	宗教学 I P	この授業は、日本の文化の中で読み継がれてきた古代から江戸時代までの文学・詩歌・宗教思想などを読み直すことを通して、現在に生きる私たちの生と死をより深く理解しようとするものです。国際化と言われる時代だからこそ、私たちには自分たちの文化を養ってきた古人の言葉や思想に耳を傾け、そこに秘められた意味と可能性を学習することが不可欠です。この授業では膨大な日本人の文学・哲学・思想の中から、特に、悲しみの思想、死生観と宗教性という観点から下記の作品・思想の中心的な内容を学びます。これによって学生は「日本人の宗教と芸術・文化」のかかわりについて理解を深めることになるでしょう。	
	宗教学 I Q	キリスト教は「神の言葉に聴く」宗教であり、「聴く」芸術である音楽がとりわけ重視されてきました。心をもって聴くことで神と人間とが出会い、神への祈りや賛美の言葉が「歌う」という形で表現されました。西洋音楽はキリスト教の典礼と結びついて発展し、聖書にインスピレーションを汲みながら沢山の宗教音楽が生まれました。この授業では、J.S.バッハまでのさまざまなキリスト教音楽を歴史的な並びに主題的に学びます。同時に、曲だけでなく歌詞にも注意を払いながら、聖書の知識を深めていきます。音楽の背後にある神学的背景を知ることで、キリスト教理解を深めることを目的とします。また後半部では、キリスト教、特にカトリシズムの霊性についても概観する予定です。	
	宗教学 I R	『源氏物語』は世界に類を見ないような、女流作家による大恋愛小説です。そこには人間の愛の歓びと悲しみ、愛執と罪、病と死が、物語の時間の中に細やかに描かれています。この講義では、登場人物、とりわけ女性たちの生き死にのありようと魂の救いの問題に注目します。これによって学生諸君は日本における「宗教と芸術・文化」の理解に進むことが期待できます。なお、全体は膨大なため、本講では、本編終わりの「幻」までを扱います。なお、本講義では、必要に応じて、源氏物語とキリスト教・西洋文化との対比をも扱います。講義であつかわれる物語のテキストは原文と現代語訳を用いるので古語文法の理解は前提にしません。	
	宗教学 I S	この授業では前半は多様な音楽家たちの魂とおもに感性を通しての出会いを経験し、後半ではおもに知性を通してあなたにとって異性である男性と、セクシャルマイノリティーについて学びます。こうした多くの他者との交わりのプロセスを通して神が一人一人をユニークなものとして創造していることをあなたの感性と知性で確かめ、違った他者との共生時代を生きるセンスを養うことを目指します。	
	宗教学 I T (キリスト教的教育実践法)	この授業は教育という切り口からキリスト教を理解し、将来大人として教師としてまた母親として子どもに接する時の実践力、識別力を養成することを目指すものである。前期には人間の成長を段階的に考察しそこに込められたキリスト教的意味を問う。後期には日本の学校教育の歴史と現状を見わたし、みなさんが受けた教育を意識化する作業を行う。今までの人生の多くの時間を費やした教育というものを見直すことによって自分の中に蓄えられている力を再確認し、神の似姿として創造された人生を大切に生きていく準備をしようと思う。	
	宗教学 I X	宗教改革という言葉は、高校で世界史や倫理の授業を受けた方はどこかで聞いたことがあるでしょう。ルターやカルヴァンといった名前をご存じの方もいるかもしれませんが。西洋のキリスト教は宗教改革をきっかけにカトリックとプロテスタントに分かれました。この出来事は一見私たちと関係ないように思えますが、実は、キリスト教と直接関係ない人にも関係があるのです。それは、現代日本社会全体が西洋から大きな影響を受けており、その西洋のものの考え方が宗教改革と深いつながりを持っているからです。この授業では、宗教改革にかかわるものの考え方を、中立な立場からできるだけ分かりやすく解説します。	
	宗教学 I Y	私たち白百合女子大学はカトリック系大学ですが、西洋のキリスト教は大きく分けてカトリックとプロテスタントの二つに分かれています。どちらもキリスト教として主な考え方にそれほど違いがあるわけではありません。しかし細かいところ、しかも重要なところでいくつか異なる考え方を持っています。そこに注目して見てみると、西洋キリスト教の特徴がよく見えてきます。この授業では、カトリックとプロテスタントで考え方が異なるいくつかのテーマを取り上げ、それを中立な立場からできるだけ分かりやすく解説して、西洋キリスト教の特徴を明らかにしたいと思います。	
	宗教学 I Z	現代社会において生命科学の進歩とともに、人間の生存にかかわるたくさんの方が生じています。みなさんも普段の生活のなかで、テレビのニュースや新聞を注意して見てみると、いのちにかかわる問題に出会わない日はないと思います。この授業はカトリックの立場から人間のいのちの問題をみなさんと一緒に考えていきたいと思っています。今年の本講義では、特に人間のいのちのはじまる場面(生)と終える場面(死)におけるさまざまな問題について、具体的な事例をもとに考えます。この授業をとおして、最終的にレポートをまとめるときまでには、人間のいのちの意味を一人ひとりが自分の問題として深く考えられるようになることを目指しています。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	宗教学ⅡB	家庭は人類社会の基盤であり人間の基本的ニーズに最も深い関わりを持っています。「人類の将来は家庭を通して過ぎこしていく」(ヨハネ・パウロ二世)。その家庭が多様化と相対化の流れの中で方向を見失い弱体化し、あたかも波間に漂う小さな船のように、今日危機に曝されています。結婚、家族、そこで育まれるいのち、子育て、仕事、高齢化社会…、それら一つ一つが「課題」と化しました。家族という小さな共同体において、親子、夫婦、高齢者がどのように相互に親密で自由な関わりを育てることが可能なのでしょうか。その基盤である自己をどう受容することから始まるのでしょうか。この一年間、これから社会に巣立とうとしている皆さんの近い将来の問題として人生の様々な局面に現れる家族の課題を正面から取り上げながら、愛といのちの絆である家庭、その光と影をご一緒に考察する機会としていただきたいと思います。「宗教学ⅠB」と合同授業。「宗教学ⅠB」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡC	キリスト教とユダヤ教の聖典であり、また、世界の古典文学としても名高い旧約聖書の歴史物語を読み、そこに登場する男と女の人物像の読み取りを行います。その作業を通して、自分自身の人間理解を深めることが授業の目標です。旧約聖書は2000年以上も前にまとめられた書物ですが、そこに描かれる家族、国家、社会の問題は、その後の世界の歴史に繰り返し現れ、また現在私たちが直面することもあるものです。物語の考察を通して、その克服の道を探ります。「宗教学ⅠC」と合同授業。「宗教学ⅠC」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡD	キリスト教は2000年を超える歴史の中で、哲学や思想、文学、心理学や精神医学など多様な分野に大きな影響を及ぼしてきました。その影響関係は、時に緊張を孕んだものでありましたが、いずれの分野においても相互に人間理解・存在理解を深めてきたと言えます。この授業では、キリスト教ないし宗教との対話を重ねた近世から現代にいたる哲学者・思想家について、信仰と理性の関係、神と人間との関係性を主題にして、時に時代を遡るかたちで宗教哲学の観点から学びます。合わせて背景となる時代状況ならびに同時代に与えた文化的影響にも目を配り、近現代の基本的な思想史・精神史の理解を深めることを目指します。「宗教学ⅠD」と合同授業。「宗教学ⅠD」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡE	現代社会に生きる私たちにとって、世界の様々な問題を理解することはとても重要なこととなっています。近年の世界情勢や社会問題を考えてみても、実は宗教的背景を理解していないと出来事の意味がわからない場合がたくさんあり、基礎的な諸宗教や宗教文化に関する基礎教養や理解を持つことが必要となってきています。この授業ではそのような問題意識に立ち、具体的な映像や資料を用いながら学んでいく、「現代社会を生きるための宗教学」、「新聞やテレビのニュースの理解を助けるための宗教学」を目指します。また、世界宗教としてのキリスト教が歴史の中で果たしてきた役割やその現代的意味などについて宗教学の立場から考えていきますので、「キリスト教はちょっと苦手」、「少し離れた立場からキリスト教を見てみたい」という学生にとっても助けになるように進めていきたいと思います。「宗教学ⅠE」と合同授業。「宗教学ⅠE」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡF	「キリスト教は苦手だけれど、イエスという人には何となく惹かれる」という言葉をしばしば耳にします。キリスト教や聖書に関して、もう一度、全体としてその知識を整理し直してみたい、他の宗教のことも知った上でキリスト教を見つめ直してみたいなど、「社会に出る前に大学生としてこれだけは知っておきたい教養としてのキリスト教」が、この授業の一つのコンセプトです。同時に「宗教文化」に関する教養として、巡礼や文化遺産等を題材にキリスト教以外の諸宗教についても扱います。海外の美術館や教会・モスクなどの宗教施設を訪ねた際に、その中に隠されている意味を理解する為の基礎知識や、その背景にある人間の宗教性に気づく為の教養を、具体的な映像や画像を用いながら身につけていきます。「宗教学ⅠF」と合同授業。「宗教学ⅠF」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡG	この講義では、近代日本の精神史におけるキリスト教の諸相を多角的に検討していきます。明治期に再宣教されたキリスト教が近代日本の形成期にどのように受容され、その後、日本の社会・思想・文化にいかなる影響をもたらしたかを主要なキリスト者、哲学者を軸として学びます。明治から昭和にかけての日本のキリスト教史を知るとともに、キリスト教を通して近代日本の精神史を理解することを目指します。授業内容に関連して、トピックとなるテーマを選んで任意で発表してもらうことがあります。「宗教学ⅠG」と合同授業。「宗教学ⅠG」を既に履修した者は履修することができない。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	宗教学ⅡH	すべての人は幸福を求めています。あらゆる行為の目的をさかのぼっていくと、そこには「幸福」があるにちがいません。しかし、ほんとうの幸福はどこにあるのでしょうか。イエス・キリストの生涯と教えが記されている新約聖書の「福音書」は、まさに人間の「福」（さいわい）への「告知」（音）です。果たして、その福音は、どのような「幸せ」を語っているのでしょうか。本講義では、そのイエスの福音の核心にあるものをじっくり味わいながら、幸せな人となり、また他の人を幸せにできる道筋を考えてみます。「宗教学ⅠH」と合同授業。「宗教学ⅠH」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡI	『源氏物語』は世界に類を見ないような、女流作家による大恋愛小説です。そこには人間の愛の喜びと悲しみ、愛執と罪、病と死が、物語の時間の中に細やかに描かれています。この講義では、登場人物、とりわけ女性たちの生き死にのありようと魂の救いの問題に注目します。これによって学生諸君は日本における「宗教と芸術・文化」の理解に進むことが期待できます。なお、全体は膨大なため、本講では、本編終わりの「幻」までを扱います。なお、本講義では、必要に応じて、源氏物語とキリスト教・西洋文化との対比をも扱います。「宗教学ⅠI」と合同授業。「宗教学ⅠI」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡJ	キリスト教美術の誕生から盛期中世に至るまでの歴史を学びます。この時代は、キリスト教を中心としたヨーロッパ文化が形成されていく時代で、ヨーロッパ文化の原点といえます。講義では、神の家である教会の建築と装飾、そして福音を記した書物として豪華な装飾が施された聖書写本の挿絵と装飾を中心に取り上げます。作品のもつ宗教性を味わい、芸術作品にこめられたキリスト教のメッセージについて考えます。「宗教学ⅠJ」と合同授業。「宗教学ⅠJ」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡK	副題：歴史・思想・文化・社会活動からみたキリスト教 約2000年の歴史を持つキリスト教は、欧米の文化や思想などに大きな影響を与えてきました。現代社会においても、平和問題や国際協力、教育、福祉などの各分野の働きを通じてキリストの教えと精神を实践する動きも多く見ることができます。この講座では、キリスト教の誕生以前の歴史から始まり、現代のキリスト教までを見ながら、キリスト教の宗教性や霊性、キリスト教が歴史の中で文化や芸術、思想などに与えた影響やキリスト教の諸活動や現代社会とのかかわりなどについて検証してゆきます。「宗教学ⅠK」と合同授業。「宗教学ⅠK」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡL	キリスト教の中でもカトリック教会は、約2000年の歴史を持ち、教派の中でも最大の教会です。カトリック教会が、歴史の中で欧米の文化や思想に与えた影響は大きく、現代社会においても、平和問題や国際協力、教育、福祉などの分野などの働きを通じてキリスト教精神を实践する動きも見ることができます。この講座では、カトリック教会の誕生以前のイエス・キリストの宣教から、現代の教会までを見ながら、カトリック教会の教えや霊性、宗教活動、文化や芸術、思想などに与えた影響やカトリック教会の社会的な活動や現代社会における働きについて検証してゆきます。「宗教学ⅠL」と合同授業。「宗教学ⅠL」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡN	「心のケア」や「スピリチュアルケア」は現代の人にとって特に必要なものだ、と言われている。この用語は精神的に痛む人に関して使われている。しかし、V・E・フラクルがかつて指摘したように、私たちはみなある意味で「Homo Patiens」（痛んでいる人間）である。したがって、このテーマをもっと広い意味（一般の私たちを含めて）で考えてみたい。そのために講義ばかりではなく、クレヨンや紙粘土を使用して、自分の心（自分の内面）の声に耳を傾けるためのエクササイズを行ってみたい。「宗教学ⅠN」と合同授業。「宗教学ⅠN」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡP	この授業は、日本の文化の中で読み継がれてきた古代から江戸時代までの文学・詩歌・宗教思想などを読み直すことを通して、現在に生きる私たちの生と死をより深く理解しようとするものです。国際化が言われる時代だからこそ、私たちには自分たちの文化を養ってきた古人の言葉や思想に耳を傾け、そこに秘められた意味と可能性を学習することが不可欠です。この授業では膨大な日本人の文学・哲学・思想の中から、特に、悲しみの思想、死生観と宗教性という観点から下記の作品・思想の中心的な内容を学びます。これによって学生は「日本人の宗教と芸術・文化」のかかわりについて理解を深めることになるでしょう。「宗教学ⅠP」と合同授業。「宗教学ⅠP」を既に履修した者は履修することができない。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	宗教学ⅡQ	キリスト教は「神の言葉に聴く」宗教であり、「聴く」芸術である音楽がとりわけ重視されてきました。心をもって聴くことで神と人間が出会い、神への祈りや賛美の言葉が「歌う」という形で表現されました。西洋音楽はキリスト教の典礼と結びついて発展し、聖書にインスピレーションを汲みながら沢山の宗教音楽が生まれました。この授業では、J.S.バッハまでのさまざまなキリスト教音楽を歴史的ならびに主題的に学びます。同時に、曲だけでなく歌詞にも注意を払いながら、聖書の知識を深めていきます。音楽の背後にある神学的背景を知ること、キリスト教理解を深めることを目的とします。また後半部では、キリスト教、特にカトリシズムの霊性についても概観する予定です。「宗教学ⅠQ」と合同授業。「宗教学ⅠQ」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡR	『源氏物語』は世界に類を見ないような、女流作家による大恋愛小説です。そこには人間の愛の喜びと悲しみ、愛執と罪、病と死が、物語の時間の中に細やかに描かれています。この講義では、登場人物、とりわけ女性たちの生き死にのありようと魂の救いの問題に注目します。これによって学生諸君は日本における「宗教と芸術・文化」の理解に進むことが期待できます。なお、全体は膨大なため、本講では、本編終わりの「幻」までを扱います。「宗教学R」は「宗教学Ⅰ」と同内容であるが、原文を多く使うので、前年「Ⅰ」を履修した人でも履修ができません。なお、本講義では、必要に応じて、源氏物語とキリスト教・西洋文化との対比をも扱います。講義であつかわれる物語のテキストは原文と現代語訳を用いるので古語文法の理解は前提にしません。「宗教学ⅠR」と合同授業。「宗教学ⅠR」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡS	この授業では前半は多様な音楽家たちの魂とおもに感性を通しての出会いを経験し、後半ではおもに知性を通してあなたにとって異性である男性と、セクシャルマイノリティについて学びます。こうした多くの他者との交わりのプロセスを通して神が一人一人をユニークなものとして創造していることをあなたの感性と知性で確かめ、違った他者との共生時代を生きるセンスを養うことを目指します。「宗教学ⅠS」と合同授業。「宗教学ⅠS」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡT(キリスト教的教育実践法)	この授業は教育という切り口からキリスト教を理解し、将来大人として教師としてまた母親として子どもに接する時の実践力、識別力を養成することを目指すものである。前期には人間の成長を段階的に考察しそこに込められたキリスト教的意味を問う。後期には日本の学校教育の歴史と現状を見わたし、みなさんが受けた教育を意識化する作業を行う。今までの人生の多くの時間を費やした教育というものを見直すことによって自分の中に蓄えられている力を再確認し、神の似姿として創造された人生を大切に生きていく準備をしようと思う。「宗教学ⅠT」と合同授業。「宗教学ⅠT」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡX	宗教改革という言葉は、高校で世界史や倫理の授業を受けた方はどこかで聞いたことがあるでしょう。ルターやカルヴテンといった名前をご存じの方もいるかもしれませんが、西洋のキリスト教は宗教改革をきっかけにカトリックとプロテスタントに分かれました。この出来事は一見私たちと関係ないように思えますが、実は、キリスト教と直接関係ない人にも関係があるのです。それは、現代日本社会全体が西洋から大きな影響を受けており、その西洋のものの考え方が宗教改革と深いつながりを持っているからです。この授業では、宗教改革にかかわるものの考え方を、中立な立場からできるだけ分かりやすく解説します。「宗教学ⅠX」と合同授業。「宗教学ⅠX」を既に履修した者は履修することができない。	
	宗教学ⅡY	私たち白百合女子大学はカトリック系大学ですが、西洋のキリスト教は大きく分けてカトリックとプロテスタントの二つに分かれています。どちらもキリスト教として主な考え方にそれほど違いがあるわけではありません。しかし細かいところ、しかも重要なところでいくつか異なる考え方を持っています。そこに注目して見てみると、西洋キリスト教の特徴がよく見えてきます。この授業では、カトリックとプロテスタントで考え方が異なるいくつかのテーマを取り上げ、それを中立な立場からできるだけ分かりやすく解説して、西洋キリスト教の特徴を明らかにしたいと思います。「宗教学ⅠY」と合同授業。「宗教学ⅠY」を既に履修した者は履修することができない。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	宗教学ⅡZ	現代社会において生命科学の進歩とともに、人間の生存にかかわるたくさんの方が生じています。みなさんも普通の生活のなかで、テレビのニュースや新聞を注意して見てみると、いのちにかかわる問題に出会わない日はないと思います。この授業はカトリックの立場から人間のいのちの問題をみなさんと一緒に考えていきたいと思っています。今年の本講義では、特に人間のいのちのはじまる場面（生）と終える場面（死）におけるさまざまな問題について、具体的な事例をもとに考えます。この授業をとおして、最終的にレポートをまとめるときまでには、人間のいのちの意味を一人ひとりが自分の問題として深く考えられるようになることを目指しています。「宗教学ⅠZ」と合同授業。「宗教学ⅠZ」を既に履修した者は履修することができない。	
	人間交流力構築演習A	パチカンとはたびたび他の宗教との対話を行っている。ローマ教皇ベネディクト16世はイスラム教との会合で「我々はともにわれわれの宗教が調和と相互理解のメッセージをもたらすことを言葉と行いで示す必要がある」と述べている。カトリック教会は今までも他の宗教の中にすべての人類にとってよき知恵があることを認めている。このゼミではイスラムの文化の中で発展し、ロシアのコーカサス地方出身のグルジェフ（1877～1949）によって西欧社会にもたらされたエニアグラムの人間学を使って自分を知り、他者との交流力を構築するにはどうしたらよいかを互いに学び合うために開講される。現在エニアグラムはカリフォルニアのスタンフォード大学を中心に研究され、非宗教化された人間学として一般社会で受け入れられ、USAや日本のビジネス現場でのリーダー養成の指針としても活用され高い評価を得ている。またカトリックの修道会・イエズス会士たちにより霊操指導に活用され、まじめにキリスト教的な生き方をしようとする人々により影響を及ぼしている。このゼミは、この方法によって学生たち自身が神の恵みとしていただいている自分のほんとうの姿を知り、他者と関わる力を引き出し、自分を社会的存在として意識し、さらには良き社会人として持てる力を活用し社会貢献を重ね、実り多き人生をおくる力を自己養成することを目的としている。宗教的世界観を通じての人間理解・世界理解をめざす。	
	人間交流力構築演習B	本学の建学の精神であるキリスト教は神との親しい交わりと全人類一致を最終的目標としている。それはまずイエスが言うように自分の隣人を愛するところから始まる。隣人とよき関係を築くことは人間の根本的な召命である。すなわち社会的存在としての人間の出発点である。コアクティブ・コーチングはU.S.Aで開発組織化されて2000年より日本でも一般化され、さまざまな分野で応用されている。組織内のリーダー、教師、カウンセラー、親を「コーチ」、その配慮のもとにある人を「クライアント」と名付け、いかにしてこの両者の関係を協力的、積極的、協働的で柔軟かつ力強いものにして独特な関係を築き上げ、高い成果を上げるかをテーマとする。人はみなもともと力と才能にあふれている。また全力を尽くして持てる可能性を余すことなく発揮したいという深い願いを持っている。そして自分が他者の役に立ち、他者から承認されたいという強い願望を持って生まれてくる。決して自分だけがよい思いができればそれでよいとは思っていない。それなのにふと気付くと自分のことだけで頭がいっぱいになっている。そしてそれを本音だと信じて他者との関係に入って行き職業的にも社会的にもプライベートな関係においても失敗をくりかえしてしまう。これをキリスト教的には罪という。こうした罪の連鎖である悪循環から抜け出し他者と協力し、他者と自分を最大限に生かしてよりよき社会貢献ができるためのスキルを身に付ける機会を提供しつつ人間の宗教性と霊性理解、宗教的世界観を通じての人間理解・世界理解をめざす。	
	ルカ福音書講読演習A	本学では、キリスト教学や必修の宗教学において、聖書に触れることがしばしばあります。しかし、時間的制約から、聖書を集中的に読むということは難しいものです。この演習では、新約聖書の中から、一つの福音書をじっくりと読むことにより、聖書の味わいと福音書の精神に近づくことを目的とします。福音書の中でも特に、読みやすく、また芸術的にも美しいルカ福音書を読みます。この福音書は、神殿の場面から始まって、神殿の場面で終わることにも示されているように、全体が「祈り」の基調によって描かれ、私たちに深い精神性へと招いています。この「演習A」では、ルカ福音書の前半を扱います。	
	ルカ福音書講読演習B	本学では、キリスト教学や必修宗教学において、聖書に触れることがしばしばあります。しかし、時間的制約から、聖書を集中的に読むということは難しいものです。この演習では、新約聖書の中から、一つの福音書をじっくりと読むことにより、聖書の味わいと福音書の精神に近づくことを目的とします。福音書の中でも特に、読みやすく、また芸術的にも美しいルカ福音書を読みます。この福音書は、神殿の場面から始まって、神殿の場面で終わることにも示されているように、全体が「祈り」の基調によって描かれ、私たちに深い精神性へと招いています。この「演習B」では、ルカ福音書の後半を扱います。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	宗教と文学・思想演習 A	この授業では、20世紀を代表するユダヤ人女性哲学者でありカルメル会修道女でもあったエディット・シュタインの最晩年の著作『十字架の学問』を英語で精読します。シュタインは哲学（現象学）を学んだ後にカトリックに改宗し、アウシュビッツで亡くなりました。本書は、ナチズムの席捲する時代の暗夜と対峙しながら、16世紀スペインの神秘思想家である十字架のヨハネをとおして十字架の意味を考察・黙想したものです。原文はドイツ語ですが英訳を使用します。授業の中で分担して訳してもらい、訳文を作成していきます。同時に、関係するキリスト教思想への理解を深めていきましょう。特に、旧約聖書の預言書と福音書の受難物語に関わる箇所を集中的に学ぶ予定です。	
	宗教と文学・思想演習 B	この授業では、20世紀を代表するユダヤ人女性哲学者でありカルメル会修道女でもあったエディット・シュタインの最晩年の著作『十字架の学問』を英語で精読します。シュタインは哲学（現象学）を学んだ後にカトリックに改宗し、アウシュビッツで亡くなりました。本書は、ナチズムの席捲する時代の暗夜と対峙しながら、16世紀スペインの神秘思想家である十字架のヨハネをとおして十字架の意味を考察・黙想したものです。前期からの継続となりますが、後期からの参加も歓迎します。原文はドイツ語ですが英訳を使用します。授業の中で分担して訳してもらい、訳文を作成していきます。同時に、関係するキリスト教思想への理解を深めていきましょう。特に、旧約聖書の預言書と福音書の受難物語に関わる箇所を集中的に学ぶ予定です。	
	いのちと家族演習 A	現代社会において、生命科学の進歩とともに、今まではなかった人間の生存にかかわる多くの問題が生じています。カトリックにおける生命哲学について、テキストを読みながら考えていくことで、最終的には人間のいのちの意味について参加している学生一人ひとりが自分の問題として深く考えることを目指しています。	
	いのちと家族演習 B	現代社会において家庭の危機が叫ばれています。カトリックは最も小さな共同体である家庭こそ最も重要な教育の場だと考えています。この授業では教皇ヨハネ・パウロ二世の『家庭』を読みながら、家庭とはなにかを考えていくことで、最終的には家族の意味について参加している学生一人ひとりが自分の問題として深く考えることを目指しています。	
共通科目	文化と人間	私たちは自分たちが慣れ親しんだものと異なるものと出会う時に初めて、今まで自分の中で当たり前と思っていたことが当たり前とは限らないという事実と直面します。この授業では「当たり前」と思っていることに対して、「それは本当に当たり前なのか」という問いを持ち、自らの「常識」を問い直し、視野を広げ、大学生としてふさわしい考える力を養うことを目的としています。いのちをめぐる現実の社会問題を取り上げることにより、大学生としての基礎的な教養を身につけ、物ごとを考える際の自分の弱点についても気づくヒントを提供できればと願っています。	
	哲学	人間の生き方の指針が見えにくい現代社会において、これまで世界に大きな影響を与えてきた哲学・思想の源流であるギリシア文明とキリスト教哲学、そしてそこから発展した現代哲学にまで及ぶ西洋思想から、人間とそのいのちについての主な思想をたどりながら、同時に、他者に関わり、他者を助けるための実践的なケアの思想を学びます。ケアの思想は今や医療・看護・介護・福祉の領域にとどまらず、私たち一人一人の身近な課題となっており、それは、生命倫理からターミナルケア（終末期医療）まで、広範囲に及びます。したがってこの哲学の時間は、受講者それぞれが自らの誕生から死までを視野に入れた、いのちの人間学となるでしょう。	
	現代思想 I	西洋思想を見習ってきた日本の近代化がもたらした様々な問題を克服する道は東洋思想の中にあるのだろうか。宗教と倫理との連関という観点から、東洋思想の諸相について学んでいきたい。	
	現代思想 II	（概要）指定テキストにはぼ沿うかたちで、『共生』（convivialityもしくはsymbiosis）をめざす現代思想の問題群を《ケア》と《正義》を軸に概観する。“Homo sum. Humani nil a me alienum puto.”（「私は人間である。人間に関わることで自分に無縁なものはないと思う」というテレンティウスの箴言を實踐し、専門分野以外にも貪欲な知的好奇心を燃やしている「学生」（学びを生き、生きることを学ぼうとする者）の受講と積極的参加を強く望む。 （オムニバス方式／全15回） （55 川本隆史／6回） 導入部分を担当 （56 佐藤静／9回） 本論部分を担当	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	世界の中の日本思想	日本では、東アジアや欧米さらに地球上と関わる内外の流通の中で、文化の基礎となる思想・宗教などを種々に形づくって来ました。では、その思想・宗教と称されるものはどんな事物であり、どのような歴史を持って現在に至っているのでしょうか。それは、日本ではどのような形態がありまた更に変化があるのでしょうか。ここでは、そのあり方を、研究をも踏まえて大掴みにまた出来るだけ理性的に知る作業を行います。とくに近世（戦国の後、ある根・型をつくった江戸期）また近代（維新後、欧米との交流での形態をつくった明治大正昭和期）さらに現代（グローバル化する20世紀末以後）をとらえる作業を行います。これは、結局は、思想家といわれる人々の仕事の〈基礎〉を知る作業です。それは特に判りにくい難しいものではなく、日本文化を成り立たせる生活形態のいくつかの根本的な「型」（様式）やその変化を知ることです。前期では、その基礎が作られる構造と世界史的な位置をおさえ、近世のいくつかの基本的な姿をとらえます。後期では、近代（維新後から昭和前期）を中心にし、さらに現代にも入り、内容の変化とその意味を考えます。個々の史料に入るだけではなく、表現する重要な文化人・思想家・哲学者の仕事をとらえます。	
	美学	理屈を超えた事柄のように思える美的体験やその対象である美について、論理的に思考し、言葉によって説明することの「難しさ」と「楽しさ」を徹底的に味わおうとする授業です。自然でも芸術でも人間でも、何かしら美しいものに関心があり、その正体に一步近づいてみたいと思う方にお薦めです。本講では、美学の分野で問われ続けてきた数々の根本問題（十五の主題）を扱います。まず、それらをめぐる歴史上の美学者たちの格闘を跡付けたのち、いくつかのものについては具体例に即して、同じ問題に取り組みます。実際の芸術（あるいは非芸術）作品に触れながら美なるものについての思索を深め、それを言葉にする訓練を積むことで、最終的には、各自の美的体験の幅が広がること、またその質も高まることを狙いとしています。	
	美術史	初めて美術史を学ぶ学生を対象として、作品のスタイルの変遷を主テーマに古代から現代までの西洋美術の主要な作品をスライドやビデオによって概観します。また、作品の主題、構図や構成、あるいは色彩や描写方法の特徴を理解することによって、西洋美術の特質と画家や彫刻家たちの個性を理解してもらいます。さらに、同時代の鑑賞者や依頼者との関係を取り上げ、一点の作品に仮託した彼らの精神と作品の背後に隠された様々な様相を詳細に検討する予定です。	
	神話の世界A	ヨーロッパの神話のなかから、ゲルマン、ケルトの神話について学ぶ。ほかの地域の神話との比較や、ファンタジー、アニメ、ゲームなど現代との関わりも考えつつ学んでいく。	
	神話の世界B	「本説を取る」ということばを御存知でしょうか。ある和歌の語句やイメージを取り入れ、新たな句を作る「本歌取り」。それに対して「本説取り」は、物語や小説の筋や場面をもとにして歌を詠むものです。芸術のあらゆるジャンルにおいて、洋の東西を問わず、本説取りは連綿と行われてきました。その際「聖なるもの」、あるいは「神的なもの」と人との結びつきを語る「神話」は、創作の源泉だったのです。詩人の奥深くにひそむ、ことばでは言い表し得ぬもの。あるときそれが神話に出会い、時を経て形を得て作品に変容する。ヨーロッパを舞台としたものに限られますが、この過程を本説である神話、本説取りした芸術作品、神話に対峙した思想家のことばを通してつぶさに見て行きたいと思えます。	
	神話学入門Ⅰ	「神話」はかつては、あり得ない、ばかばかしい、非合理で幼稚な物語だと思われていました。しかし19世紀以降、主にヨーロッパの学者たちが研究を重ねるなかで、神話には神話独自の理屈があり、神話は「人間」の一面を明らかにする重要な物語だと考えられるようになりました。また神話は単なる物語ではなく、年中行事で大きな役割を果たすなど、社会の中で固有の働きをしてきました。授業では、そのような「神話独自」の世界を知り、理解を深めるために、世界の神話を紹介しながら、神話をモチーフごとに分析する「神話理論」を学習していきます。	
	神話学入門Ⅱ	「神話」はかつては、あり得ない、ばかばかしい、非合理で幼稚な物語だと思われていました。しかし19世紀以降、主にヨーロッパの学者たちが研究を重ねるなかで、神話には神話独自の理屈があり、神話は「人間」の一面を明らかにする重要な物語だと考えられるようになりました。また神話は単なる物語ではなく、年中行事で大きな役割を果たすなど、社会の中で固有の働きをしてきました。授業では、そのような「神話独自」の世界を知り、理解を深めるために、世界の神話を紹介しながら、神話をモチーフごとに分析する「神話理論」を学習していきます。なおこの授業は、「神話学入門Ⅰ」の講義内容を踏まえて進めます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	コンピュータ文学研究 A	本講は、コンピュータを用いる新しい文学研究手法を含めた学問の作法を学び、童話、絵本やマンガ作品に隠れている“かたち”を明らかにすることを目的としています。皆さんの好きな作家をより深く、より多面的に理解するための科学的方法を学び、基礎素養を習得する科目です。学生の皆さんにはコンピュータを利用して、いくつかの文学作品の文体構造の解析実習をしてもらいます。	
	コンピュータ文学研究 B	本講は、コンピュータを用いる新しい文学研究手法を含めた学問の作法を学び、小説やエッセー等の文学作品に隠れている“かたち”を明らかにし、皆さんの好きな作家をより深く、より多面的に理解するための方法を学び、基礎素養を習得する科目です。学生の皆さんにはコンピュータを利用して、いくつかの文学作品の文体構造の解析実習をしてもらいます。小説やエッセイなど文学作品の文体構造・論理的文体構造と感性的文体構造・文体構造の可視化方法や、源氏物語、夏目漱石作品や宮澤賢治作品などの解析事例についての説明を暫時演習の合間に行います。	
	教養としての日本語	この授業では、言葉の基礎力を身につけて、周りの人たちと気持ちよくコミュニケーションが取れることを目指します。まず、相手にわかりやすく聞きとりやすい話し方について演習形式で学び、次に、どのような言葉を選択したらよいかという視点から、類義語の意味の違いと印象の違いについてグループ討議をしながら考えます。また、話し言葉を磨くために、書き言葉との違いや性別による言葉の違いについて考え、さらに、話し言葉に多く見られるオノマトペ（擬音語・擬態語）の特徴を考えます。書き言葉については、文字表記の面から特徴と留意点を考えます。最後に、敬語を中心に、コミュニケーションを円滑にするための言葉遣いについて、グループ演習を交えて学習します。	
	日本語を磨く（読解力を養う）	日本語運用能力を高めるために実用的文章及び文芸的文章の読解力を養うことを目的とする。2クラスを2人の教員が交代で担当し、1人が新聞記事や評論など実用的文章の読解を、もう1人が小説など文芸的文章の読解を担当する。読解に必要な語彙力の養成も行いながら、文章理解のしくみ、文章構成のとなえ方、書き手の視点、レトリック、人物の心情理解、文章による文体の違いなどを観点として総合的に読解力を高めることを目指す。 (18 中里理子) 実用的文章担当 説明文や評論を対象に、難解な語句や文章構成などを解説し、正確に読み取ることを目指す。 (64 柳井まどか) 文芸的文章担当 小説作品を対象に、文体や修辞技法も交えて小説の読み方を解説し、文章を味わうことを目指す。	共同
	日本語を磨く（文章力を養う）	日本語運用能力を高めるために文章表現力を養うことを目的とする。2クラスを2人の教員が交代で担当し、1人が説明文や実用的文書などの書き方を、もう一人がレポートや意見文の書き方を担当する。文章表現に必要な語彙力の拡充も図りながら、説明文のポイント、手紙やメール、ビジネス文書の書き方、要約のしかた、伝える情報の取捨選択、文章の組み立て方、引用のしかた、推敲の方法などを観点として、総合的に文章力を高めることを目指す。 (18 中里理子) 説明文・実用的文章担当 わかりやすく説明することを目指し、説明文を書く実践練習を積む。 (65 山梨有希子) 意見文・レポート担当 意見文・レポートの書き方を、段階を追って解説し実践練習を行う。	共同
	美しい日本語を話す（基礎）	周囲の人と気持ちよくコミュニケーションを取る上で身につけたい言葉遣いと態度について学ぶことを目的とする。言葉遣いの基礎となる敬語を基本から学習し、尊敬語・謙譲語・丁寧語を正しく身につけることを目指す。さらに、日本の社会で必要なマナーや振る舞い、手紙やはがきの書き方、電話のかけ方・受け方など、社会生活を送る上で基礎となる事項を取り上げ、知識と実践の両面から学んでいく。	
	美しい日本語を話す（実践）	対人コミュニケーションの心構えを学び、言葉遣いの基礎となる敬語を、場面や状況に応じて使えるようになることを目的とする。敬語を中心に心地よい言葉遣いについて演習方式で学んだ後、依頼や断りなどの場面ごとにロールプレイング等を通して望ましい対応の仕方について学ぶ。また、文書の書き方や効果的なメールの書き方、会社とのやりとりを想定した電話の応答など、実社会で使えるコミュニケーションの方法を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	コミュニケーションのための日本語	<p>日本語運用能力を高め、円滑なコミュニケーションを行う上で必要な「話す・聞く」の技術を磨くことを目的とする。2クラスを2人の教員が交代で担当し、それぞれが複数の話題を提供し、ディベートとディスカッションを複数回行う。話し合いを通してテーマに関する知識を深め、意見形成する思考力を養い、説得力を持って語る表現力を養う。話し合いの回数を多く経験することで、積極的に意見を述べ合うことの必要性を実感し、その技術を高めることをねらう。</p> <p>(18 中里理子) ディベート担当 ディベート形式で話し合うために、意見のまとめ方、反論の述べ方などを練習し、最後に実践練習を行う。</p> <p>(64 柳井まどか) ディスカッション担当 テーマについて話し合うことを目指し、自分の意見形成から始めて他人の意見の聴き方、話し合いのこつなどを実践的に学ぶ。</p>	共同
	日本中世文化史	この授業では、現代の日本の文化に通じる点の多い、中世の文化やその根底となる思想に関する事項についてとりあげ、中世の人々の認識や考え方、文化のあり方などを学び、現代との類似点や継続性、差異などを考えていくことを目的とする。前期では衣食住といった日常的なものや、天皇家とそれに関わる文化を中心に、後期では様々な認識にかかわる問題、災害や信仰に関するものを中心に取り上げる。	
	日本近代文化史	本講義では「文化」というものを文学や芸術に限定せず、生活様式、風俗、慣習、宗教、教育、社会通念などを含むものとして捉える。この広義の文化は複雑に関与しあって、我々の活動を規定する心理的・社会的規範や価値基準あるいは世界観を形作っており、人間の行動に隠微ではあるが一定の影響を与えている。したがって近代「文化」史の検討は、近代史を様々な視角から再解釈することであり、それによって全体的な歴史把握が可能となる。本講義では社会学、宗教学、民俗学などの他の学問領域の研究成果も参照しながら「目に見えない何か」「神と仏」「生と死」「鎮魂と慰霊」という非日常的・宗教的な問題から日本近代史を論じていくつもりである。またビデオなどの教材も使って分かりやすく説明を加えていく予定である。	
	日本の外交と社会史	近代の国際社会と日本社会の連繋性を理解することを目的とします。特に1920年代の日本社会を重視する。そのために、1900年から1945年までの外交史・軍事史・経済史などの時期区分に、1920年代の日本の社会を対比させる内容の講義です。ワシントン体制の国際秩序、満州事変と国際的孤立、国際体制の現状打破（東亜新秩序建設）、太平洋戦争の破局を通して、日本の社会がどのように変化し、どのような問題をかかえ、それを解決する努力の実態について、史料を通して検証します。また、日本の近代社会を実証的に理解することも目標とします。そのため関連史料としては、当時の新聞・雑誌とともに、外務省外交史料館・国立公文書館・防衛省防衛研究所図書館・国会図書館憲政資料室などに所蔵されている、公文書・個人文書なども紹介します。	
	西洋史 I	現代の西洋世界を理解するために不可欠な古代ギリシャ・ローマ世界から15世紀ごろまでを扱います。豊かな文化、文明を現代に伝え、民主政、共和政、帝政などの政治形態を生みだした古代世界から、キリスト教ヨーロッパの基礎を築いた中世初期、現代の国際関係のもととなる国民意識を生みだした中世後期の世界までを概観します。現代世界に通じる部分と異質な部分を合わせ持つ前近代の西洋世界の歴史を学ぶことを通じて、今の自分自身が置かれた位置を広い視野で考えてほしいと思います。授業には二つの目的を設定します。一つ目は、異文化や異世界に対する理解と、自らの文化や世界に対する相対的な見方、そして歴史的なものの考え方を身につけることです。二つ目は、文献を収集し、比較・分析し、そこから自分の見解を導きだし、表現できるようになることです。前者については授業内容で、後者についてはレポートの作成を通じて学んでいきます。	
	西洋史 II	前期の西洋史 I の続きとして、西洋の中世末期から近世、近代までの世界を扱います。ルネサンスや宗教改革、大航海時代で始まり、西洋近代世界の基礎を作った近世という時代、そして産業革命や市民革命を通じて西洋世界のみならず現代の世界全体の出発点となった近代という時代を、今の世界を生きる人間として、自分自身との関わりを意識しながら学んでほしいと思います。授業には二つの目的を設定します。一つ目は、異文化や異世界に対する理解と、自らの文化や世界に対する相対的な見方、そして歴史的なものの考え方を身につけることです。二つ目は、文献を収集し、比較・分析し、そこから自分の見解を導きだし、表現できるようになることです。前者については授業内容で、後者についてはレポートの作成を通じて学んでいきます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	歴史からみた現代	授業では西洋史の歴史家たちを題材に、これまでどのような人々がどのような方法で「歴史」を解釈してきたのかを紹介します。授業からは第一に現代を生きる自分自身と歴史との関わりを深く考える視点を得てほしいと考えます。さらに、実際に一人の歴史家の作品を読むことで、歴史を書くという行為がどのようなものであるのかを体験してほしいと思います。毎回一人の歴史家を取り上げ、その人物の生い立ちや経歴、時代背景などを解説し、その歴史家が時代の要請する歴史像にどう答えていったのか、という視点から歴史の書かれたプロセスを紹介していきます。	
	豊かさの中の経済	経済社会の発展と繁栄を促す原動力としての「成長」は、どんな背景のもとで生まれるのか。世界のさまざまな地域が抱える歴史や宗教、科学技術の力や社会の仕組みの違いを比較検討するなかで、優位な立場が形成される条件を探ります。近代社会は企業制度、貿易や金融のシステムなどで西欧が市場経済の仕組みを主導し、日本など後発資本主義国はそれをモデルに追いつきました。グローバル化で中国などの新興国家が急激な成長を遂げた21世紀は、資源とエネルギーや地球環境の制約で「成長」そのものが問われています。大きな文明の流れから経済社会の成長と発展の条件を探ります。	
	暮らしと現代経済	グローバルゼーションという大きな波のなかで、われわれの暮らしを支える経済社会の姿はどう変化しつつあるのか。世界の中の「日本」というモデルを通して、市場経済と社会の仕組みの現状と課題を探ります。日本は明治以降の近代化と敗戦の挫折、戦後の復興と高度成長からバブル崩壊以降現在にいたるまで、その社会の強さとひ弱さを浮き彫りにしてきました。著しい高齢化と脱成長時代へ向かう中で、税、雇用、規制、福祉など社会システムの信頼の揺らぎを通して、人々の満足感と幸福感というゴールへの道筋を考えてゆきます。	
	政治学 A	日本の政治について、直近のニュースの解説をまじえながら、取材記者の視点で、内政、外交、安全保障、選挙を中心に考えます。政治ジャーナリズムの実態を日米比較などもまじえてとりあげるほか、政治報道の意義と目的、政治報道の課題などにも焦点をあてます。新聞報道がどのように形成されているかということの理解を通じ、メディア・リテラシーを高めることの重要性を学んでもらうことも、講義の大きな目的です。	
	政治学 B	今、世界は激動しています。グローバル化する社会において、それは他人事ではなく、自らの生活に影響します。社会人の教養としても国際情勢の理解は欠かせません。読売新聞の特派員として、国際報道の現場で取材を重ねてきた講師が、ニュースを題材に世界の最新の動きとその背景、歴史を解説します。国際情勢を理解、分析する力を養うと同時に、報道に対するリテラシーを高めます。	
	憲法	憲法に関連する具体的な問題を題材に1回につき1テーマを講義する。特にわれわれの身の回りで発生している様々な事件を通じて、条文および判例・学説に沿って解釈し、妥当な解決を目指す。したがって、授業では身近な事件や事例を取り上げ、抽象的な議論よりも個別具体的な議論を展開し、必要があれば、ビデオなどの映像によって理解しやすい手法で受講者の学習を支援するつもりである。基本的に授業はパソコン画面を使用し、場合によってはそれを補うために資料を配付する。	
	法とは何か	人が二人集まれば、トラブルは発生しやすくなるものである。そこで、法がそのトラブルを解決しようとする。つまり、法とは、広くわれわれが社会生活を営むうえで他人とのトラブルを避けるためのルール一般を意味する。普段、われわれは法を意識することはほとんどなく、平和な生活をしていれば不要である。しかし、現実には種々のトラブルが発生し、また被害を受けることも少なくない。そこで、生活のあらゆる事柄が詳細に法律や慣習などによって規制されており、いざというときの解決手段として法は存在するのである。その際、法に関する知識を持ち合わせていなければ、自らに不利な結果に終わるかもしれない。この講義では、このような法に関する基本的知識を学生諸君が身につけることを目的とする。法に関しては抽象的概念が多いが、可能な限り具体的事例を挙げて説明し、またパソコン画面、プリント、ビデオ等を活用し受講者の学習支援を図る予定である。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	女性と社会 A	私たち女性の弱さと限界を知ると同時に、その強さと豊かさの理解を深め可能性の実現を模索する、最も基本的な、女子大ならではの授業です。まず日々の生活を通して見、聞き、感じている共通の体験を掘り下げることから始めます。そのプロセスにおいて私たちは様々な生活場面の中の女性特有の課題に直面しますが、特にその背景となっている伝統的に培われてきた女性観が、ポジティブな意味でもネガティブな意味でも浮き彫りになります。また女性の視点で社会の諸問題を捉えなおそうと試みることによって、同じような経験を共有する世界の女性たちの関心とその動きに敏感になっていきます。この一年間を通してグローバルな共感と連帯の輪を広げ、私たち女性の意識の地平を大きく広げていきます。その広がりの中で、もう一方の性である男性と、様々な生活場面でどのようにお互いを一個の人格として尊重しあい生かしあえる豊かなかかわりが築けるのか、今日の社会にとともに対等なパートナーとしてどのような貢献をなすことが可能なのか、新しい視点で共に模索していきます。	
	男女共同参画と政策	本科目は、働くことと幸せな生活の調和（ワークライフバランス）の実現に向けて、企業との連携や「仕事と生活の調和推進のための行動指針」を理解させる。企業の力の源泉である有能な人材である女性の定着を高めるため、中小企業においてもその取組の利点は大きく、意識や働き方の改革に取り組む取組を先進的に行っている企業を紹介する。女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約（CEDAW）以後の国際的な動向も触れ、男女共同参画の考え方や政策の国際的動向を踏まえた働き方に対する学生の意識改革を図る。	
	犯罪学概論	犯罪はどの社会、どの時代にもみられる普遍的な社会現象であり、人類の歴史を通じて犯罪に対する闘いが続けられてきた。19世紀に誕生した犯罪学は、犯人を逮捕して犯罪原因を探り、刑務所などの施設で矯正して社会復帰させる手法を考案し、実施してきた。しかし、実際に犯罪がなくなることはなく、次第に人々は犯罪から身を守る意識を発展させてきたのである。そこで、近年、犯罪予防が強調されるようになり、犯罪を未然に防ぐ安全・安心まちづくりが盛んに唱えられている。女性は、犯罪の加害者になる場合よりもむしろ被害者になる可能性のほうが高い。とくに日常生活において日々の注意が必要である。授業では、犯罪学の一般的な事項を学習したあと、個別の犯罪問題（たとえば、特に女性に関係する性犯罪、ストーカー、DV、ひったくりなど）を調査データを元に取り扱い、それらに対応した予防策・防犯策を検討する。そして、最終的には、どのようにすれば犯罪を防ぐことができるか、犯罪をしにくい環境をどのように構築すべきかを考える。	
	女性と法	大正時代の著名な法学者である徳積重遠は、約90年前の大正14（1925）年に、「我国の人民殊に婦人に法律上の知識が足りない」として、国民とりわけ女性の法知識の不十分さを指摘しています。この指摘は、2014年の現在においても、依然として可能ではないでしょうか。そもそも「社会あるところに法あり」という言葉があるように、私達は様々な社会に属し、生活のあらゆる場面で法と関わっています。数年後には大学を卒業し、社会へと独り立ちしていく女学生の皆さんもまた、今後、法律問題に遭遇する機会が多くなっていくことでしょう。より良い社会生活を営むためにも、早い段階から法知識を身につけることが必要不可欠となってきます。そこで本講義では、女性と法とのかかわりを考え、私達の身近にある具体的事例を想定しながら、社会に関連する法的問題の理解を深めていきたいと思ひます。その際には、「家族生活」そして「社会生活」という2つの場面において、私達が必要とする法の基礎知識の習得を目指していきたいと思ひます。	
	子どもの権利と国際社会	本科目は、子どもの権利条約が採択されてから四半世紀が過ぎ、子どもの権利が思いやりではなく、法的に義務づけられた規範となったグローバルな進展について概観する。次に「貧困」「紛争」「HIV/エイズ」が世界の子ども22億人中10億人以上から「子どもの生存、成長・発達する権利」を奪い、さらに性的な暴力、殺人、いじめ、暴力的なしつけ、暴力に関する考え方など子どもに対する暴力の現状を明らかにする。成功した取り組みに焦点をあてて暴力は防止できるという考え方を身につけさせ、国際社会における市民的責任感を涵養する。	
	ボランティア・キャリア体験 I	体験を通じて対人関係や他者への理解を深めることを目的として、近隣小学校や福祉施設においてボランティア・キャリア体験を行う。また、社会人としての基礎力、接遇者としての基礎力を身につけるとともに、就活サポートを目的として、ANAエアラインスクールの体験を行う。そのBasicコースでは3回程度にわたって繰り返し自己分析を支援し、学生の適性や強み弱み分析を行うことで、将来めざしたい業界や職種を考える契機とする。1・2限は調布市立小学校での学校ボランティアやフランス留学応援パティシエ修行等の企業体験、5・6限は調布市、世田谷区、三鷹市等の福祉施設と、ANAエアラインスクールBasic等において体験を行う。後期科目「ボランティア・キャリア体験 II」と通年で履修する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ボランティア・キャリア体験Ⅱ	前期科目「ボランティア・キャリア体験Ⅰ」と通年で履修する。体験を通じて単なる関わりレベルから、子ども理解や利用者理解を洞察するレベルのエピソード記述を繰り返し演習しつつ、近隣小学校や福祉施設では、学生が子どもや障がいのある人に寄り添う人的サービスを行うことで、地域に役に立つことを目的とする。学生には就職活動の自己アピール、対人援助、教職・保育実習に向けた現場体験の経験となる。1・2限は調布市立小学校や都立特別支援学校等、5・6限は調布市、世田谷区、三鷹市等の福祉施設において体験を行う。また企業体験としては、「ボランティア・キャリア体験Ⅰ」で学んだホスピタリティの精神を活かし、体験を通して社会的基礎力、接遇者としての力を培うことを目的として、ANA羽田空港実務体験を行う。	
	ボランティア・キャリア体験Ⅲ	2年目の学習では、より地域の役立つ人材として地域貢献できるような学生自ら問い直しつつ、学校理解や福祉理解を深める。「ボランティア・キャリアⅠ・Ⅱ」に引き続き、または異なる業界や受入先を選択することが可能で、近隣小学校や福祉施設、または企業において体験を行う。体験先については担当教員と相談により決定する。企業体験としてANAエアラインスクールBasic、ANA羽田空港実務体験を行うが、「ボランティア・キャリア体験Ⅰ・Ⅱ」において既にこれらを体験した学生には、ANAエアラインスクールAdvance、およびTOEIC対策講座を組み合わせ、社会人基礎力と接遇力アップを目指す自主的な取り組みのPDCAを支援する。	
	ボランティア・キャリア体験Ⅳ	1年目に履修したANAエアラインスクールBasicの応用としてよりキャビンアテンダントをめざす学生に特化したANAエアラインスクールAdvance、およびTOEIC対策講座を行い、より明確にキャビンアテンダントを目指す学生の就職活動支援の面が強い科目である。社会人としての基礎力づくりとして、チームビルディングや言葉遣い、日本語検定対策を行い、接遇者としての基礎力づくりとして、より具体的に機内サービス等を想定し、学んだことを全て統合した実習を行う。担当教員との相談により、教職をめざす学生は小学校や児童福祉施設での体験を行う。	
	海外ボランティア実践演習A	フィリピンと山形の農村という異文化の旅先で、先進的な活動と使命を体験する計画づくり。比べずにつながりを、想いを洞察する。 (山形) 山形高島町の有機農業運動との交流、農ある生活の体験、農作業支援などを企画し、「まほろばの里農学校」に参加する。 (フィリピン) フィリピンのダバオ訪問。ダバオ医科大学DMSFプライマリヘルスケア研究所IPHCの活動説明(参加型生活調査COPAR、住民参画制度支援SIAD) タライゴッド村訪問では、族長、小中学生平和運動家の声、伝統舞踊。南西フィリピン大学の先住民科学生との交流およびパムラアン生活遺産センター。地域滞在は各村でのホームステイとともに、村落保健員の自立活動、村の集会があるニューコレア村および、幼稚園支援、先住民女性によるヒーリング活動、先住民低学年児のための小学校給食、山間部農業があるマリログ村。	
	海外ボランティア実践演習B	ネパールと山形に旅する計画づくり支援 (山形) 山形高島町の有機農業運動との交流、農ある生活の体験、農作業支援などを企画し、「まほろばの里農学校」に参加する。 (ネパール) ネパール中西部費ならや観光の拠点ポカラ周辺のパルバット郡とシャンジャ郡の村訪問。村では村落保健員の活動、母親栄養研修および乳幼児栄養支援。アメリカ政府の国際協力、統括NGOであるセイブザチルドレンSCF、村で活動するローカルNGOの活動、ネパール政府厚生省の取り組み、これら全体の支援の仕組みについても学ぶ。カトマンズではスラムの栄養活動も可能。	
	社会福祉と私たち	本科目では、まず慈善活動や戦傷者への給付から始まった福祉の歴史から、権利基盤型の広義の福祉への変遷を概観する。そのうえで制度利用する当事者の知識理解として、社会保険(医療保険、年金保険、労災保険、雇用保険、介護保険)、公的扶助(生活保護)、狭義の社会福祉(高齢者福祉、障害者、児童・母子福祉)について理解させる。またアマルティア・セン等の哲学的な理解と現代の貧困、国際福祉における権利基盤型アプローチの実際、国連統計の理解と事例演習によって、市民としての社会的責任を涵養する。	
	児童と家庭の福祉	本科目ではまず、以下の施策とその対象を概観する。(ア)家庭環境や対人関係等によって問題を抱える児童の社会的養護と児童自立支援施策(イ)障害児施策(ウ)母子家庭の母親と児童の支援策(エ)母子保健施策(オ)一般の子どもたちや、保護者が昼間家庭にいない小学校低学年児が対象である児童健全育成施策(カ)保育施策。次に身近なサービスを利用する視点から、子育て支援や、母子健康手帳、予防接種、乳幼児健診などの母子保健をとりあげ、幅広く児童家庭福祉を理解させ、当事者意識を涵養する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際協力論A	ジェンダー（男女共同参画）に配慮した国際協力を学ぶ。女性にかかわる教育、貧困を改善する女性向け融資などの協力手法などについて短い視聴覚資料をいくつか使う。教科書のPart Iと、Part IIIの第7章と第8章前半を使用。話し合い活動を多くとり入れた体験型のワークショップ手法により授業が行われる。就職に役立つフレームワーク思考法、ランキング手法、分析ツールを身につけることができる。	
	国際協力論B	地球規模の課題に関するジェンダー（男女共同参画）の課題を学ぶ。理論の講義や視聴覚を使った知識伝達というより、ジェンダー分析フレームワーク（分析表やチェックリスト）を使って国際協力および「地球規模の課題」の要点をつかむ、話し合い活動を中心とした体験型の学び（事例の分析作業をおこなうワークショップ）である。たとえばできごとを知る（伝える）ために便利な質問セットである5WIHのように、開発途上国の女性の苦境について詳しい知識がなくても、要点をつかむための質問セットが、ジェンダー分析フレームワークである。現場で国際協力の調査や計画づくりのために使われてきた技術だが、授業では思考法訓練のひとつとして就職に役立つ、フレームワーク思考や事例研究を身につけることができる。	
	社会活動におけるマネジメントA	マネジメントに欠かせない「評価」と「交渉」を英語表現で理解する。評価に関しては、公共機関、外資系団体、非営利組織における、成果と顧客を重視した「自己評価」や、そのワークシートを使ったミーティング運営を学び、組織の意思決定プロセスや組織上層部にくい込むことを目指す。さらにお互いの「評価」に基づいた意思疎通のマネジメントとして、異なる価値観をもつ人々とのWin-Win型「交渉」を学び、お互いがYESと合意できるコミュニケーションを学ぶ。	
	社会活動におけるマネジメントB	男女共同参画推進にかかせない、社会の変動によって「ジェンダー」が変化する概念、「男と女それぞれ自分への気づき」を体験的に学ぶ。そのために講義ではなくワークショップ手法を全面的に導入して、「学びの逆転」を図る。受講人数によっては学生がファシリテーター役を体験し繰り返しワークショップの経験を積み重ねることで、社会活動のマネジメントを理解する。教科書のPart IIファシリテーター用指針および、Part III（第6章）気づきの研修コースを使用する。就活や社会で役立つグループ討論や、話し合いの方法であるファシリテーション技術を学ぶことができる。	
	食農フィールド演習	美しい自然の中、自分たちの手で大地を耕し、種を播き、食物を育てる。そして収穫し、調理するという食のプロセスを実践する。化学肥料や農薬を用いない健全な食生活と健康を実現する方法を自らの身体を通じて学び、生きるための基本的な知識を得ることを目的とする（2005年成立「食育基本法」の理念に基づく）。同時に、新たなライフスタイルの設計や精神史としての農についても学ぶ。	共同
	食と環境	本講では、食を取り巻く環境、例えば食品添加物・農薬・遺伝子組み換え・放射能を概観し、人間と食の関係視座から「人間にとっての最善の食環境」を考え、相対的学説提示による「憶える力から問う力」の学問作法習得にチャレンジします。食べ物には、多くの不思議と興味深い現象があります。今年度は、科学的視点からの食欲のメカニズムや脳内ホルモンの働きを修得することを主眼とします。特に、食欲、脳内ホルモン、人間の知性や感情はどのような関連があるのだろうか、そのメカニズムを明らかにするとともに、身近な化学現象についても併せて触れ、科学的基礎素養の涵養をはかる予定です。また、社会的関心の高い、TPP問題に関わる食糧自由化、日本の農業問題についても理解を深めるために、受講生による調査、演習、プレゼンを行います。さらには、文学作品に現れる食についても、言及する予定です。作品の食には、作品の本質に迫る一つの糸口になる可能性があり、時代背景が浮かび、文学作品のより深い理解に繋がるものと思います。	
	環境学のフロンティア	本講では、地球や社会で起こっている環境問題、例えば、地球温暖化・食糧危機・水不足・エネルギー問題などを取り上げ、厳しい現状を創り出した人間の営みを概観し、環境問題への理解を深めるとともに、文学研究との関係性を明らかにすることを目的にします。持続可能な社会の維持が困難である現状、すなわち、人の営みの結果を、人の生き方の軌跡でもある文学作品、人間とはどのような存在であるかを命題とする文学研究を通して、明らかにすることを指向します。文学を学ぶ意味を、環境と文学作品との学際的・総合的視座からも考えます。具体的には、Mappingにより環境問題と文学作品に内在する、人間とは如何なる存在かを模索し、人文科学と自然科学の学際的かつ融合的視野涵養をはかります。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	観光文化論	21世紀最大の産業といわれる「観光」を、情報・環境・教育・福祉、とりわけ異文化コミュニケーションの側面から新しい視点で概観します。観光の意味やシステムを学ぶとともに、各国の観光政策を理解し、今後の私たちにとっての「より良い観光の在り方」を考えます。授業は初歩的な概論から始まり、特別な予備知識や語学力は必要としません。海外の文化やボランティア・ホスピタリティに関心を持つ学生には、観光を通じて教養の新しい窓が開かれる契機になることと思います。	集中
	現代心理学概論	心理学を初めて学ぶ学生のために、教科書に沿って基礎から学んで頂く講義である。現代心理学の3つの潮流を概説し、環境の知覚と行動、記憶、発達、パーソナリティー、心の健康、心理検査、社会と環境などの基礎的な分野を紹介していく。オーム真理教など悲惨な事件を経験した日本のはずだが、現在の若者にとっては遠い過去のことになってしまい、今また多くの若者がカルト信仰や占いの類に巻き込まれ、振り回されている。また、東日本大震災の経験も我々がトラウマというもの了他人事としてでなく、今、真摯に捉え直してとときであることを自覚せねばならないだろう。また、「他人の痛みへの共感が欠如した人間（様々な犯罪、いじめ等）」、「引きこもりの増加」、「児童虐待」、「自殺や自傷行為」など最近の社会現象についても触れていきたい。適宜、ビデオや資料を使用したり、簡単な実験なども取り入れていく予定である。講師の臨床現場での経験を生かして、理論だけの講義にはしないつもりである。	
	パブリックリテラシー	本授業は、百百合での大学生生活をより豊かに、そしてより有意義に過ごすための初年次教育プログラムです。高校までの「勉強」から、大学での主体的な「学び」への移行に必要とされるスタディ・スキルズや学びの基礎作法を身につけながら、公共性という観点からみたブレ社会人としての大学生の社会的役割についても深めていきます。また、この授業では本学の建学の精神及び教育目標に基づいた大学生としてのベーシックな教養を身につけ、他者との関わりを慮った発言や行動をしつつ、内面的な豊かさを磨いていくための基礎を養うことも目指しています。	共同(一部)
	情報リテラシー	本授業は、情報化社会を生きる学生たちにとって必要とされている情報リテラシーや様々な情報機器を用いた学びのためのスキルを確実に身につけ、自らそのスキルを向上させることを目的としています。情報化社会においては、自らの力で問題を発見し、必要な情報の収集・分析・判断を行い、また、それらを表現し、発信する力が求められています。情報倫理を前提とし、情報を受け取る対象に応じた表現方法を習得するための様々な情報コミュニケーション演習が少人数クラスで行われます。	
	ビジネス・コンピュータスキル	コンピュータの実践的演習が中心となる授業である。例えば、「大量のデータを表計算ソフトの様々な関数を用いて、効率的に処理をする」や「データベース管理ソフトの多様な機能を用いてデータベースを構築する」、「聴衆にとって『わかりやすい』資料を提示してプレゼンテーションする」ことやなどの実現に必要なコンピュータスキルの習得を目標としている。さまざまな事例に基づいたアプリケーション（主に、Excel、Access、PowerPointを使用する）の演習を通して、今後の自分のキャリアデザインを考える上での一助としていただきたい。	
	メディア・デザインスキルA	この演習ではMacの操作、Mac環境におけるPhotoshop、Illustratorの基本操作技術の習得を主眼としています。演習は以下の3つの要素に分けられます。第1の要素はMac初心者のための基本操作演習です。Macの特色でもある直感的なファイル操作を覚えてください。第2の要素は画像処理ソフトであるPhotoshopの基本操作演習です。マウス/ペンタブレットによる描画操作、画像加工、レイヤー操作、課題作製を簡便にするためのショートカットを習得してください。また、デジタルカメラ（もしくは手持ちの携帯かスマートフォン）から素材をとりこむことも基礎演習内容として加えています。第3の要素としてIllustratorによる図形作成、レイヤー操作、レイアウト作成、Photoshopとの連携方法の習得を演習します。上記の3つの要素をふまえて、各自雑誌形式の課題を2つ（課題Aと課題B）製作します。	
	メディア・デザインスキルB	米アップル社のコンピュータMacは、映像編集・音楽・出版・デザイン等の分野で広く使われています。本講義ではこのMacを使い、コンピュータを「自己表現」のツールとして使いこなしていくことを目的とします。中でもこの講義では映像制作の技法を中心に学びます。映像（映画）は、静止画、音声（音楽）、シナリオ・構成などが組み合わせられて成立する総合芸術であり、その制作には多方面にわたる能力とセンスが求められます。同時に、その華やかな印象とは異なり、撮影・編集自体は地道な作業の連続でもあります。デジタルビデオの普及や動画編集ソフトの普及は、より多くの人に映像への門戸を開きました。しかし映像には特有の文法があり、映像の編集にはこの文法の理解と実践が不可欠であることはあまり理解されておられません。この講義では映像の文法の理解を目指しつつ、自己表現としての映像とは何か、ということを追求していきます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	アトリエ・リス・プラク・ワーク ショップ	本演習では、他の人に喜びを感じてもらうことを最終目標とした「ものづくり」のプロセスにおいて、ものをつくる側とそれを使う側の間に生じる様々なギャップを少しでも小さくするためには、どのようなことを考えながら「ものづくり」すべきなのかを演習を通じて学んでもらうことを目的とする。本演習は、前期の通常授業、および、夏期集中演習から構成される。夏期集中演習で得られた成果は、公開プレゼンテーションにて発表してもらおう。	共同 集中
	スポーツ・健康科学A	競い合うことを目的とする競技スポーツ、楽しむことを目的とするレクリエーション・スポーツ、健康・体力の保持増進のためのスポーツ。女性のスポーツが広がりを見せている今、将来の運動習慣につなげるための絶好の機会として、このコースをとらえて下さい。チームスポーツ種目を中心に、ソフトバレーボール、バレーボール、バスケットボール、シュートボール、ユニバーサルホッケー、ドッジボール、フライングディスク(アルティメット)、インディアカなどの種目を、また個人種目としてはバドミントン、卓球、テニスなど人数に応じて、それぞれ1～2週体験します。また、生涯スポーツとしての体育・スポーツ活動を理解するための講義や体力トレーニングも並行して行います。本コースでは、女性の視点を大切にしながら、時代の流れや社会の変化、文化の変容を背景にしつつ、女性の心身の特性を踏まえたスポーツの理論、そして具体的方法を総合的に提示していきます。	
	スポーツ・健康科学B	さまざまなスポーツに関する講義や実技を通して、ひとりひとりのより一層の身体運動能力の改善をめざすとともに、女性の心身の特性を踏まえたスポーツの理論や具体的方法を身につけ、生涯スポーツにつなげることを目的としています。 【コース】 ・女性とスポーツ（スポーツ専門コース・バドミントン） ・フィットネス&エアロビクス ・バドミントン・ビギナーコース ・女性とスポーツ（スポーツ専門コース・テニス） ・女性とスポーツ（スポーツ専門コース・バレーボール） ・テニス	集中(一部)
	スポーツ・健康科学C	【ダンスエクササイズ】 この授業では、ダンスの経験がいくらかある人や、ダンスが好きで得意としている人を対象に行います。ダンスが上手になるためには、ダンスの運動基本運動を極めることと、豊かな表現力やテクニックが必要となります。モダンダンスやジャズダンスを中心に、基礎運動や基本ステップ、ステップコーディネーション、表現の仕方を学びます。また、ダンスに関する基本事項についても、適宜講義をします。ダンスに関する基本事項についても、適宜講義をします。 【バドミントン・アドバンスコース】 この授業では、バドミントンの実践を通じて、からだの構造とストロークの関係についての理論、ルールや歴史に関する知識を習得することを目指します。また生涯スポーツの観点から、運動の実践や理論を学ぶことで、からだや健康に関する知識を高め豊かなライフスタイルを構築するのに寄与することを目的としています。ストロークやトレーニングによる体力向上や効率的運動の理論について理解を深めるため、実技と並行して講義も行います。 授業では、運動理論に基づく効率的なストロークについて学び、それを試合で実践します。各自で技術習得状況を確認し、技能向上にむけ練習を重ねてゆきます。	
	身体運動科学	身体運動には、スポーツ活動だけでなく、健康の維持・増進、あるいは障害予防のための運動や、日常の生活動作も含まれます。運動不足病が問題になっている現代社会において、文化的で健康な生活を送るためには、身体運動のメカニズムや生理的作用、心身両面の健康との関わり、スポーツの社会・文化的意味などについて、実際にからだを動かしながら理解しておく必要があります。一方、女性のからだは男性とは質的・量的にも異なる特性を有しています。また、心理・思考・行動パターンにも女性の特性が見られます。そのような心身の女性の特性を理解し、その特性に即した身体運動の適切なあり方を見出せることは、女性の能力をより大きく発揮させることになるとともに、身体運動に伴う健康障害・事故の事例を減らすことにもつながります。本コースでは、そうした観点から、講義だけでなく運動を体験する中で、女性の身体運動に関する理解を深めます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教養総合セミナーA	女性と子どもの人権に関わる具体的な事例から、現代社会と人権について考える。まず、ジェンダー・セクシュアリティに関する基礎知識を学習し、家庭や学校などにより形成された自身のジェンダーに気づき、ジェンダー再生産のプロセスを検証する。その際、偏見を生まないための授業方法として開発された「差別体験授業」に参加することにより、性差別の実態と構造を理解する。次に、女性への暴力例としてデートDV、子どもへの暴力例として児童虐待（DV環境下の子ども）を取り上げ、女性と子どもの人権侵害の実態を学習し、その原因と背景を理解した上で、暴力防止対策について考える。最後に、セクシュアル・マイノリティを取り上げ、多様な性のありようを確認することにより、一人ひとりの個性と能力が尊重・発揮される社会とジェンダー平等の実現について理解する。	
	教養総合セミナーB	この授業では、関わりや体験を通して自分自身について、また、社会について考え、自らの言葉で発信することを目指しています。様々な体験や経験を通して、それを深めることなくそのまま終わってしまうことを避けるために、授業内では主に、体験や経験をどうとらえ、分析し、表現し、言葉化し、分かち合っていくかについての認識論的な基礎と、発信の仕方について共に学んでいきます。具体的には、グループでの作業と学外の方々との関わりでの体験との組み合わせによる演習を通して、学びを深めていきます。	
	教養総合セミナーC	新しい学問としての「サウンドスケープ」。都市環境と自然の様相を、音・騒音・音楽を通じて感じ、考察する。そして「深く聴く」ことで普段は意識することのない音を発見する。また、サウンド編集をコンピュータ（Mac）を使って行ない、サウンドダイアリー（音の日記）を作成する。	共同
	教養総合セミナーD	日々の生活の中に溶け込んでいる宗教文化の理解を深めることを目指して授業を行う。日本の古来の宗教文化を見直すと同時に、グローバル化の進行とともに国外からやってくる宗教文化についての基礎的知識を得られるようにする。とくに東アジアや東南アジア、南アジアの宗教文化について、日本との関わりを指摘しながら紹介する。各テーマの理解度の助けとなるように、なるべく多くの映像あるいはパワーポイント等を用いる。物事を具体的な事例に即して考えるというやり方を身につけられるようにする。宗教文化はきわめて多様であるが、同時に共通性も多く見えてくることに注意をうながす。異なる宗教文化を理解することを通して、自分が無意識に影響を受けてきた宗教文化についての確認をするような機会ももうける。	集中
	教養総合セミナーE	「教養総合セミナーC」で習得したサウンド編集の技術を応用して、音楽を創造する。コンピュータ（Mac）を使った現代的な音楽制作の基礎と技法を用いることにより創造力を高め、作品を作り出す喜びを知る。そして、サウンドスケープ演習とともに、現代の都市をめぐる音環境を総体として考察する。	
	教養総合セミナーF	本演習では、沖縄本島北部にある運天港からフェリーで1時間に位置する沖縄の離島の一つである伊是名島に約一週間滞在し、様々なフィールド演習を通じて、自然（地球）の美しさに触れ、自然科学的な教養を身につけること、そして、合宿生活や伊是名島に暮らす人々との交流を通じてコミュニケーション能力を養うこともこの演習の目的とする。伊是名島では、生き物が目覚め出す時間帯に島の神聖な領域にまで入らせて頂き、そこで今までに聞いたことのないような「音」に耳を傾けながら、その空間を肌で感じとる。そして、その場所の「音」をPCMレコーダーによって記録する。島での演習では「音」を記録するだけではなく、島の各所を歩いたり、山に登って朝日を見たり、誰もいない海で泳いだり、島の子どもたちと遊んだり、祭りに参加させて頂くことなど多岐にわたるが、そのような伊是名島での貴重な体験は学びを越えた楽しさに結びついていく。そして、伊是名島から持ち帰った「音」は、伊是名を「音」だけで表現するための素材となる。	集中
	数と形の世界A	今まで学んできた数と形について、機械的に問題を解くのではなく、問題の背後で問われている数の意味、図形の意味を理解しながら、様々な角度から問題に取り組み、算数や数学の本来の楽しさを知ってもらうことを主たる目的とした授業である。「数と形の世界A」では、小学校4年生から6年生で学習する算数の問題に改めて取り組み、それらの問題を深く理解させることで、算数の本来の楽しさを理解させることを目標としている。	隔年
	数と形の世界B	今まで学んできた数と形について、機械的に問題を解くのではなく、問題の背後で問われている数の意味、図形の意味を理解しながら、様々な角度から問題に取り組み、算数や数学の本来の楽しさを知ってもらうことを主たる目的とした授業である。「数と形の世界B」では、中学校1年から3年生で学習する数学の問題に取り組み、今までとは違った角度からそれらの問題を解き、数学本来の楽しさを理解させることを目標としている。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	自然科学の世界 A	自然科学全般について、今まで学んできたことに新しい知識、新しい考え方を付け加えながら、自然科学の世界について改めて学ぶ楽しさを知ってもらうことを主たる目的とした授業である。「自然科学の世界 A」では、地球 46 億年の歴史を振り返りながら、自分を含めた生物の進化と地球環境との関係を主たるテーマとし、地球に住む生物の一種である人間について深く理解すること、さらに、自分たちが一生を住むであろう地球の環境について理解を深めさせることを目標としている。	隔年
	自然科学の世界 B	自然科学全般について、今まで学んできたことに新しい知識、新しい考え方を付け加えながら、自然科学の世界について改めて学ぶ楽しさを知ってもらうことを主たる目的とした授業である。「自然科学の世界 B」では、人間である自分そのものの科学的な不思議について細胞レベルで理解を深めること、さらに、自分が住む地球と地球外の世界について理解を深めてさせることを目標としている。	隔年
	社会と倫理	この授業では、私たちが日頃よく耳にする現代社会の諸問題をとりあげ、倫理という観点から、歴史的、世界的視野に立って考えていきます。現代の私たちの周りで生じている問題や課題は、よく振り返ってみると、歴史の中ですでに起こっていた問題や世界各地で起こっていることと無関係ではないことがはっきりと見えてきます。「生きる力」の重要性が叫ばれていますが、「ただ生きる」だけではなく、「良く生きる」とは、「美しく生きる」とは、という観点から、社会と私たちのより良い在り方について一緒に考えていきます。	
外国語科目	必修		
	総合英語 I	本大学は2000冊以上の英語のgraded readersを所蔵し、CEFRレベル等を参照しこれを9つの白百合レベルに分類をしている。この授業では、学生はこれを使って多読を行う。各自自分の英語レベルにあったレベルのものを大量に読み、一冊読むごとにその記録とワークシートを作成する。これによって英語で内容を理解しながら短時間で読む習慣をつけ、読む「流暢性」を高めていく。また、定期的にブックレポートを作成し、学生同士で交換し面白い本の紹介をするなど、単なる読み捨てにならないよう留意する。単位取得のための読書量は累計3万語を目安とする。	
	総合英語 II	この授業では読む・書くを中心として、英語でコンパクトに自分の意見を表現する練習を行う。毎回の授業で一定の英語で書かれた文書が与えられ、それについての内容の確認と要約を行う。続いてその文書についての自分の意見を英語で100~150語程度で書く。さらにグループ内で作文を交換し、内容や言語についてのフィードバックをもらい、改訂作業をする。これを毎回繰り返すことによって、文章の内容把握、簡単な意見表明を英語で流暢にできるようになることを目指している。	
	総合英語 III	この授業で、学生は特定の事柄についてリサーチをし、その結果をまとめ発表をすることを求められる。リサーチに必要な資料はすべて英語である必要はないが、各自で見つけ、内容を要約、理解し、教員に報告する。そして、「英語コミュニケーションII」で養ったプレゼンテーション技能を駆使し、より詳細で説得力のある発表を行う。発表についてはビデオで収録し、各自で見返して話し方の修正のためのツールとする。リサーチと発表は1つのセットになっており、半期の授業で短いものを中間で1セット、比較的長いものを学期末に1セット発表する。	
	総合英語 IV	この授業は、大学院やビジネスに進むための準備として英語の文章表現力を養成することを目的としている。同時に、「英語コミュニケーションII」および「IV」で練習した内容を調べ考えをまとめていく力と「総合英語II」の中で意見を表現する力を集大成する授業でもある。特に学術的文章を作成するためのブレインストーミングの手法や文章中に用いる論理パターンを学び、説得力のある文章を書く練習を繰り返す。ビジネスレターの書き方、レポートの作成などは適宜紹介するが、目指しているのは、内容を順序立てて説明する一般的な文章を書く力である。	
	英語コミュニケーション I	この授業は、自分自身のことを説明したり、身の回りのものについて描写することができ、それらを英語で理解し、表現できることを目指している。授業の活動はペアやグループといった少人数でのインタラクティブを中心とし、その中で身近な話題について相手に簡単に英語で伝える練習を積み重ね、聴く・話すの技能を高めていく。語彙の習得も行うが、活動の中では限られた語彙でも自分の言いたい内容を伝えるためのストラテジーの活用に重点が置かれる。学生はこれらの授業活動を振り返り記録をつけることで自分の技能の向上をモニターする。	
英語コミュニケーション II	この授業は、人の前に立って英語で説明するスピーチ、プレゼンテーション能力を高めることを目的とする。初期では、ペアや三人組で身近な話題について1分間で説明したり、意見を述べたりといった口頭練習を行う。中期には、良いスピーチを行うための話題の調べ方、内容の提示の仕方、聴き手の想定などについて学ぶ。さらに効果的なビジュアルの使い方を学び、最後に比較的大きなグループ、またはクラス全体の前で英語の発表を行う。これらの授業活動を通じて、相手に理解しやすい話し方をするというコミュニケーションの基礎を学ぶことを目指す。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語コミュニケーションⅢ	この授業は、「英語コミュニケーションI」の練習を基盤とし、さらなる英語の表現力を高めることを目的とする。「I」の自分自身や身の回りの出来事を話題とすることから発展し、自分を取り巻く社会や文化について説明したり、考えを述べるのが求められる。授業の活動はペアやグループといった少人数でのインターアクションを通じて、聴く・話すの技能を高めていく。話題に即した語彙力の増強を行い、同時に質問の仕方、コメントの仕方などより高いレベルで行えるように練習をする。この授業についても振り返り記録をつけ、自分の技能の向上をモニターする。	
	英語コミュニケーションⅣ	この授業は、特定の話題についてグループ内やグループ間で英語でディスカッションやディベートを行う。学生には毎回、社会文化問題に関するトピックが提示され、各自がそれについての意見をメモ書きし、それを基にグループ内で簡単な英語スピーチを行う。こうして交換した意見の中からそれぞれ数点のディスカッションポイントを選び、グループ内あるいはグループ間でディスカッションを行う。これらの授業活動を通じて、論理的な思考力と同時に英語で意見を述べる能力を磨いていく。	
	英講読文法A	英語未習者を対象とした科目である。英文法の基礎が身につくように工夫された99コマの絵を活用しながら、多様な文型と達意の語彙を同時に学習することで、英文講読の力を高めることを目標とする。絵を取り入れた例文に慣れ親しむことで、講読に軸足が置かれてはいるが、それ以外の3技能（書く、話す、聴く）も相乗的・横断的に習得することもねらいとしている。	
選択	上級総合英語Ⅰ	この授業では、専門性のある学術的文章を理解し、それについてまとめたり、考えを深めるトレーニングを繰り返し行っていく。同時に大学院進学希望者の準備講座の役割も兼ねている。限られた時間で要旨をつかみ、それについて分析を加えて批評ができるような練習を行う。また得られたインプットが定着するように定期的な語彙学習を行う。こうした文章理解を基盤に内容批評を短い文章に書きおこしたり、口頭発表を行う。ただし、クラス全体での統一した到達言語レベルを設定することはせず、学生各自が自分自身のレベルに応じた目標設定をし学習を進めていく。	
	上級総合英語Ⅱ	この授業は、これまでの外国語の学び方をふり返り、どのようにしたらよりよく外国語を自学自習ができるようになるかを考える。言語学習に影響を与える要因や学習ストラテジーについて英語の資料を読み、それを基に自分の学習行動をふり返るといった作業を繰り返す。単に言語学習についての研究を学ぶのではなく、これから先の外国語学習を実りのあるものにするという目的がある。さらに、学んだことを基に子どもたちの英語活動を支援する活動を考え、近隣の小学校や姉妹校などで実践を行う。	
	上級英語コミュニケーションⅠ	さらなる口頭によるコミュニケーション能力の獲得のためにすべて英語で授業を行う。社会・文化・科学など多岐に渡る話題について、内容を理解し、自分の意見・考えを表現する力を向上させることを目的とする。授業では、与えられたトピックについてグループディスカッションを行い考えを深め、それについて各自が小プレゼンテーションを行っていく。単に話す能力を高めるだけでなく、積極的に意見を述べることでコミュニケーションを活性化させようという姿勢を育成する目的もある。	
	上級英語コミュニケーションⅡ	さらなる口頭によるコミュニケーション能力の獲得のためにすべて英語で授業を行う。教員や教科書によって与えられたトピックではなく、学生各自の興味や活動について英語で議論する。そのため、学生は各自が見つけてきたトピックを紹介し合い、それについてペアやグループで議論をする。ここで話し合ったことを基にグループ間で討論を行う。勝ち負けを競う討論ではなく、グループ相互で納得できる結論に導くように指導がされる。馴れ合いではなく、言語活動を通じた協調性を身に付けることを目指す。	
	English for JFL Teachers I	この授業では、英語で日本文化を紹介する練習をしていきます。日本語を勉強する外国の方々は、必ずしも英語圏出身ではありません。ですので、シンプルな英語で、簡潔に説明できるようになることを目標とします。日本文化を再確認しつつ、外国の方が興味をもつポイントや、国別の特徴なども解説していきます。	
	English for JFL Teachers II	日本語、そして日本文化を外国のかたがたに伝える未来の日本語教師のみなさんとともに、人に伝えたい思い、考え、さまざまな情報を、英語で発信していく練習をしていきます。各自新しい語彙や表現を身につけさらに豊かな表現ができるようにすると同時に、自分がこれまで習得してきた英語を最大限に駆使し、さまざまなシーンにおける多様なトピックについて、正確かつ論理的で説得力のある発言ができるようにすることを目指します。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	初級フランス語	これまでに習得したフランス語文法の内容を復習しつつ、おもに会話を中心とする練習を通じて、実践的なフランス語の総合的力を伸ばす。日常的なフランス語を十分に話し、聞き、書き、読むことのできる初級レベルの完成を目標とする。また、フランス語およびフランス語圏文化について知識と関心を深めていく。	
	フランス語入門	フランス語を初めて学ぶ方を対象にしています。アルファベット、発音と綴りの読み方から始めて、一年間で、フランス語文法の基礎を学びます。具体的には 1. 基本語彙をマスターする 2. 基本動詞の活用と用法を覚える 3. 代名詞の種類と用法に注意する 4. 前置詞・冠詞の多様な用法を習う 5. 様々な構文に習熟する 6. 文相互間の関係を把握する 7. 発音が流暢になる などを目標にします。	
	フランス語Ⅰ (文法・講読)	「フランス語Ⅰ(会話)」と「フランス語Ⅰ(文法・講読)」は、1冊の教科書を共通して使用する連動した授業です。この2つの授業を通して、フランス語学習1年目は、フランス語でコミュニケーションをとるために必要な4技能(聞く・話す・読む・書く)の基礎を効率よく身に付けていくことを目的とします。「フランス語Ⅰ(会話)」では、日常の会話に必要な語彙と表現(キーセンテンス)、正しいフランス語の発音、そして聞き取り能力を身に付けることに重点を置いて授業を行っていきます。「フランス語Ⅰ(文法・講読)」では、文法項目をより詳しく学んでいきます。	
	フランス語Ⅱ (文法・講読)	「フランス語Ⅱ(文法・講読)」は、「フランス語Ⅰ」で学んだフランス語の基礎を文法の面から復習し、体系的に理解することを目的とする授業です。1年での既習項目も含めて基礎文法を段階的に学習することによって、フランス語がどのような言葉であるかその全体像をつかむことを目指します。	
	フランス語Ⅰ(会話)	「フランス語Ⅰ(会話)」と「フランス語Ⅰ(文法・講読)」は、1冊の教科書を共通して使用する連動した授業です。この2つの授業を通して、フランス語学習1年目は、フランス語でコミュニケーションをとるために必要な4技能(聞く・話す・読む・書く)の基礎を効率よく身に付けていくことを目的とします。「フランス語Ⅰ(会話)」では、日常の会話に必要な語彙と表現(キーセンテンス)、正しいフランス語の発音、そして聞き取り能力を身に付けることに重点を置いて授業を行っていきます。「フランス語Ⅰ(文法・講読)」では、文法項目をより詳しく学んでいきます。	
	フランス語Ⅱ(会話)	「フランス語Ⅱ(会話)」と「フランス語Ⅱ(文法・講読)」は、連動した授業です。この2つの授業を通して、フランス語でコミュニケーションをとるために必要な4技能(聞く・話す・読む・書く)をさらに身に付けていくことを目的とします。「フランス語Ⅱ(会話)」では、日常の会話に必要な語彙と表現(キーセンテンス)、正しいフランス語の発音、そして聞き取り能力を身に付けることに重点を置いて授業を行っていきます。文法項目は「フランス語Ⅱ(文法・講読)」でより詳しく学んでいきます。	
	ドイツ語ⅠA	第一にドイツ語を発音できること、第二にドイツ語を理解し活用させるために初級ドイツ文法をひとつお習得すること、これを目標とします。その文法内容は、前期ではドイツ語技能検定試験、いわゆる独検の4級程度(必要な語彙は約500語)、後期では独検の3級程度(必要な語彙は約1500語)に相当します。さらに文法の学習にとどまらず、それを活用させることで、日常会話においても簡単な意思の伝達ができるようになってください。時間の許す限り、消化しやすいようにゆっくと進み、ていねいに説明し、わかりやすい授業をめざします。	
	ドイツ語ⅡA	テキストは、ハインリヒ・ベル(1917-1985)の『蒼白きアンナ』で、短編二編がおさめられています。授業の主たる目的は、「ドイツ語ⅠA」、「ドイツ語ⅠB」で学習したドイツ文法を確実なものにするとともに、ドイツ語の書き言葉に慣れ親しんでもらうことです。簡潔な文章で少し、慣れるまでは丁寧にやります。ドイツ語を学習しつつ、話も楽しんでもらえれば、と思っています。とはいえ、明るい話というわけではありませんが、また折を見て、「ドイツ語ⅠA」、「ドイツ語ⅠB」でやり残した文法事項(接続法等)を説明します。	
	ドイツ語ⅠB	「ドイツ語ⅠA」と同じテキストを用います。初級ドイツ文法を踏まえて、ドイツ語圏とその文化を紹介する簡単なドイツ語のテキストを読み進めたり、練習問題を解いたりします。さらに、数百語ぐらいのドイツ語の語彙力も身につけてもらいます。日常会話であいさつしたり、自己紹介したり、相手に質問したり、簡単な意思の伝達ができるようになってください。「ⅠA」と同様に、消化しやすいようにできるだけゆっくと進み、ていねいに説明し、わかりやすい授業をめざします。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ドイツ語ⅡB	学生が自分の日常生活をドイツ語で表現できるようになることを目指します。テキストのドイツ語文は、やさしい日常会話が中心です。どんどん練習して、どんどん慣れて、どんどん覚えていきましょう。あわせて独作を練習してゆきます。その教材はプリントの形でこちらで用意します。またドイツについての基本情報、ドイツ文化圏の過去の著名人、学校制度等、ドイツについて適宜紹介していきたいと思っています。	
	中国語（初級）	この授業は、初めて中国語を学ぶ学生を対象としています。授業の内容は中国語の発音、基礎文法、基礎会話となります。授業は基礎会話を中心に、一年間勉強した後、日常会話ができるように進む予定です。そのため、習った会話を声を出して朗読、暗誦し、更に暗誦したものを使って会話の練習を行います。授業の時間を有効に利用するため、予習、復習を欠かさずに取り組んでほしいです。	
	中国語（中級）	この授業は初級中国語を終えた学生を対象とします。この授業では初級に習った内容を復習しながら、中級に習得すべき内容を勉強します。初級に比べてより豊かな表現力、読解力、リスニング、実用的な会話力、応用力をアップさせるのが目的です。また、授業の内容にあわせて、中国の文化や現代社会なども紹介したいと思います。	
	韓国語（初級）	韓国語を初めて学ぶ方を対象にしています。一年間で、韓国語の文字であるハングルと発音、韓国語の文法の基礎を学びます。具体的には、「基本語彙を覚える」「用言の基本活用（現在形、過去形）をマスターする」「基本文型を覚える」ことによって、「韓国語で日常会話ができるようになる」ことを目標としています。	
	韓国語（中級）	韓国語の初級レベルを学習した方を対象にしています。一年間で、中級レベルの文法や語彙表現を学び、「高度で総合的なコミュニケーションスキルを身につける」ことを目標とします。この授業では、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能のバランスを意識した学習をします。各課の内容に従って中級レベルの語彙と文法を徹底的に練習し、一つの課が終わるとその課に出てきた表現を使って、作文と会話の練習をします。また、韓国語力をより高めるために、言葉だけでなく韓国の文化や事情も紹介します。	
学部 共通 科目	子どものイメージ	子ども像・子ども観の研究。絵本・童話・マンガ・アニメ・TVなどの具体例から、主人公の「子ども像」や作者の「子ども観」を読み取る。「子どもの誕生」と呼ばれる心性史の基本的な発想を説明した後、子どものイメージの主要なタイプ（類型）として「成長する子ども」「無垢な子ども」「異化する子ども」を取り上げ、児童文学からサブカルチャーまで、クロスメディア時代の実例を考察する。それを通して子どもおよび人生の諸時期のとらえ方が時代や社会によって多様に変遷していることを理解する。	
	子どもとファンタジー	ファンタジーおよび想像力の研究。児童文学ファンタジー作品を主要な題材としながら、神話、伝説など口承文芸と通底するファクターを探るとともに、現代のアニメ化・映像化における意味づけの変容なども見てゆく。合わせて、絵本やTVの登場人物を、子どもがどのように現実と連関させているのか、「リアル」と想像力の問題について理解を深めることを目的とする。遊園地の着ぐるみショー、ゆるキャラ、聖地巡礼、TDL、テーマパークなど夢の圏内にとどまらず、実体化・環境化した想像力のあり方にまで視野を広げて考察する。	
	子育て支援論	現代社会における子育て支援をめぐる問題とその背景について理解を深めることを前提とする。次に、子育て家庭への支援、社会的子育てへの支援など、子育て支援の基本姿勢とその理論、支援技法、支援の実践について学ぶ。子育て支援に関わる専門職の資質について検討する。また行政施策としての地域子育て支援のこれまでを学びながら、子育て支援の課題を理解し、それを充実させるために何か必要かを履修生がそれぞれに考えていく。	
	発達と文化	人間の認識・行動には、大きな文化差があることが知られている。本講では認識・行動の形成・発達には個体が活動する文脈（文化的環境、生活世界）に大きな影響を受けることを学ぶと共に、その過程を理解して、必要に応じてその影響をコントロールする方法を学び、適切な支援のあり方を追求する。その際、人間の発達にとって「文化とは何か」ということの理解を通して、人間の生物学的側面と文化的側面の統合的理解こそが発達および発達支援の根幹であることを学ぶ。	
	学校と発達	学校が子どもの発達をどのように方向づけているのかについて、例えば、就学が当たり前ではない文化圏の子どもの比較によって、また、教育によって形成される知識と日常的な経験から形成される知識との対比などによって、考察する。さらに、学校および学級の仕組み自体やそこにおける人間関係の特質を見たらうで、子どもの成長・発達を導く環境として学校がどのようにあるべきかについても検討する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	家庭の教育・地域の教育	家庭におけるしつけや、地域における生業に向けた修練は、かつて、子どもの発達を方向づける重要な役割を果たしていた。いっぽう現在、学校教育と相補いながら子どもの発達を支えていく役割を期待されている家庭教育・地域の教育ではあるが、家庭や地域の実態が大きく変貌したことを前提にすれば、それらが果たす役割も自ずと変わらざるを得ない。親子関係・家族関係、地域の子育ての仕組み・社会教育的取り組みなどを概観しながら、家庭教育や地域の教育のこれからの役割について考察する。	
専門科目	コース共通専門科目		
	初等教育基礎演習A	初等教育をめぐる諸問題について、教科教育、教育実践・保育実践などの視点から幅広くトピックスを取り上げ、児童教育・幼児教育全般への関心と理解を広げる。子どもが学ぶ多様な内容、子どもが教室で経験する多様な出来事、そして子どもの発達とそれを導く教師の役割などについて、それを各担当教員が専門の立場からどのように問題として捉え、どのように研究していくかについても学んでいく。 まず6名の教員が3名ずつ2グループを作り、履修者も2グループに分ける。各グループの教員はそれぞれの専門領域から5回で扱うトピックスを持ち寄り、各グループの学生をさらに3班に分けたうえで、各班をローテーションで指導する。 (10 大貫麻美) 第1グループ 教科教育担当 (14 土橋久美子) 第1グループ 幼児教育担当 (8 宮下孝広) 第1グループ 児童教育担当 (2 河野順子) 第2グループ 教科教育担当 (5 高橋貴志) 第2グループ 幼児教育担当 (9 石沢順子) 第2グループ 児童教育担当	共同
	初等教育基礎演習B	初等教育をめぐる諸問題について、教科教育、教育実践・保育実践などの視点から幅広くトピックスを取り上げ、児童教育・幼児教育全般への関心と理解を広げる。子どもが学ぶ多様な内容、子どもが教室で経験する多様な出来事、そして子どもの発達とそれを導く教師の役割などについて、それを各担当教員が専門の立場からどのように問題として捉え、どのように研究していくかについても含めて学ぶ。 まず6名の教員が3名ずつ2グループを作り、履修者も2グループに分ける。各グループの教員はそれぞれの専門領域から5回で扱うトピックスを持ち寄り、各グループの学生をさらに3班に分けたうえで、各班をローテーションで指導する。 (13 椎橋元貴) 第1グループ 教科教育担当 (12 目良秋子) 第1グループ 幼児教育担当 (9 石沢順子) 第1グループ 児童教育担当 (11 川口潤子) 第2グループ 教科教育担当 (3 坂本健) 第2グループ 幼児教育担当 (1 神永典郎) 第2グループ 児童教育担当	共同
	初等教育演習A	教科および教科の指導に関する理論と方法について学び、自らの教育実践・保育実践に生かすことを目指す。各教科の教育内容の基礎となるそれぞれの学問・芸術領域に対する関心を深め、そこでなされている研究や活動を理解する力量を鍛えるとともに、そこでの成果を幼児・児童に伝えていく方法について考察し、教室での教育活動を豊かなものにするように学んでいく。	
	初等教育演習B	教育研究の各領域に関する理論と方法について学び、教育という場で生じているさまざまな問題と、そこに関わる子どもの発達・学習および教師の役割・指導について理解を深める。それぞれの問題に対する専門的な研究の視点や方法を学ぶとともに、教員・保育士としてそれにどのように取り組むのかについて専門的な視座を獲得し、自らの教育実践・保育実践に生かすことができるよう、深めていく。	
	キャリア研究	本学科の卒業生は、教員・保育士として職業生活を営むとしても、同時に女性としての人生を歩む。この授業では女性のライフコースについて考える。このことは子どもへのキャリア教育にもつながることを考慮しながら、卒業後の自分のキャリア・パスと、家庭を持った際のワークライフバランス、とくに出産や育児と仕事の両立、さらには人生の仕切り直しや転機としての転職や再就職なども視野に入れながら学んでいく。	
	統計データの理解と活用	学校では学力調査や体力調査をはじめ、児童生徒や保護者による学校評価や授業評価など、さまざまなデータが日常的に収集されており、教師にもそれらを活用することが期待されている。この授業では心理統計の手法を基盤として、学校やその周辺で収集・分析・公表されているデータを理解し活用するための最低限の知識と技能の習得を目指す。	
教科に関する	国語	この科目では、小学校の国語学習の概説及び学習指導要領の内容を理解しながら、国語全般について学んでいく。「初等国語科指導法」と合わせて受講することが望ましい。また、情報化社会における国語の果たす意義や役割について、具体的な教材研究を通して理解を深めていきたい。さらに、書写の指導方法についても学んでいく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
る 科 目	社会	この科目では、小学校の社会科学習の内容研究を行う。「初等社会科学指導法」と合わせて受講することが望ましい。授業では、代表的な学習内容を取り上げて教材研究を行うことを通して、指導方法や社会科で身に付けていく学習技能（見学・調査や資料活用等）について学んで行く。また、「問題解決的な学習」による授業づくりについて、児童に興味関心を持たせ学習意欲を高めるための工夫や、調べて考え表現する学習活動等、実際の授業づくり結び付けていけるようになることを目指している。	
	算数	この科目では、小学校の算数学習について、学習指導要領に示されている小学校算数科で扱われる内容について、教師として必要な基礎的な知識や技能を身に付けることを目標とする。具体的には、幼児期から児童期における算数教材を題材として、一つの問題を多様な方法で解いたり一つの問題（原題）から多種の問題を作ったりして自ら作った問題を解くなどの活動を通して、数や図形への興味・関心を高め、数学的な見方・考え方を身に付けていくことを目指している。	
	理科	この科目では、小学校理科の学習内容である、A（生物とその環境）、B（物質とエネルギー）、C（地球と宇宙）の三領域による構成や扱われる教材の役割や特長及び領域ごとに顕著な違いについて押さえ、実習や観察を通して各領域の教材研究や教材開発のための知識と技術を習得することを目的とする。また、これまでに自分自身が学習してきた物理、化学、生物、地学の基礎の上に、学習指導要領に示された各領域の内容について教材研究（教材開発）を体験し、それらの教材を効果的に利用する技能を習得していくことを目指している。	
	生活	この科目では、小学校の生活科学習について、教科設置の背景や基底にある考え方について概説し、実際の学習活動を具体的に体験することを通して生活科の内容を理解することを目的とする。特に、生活の中にある人や社会、自然とのかきわりや自然の不思議さや面白さを生活科の学習内容につなげるために、学習指導要領の内容に示された、生活科の身近な教材を取り上げ、実際の体験活動を行っていく。そして、生活科は体験を重視した学びであることを自らの体験を通して実感をもってとらえ、生活科の授業構想を練ることができるようになることを目指している。	
	音楽	この科目では、小学校・幼稚園の音楽学習で扱う教材内容や小学校学習指導要領・幼稚園教育要領で要求されている力を養成することを目的としている。また、幼児・児童にとっての音楽表現の必要性や教育的意味を理解するとともに、音楽の知識の基礎を学習し、弾き歌いや簡単な伴奏をしたり音楽を楽しんで表現したりできるように実践的技術の習得を目指す。学校で取り上げられている歌を教材としつつ幼児・児童が生き生きと音楽を楽しむことの出来る表現活動への力を養成することを目指している。	
	図画工作	この科目では、幼児・児童期の発達にあわせた表現活動の指導者になる基礎学習として、見たり、感じたり、身近なものや人と触れ合いながら作り出す喜びを味わい、自分の味わった経験を子ども達への指導に生かすことができるようになることを目指して、様々な素材を生かした表現活動について学ぶことを目的としている。授業では、実際に制作を行い、それを指導者としての視点からレポートにまとめていく。そして、作品制作における心が動きやものを作る喜びを味わい、「美しい」とはどのようなことなのか考え探究していく。	
	家庭	この科目では、学習指導要領に理念に謳われた「生きる力」を家庭科は実践的に育むことができることや、そのためには思考力と判断力、それを実行する知恵と技を身に付けることが不可欠であり、未来を担う自立した生活者として、「選ぶ目」と「作る手」は生きる力の両輪であるという視点に立ち、小学校家庭科の内容である。A家庭生活と家族、B日常の食事と調理の基礎、C快適な衣服と住まい、D身近な消費生活と環境の4つの内容を連携させた学びをつくり、持続可能な地球環境に配慮しながら生活を楽しく豊かにする知恵と技を育てることを目的としている。また、授業では、実践力を育成するための年間指導計画作成や題材開発、模擬授業も行っていく。	
	体育	この科目では、小学校・幼稚園の体育学習で取り上げる学習内容や、身体と身体活動および健康についての理解と実践を通して、体育授業のあり方や方向性についての検討と理解を深めることを目的としている。授業では、体育の授業づくりや学校体育を充実・発展させていこうとする意欲と態度を育てながら、体育の授業担当者として求められる資質や能力の形成を目指して、体づくり運動、ゲーム、器械運動、陸上運動、ボール運動、表現運動などの基礎技能を習得していく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	音楽演習（器楽）	この科目では、幼稚園・小学校、及び保育所等で、ピアノを用いて伴奏したり弾き歌いをしたりできるようにピアノ演奏の実技力を高める、合わせて楽器を通して表現する力量を育み、幼児児童と関わる教育現場で活用できるようになることを目的としている。また、ピアノの構造的分析を通して鍵盤の操作方法を基礎から学んで行く。授業では、課題の楽曲演奏技能身に付けることを通して、楽器奏法の基礎技能を学び、幼稚園及び小学校の教員や保育士として必要なピアノの技能の基礎技能を習得していくことを目指している。	
	音楽演習（合唱）	この科目は、合唱を通じて美しいハーモニーを味わい、調和を体験し豊かな心を育てて行くことを目的としている。また、合唱の練習を通して各自の責任を果たし、互いに協力して1つの事を成し遂げる体験をし、そこから保育、教職現場に於いて、必要とする能力を開発し向上させることを目指している。授業では、唱歌に見られる伝統的な日本の言葉と音楽の一致を味わい、それを指導する技術と心を養うとともに、どのような言葉を持って指導するとよいかを探究していく態度を養っていく。	
	図画工作演習（造形・描画）	学校教育で使用される教材は、義務教育を終えてから日常生活でほとんど手にすることがなくなる。それらの素材や描画材を再度手にし、素材から感じ、表現することの楽しさを再発見していく。その活動の中で自身の教育活動に活かす手立てとなる教育的な側面を模索していく。また制作していくプロセスを振り返り、発想や発見の芽を再発見していく。同時に鑑賞から学びを体験し、鑑賞について理解を深め、解釈を広く持ち、制作につなげる経験をしていく。	
	体育演習（水泳）	この科目では、小学校体育の学習内容のうち低学年の「水遊び」、中学年の「浮く・泳ぐ運動」、高学年の「水泳」に関する教材の実技に取り組み、実習を通して指導のポイントを習得することを目的としている。授業では、水泳の泳法だけでなく、アクアエクササイズを通して水中運動の楽しさや、水を克服することへの喜びを味わえるような授業を展開していく中で、実践的な指導能力を高めていくことを目指していく。さらに、希望者には、小学校3学年の水泳教室に指導者補助として参加し、児童への指導や安全指導の実際を体験する機会を設けていく。	共同
	体育演習（体づくり・器械運動）	この科目では、小学校体育の学習内容の運動領域のうち、体づくりと、器械運動に重点を置き、その内容や技能の習得し、実技指導法を身に付けていくことを目的としている。授業では、リズム体操やマット運動、跳び箱、鉄棒、縄跳びを取り上げ、その技能習得と指導法について学んで行く。また、器械運動全般で取り組む準備段階での練習法やその基本の理解を図り、技能向上には段階的、系統的な取り組みが重要であることの理解を深めていけるようにしていく。	
	言語表現	本授業では、言語表現等に関する知識や技術、具体的には、子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等に関する知識と技術について学ぶ。また、子ども自らが児童文化財に触れ、親しみ関わる保育の環境や、子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財とを結びつける遊びの展開について理解を深める。さらに、保育実践の場における子どもの遊びやイメージを豊かにし、感性を養うための環境構成と保育の展開に関しても学ぶ。	
コース共通科目	教職に関する科目		
	教育原理	この科目では、「教育とは何か」について、教育の目的や理念、制度・作用に関して、その概念や本質について、我が国の学校教育を中心として学び理解を深めていく。また、学校教育における今日的な課題について、例えば「道徳教育」や「法に関する教育」等について具体的な事例を手掛かりに理解を深め、それへの対応を考察していく。さらに、グループ活動を取り入れた参加型の学習を行い、受講者同士の意見の交流や協同的学習を通して内容の理解を一層深め、「責任・協力・分担」の精神・意義を体験的に学び、その具体的な方法等を身に付けていくことを目指している。	
	教育心理学	この科目では、教職課程における基礎的な理解として、人間の心や行動のしくみについて心理学の基礎理論を学ぶこととともに、教育を受ける側である幼児、児童が学ぶこととその意欲、幼児、児童の心身の発達や学習の過程について理解することを目的としている。また、教員や保育がおかれている状況を総合的・数量的に把握し、その問題の解決を支援するための方略等を学んで行く。授業では、学びと教育の関係を一貫して取り上げ、教育や保育の現場で教師に求められている、子どもたちの心や行動の問題について、一人ひとりの個性や能力を理解したり集団の中の人間関係などを理解したりしながら、それぞれに合った支援をしていく力をもった教員や保育士を目指していく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育の制度と経営 (幼・小)	この科目では、学校教育に関わる制度や内容に関して、その基本的な考え方(法律や構造、歴史)を踏まえ、基本的な事項を理解し、現実の児童生徒、教職員、学校の管理運営、保護者の学校参加等、学校教育の現状や動向について理解を図ることを目的としている。授業では、学校教育をめぐる諸問題について、教育制度や学校運営の視点から事例研究を行ったり、実際の場面を想定してのロールプレイ等を行ったりして、学校の組織や教師としての対応の在り方を学ぶとともに、自己理解を図り教師のとして必要な「協力・責任・扶助」の精神を身に付けていくことを目指している。	
	教育方法	この科目では、学校で日々行われている授業等に即して、教育方法に関する諸問題について学んで行くことを目的としている。学び手としての幼児児童、教材、その過程としての授業や保育の視点から、学び手の学ぶ意欲を引き出し、教材を介して教育的行為を行う過程について自らの行為を省察できる力を身に付けていくことを目指している。授業では、①映像資料にふれながら学ぶとはどのようなことか、②基礎・基本として身に付けることが目指されるものは何か、③これらを教えるとはどのようなことかについて考え、そこで用いられる教材・教具の役割や情報機器の活用などについて考察を広げていく。	
	教育実習(幼・小)	この科目では、幼稚園教諭を目指すコースと、小学校教諭を目指すコースに分けて行う。教育実習では、これまでに習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養うため、実践現場における体験を通して学ぶことを目的としている。幼稚園教諭を目指すコースでは、1回目の参加観察実習(2週間)と2回目の責任実習(2週間)を通して保育に関する知識・技術・方法を実際に学ぶ。なお、この科目は「教育実習(幼・小)事前事後指導」1単位と合わせて全体で5単位を認定する。	共同
	教育実習(幼・小)事前事後指導	小学校で教育実習を行おうとする者は次のとおりとする。 授業の前半は、実習で授業をする際に作成する指導案づくりと模擬授業を通して、1時間の学習展開と指導案の書き方を身に付けていく。後半は、学校現場が抱えている諸課題について課題選択してレポートを作成し報告し合いながら、小学校教育の現状を探って行く。また、後半には、「教育実習(幼・小)」の事後指導として小学校実習を修了した者からの報告を聞く機会を設け実習に向けての心構えを持ち、学校現場に即した学習となるよう進めて行く。また、実習終了者には実習を通しての学びを振り返り省察することを通して、教職を目指す上での自己課題を明確していく。 幼稚園で教育実習を行おうとしている者は次のとおりとする。 教育実習とは、これまでに習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養うため、実践現場における体験を通して学ぶものである。そのため本授業においては実習を円滑に進めていくための事前指導を行う。具体的には、実習の意義・目的・方法、実習に臨む心構え、実習施設に関する事項などについて学ぶ。また、日誌の書き方や保育実技などの技術の習得も目指している。また、事後指導では、実習経験での学びから自己課題をみつけ、教職を目指すでの学習意欲に結びつけることを目的としている。 なお、この科目は「教育実習(幼・小)」4単位と合わせて、全体で5単位を認定する。	共同
児童教育コース科目	教職に関する科目		
	教職論	この科目では、教職課程の履修にあたって小学校教師の仕事について知ることを目的としている。授業では、小学校の現状と今日の学校教育が直面している課題について検討していく。また、多様な教師の姿について受講者の考えを交流する場を設けるとともに、小学校教師の仕事内容や、教師に求められる資質・能力、自分の適性や課題、教員採用の仕組み等についての理解を図っていく。そして、それらについて学ぶことを通して、将来の職業として教員を目指すことへの意志を明確にしていくことを目指している。	
	教育課程論	この科目では、学校の教育活動においてどのような教育を行っていくかにかについて、小学校学習指導要領に示された内容を確認しつつ、適切な教育課程の編成のために必要な知識や理解を図ることを目的としている。授業では、教育課程編成の意義、その実際と評価等について学んでいく。また、教育課程編成の原理や学習指導要領の変遷について学び、教育課程に関する基礎理論についての理解を図っていく。また、教育課程は授業という形で実施されてはじめて意味を持つものであり、それが教室でのどのように授業に反映されているかについても学んでいく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	初等国語科指導法	この科目では、小学校学習指導要領の国語科について、目標・内容・指導方法・評価について押さえながら、各学年の「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の三領域・一事項の内容について理解を深め、指導案作成の仕方、授業のあり方、ワークシート作成やノート指導、作文指導等について学習していくことを目的としている。授業では、国語科全体のカリキュラムや年間指導計画、単元の指導計画の作成や教材化の視点、指導方法などを具体的に検討していく。また、生きてはたらくことばの力を育てるために、教材との出会いや学習の機会と場への工夫のあり方について考える。さらに、実際の授業に必要な表現力の向上も図っていくことを目指している。	
	初等社会科指導法	この科目では、小学校学習指導要領の社会科について、社会生活について理解し、我が国の歴史や風土・産業などについて理解して、一人一人によりよい社会を構成する市民としての公民的資質を育てていくことを目的とし、①社会科創設の経緯と学習指導要領の教科目標や内容構成について理解を深める、②授業事例を通して、授業づくりや学習指導案作成の実践的な力を身に付ける、③学習指導要領の趣旨や授業づくりのポイントを理解する、の三点を目指している。授業では、実践事例を通して、指導方法や指導に必要な基礎的な知識・技能、学習指導案の書き方について学び、実際に指導案を作成して、簡単な模擬授業を行っていく。	
	初等算数科指導法	この科目では、学習指導要領改訂等の歴史をふまえながら、小学校算数科について、数学的立場および教育的立場から指導のあり方を考えていく。その際、児童の主体性を重視した授業計画が立案できるよう、学習時の児童の状況や思考、それらに呼応した学習支援のあり方について熟考していく。さらに、実際に模擬授業を計画・実施し、実践的指導者としての立場を経験するとともに、学習者の視点に立ったものの見方や考え方についても広く認識でき、算数教育に関する実践的指導者としての力を持てるようになることを目指している。	
	初等理科指導法	この科目では、小学校理科について、小学校学習指導要領に基づいて、理科教育史や理科教育の目的や目標をふまえた上で、今日の理科教育に必要とされる教員の養成を目指して、まず、有意味学習の重要性と学習における学習者の概念構築過程について理解を深め、さらに、児童の学習を見取り評価していくために有効な手法や学習者の考えに沿った理科教育の方法論、そしてそれらに基づいた授業計画が立案できるようになることを目標としている。授業では、小学校理科の2区分（「物質・エネルギー」、「生命・地球」）、4つの柱（「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」）に関する具体的な授業立案を通して、児童の状況に応じた学習指導が行えるようにする。また、実際に模擬授業を行って実践的指導者としての立場を経験するとともに、学習者の視点に立ったものの見方や考え方を広く認識できるようになることを目指している。	
	初等生活科指導法	この科目では、小学校生活科についての学習指導要領に基づき、具体的な活動や体験を通して自立への基礎を養う教科として平成元年から小学校低学年に創設された生活科の目標を実現するための学習指導法について学ぶことを目的としている。授業では、生活科創設の背景や基本理念、教科目標や内容について理解を深め、幼児教育から小学校教育への接続について学んで行く。また、実際の学習活動を体験することを通して、授業の進め方について学んでいく。さらに、生活科の内容を確認し、指導案の作成や模擬授業を通して学習指導の方法や評価について学んでいく。	
	初等音楽科指導法	この科目では、小学校学習指導要領音楽科の目標を実現するために必要とされる音楽的知識・技能及び指導法を身につけることを目的とする。特に教育課程一般に関する専門的な知識の修得、さらに今日的課題である児童の意欲・興味・関心の向上と音楽表現の指導を合わせて授業を進めるにはどうしたらよいか考える。また、指導の対象である児童の能力や状態を的確に判断し、その状況に相応しい指導法を採り、幅広い音楽活動の指導ができる教師の育成を目指すために教材研究、学習指導案作成、模擬授業を重視する。本講義では、現行の小学校学習指導要領・音楽の趣旨理解を基礎・基本として授業を進めていく。	
	初等図画工作科指導法	この科目では、小学校図画工作科で大切な感性を働かせながらつくり出す喜びを味わうことや、造形的な創造活動の基礎的な能力や豊かな情操を養う教科目標に向けて児童一人一人の資質や能力を確実に身に付けられるよう指導技術の向上を図り、教師としての資質を高めことを目的としている。授業では、6年間の発達を見通しながら、楽しく主体的な学びにつながる指導案作成を通して、学習のねらいや導入、展開等教科指導への理解を深めていく。また、教育目標や季節、学校行事等を考慮した年間指導計画し、身近な環境や児童の実態を踏まえた題材配列の工夫など、実践的な指導力の育成を目指していく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	初等家庭科指導法	この科目では、小学校家庭科の学びを通し未来を担う自立した生活者を育てることを目標としている。授業では、新設された内容「身近な消費生活と環境の指導」について考えたり、自分の生活と地球環境の関わりを考えたりする学習を通して、生活者としての自覚と判断力、実践力の育成を目指していく。また、調理や裁縫を生活者に必要な知恵や技として評価し直し「選ぶ目」と「作る手」の育成を図っていく。さらに、目の前のエコから食材の向こうに見える世界にも視野を広げ、生活を大切にしながら主体的に判断し行動できる生活者を育てる授業実践について学び、実習や模擬授業も行って実践的な指導力を育成していく。	
	初等体育科指導法	この科目では、小学校学習指導要領の体育科の目標や内容を基に、実際の指導に即した具体的方策や年間指導計画や単元の指導計画や授業の具体的展開の方法などについて学び、実践的な指導力を育成することを目的としている。授業では、児童が将来も運動に親しむことができるよう、自主的・主体的に運動に取り組む態度の育成を目指した授業実践について学ぶとともに、運動の技能だけでなくその学び方について学ぶこと等、学習者が習得するもの着目し、「身体能力(体力、技能)」「態度」「思考・判断」のベースに「知識」も位置付けていく指導の方向性に留意しながら、模擬授業を通して体育科全般の理解がより深まることを目指している。	
	道徳教育	この科目は、小学校における道徳教育について学習指導要領の位置付けを確認するとともに、自他の生命を尊重し規範意識や自己肯定感を高め、人間関係づくりを促進する道徳教育の在り方について考えていくことを目的としている。授業では、必ずしも充実しているとは言えない現況を打破するための手立てを考え、「道徳の時間」のよりよい実践に向けて資料分析・指導案作成・模擬授業等を演習形式で行い身に付けられようにして行く。さらに、学校の教育活動全体を通して行う道徳教育がよりよく実践できるための手立てについて具体的な実践事例で学ぶことで、実践的な指導力を高めていくことを目指している。	
	特別活動	この科目では、特別活動における学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の各内容について実践例を通して学び、望ましい集団活動を通して実現していく特別活動の目標を具現化していくための指導法について学んで行くことを目的としている。授業では、特別活動の意義と目的を知り、その位置付けや歴史について理解を深めていくとともに、集団や社会における役割と責任の自覚や児童の人間形成を図るための具体的な指導内容や方法について身に付け行くことを目指している。	
	生徒指導・進路指導	この科目では、一人一人の児童生徒の人格を尊重し個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力の向上を目指して行われる生徒指導の具現化を目指して、児童生徒の心を支え「生きる力」を発揮できる自己指導能力を育てるための方法を学んでいくことを目的としている。授業では、生徒指導がもつ教育的なかかわりの重要性や教師として必要な生徒指導の基本的な視座や知識、児童期の心理的特質を踏まえた理解について学ぶとともに、学校における生徒指導体制や、問題行動や心理的な課題、特別支援教育、進路指導(キャリア教育)等の課題についての対応について学んでいく。	
	教育相談(小)	この科目では、学校教育現場における児童の不適応行動・問題行動や、特別支援教育の開始によって通常学級における発達障害児への対応等の課題が生じている中で、多様化する教育相談の理論と方法について学んで行くことを目的としている。授業では、最近の児童と家庭の現状を明らかにするとともに、学校教育現場で直面している諸課題に応じて、人格の発達、学習指導、進路指導などの観点から、総合的に学校生活への適応を図る方法について考えていく。	
	教職実践演習(小)	この科目では、教職課程の学修を通じて、小学校教諭として必要な資質能力が形成されたかどうかについて最終的に確認し、不足する事項を補って、資格にふさわしい資質・能力を満たしていくことを目的としている。受講者は、各自の学修について作成した履修カルテやポートフォリオ等に基づいて補うべき自己課題を明らかにしていく。各回の授業では、自己課題を意識しながら、教員による学びの「振り返り講義」や、教育の現場や地域や教育行政等の関連する職域のからのゲストスピーカーの講話から自己の学びを豊かなものにしていく気付きを書き止めていく。また、少人数クラスに分かれ、さらに、その中で4~5名の小グループで協議や演習を行い、自己課題に照らしてリアクションペーパー作成することなどを通して自己の学びを省察していくことを目指している。	共同
教科又は教職	教育体験 I	子どもたちの教室での生活は、授業等のフォーマルな場面と、休み時間等のインフォーマルな場面から成っている。子どもの理解はこの両面から深めていく必要があるが、この授業では放課後の子どもの遊び場面や宿題場面に参加・観察することを通じて、インフォーマルな場面における子どもの実態を、子ども個々と子ども集団における友達関係に焦点をあてながら、理解・体験することを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
に関する科目	教育体験ⅡA	この科目は、2年次の前期に設定しており、小学校の教室で実際の教育活動に参加する体験を持つことを目的としている。また、この活動を通して、学校、教師、子ども、そして、授業（学習指導）や生活指導など、小学校教育全般にわたって多面的・実践的に学ぶ機会を得ることを目的としている。実地で行う科目なので、大学で行う事前指導、小学校における学習支援活動、活動後の振り返り（実習記録の提出とそのフィードバック等）により、学校における様々な教育活動の体験を通して知ることを目的としている。なお、この体験を通して、目指す教師像を明確にしていくとともに、大学での講義との関連を図り教職への学びを深めていくことを目指している。	共同（一部）
	教育体験ⅡB	この科目は、2年次の後期に設定しており、小学校の教室で実際の教育活動に参加する体験を持つことを目的としている。また、この活動を通して、学校、教師、子ども、そして、授業（学習指導）や生活指導など、小学校教育全般にわたって多面的・実践的に学ぶ機会を得ることを目的としている。実地で行う科目なので、大学で行う事前指導、小学校における学習支援活動、活動後の振り返り（実習記録の提出とそのフィードバック等）により、学校における様々な教育活動の体験を通して知ることを目的としている。なお、この体験を通して、目指す教師像を明確にしていくとともに、大学での講義との関連を図り教職への学びを深めていくことを目指している。	共同（一部）
	教育体験ⅢA	この科目は、3年次の前期に設定しており、小学校の教室で実際の教育活動に参加する体験を持つことを目的としている。また、この活動を通して、学校、教師、子ども、そして、授業（学習指導）や生活指導など、小学校教育全般にわたって多面的・実践的に学ぶ機会を得ることを目的としている。実地で行う科目なので、大学で行う事前指導、小学校における学習支援活動、活動後の振り返り（実習記録の提出とそのフィードバック等）により、学校における様々な教育活動の体験を通して知ることを目的としている。なお、この体験を通して、目指す教師像を明確にしていくとともに、大学での講義との関連を図り教職への学びを深めていくことを目指している。	
	教育体験ⅢB	この科目は、3年次の後期に設定しており、小学校の教室で実際の教育活動に参加する体験を持つことを目的としている。また、この活動を通して、学校、教師、子ども、そして、授業（学習指導）や生活指導など、小学校教育全般にわたって多面的・実践的に学ぶ機会を得ることを目的としている。実地で行う科目なので、大学で行う事前指導、小学校における学習支援活動、活動後の振り返り（実習記録の提出とそのフィードバック等）により、学校における様々な教育活動の体験を通して知ることを目的としている。なお、この体験を通して、目指す教師像を明確にしていくとともに、大学での講義との関連を図り教職への学びを深めていくことを目指している。	
	総合的な学習の時間	この科目では、小学校学習指導要領の第5章に位置付けられた「総合的な学習の時間」について学ぶことを目的としている。授業では、総合的な学習の時間の内容として例示された①国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題、②児童の興味・関心に基づく課題、③地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題などについて、事例研究を通して理解を深めていく。また、求められる力（21世紀型学力）の向上を目指す探究的な学習や協同的な学習の進め方について学ぶとともに、この時間を推進する学校体制づくりや全体計画・指導計画についても学んでいく。	
	小学校外国語活動Ⅰ	この科目では、小学校の外国語活動における指導内容に即して、小学校外国語活動の授業へのアプローチを体験的に学んでいくことを目的としている。授業では、教材として文部科学省より発行されている「Hi! friends」を基にして小学校英語の具体的な活動例に触れ、個々の活動のねらいについて考えることを通して、より実践的な指導法を考え行くことができるようにするとともに、児童期の子どもを対象とする外国語教育の目的とアプローチの方法を理解していくことを目指している。	
	小学校外国語活動Ⅱ	この科目では、「小学校外国語活動指導者のための音声学」と「小学校外国語活動指導者のための教室英語」の2つのパートより学習を進めて行く。「音声学」のパートでは、個々の音素の構音の仕組みを紹介する一方で、英語の音声特徴の典型として、「積み重ね歌」「早口言葉」「絵本のリズム読み」などをグループで発話実践発表をすることを通して、指導者に求められる英語の音声に関する知識と発音技術の両面での熟達を目指していく。また、「教室英語」のパートにおいては、授業を進め行く上で必要となる教室英語表現に熟達することを目指して技能の習得を図っていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	学級経営論	この科目では、学級担任の仕事について理解し、やがて教師として学級担任を持つ時に必要になる教師として必要な引き出しや態度身に付けることを目的としている。また、学級担任に基本的に必要とされる学級経営に関する能力を高めるために、学級経営について理解を深め、学級担任になるということがどのようなことなのかについて理解を深めていくことを目指している。授業では、学級と言う組織の成り立ちからその意味を知るとともに、教育実践の事例を取り上げ、学級が抱える今日的な課題について理解を深める。また、学級経営案の作成などに取り組むことなどを通して、学級経営に関わる実践力の獲得を目指していく。	
	学校経営と学校図書館	学校図書館は、学校図書館法において学校教育に資する施設であることが明記されており、学校教育を支える基盤とされている。しかし実態は一致しておらず、新たに司書教諭となる教員が積極的に実践を展開していく必要がある。こうした実態を踏まえつつ、本授業では学校教育や学校図書館に関わる基本的な知識を身につけ、最終的には学校教育の目的と対応させた学校図書館実践について、学校経営の観点から受講者がアイデアを提示できるようにすることを目標とする。	
	学校図書館メディアの構成	この科目は、学校図書館メディア（図書館資料）の種類、流通、選択、収集、組織化、蔵書構築・評価等について理解し、これらについて説明できることを目的としている。資料の組織化で行った目録作成、件名標目付与、分類記号付与についてそれぞれどのように標準化され、どのような技術・方法なのか理解でき、書誌情報や請求記号について説明できることを目指している。授業では、学校図書館で収集、受け入れしている資料（学校図書館メディア）について、資料の選択、収集、組織化（目録、件名、分類）、蔵書構築、蔵書評価等を取り上げ、講義にプラスして演習を行うことを通して理解を図っていく。	
	学習指導と学校図書館	現在「学習・情報センター」としての機能を果たしている学校図書館が多いとは言えない。学習・情報センターとしての機能をいかし、これからの教育の中心となるべき学校図書館をつくっていくにはどうしたらよいのか考えていく。発達段階に応じて、学校図書館メディアを選択し、利用できるようにする方法を具体的に知り、児童・生徒の主体的な学びや課題解決をしていく力を身につけさせていくために、司書教諭がどんな支援をしたらよいのか学ぶ。また、学校図書館を授業でどういかしていけばよいのか、その活用法も考えていく。	
	読書と豊かな人間性	子どもたちの「豊かな感性や情操」「思いやりの心」を育む、「読書センター」機能を持つ学校図書館をつくるために司書教諭がどのような働きかけをしたらよいのか考えていく。児童、生徒に読書の楽しさを伝えるために、ブックトークや読み聞かせ、読書へのアニメーション、科学あそびなど多くの読書活動を実際に体験していく。また、子どもたちにとっての読書は学校図書館だけで取り組めるものではないため、家庭・地域・公共図書館と連携することの必要性も考えていく。	
	情報メディアの活用	学校教育におけるWebの普及は目覚ましく、児童生徒がWebに触れる機会は豊富に用意されており、電子書籍をはじめとした新しいメディアを生まれつつある。一方で、新しいメディアについての教育体制は十分ではなく、何を教えるべきか把握できていないことがある。司書教諭は「読書指導の充実とあわせ学校における情報教育推進の一翼を担うメディア専門職としての役割を果たしていくことが求められる」とされ、児童生徒だけでなく、教員に対しても指導・助言する役割を果たすことが期待されている。こうした役割を果たせるように、授業では知識を身につけるだけでなく、実践のレベルに落とし込む作業を頻繁に行う。	
幼児教育コース科目	教職に関する科目		
	保育者論	幼稚園教諭の役割と倫理について学び、その制度的位置づけについて理解する。また、専門職としての幼稚園教諭が持つべき資質や能力についてとりあげ、遊びや環境を通して教育を行う幼稚園教諭の専門性とは何か、幼稚園教諭の専門職的成長とは何か、について考える。さらに、幼稚園教諭同士が協働することの意味、保育士や小学校教諭等の隣接領域の専門職と連携を図ることの重要性などについても、具体的な事例を通して学びを深める。	
	保育課程論	幼稚園教育では、保育の目標を達成するために、計画性のある保育を実践することが必要となる。そのためには、保育の基本となる「教育課程」を編成するとともに、これを具体化した「指導計画」を作成することが求められる。本授業では、教育課程および指導計画の概要、教育課程の編成と指導計画作成の手順や方法、保育の計画と評価、計画性のある保育の必要性などについて、実践事例を通して具体的に学び、保育における計画に関して理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保育に関する科	保育内容総論	幼稚園における保育内容に関して、幼稚園教育要領の内容に沿って学ぶ。具体的には、保育内容の特性（生活、遊び、環境を通じた保育など）について、小学校以降の学校教育における教科内容と比較しながら理解を深め、併せて保育における領域概念に関する理解を、実践例（教育実習での体験も含む）を通して確かなものにする。さらに、現代社会の保育ニーズと保育内容の関係、幼稚園・保育所・認定こども園それぞれの保育内容の特性、保育者の専門性と保育内容の関係等についても触れ、保育内容の全体的構造について、社会の動向も視野に入れながら理解することを目指す。	
	保育内容演習（健康）	幼稚園教育要領における領域「健康」のねらいと内容に沿って、幼児の生活や遊びをどのように考え、環境を整え、援助したらよいかを学ぶ。領域「健康」の視点から、幼児の身体発達、運動発達、幼児の健康の概念等を習得すると同時に子ども理解を深める。さらに、具体的な保育内容について事例を通して学び、実践力の向上を図る。特に、幼稚園での幼児の遊びについて理解を深め、領域「健康」の視点から、遊びを通じた援助のあり方について学ぶ。	
	保育内容演習（人間関係）	幼児、幼稚園教諭、保護者等、幼稚園教育の場にいる様々な人たちの関係性が、幼児の育ちにどのような影響を及ぼすか、その関係性を保育実践の中でどのように位置づけるか、幼児の人間関係の広がりやどのように指導するか等について学ぶことを目的とする。また、幼稚園における幼児の「共同性」の育ちを支える援助法、遊びや生活の中で刻々と変わる幼児の人間関係に合わせ、適切に対処する方法についても、具体的な事例を通して理解を深める。	
	保育内容演習（環境）	幼稚園教育要領における領域概念、領域「環境」のねらいと内容を確認し、総合的な営みである保育実践を「環境」の視点から分析、検討する。その際、学生が幼稚園教育実習のときに経験した具体的な出来事を題材にする。実習で得た様々なエピソードを、自然環境、社会環境、園庭の環境、保育室の環境の4つの角度から、幼稚園教育要領のねらいと照合しながら考察する。加えて、他の4領域と領域「環境」の関係性についても実践事例を通して理解を深める。	
	保育内容演習（言葉）	幼児が成長過程でどのように言葉を理解していくのか、またどのように言葉を話すようになるのか、幼児の視点から言葉の発達について捉えていくことを授業の第1の目的とする。また、幼児期の言語生活における現代社会の課題、言葉を育てる人的環境や文化的環境を明らかにし、幼児の言葉を育てる関わりについて理解を深めることを第2の目的とする。さらに幼稚園での遊びや仲間関係における言葉のやりとりと保育者の語りかけについても学び、言葉による人とのつながりについて理解を深めることを第3の目的とする。	
	保育内容演習（表現）	5領域の中で、領域表現がもつ役割について概説した後、幼稚園における保育の目標を達成するために、幼児の状況に応じて保育者が適切に行うべき基礎的な事項、保育者が援助する事項、幼児の発達、感性と表現に関する領域について学ぶ。人形劇、絵本の劇化、劇遊びなどを通して、表現者としての保育者の素養を身につける。そして、幼児の主体的活動である遊びの中で、幼児自らが表現したいという意欲を育てるための、具体的な援助と指導の方法について理解を深める。	
	幼児理解	教育は一人一人の子ども理解をその根底においている。そこで本授業では、乳児期から幼児期への育ちをふりかえり、また幼児期から児童期への育ちを見通す中で、教育実践・保育実践における幼児理解の理論と方法を学ぶことを目的とする。幼児と関わる際の心や身体の動き、他者の気持ちを想像する力を養い、実際に幼児教育の現場において、子どもを理解するための手がかりを得る方法を学ぶ。また幼児の教育・保育活動に関わる倫理的問題についても知見を深める。	
	教育相談（幼）	近年、学校教育現場における幼児・児童の不適応行動や問題行動が多発している。このような状況の中で、教育相談で扱う問題は多様化の傾向にある。教育相談における方法論の再検討が迫られている。本講義では、最近の幼児・児童の学校における問題を明らかにし、それぞれの問題に応じて、人格の発達、学習指導、生活指導、進路指導などの観点から総合的に学校生活への適応をはかる方法を考える。	
	保育・教職実践演習	この授業は、保育士養成課程や幼稚園教職課程の様々な活動や学修を通じて、保育者として必要な資質能力が形成されたかどうかについて最終的に確認し、不足する事項を補って、資格にふさわしい資質・能力を満たしていくことを目的としている。	共同
	保育に関する科	保育原理	諸外国および日本の保育の歴史・思想・制度などの視点から保育に関して学んだ後、保育所保育指針と幼稚園教育要領における保育の基本（遊び・環境・生活を通じた保育、教育）について理解を深める。また、保育実践における計画－実践－記録－評価－改善の過程について、実際に週案や日案等の指導計画の作成することを通して学習する。さらに、子育て支援や幼保一元化の問題等、現代の保育が抱える諸課題についても触れ、これからの保育に求められることに関して考える。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
目	児童家庭福祉	本授業では、児童家庭福祉の意義と歴史の変遷、および児童家庭福祉の制度や実施体系などを理解する。さらに児童家庭福祉の現状と課題を把握し、児童家庭福祉の今後の展望について学ぶ。また、「子どもが主人公（チルドレン・ファースト）」の社会とは、「生活と仕事と子育ての調和」がとれた社会とはどのような社会なのかを考える。さらに、聴覚教材および現場で実践している職員の講話等を通じて、児童家庭福祉の実際を知ることを目的とする。	
	社会福祉	本授業では、社会福祉の意義と課題を把握し、次に社会福祉制度と社会福祉援助技術について理解を深める。具体的には、社会福祉の理念、概念、対象とその福祉的ニーズについて日本とイギリスの歴史的発展段階を踏まえ理解し、社会福祉とその関連領域の制度・政策について当事者問題も提起しながら学ぶ。また、社会福祉の担い手となるマンパワーについて専門職とボランティア、当事者の観点から学び、社会福祉援助技術について基本的枠組みと実践方法について理解する。	
	相談援助	近年、乳児院や児童養護施設、さらに保育所では、エンゼルプラン、新エンゼルプラン、子ども・子育て応援プラン、子ども、子育てビジョン等や児童福祉法の一部改正により、地域の育児支援を積極的に行うように要請されている。その結果、育児相談、育児支援活動、育児講座開催、育児支援関係機関連携等の実施は年々増加の一途をたどっている。児童福祉施設でのこのような活動の広がりを受け、本授業では保育者が実践に応用できる相談援助能力を身に付けることを目指す。	
	社会的養護Ⅰ	社会的養護における施設養護の歴史、制度、現状、課題などを学び、施設養護の在り方について考える。また、社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援についても学ぶ。さらに、児童養護施設をはじめとする児童福祉施設における児童処遇に共通する養護上の基本原理を学ぶ。	
	社会的養護Ⅱ	現在、児童相談所への児童虐待相談件数は急増している。その中で保護した（親子分離）子どもの75%が児童養護施設へ措置されていることはあまり知られていない。この講義では、日本における児童虐待の現状およびその対応、制度的課題、子どもの心身に与える影響、子どものケアのあり方、児童虐待防止活動について視聴覚教材を利用しながら理解を深めることをめざす。	
	保育の心理学Ⅰ	現在、保育や教育の現場では、子どもの特定の知識や技能を教える専門性だけでなく、子どもたちの心や行動の問題について、一人ひとりの個性や能力を理解したり、集団の中の人間関係などを理解したりしながら、それぞれに合った支援をしていく力をもった保育士や教員が求められている。本授業では、人間の心や行動のしくみについて学習する心理学の基礎理論をふまえ、幼児、児童の心身の発達の過程を明らかにすることを学修の目的とする。	
	保育の心理学Ⅱ	本授業では、子どもの心身の発達と保育実践について理解を深めることを目的とする。具体的には、生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解し、保育における発達援助について学ぶ。保育所や幼稚園における実習等、保育の場で得た知見を、発達心理学・教育心理学・臨床心理学などの諸理論とつぎ合わせ、保育実践に関する理解を深める。さらに、具体的な子どもの遊びや生活場面を題材に受講者同士で議論を行い、適切な援助方法について考える。	
	子どもの保健Ⅰ	本講義では子どもに携わる上で必要とされる子どもの体の生理や発育発達過程、子どもの心の発達や子どもに多い事故の実態とその防止策などを学び、子どもを取り巻く健康問題や集団における安全管理に必要な知識を身につける。また、子どもの心身の健康を守り、個々の実状に合わせた確かな対応や、望ましい援助ができるために必要な知識を習得する。さらに、子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解し、子どもの精神保健とその課題などについて理解を深める。	
	子どもの保健Ⅱ	本授業では、子どもの健康及び安全にかかわる保健活動に関して学んでいく。子どもが健康で安全に育つためには、適切な対応が実践されなければならない。そのために健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動を理解し、疾病とその予防及び適切な対応について具体的に学んでいく。子どもが健康に過ごすための保育の環境、救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学び、現代社会における心の健康問題や地域保健活動などについても理解する。	
子どもの食と栄養	小児期の食生活は生涯にわたる健康な生活を送るための基本となる。本授業では、食生活の意義や栄養の基本的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。また、食育の基本について理解し、その実際を学ぶ。さらに、小児期の食生活だけではなく、とすると私たち自身にふりかかるかもしれない身近な食に関する諸問題について学び、日常の食生活を振り返り、望ましい食生活とはいかにあるべきか等について考察する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	家庭支援論	少子高齢化や就労女性の増加などに代表される近年の社会変動は、家庭生活にも大きな変化をもたらした。その結果、従来はよしとされてきた家族のあり方や子どもの養育システムのひずみが随所にあらわれてきている。本授業では、家族関係や子どもの養育システムの歴史の変遷と現状、問題点を取り上げ、なぜ「家庭支援」が求められるようになったのか、どのような支援が求められているのか、保育所や幼稚園、地域による家庭支援とは何かについて考えることを目的とする。	
	乳児保育	本授業では、3歳未満児の発達の特徴を学びながら、その心身の健全な育ちを支援するための保育の視点を養うことを目的とする。3歳以上の幼児期後半の子どもを対象とする保育とは異なり、0、1、2歳児における保育方法には、その保育体制、配慮事項に大きな特徴があることを理解する。そのためには、子どもの発達段階をめぐるさまざまな保育的・社会的問題などについても視野を広げていく。また実習に備えて、3歳未満児を対象とする保育教材の実践についても触れる。	
	障害児保育	本授業では、障害児保育の歴史からその理念や「障害」の概念の歴史の変遷を学び、障害児保育の基本的理解を深める。また、障害児保育の実践事例を通して、知的障害や発達障害等様々な障害特性を理解し、適切な援助の方法について学び、特別な発達のニーズに即した指導を実現するために「個別の支援計画」を立案し、障害児と健常児が共に育ち合う保育実践についても検討する。さらに、障害児と健常児を含めたクラス運営のあり方や保護者（家族）支援、保健・医療等他機関との連携についても学ぶ。	
	社会的養護内容	本授業では、日々社会的養護の場である施設や里親などにおいて展開される日常生活をとおして、各種児童福祉施設と里親などの目的と機能に沿った養護（援助）の内容の実際について考える。特に直接子どもの生活を援助していく立場にある保育士等の役割、機能、またその専門性（技術と倫理）について考えることを通して、子どもの正常な成長と発達を保障し、個々の子どもに応じた支援計画を作成し援助することを可能にする知識、技術の習得を目指す。	
	保育相談支援	本授業では、保育相談支援の意義と原則および保護者支援の基本、保育相談支援の実際をについて学び、支援の内容や方法に関して理解を深める。具体的には、保育所、幼稚園などの就学前保育施設における、保育・子育て相談の実際を紹介し、加えて、保育所以外の児童福祉施設や、地域の子育て支援の場（ファミリーサポートセンター等）が行っている支援についても学ぶ。そして、保育者の専門性を活かした保育・子育て相談のあり方について理解することをめざす。	
	保育体験 I	本授業の目的は、保育に関する学内での学び（理論）と保育現場での学び（実践）を往還的に深めること、3年次及び4年次に行われる幼稚園教育実習の事前学習を行うことの2点である。保育に関する学びは机上の学修のみでは成立しない。学内で学んだことを実践の場で確認したり、実践の場で抱いた疑問や課題を学内での学びで解決したりしながら、学びは深まっていく。本授業では保育実践の場における体験的な学びと、学内における学びの振り返りを通して、学修の系統化を目指す。	共同
	保育体験 II A	本授業の目的は、「保育体験 I」において学んだ、保育に関する学内での学び（理論）と保育現場での学び（実践）を往還的に深めることの意味を省察し、保育の場における新たな体験をもとに、2年次及び3年次に行われる保育実習、また3年次及び4年次に行われる幼稚園教育実習に向けて自己課題を明確にすることにある。本授業は、「保育体験 I」での学びの延長線上に設定されているため、「保育体験 I」で作成した記録、レポート等を活用しながら授業を進めていく予定である。	共同
	保育体験 II B	本授業の目的は、「保育体験 I」および「保育体験 II A」において、保育の現場で得た学修内容、学内における振り返りの授業での学びについて確認し、2年次及び3年次に行われる保育実習、また3年次及び4年次に行われる幼稚園教育実習における学習目標（実習テーマ）を明確にすることにある。本授業は、「保育体験 I」および「保育体験 II A」での学びの延長線上に設定されているため、「保育体験 I」および「保育体験 II A」で作成した記録、レポート等を活用しながら授業を進めていく予定である。	共同
	保育実習 I	本授業では、既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を身につける。具体的には保育所、児童福祉施設等の役割や機能について理解し、観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。また、保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学び、保育の計画と記録及び自己評価等について理解する。そして、保育士の専門性に関して復習した後、保育士の業務内容や職業倫理についても学ぶ。	共同
	保育実習指導 I A	保育実習は、これまでに習得した保育にかかわる知識・技能を、総合的に実践する応用力を養うため、保育現場において体験を通して学ぶものである。「保育実習指導 I A」では、保育実習を円滑に進めていくための事前事後指導を行う。具体的には、実習の意義・目的・方法、実習に臨む心構え、実習施設に関する事項などについて学ぶ。また、日誌の書き方や保育実技などの技術の習得も目指す。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	保育実習指導ⅠB	保育現場での実習体験をもとに、子どもの姿や保育士の援助、児童福祉施設の社会的役割等を振り返り、学内における授業での学びと関連させながら学びの深化を目指す。「保育実習Ⅱ」および「保育実習Ⅲ」にむけて、自己課題を明確化にし、個別の実習テーマ設定に関する学修も併せて行う。	共同
	保育実習Ⅱ	「保育実習Ⅰ」における保育所実習を踏まえ、参加実習を中心とした、より専門性の高い実習を行う。実習生は原則的に実習期間を通じて固定クラスに配属され、長期的に子どもとかかわりながら子ども理解を深める。また、早朝・延長保育の時間も含め、保育所の生活全体に参加することで、保育所の機能とそこでの保育士の職務についての理解を深めることを目的とする。最終的には指導計画を作成し、部分実習や責任実習を行い、保育士として必要な知識と技術を習得する。	
	保育実習指導Ⅱ	「保育実習Ⅱ」にむけて事前事後指導を行う。「保育実習Ⅱ」では、指導計画立案後、1日、担任保育士の代わりに保育を担当することが予定されている（責任実習）。そのため、事前指導では、指導計画の立案と展開方法に関して学び、責任実習において十分な学びが得られるための事前学習を行う。保育現場が実習生に求めている内容について、現職保育士による説明の機会も設ける。事後指導ではグループ討議を行い、他の実習園の保育の状況を知ることを通して、各自の学びをさらに深めることをめざす。	
	保育実習Ⅲ	保育所以外の児童福祉施設（児童養護施設・知的障害児施設・児童館等）、その他社会福祉施設の保育を実践し、保育士として必要な資質、能力、技術を習得することを目的とする。 具体的には、個人差への配慮、発達に遅れのある子どもへの対応等、子どもの状態に応じた個別支援のあり方について学ぶ。また、家庭と地域の生活実態に触れ、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を習得するとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を身につけることも目指す。	
	保育実習指導Ⅲ	「保育実習Ⅲ」の事前事後指導を行う。「保育実習Ⅲ」は施設における2回目の実習であるため、より実践的な実習となる。具体的には、すでに行った施設における実習を振り返り、施設における保育の課題等について話し合いを行う予定である。また、児童養護施設や知的障害者施設等で働くことの意義等についても学びを共有する。事後指導では、1人ずつ実習体験を報告し、学生間で学びを共有する。そして、自分が実習を行った施設での学びをより普遍化することを目指す。	
隣接領域科目	介護等体験の事前事後指導	この科目では、特別支援学校と体験先によって異なる福祉施設における体験方法の事前指導を行い、教員免許状取得に必要な介護等体験に向けて必要な知識・技術を習得することを目的とする。具体的には、人と人との関わりの媒体のひとつである「介護」が、自己と他者において身体的・心理的・社会的にどのような作用を及ぼしているのか臨床的観点から論じることとする。事後は体験ノートを基にして課題発表を行い体験を洞察し、最終的に受講生が人間個々の多様な価値観を受容し、教育実践に活かすことができる教師となることを目指している。	
	児童文化・子ども論	子どもは社会や文化のなかで、どのような存在として認識されてきたのか、すなわち「概念としての子ども」を探ることにより、子ども観の多様性や可変性を知り、子どもを「再発見」していく。毎回、子どもをめぐる時事的なトピックスを取り上げ、子どもの同時代(史)を子どものイメージやシンボル、子どもをめぐる言語、歴史、人口問題と家族、法と権利、情報化、科学技術、消費文化、国際化、市場経済の観点から分析し、「現代における子どもの育ち」、「子ども期と大人期の境界」、「子どもが大人になることの意味」を考える。	
	児童文学・日本C	日本児童文学研究。児童文学史の時代区分として、1960年代から現在にいたる「現代児童文学」をあつかう。その代表作・問題作について、時代背景や児童文学状況と関連させながら、その歴史的意味や普遍的価値を考察することを目的とする。テーマとして、現代児童文学の発期にあたる1960年代から、1970年代末の「タブーの崩壊」、その後多様化する現在までの児童文学の歴史的変遷を検討する。	
	児童文学・日本D	日本児童文学研究。児童文学史の時代区分として、1960年代から現在にいたる「現代児童文学」をあつかう。その代表作・問題作について、時代背景や児童文学状況と関連させながら、その歴史的意味や普遍的価値を考察することを目的とする。テーマとして、「民話」「幼年童話」「メルヘンとファンタジー」「戦争児童文学」「ノンフィクション」など、ジャンルごとの特質や変化を把握する。	
	おもちゃ論A	おもちゃを媒介として生じる遊びの意味に気づかせ、特に子どもとおもちゃとの関係に焦点を当てることで子どもの遊びの特性を把握する。また、おもちゃの変遷から、子どもと大人の関係および社会との関係をとらえ、おもちゃの普遍性と可変性を掘り下げて理解することを目的とする。伝統的玩具から流行玩具まで具体的に幅広く扱い、教育性と娯楽性、性差、市場の問題等も視野に入れて、子どもとおもちゃと社会との関係を考えることができるようにする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	絵本論	絵本はヴィジュアルイメージと文章テキストのコラボレーションにより、豊かな世界が構築される独特のアートである。授業では絵本の絵を批評的に読み取る力を養うことを目的とする。批評眼を養うことで、各々の絵本が描かれた時代の軋みを読み取り、また作品の面白さや深みが倍増する。授業では英語圏の絵本を中心に、古典から最新の絵本まで扱うが、日本の絵本との比較も行うことで、比較文化論をも試みたいと考えている。	
	心理学概論A	個人の心の構造（成り立ち）と機能（働き）について理解することが本講義の目的である。まず、心理学が形成してきた人間観を提示し、いかに個人が社会と分離した存在であるかを理解したうえで、心の成り立ちを「知覚・記憶・学習」という認識のメカニズムの観点から学ぶ。さらに、認識の個人差の問題を「知能・性格」という観点から理解すると共に、心の「発達」における年齢差も個人差のひとつとして理解されることを学ぶ。最後に「臨床」心理学の視点が心を理解する起点になることを学ぶ。	
	心理学概論B	心理学とは何か、本講義では「他者と関わる心のメカニズム」を軸に心理学諸領域の知識や考え方を心理学全体の中に位置づけ、体系的に講義する。専門書領域に進む上での基礎知識から最新動向まで丁寧に解説する。心理学の基礎的な考え方、理論、方法論を学ぶことによる心理学のおもしろさを発見していくこと、現代社会の諸現象を心理学の視点から捉え、社会生活を豊かにしていくための活用に結びつける視点を学ぶことを目指す。	
	臨床心理学	重要な基礎理論と実践内容について学び、さらに、治療から予防、発達促進的な援助論へと展開する現代臨床心理学を理解することを目指す。心理査定、臨床心理面接、コミュニティーアプローチ、研究方法などを解説する。それぞれのテーマについて、基礎的な理論を学習し、実践的な事例を通してその活用について講義する。	隔年
	発達心理学概論A	人間の生涯にわたる発達の基盤をつくる重要な発達時期のあり方を講義形式で教授する。また、急速な個体発生を遂げる中で見えてくる発達の法則や原理を理解するために、胎児期から乳幼児期、児童期について概説する。特に胎児期と新生児期に見られる生物学的基盤、乳幼児期から児童期において大きな影響を及ぼす社会文化的な影響要因などを詳しく説明する。	
	発達心理学概論B	人間の発達を生涯発達の視点から捉え、乳幼児期から老年期に至るまで人間がどのように発達し歳をとっていくかについての基本的な考え方やそれを実証するための方法論、基本的な知見を学習する。おもに生涯発達の後半に焦点をあてる。青年期から成人となり、家族をつくって次世代を育て加齢していく発達の变化を講義形式で学習する。	
	発達臨床心理学概論	近年、知的遅れのない発達障害児の客観的評価法と支援方法が注目され、また、心因性障害の原因と対応についても、見直しの必要性が生じている。そのことを踏まえて本講義では、精神遅滞、AD/HD（注意欠如多動性障害）、ASD（自閉症スペクトラム障害）、LD（学習障害）、およびその周辺児を中心に、認知発達の障害、アセスメントと治療教育、家族や学校での問題等を解説する。また、乳児から青年の過程で生じる行動上の問題とその背景について説明する。	
	発達障害特講	発達障害に含まれる学習障害（LD）、注意欠如/多動性障害（ADHD）、自閉症スペクトラム障害（ASD）の概念の変遷に触れ、現在の考え方、特性を学ぶ。その上で発達障害児の乳幼児期から老年期までの各発達期を理解し、必要な支援は何かを考えたい。支援については、発達障害児・者についてこれまでに工夫された諸支援技法とその適用について、また、親・兄弟の支援、さらに学校・地域・職場など、どう援助が得られるか広く学ぶ。	隔年
	卒業研究	4年間の学習の総まとめとして、また教職に就いて以降の研究活動にもつながるように、自ら研究に取り組んだ成果を、論文や研究レポート・作品等にまとめる。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。